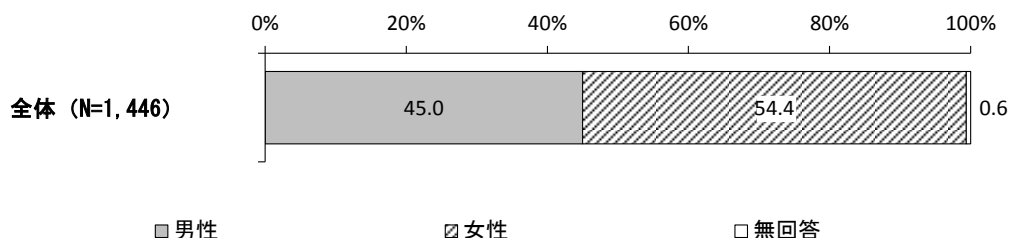


2 調査の結果

◆ 回答者の属性について ◆

F 1 あなたの性別はどちらですか。

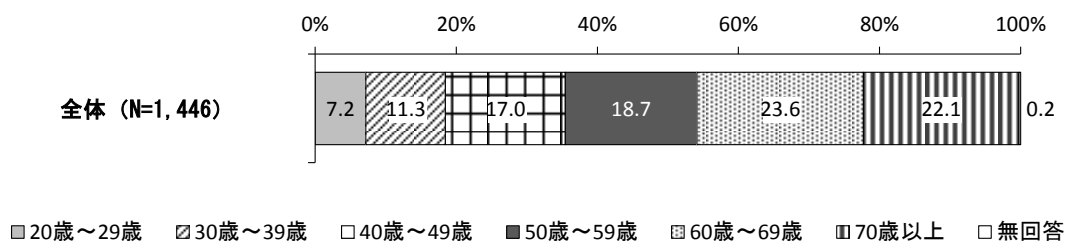
[全体の状況]



性別は、「女性」が54.4%、「男性」が45.0%となっています。

F 2 あなたの年齢（平成27年9月1日現在の満年齢）はいくつですか。

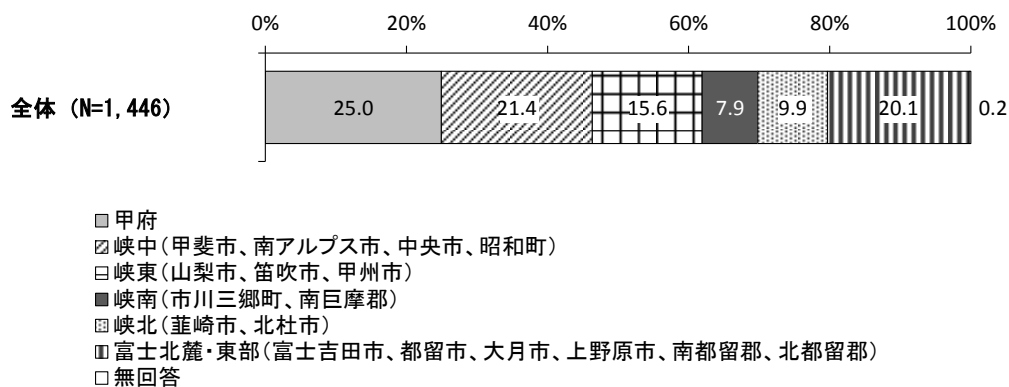
[全体の状況]



年齢は、「60歳～69歳」が23.6%と最も多く、次いで「70歳以上」が22.1%、「50歳～59歳」が18.7%などとなっています。

F 3 あなたが現在お住まいの地域はどこですか。

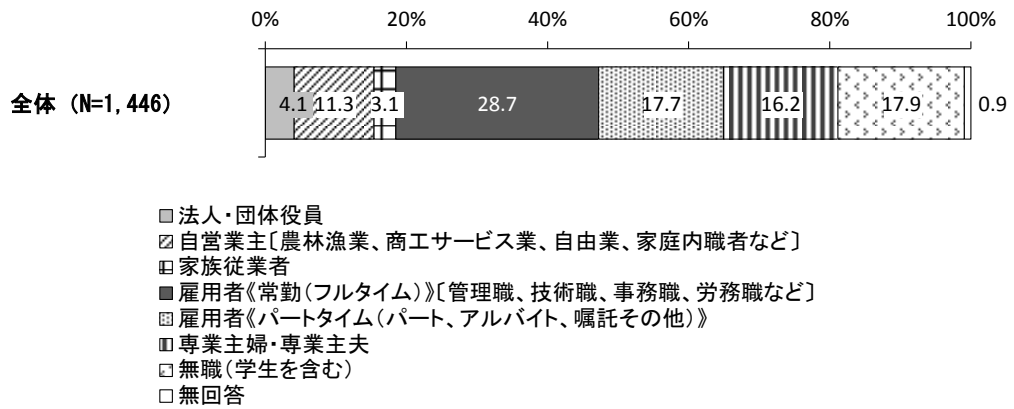
[全体の状況]



居住地は、「甲府」が25.0%と最も多く、次いで「峡中（甲斐市、南アルプス市、中央市、昭和町）」が21.4%、「富士北麓・東部（富士吉田市、都留市、大月市、上野原市、南都留郡、北都留郡）」が20.1%などとなっています。

F 4 あなたの職業は何ですか。 ※出産休暇、育児休業中の場合は、休暇・休業に入る前の職業についてご回答ください。

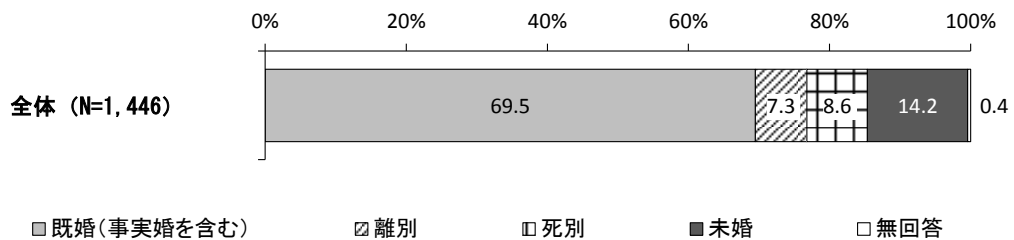
[全体の状況]



職業は、「雇用者《常勤(フルタイム)》[管理職、技術職、事務職、労務職など]」が28.7%と最も多く、次いで「無職(学生を含む)」が17.9%、「雇用者《パートタイム(パート、アルバイト、嘱託その他)》」が17.7%などとなっています。

F 5 あなたは結婚していますか。

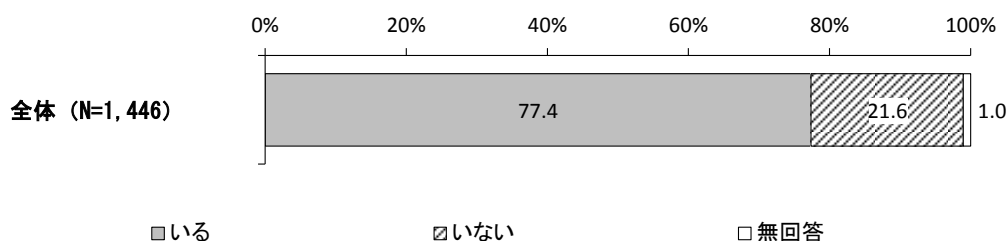
[全体の状況]



未婚は、「既婚(事実婚を含む)」が69.5%と最も多く、次いで「未婚」が14.2%、「死別」が8.6%などとなっています。

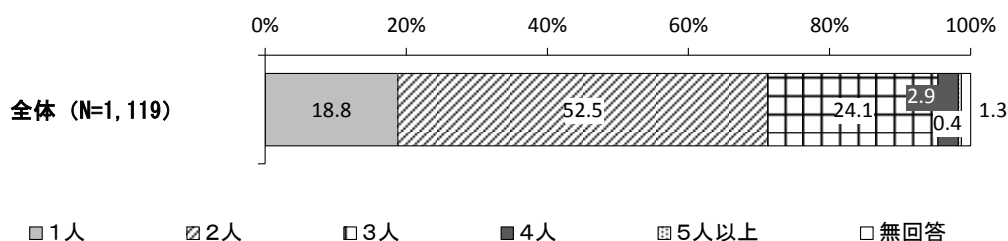
F6 あなたはお子さんがいますか。「いる」場合は、お子さんの人数を教えてください。

[全体の状況]



「いる」と回答した方のみ

[全体の状況]

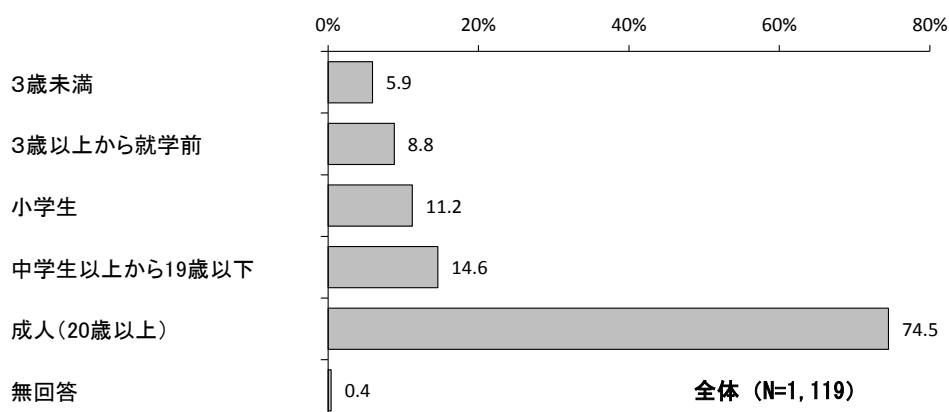


子どもの有無は、「いる」が77.4%、「いない」が21.6%となっています。
 子どもの人数は、「2人」が52.5%と最も多く、次いで「3人」が24.1%、「1人」が18.8%などとなっています。

F7 あなたのお子さんの年齢層はどれですか。（回答はいくつでも）

F6で「いる」と回答した方のみ

[全体の状況]

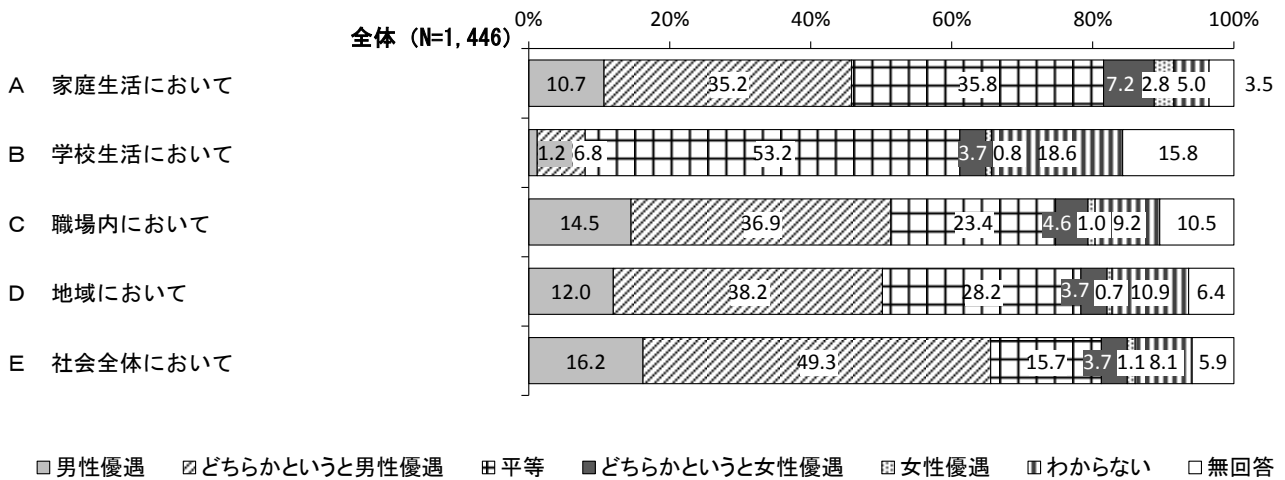


子どもの年齢層は、「成人（20歳以上）」が74.5%と最も多く、次いで「中学生以上から19歳以下」が14.6%、「小学生」が11.2%などとなっています。

◆ 男女平等・男女の地位について ◆

問1 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

[全体の状況]

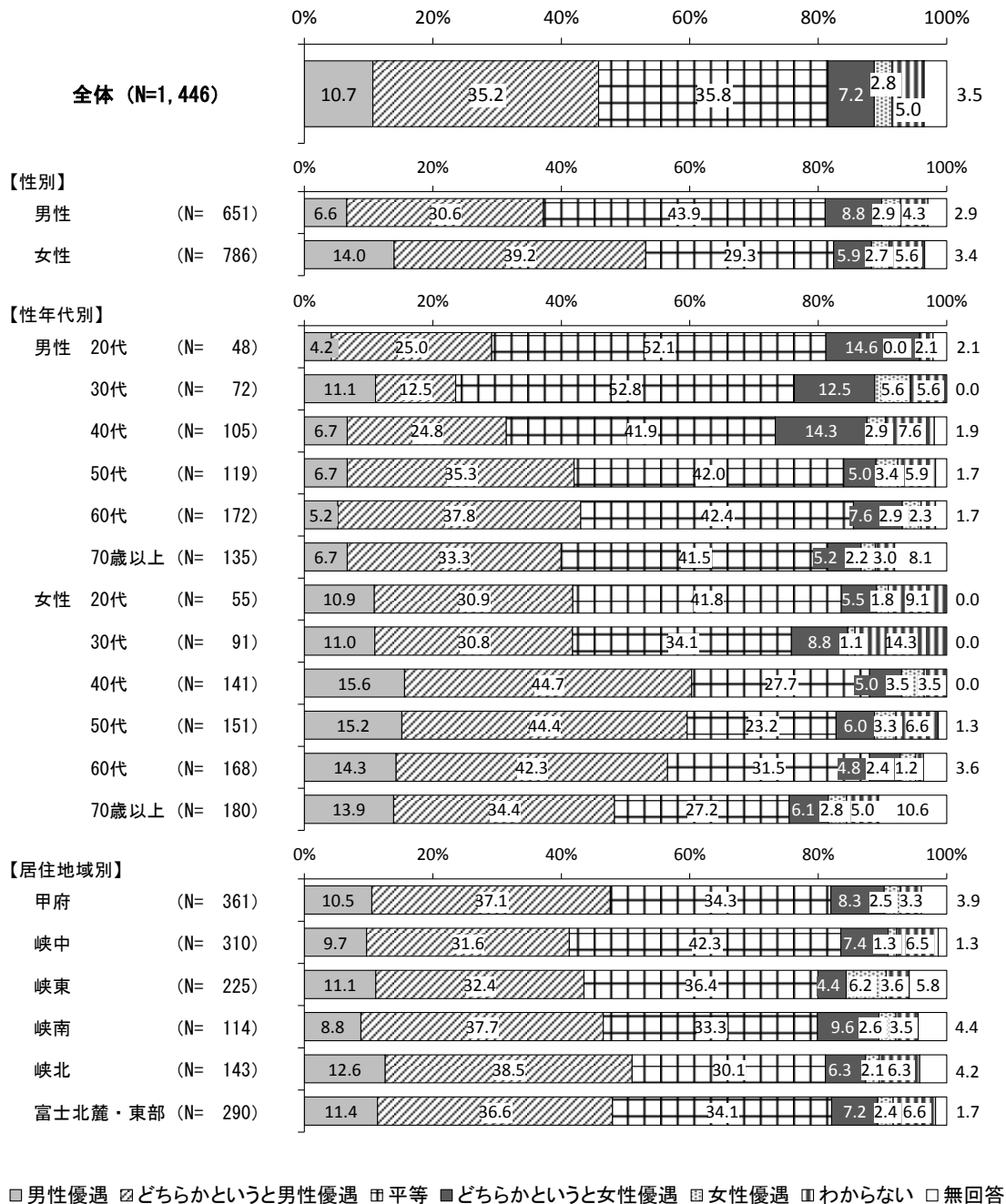


分野ごとの男女の地位は、【B 学校生活において】では「平等」が53.2%と半数を超えている一方、他の分野では1～3割程度となっています。また、『男性優遇』（男性優遇+どちらかというと男性優遇）は、【E 社会全体において】が65.5%と最も多く、次いで【C 職場内において】が51.4%、【D 地域において】が50.2%などとなっています。

※以下、『男性優遇』は「男性優遇」と「どちらかというと男性優遇」を合計したものを表します。

【A 家庭生活において】

【全体・性別・性年代別・居住地域別の状況】



A 家庭生活における男女の地位は、「平等」が35.8%と最も多くなっています。次いで「どちらかという男性優遇」が35.2%、「男性優遇」が10.7%となっており、『男性優遇』は、45.9%となっています。

性別で見ると、男性では「平等」が43.9%と女性より多くなっています。また、『男性優遇』は、男性では37.2%、女性では53.2%と、女性の方が多くなっています。

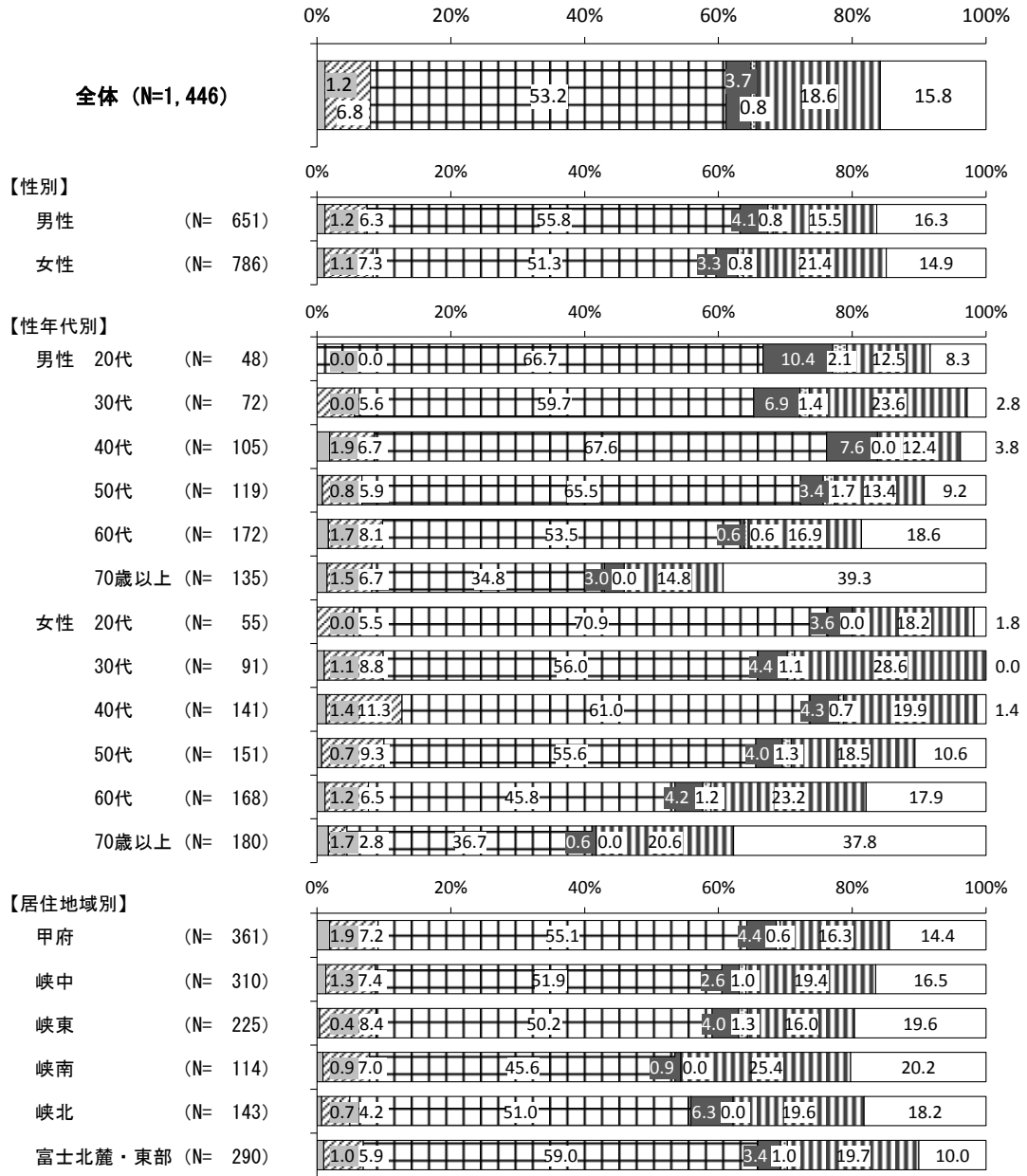
性年代別（男性）で見ると、20代・30代では「平等」が半数を超え、他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、20代では「平等」が41.8%と他の年代より多くなっています。また、『男性優遇』は、40代では60.3%と他の年代より多くなっています。

居住地域別で見ると、峡中では「平等」が42.3%と他の地域より多くなっています。

【B 学校生活において】

【全体・性別・性年代別・居住地域別の状況】

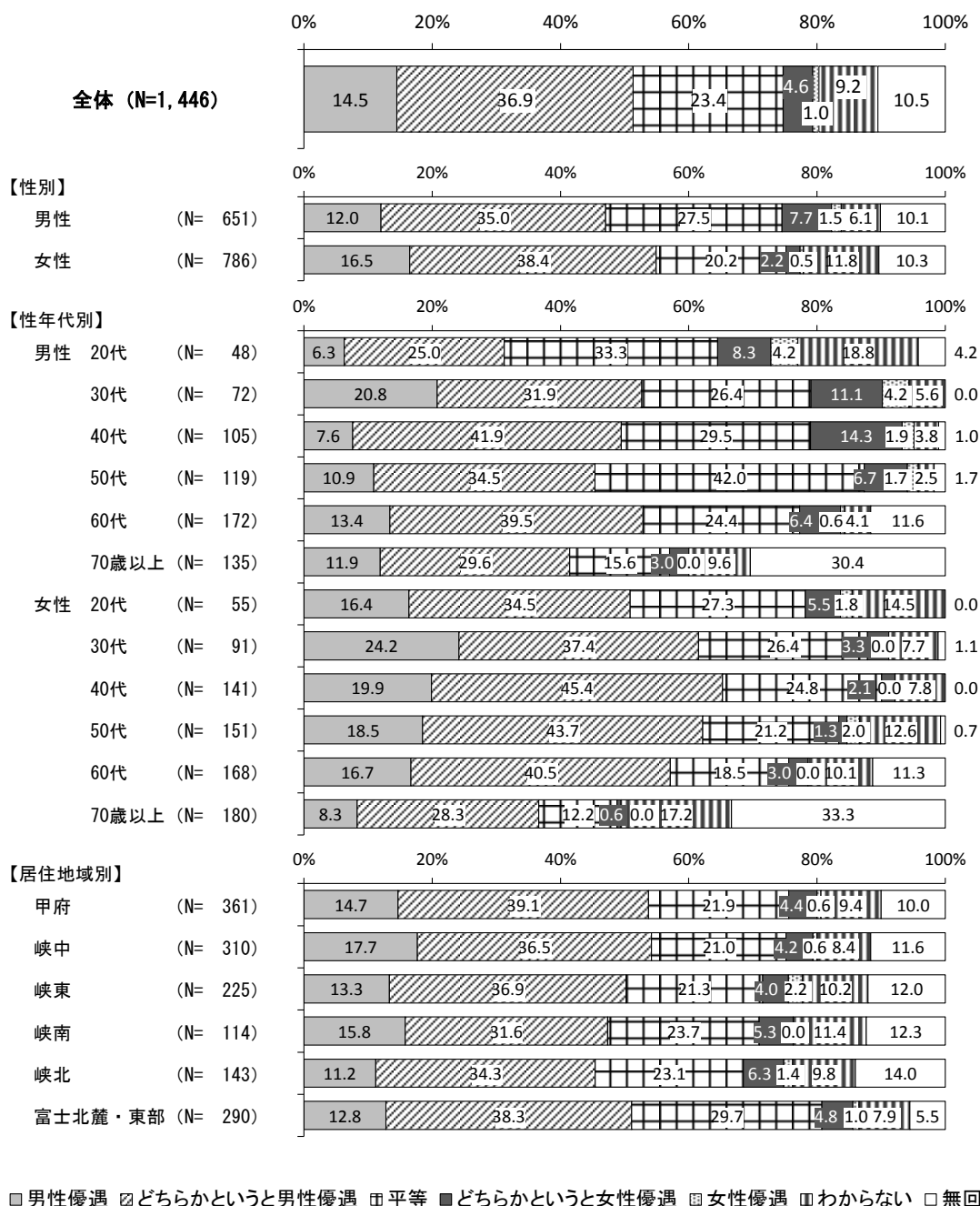


■男性優遇 □どちらかという男性優遇 ▨平等 ■どちらかという女性優遇 ▩女性優遇 □わからない □無回答

B 学校生活における男女の地位は、「平等」が53.2%と最も多くなっています。また、『男性優遇』は、8.0%となっています。
 性年代別（男性）で見ると、70歳以上では「平等」が34.8%と他の年代より少なくなっています。
 性年代別（女性）で見ると、20代・40代では「平等」が6割を超えて他の年代より多くなっています。
 居住地域別で見ると、峡南では「平等」が45.6%と他の地域より少なくなっています。

【C 職場内において】

【全体・性別・性年代別・居住地域別の状況】



C 職場内における男女の地位は、「どちらかという男性優遇」が36.9%と最も多く、次いで「平等」が23.4%、「男性優遇」が14.5%などとなっています。また、『男性優遇』は、51.4%となっています。

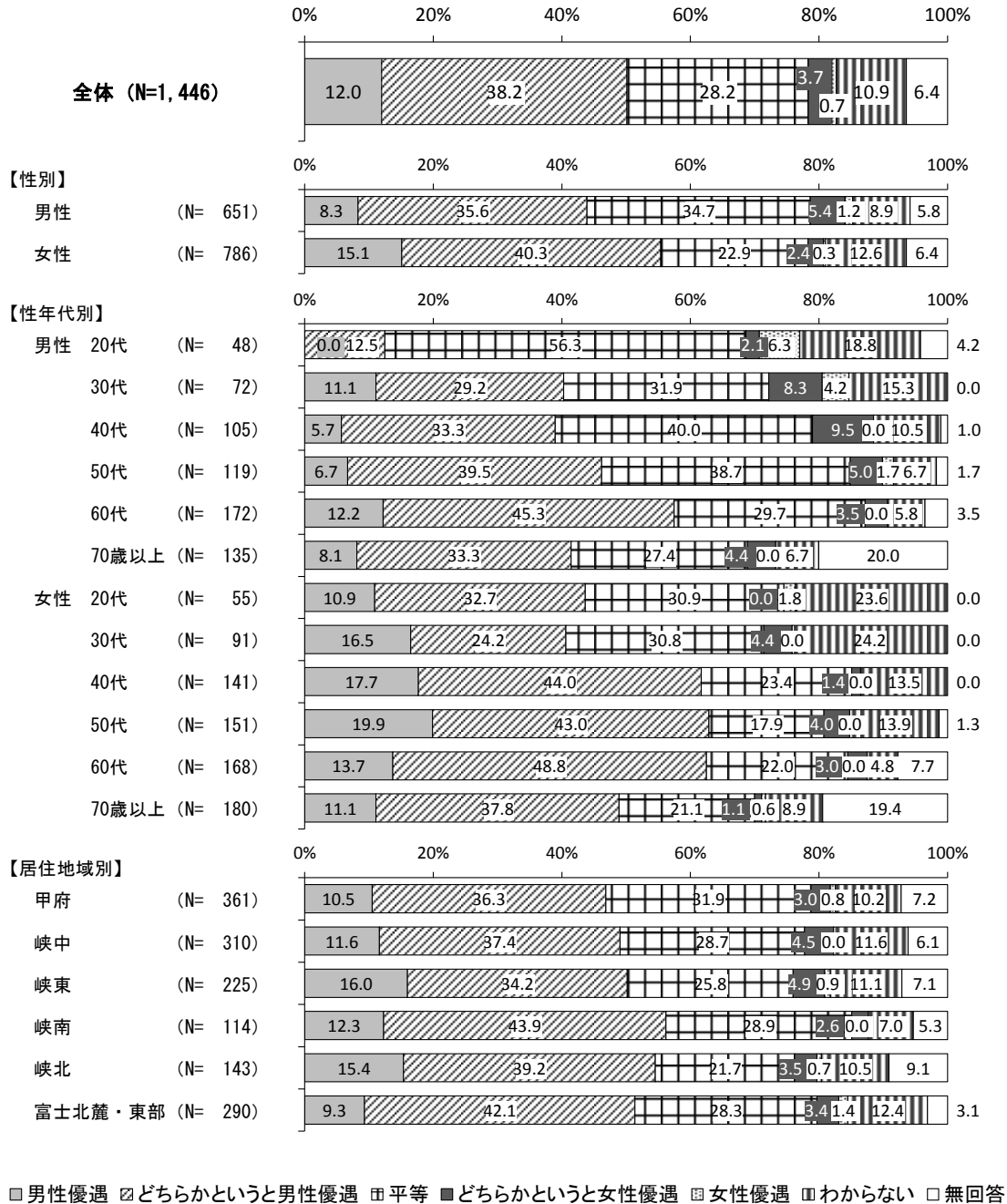
性別で見ると、女性では『男性優遇』が54.9%と男性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、30代では「男性優遇」が20.8%と他の年代より多く、50代では「平等」が42.0%と他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、年代が高くなるほど「平等」が少なくなる傾向がみられます。また、30代では「男性優遇」が24.2%と他の年代より多くなっています。

【D 地域において】

【全体・性別・性年代別・居住地域別の状況】



D 地域における男女の地位は、「どちらかという男性優遇」が38.2%と最も多く、次いで「平等」が28.2%、「男性優遇」が12.0%などとなっています。また、『男性優遇』は、50.2%となっています。

性別でみると、男性では「平等」が34.7%と女性より多くなっています。また、『男性優遇』は、男性では43.9%、女性では55.4%と、女性の方が多くなっています。

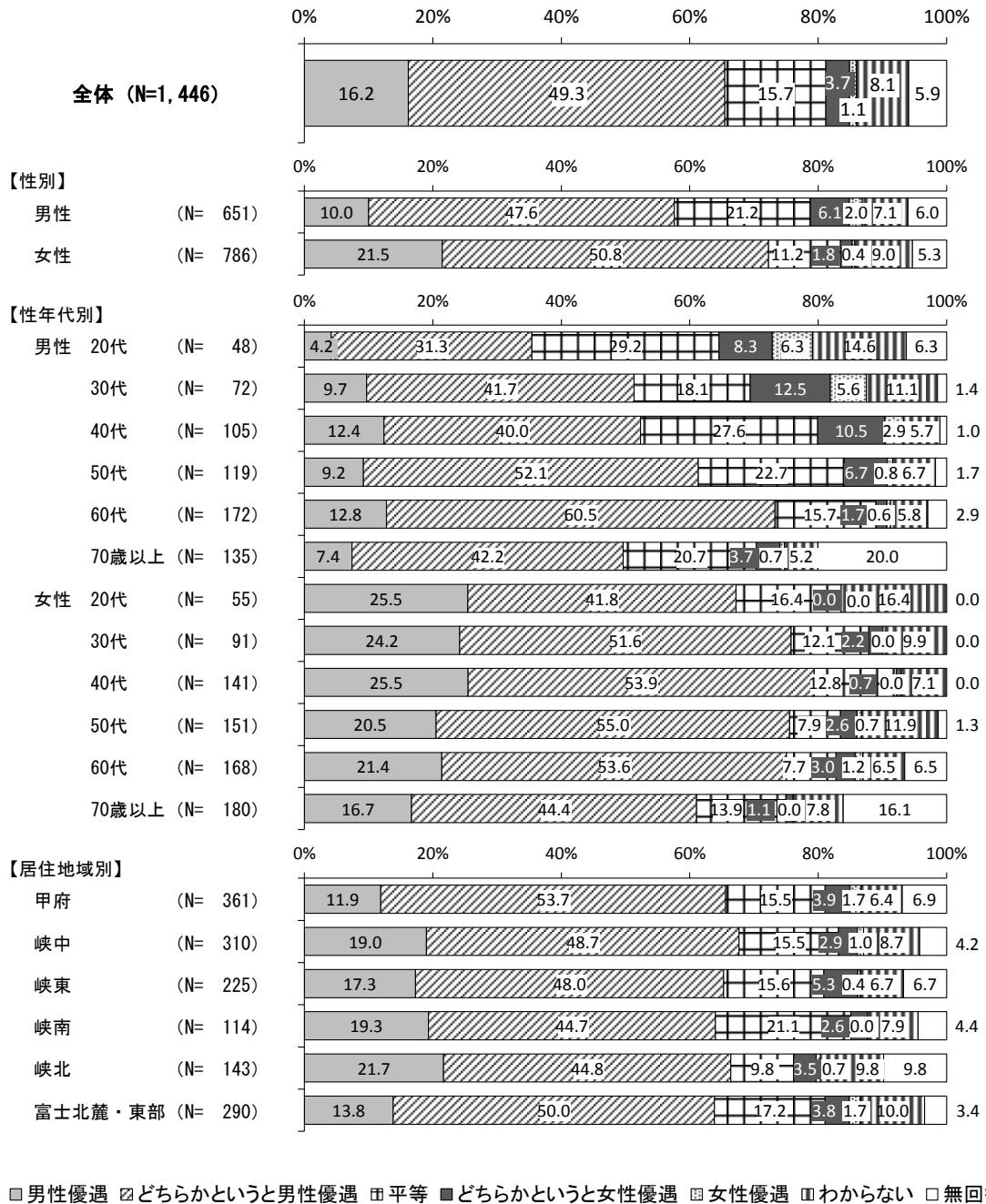
性年代別（男性）でみると、20代では「平等」が56.3%と他の年代より多く、30代・60代では「男性優遇」が1割を超えて他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）でみると、『男性優遇』は、40代～60代では6割を超えて他の年代より多くなっています。

居住地域別でみると、甲府では「平等」が31.9%と他の地域より多くなっています。

【E 社会全体において】

【全体・性別・性年代別・居住地域別の状況】



E 社会全体における男女の地位は、「どちらかという男性優遇」が49.3%と最も多く、次いで「男性優遇」が16.2%、「平等」が15.7%などとなっています。また、『男性優遇』は、65.5%となっています。

性別でみると、男性では「平等」が21.2%と女性より多く、女性では「男性優遇」が21.5%と男性より多くなっています。また、『男性優遇』は、男性では57.6%、女性では72.3%と、女性の方が多くなっています。

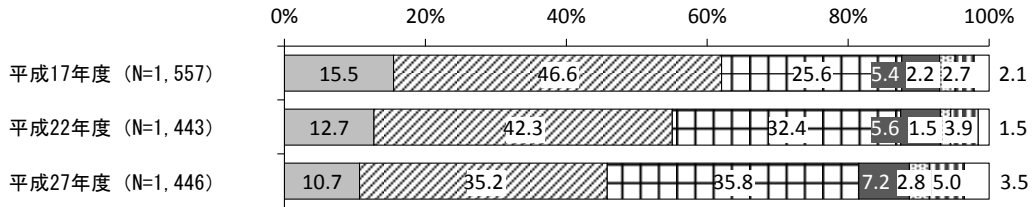
性年代別（男性）でみると、『男性優遇』は、20代では35.5%と他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）でみると、『男性優遇』は、20代・70歳以上では7割を下回って他の年代より少なくなっています。

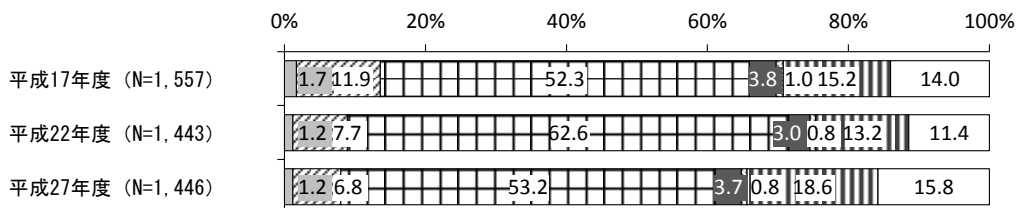
居住地域別でみると、峡北では「平等」が9.8%と他の地域より少なくなっています。

◎ 経年比較 ◎

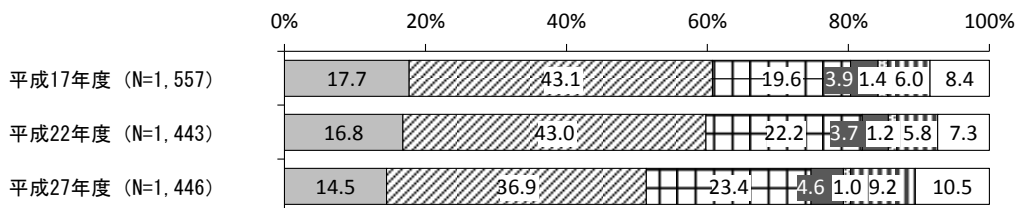
【A 家庭生活において】



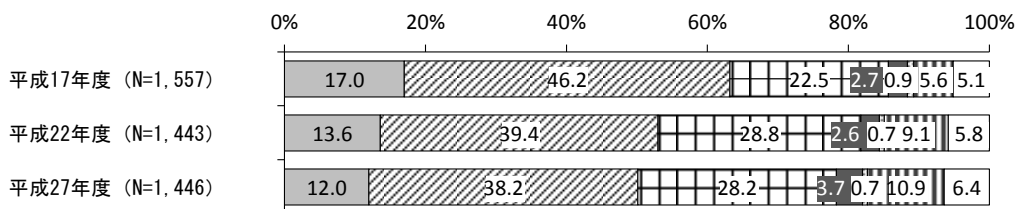
【B 学校生活において】



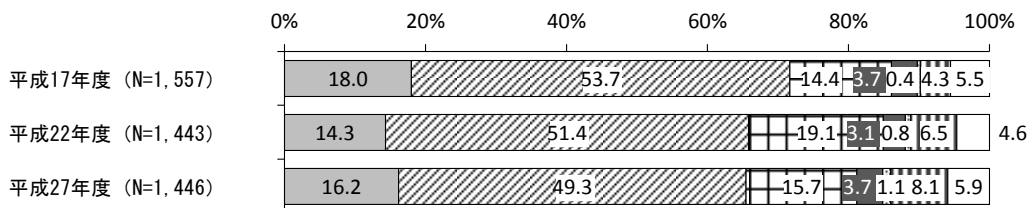
【C 職場内において】



【D 地域において】



【E 社会全体において】

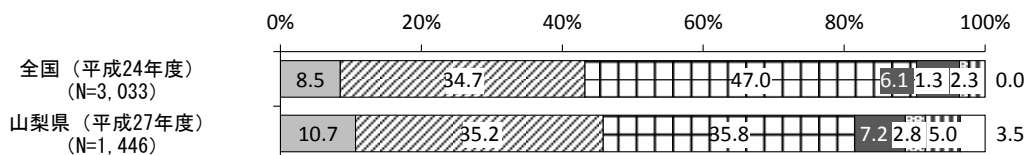


■ 男性優遇 □ どちらかというとな男性優遇 ▨ 平等 ■ どちらかというとな女性優遇 ▩ 女性優遇 □ わからない □ 無回答

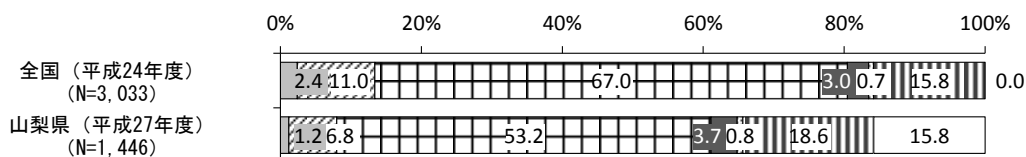
平成17年度、平成22年度との経年比較でみると、【A 家庭生活において】、【C 職場内において】では「平等」が多くなっています。また、『男性優遇』は、すべての分野で少なくなっています。

◎ 全国調査との比較 ◎

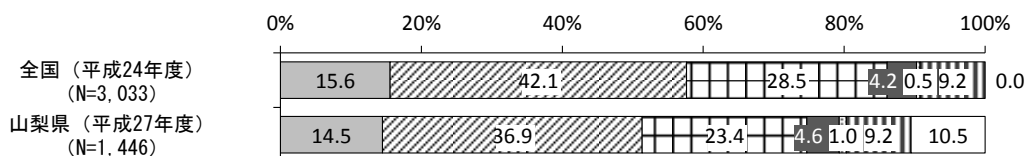
【A 家庭生活において】



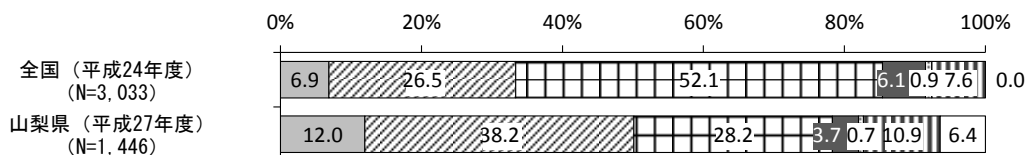
【B 学校生活において】



【C 職場内において】



【D 地域において】



□ 男性優遇 ▨ どちらかという男性優遇 □ 平等 ■ どちらかという女性優遇 ▩ 女性優遇 □ わからない □ 無回答

※全国調査は内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（平成24年度）より抜粋しています。

※全国調査で「男性優遇」は「男性の方が非常に優遇されている」、「女性優遇」は「女性の方が非常に優遇されている」という選択肢として実施されています。

※【D 地域において】の全国調査の数値は、【自治会やNPOなどの地域活動の場】の数値を掲載しています。

※【E 社会全体において】は、全国調査を実施していないため、非掲載です。

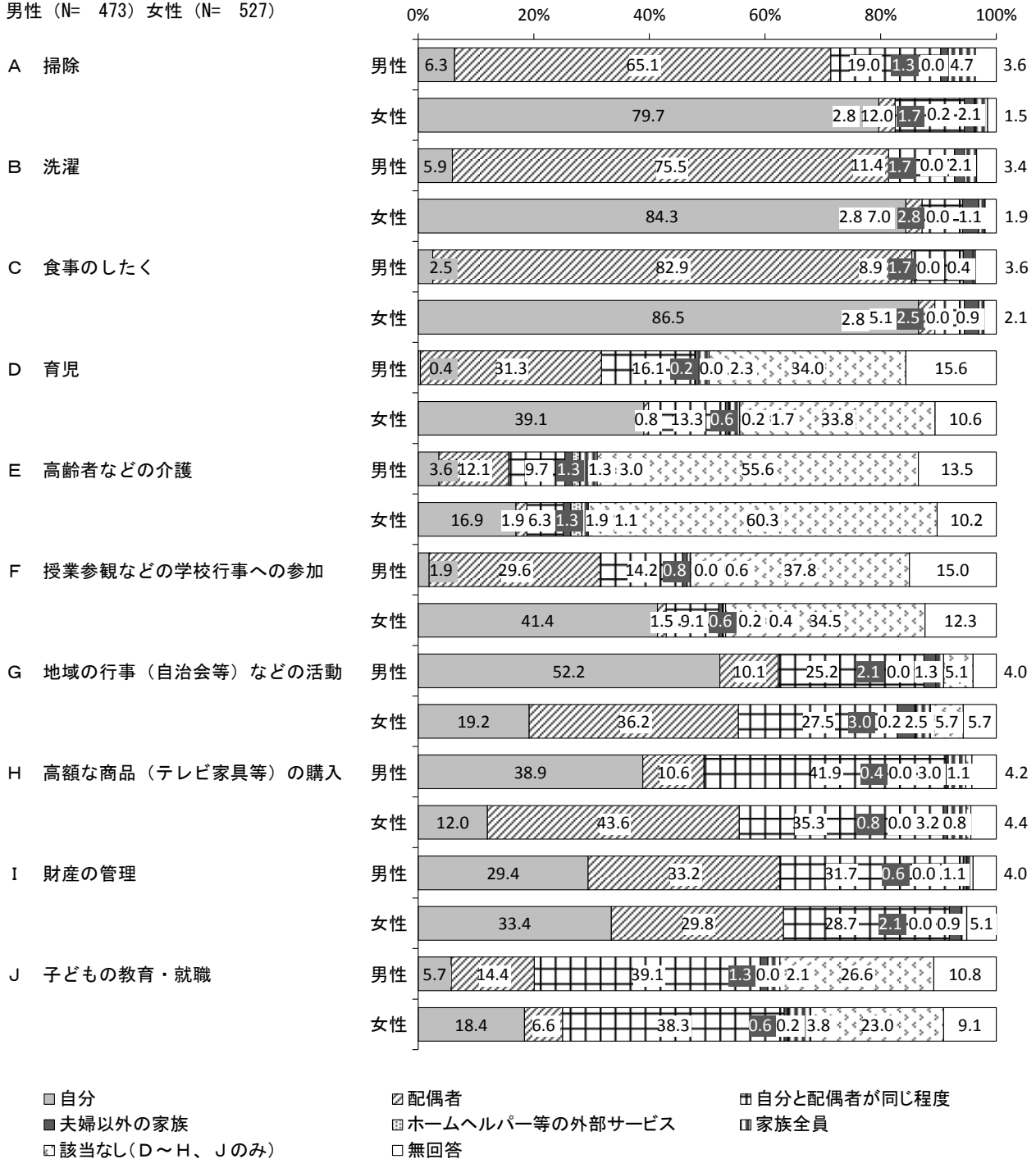
全国調査と比較すると、すべての分野で山梨県調査の方が「平等」が少なくなっています。

問2 あなたの家庭では、次のような家事等や最終決定を主にどなたが担当しているでしょうか。

F5で「既婚（事実婚を含む）」と回答した方のみ

【性別の状況】

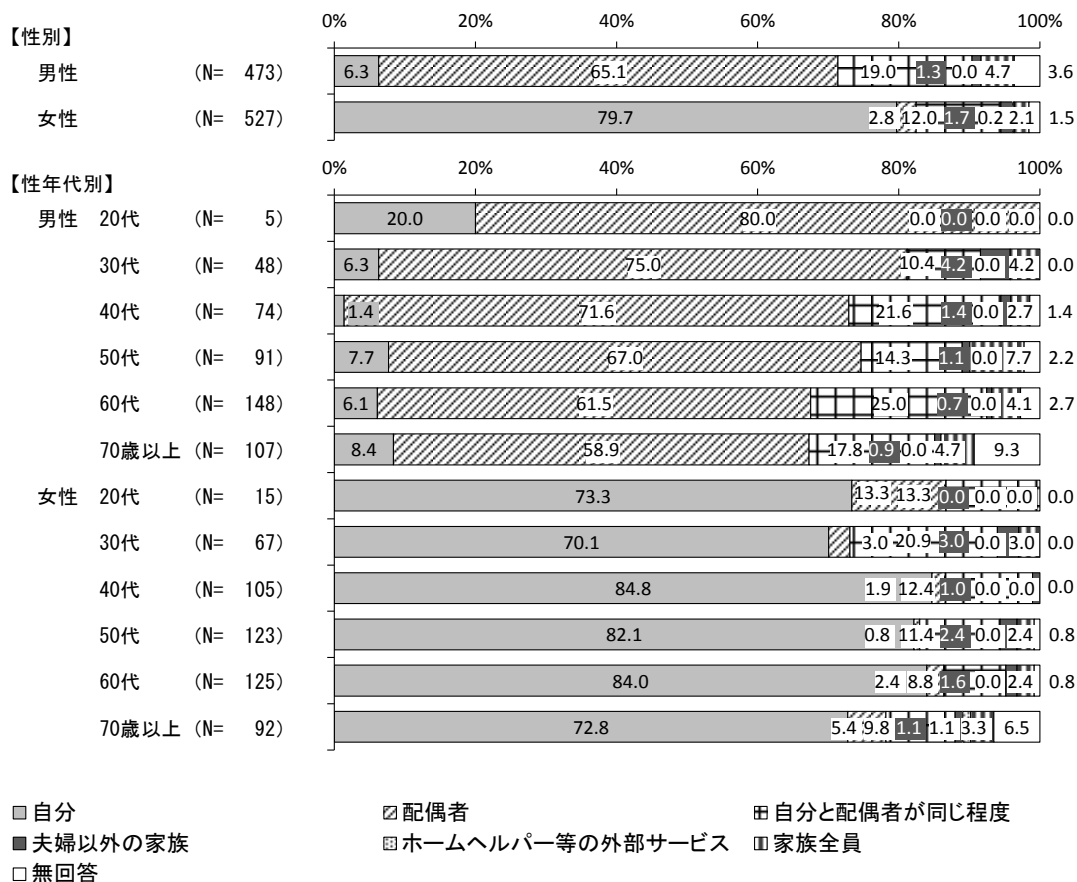
男性 (N= 473) 女性 (N= 527)



家庭における家事等や最終決定の担当者は、【G 地域の行事（自治会等）などの活動】と【H 高額な商品（テレビ家具等）の購入】では、女性より男性に多く、その他はすべて女性が多くなっています。

【A 掃除】

〔性別・性年代別の状況〕



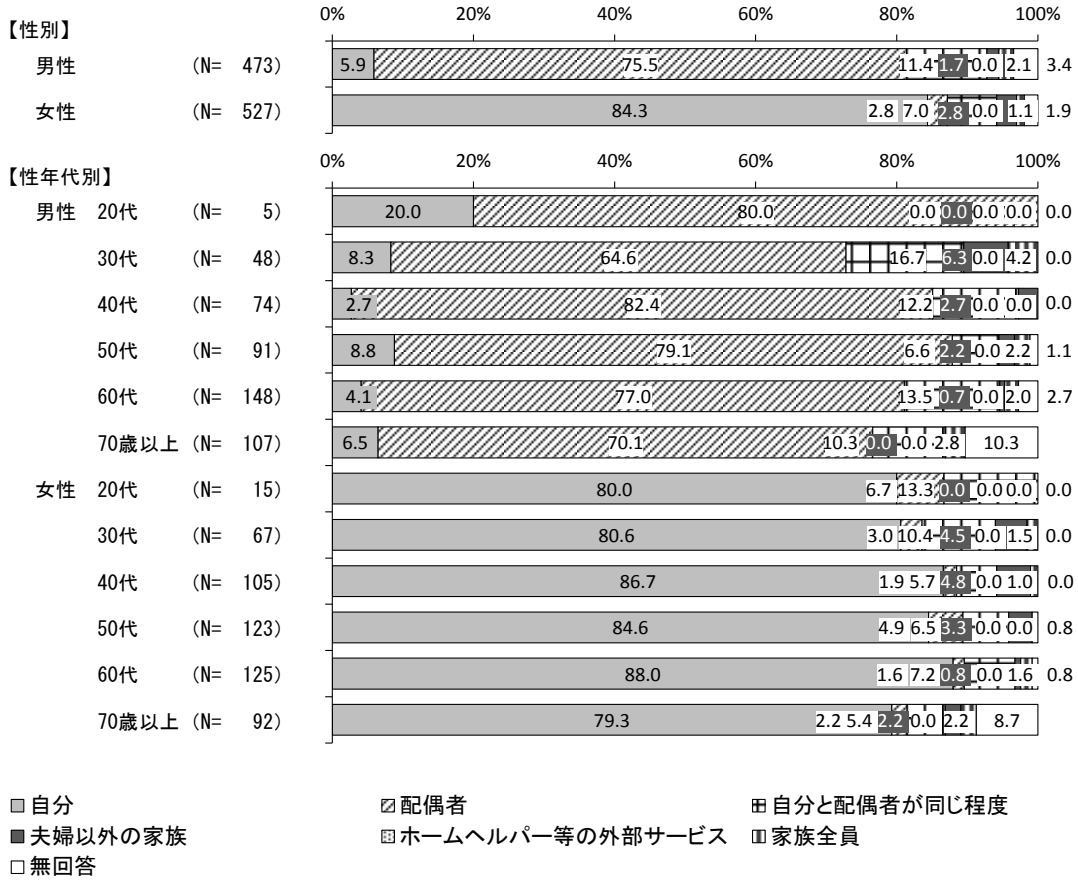
性別で見ると、男性では「配偶者」が65.1%と女性より多く、女性では「自分」が79.7%と男性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、年代が高くなるほど「配偶者」が少なくなる傾向がみられます。また、40代・60代では「自分と配偶者が同じ程度」が2割を超えて他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、年代が高くなるほど「自分と配偶者が同じ程度」が少なくなる傾向がみられます。また、30代・70歳以上では「自分」が8割を下回って他の年代より少なくなっています。

【B 洗濯】

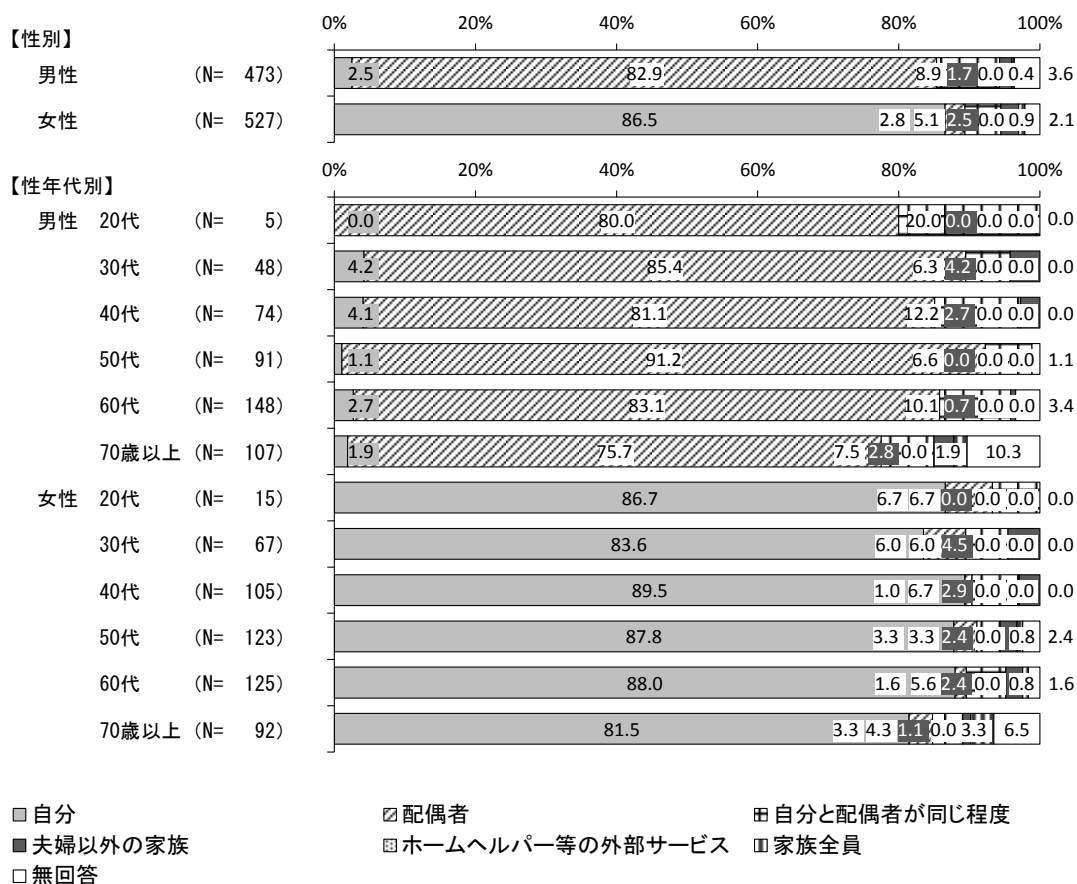
〔性別・性年代別の状況〕



性別で見ると、男性では「配偶者」が75.5%と女性より多く、女性では「自分」が84.3%と男性より多くなっています。
 性年代別（男性）で見ると、40代では「配偶者」が82.4%と他の年代より多く、50代では「自分と配偶者が同じ程度」が6.6%と他の年代より少なくなっています。

【C 食事のしたく】

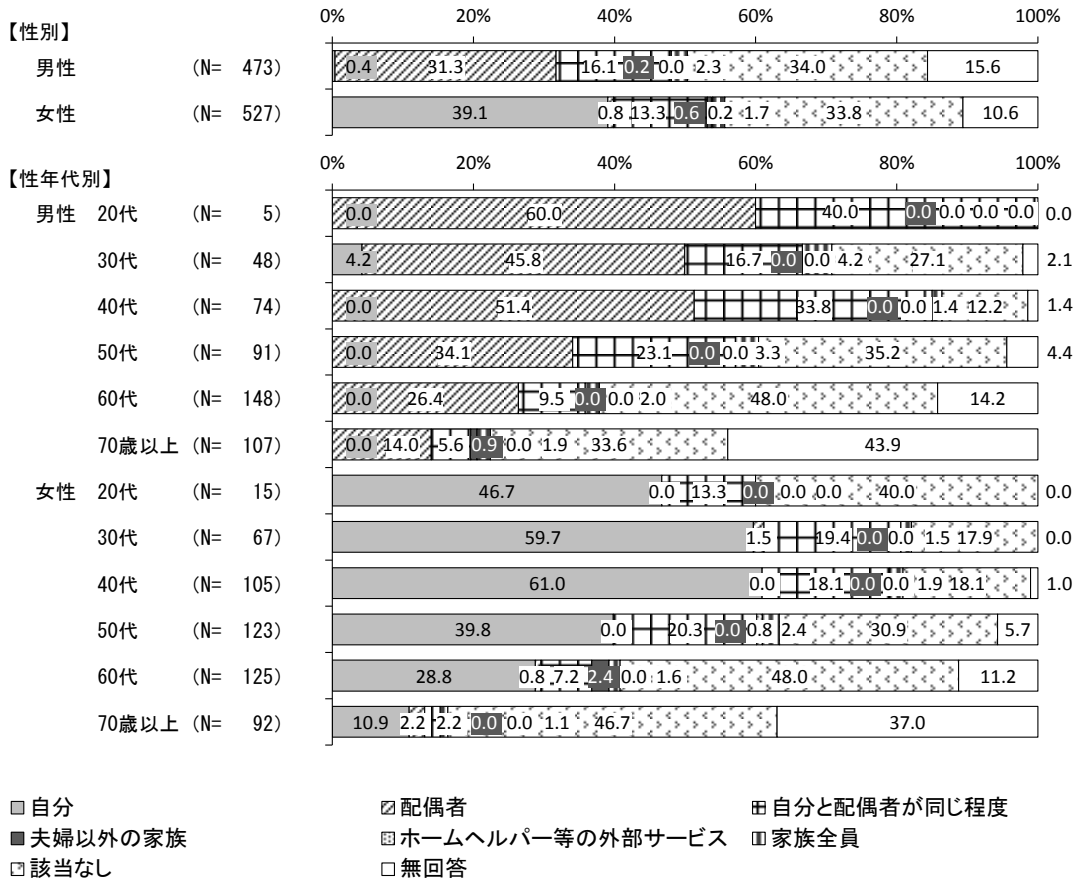
[性別・性年代別の状況]



性別で見ると、男性では「配偶者」が82.9%と女性より多く、女性では「自分」が86.5%と男性より多くなっています。
 性年代別（男性）で見ると、50代では「配偶者」が91.2%と他の年代より多くなっています。

【D 育児】

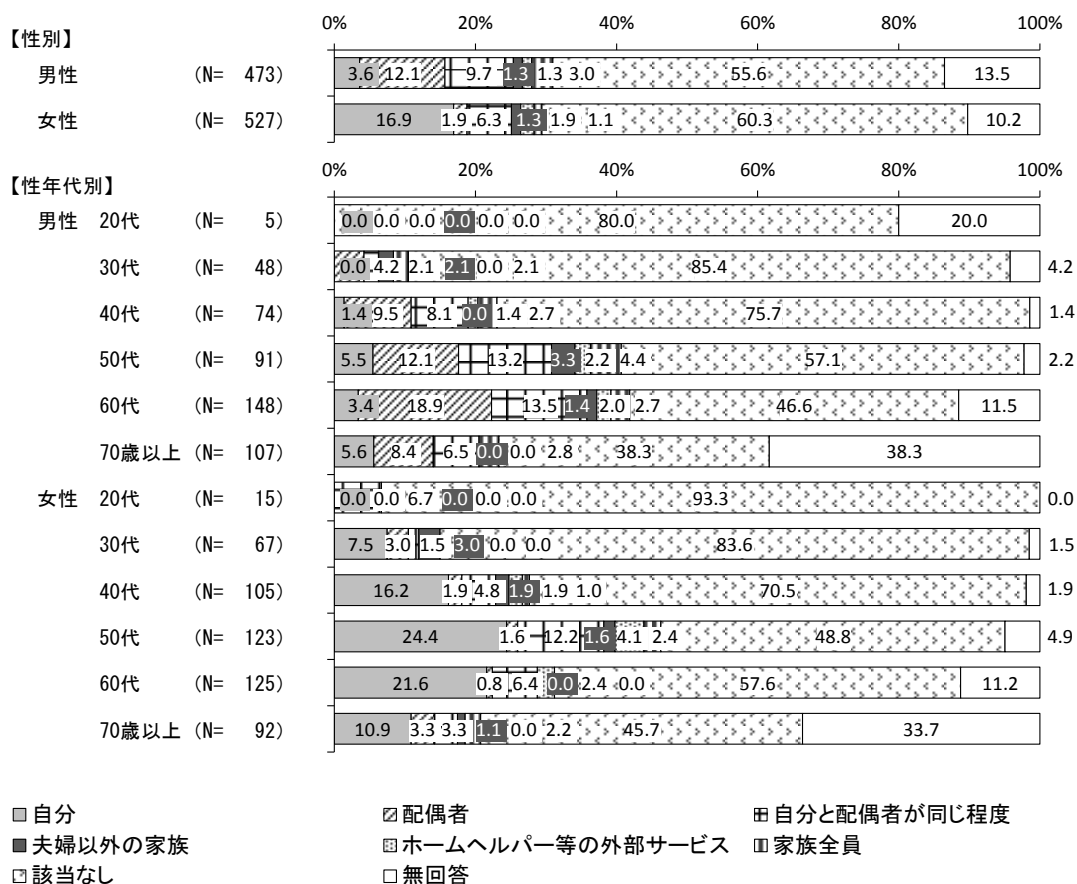
〔性別・性年代別の状況〕



性別で見ると、男性では「配偶者」が31.3%と女性より多く、女性では「自分」が39.1%と男性より多くなっています。
 性年代別（男性）で見ると、40代では「配偶者」、「自分と配偶者が同じ程度」が他の年代より多く、「該当なし」が12.2%と他の年代より少なくなっています。
 性年代別（女性）で見ると、年代が高くなるほど「自分」が少なく、「該当なし」が多くなる傾向がみられます。

【E 高齢者などの介護】

〔性別・性年代別の状況〕



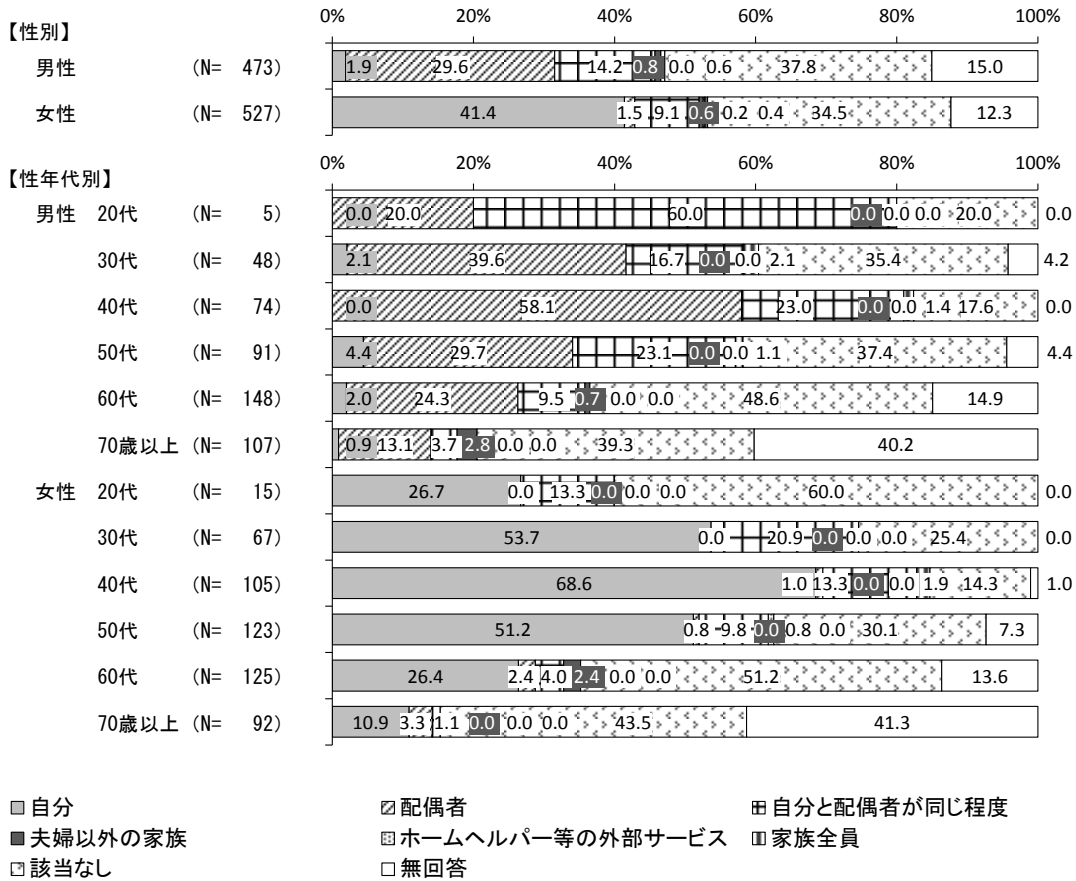
性別で見ると、男性では「配偶者」が12.1%と女性より多く、女性では「自分」が16.9%と男性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、年代が高くなるほど「該当なし」が少なくなる傾向がみられます。また、50代～60代では「配偶者」、「自分と配偶者が同じ程度」が他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、30代・40代では「該当なし」が7割を超えて他の年代より多く、50代では「自分と配偶者が同じ程度」が12.2%と他の年代より多くなっています。また、50代・60代では「自分」が2割を超えて他の年代より多くなっています。

【F 授業参観などの学校行事への参加】

〔性別・性年代別の状況〕



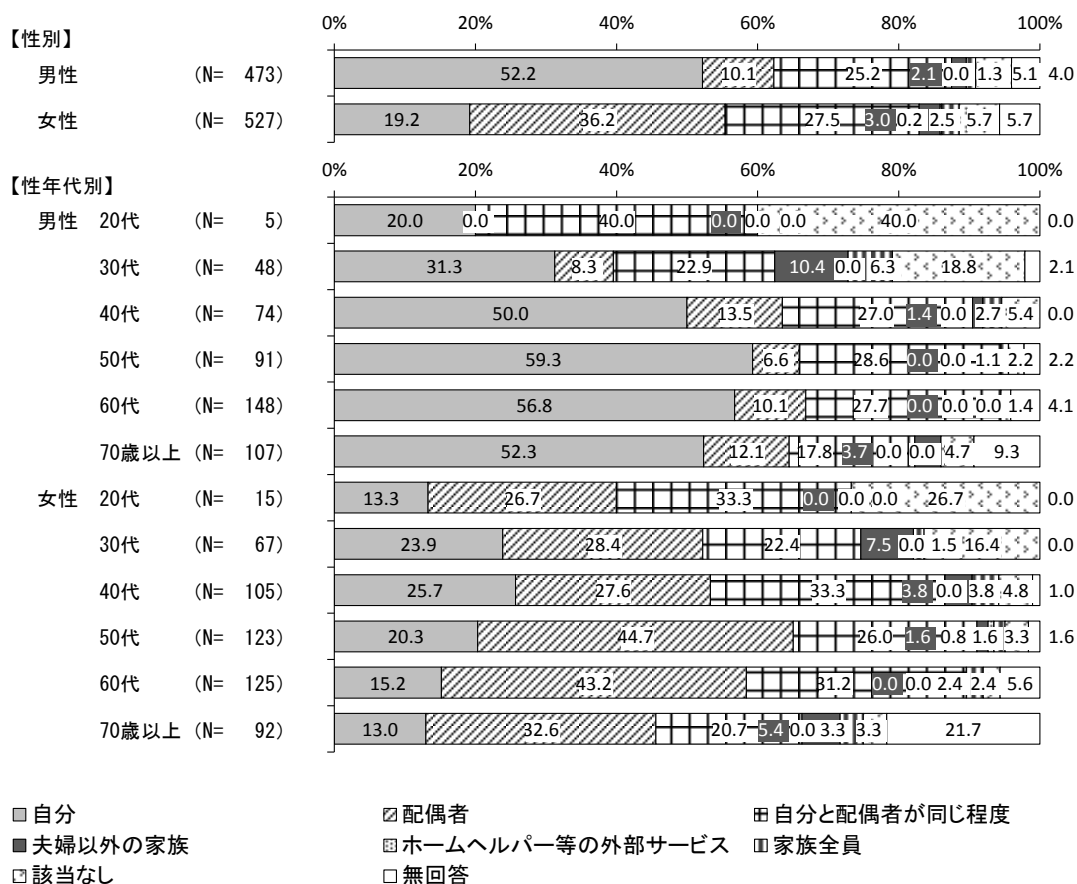
性別で見ると、男性では「配偶者」が29.6%と女性より多く、女性では「自分」が41.4%と男性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、40代では「配偶者」が58.1%と他の年代より多く、「該当なし」が17.6%と他の年代より少なくなっています。また、40代・50代では「自分と配偶者が同じ程度」が2割を超えて他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、年代が高くなるほど「自分と配偶者が同じ程度」が少なくなる傾向がみられます。また、40代では「自分」が68.6%と他の年代より多く、「該当なし」が14.3%と他の年代より少なくなっています。

【G 地域の行事（自治会等）などの活動】

【性別・性年代別の状況】



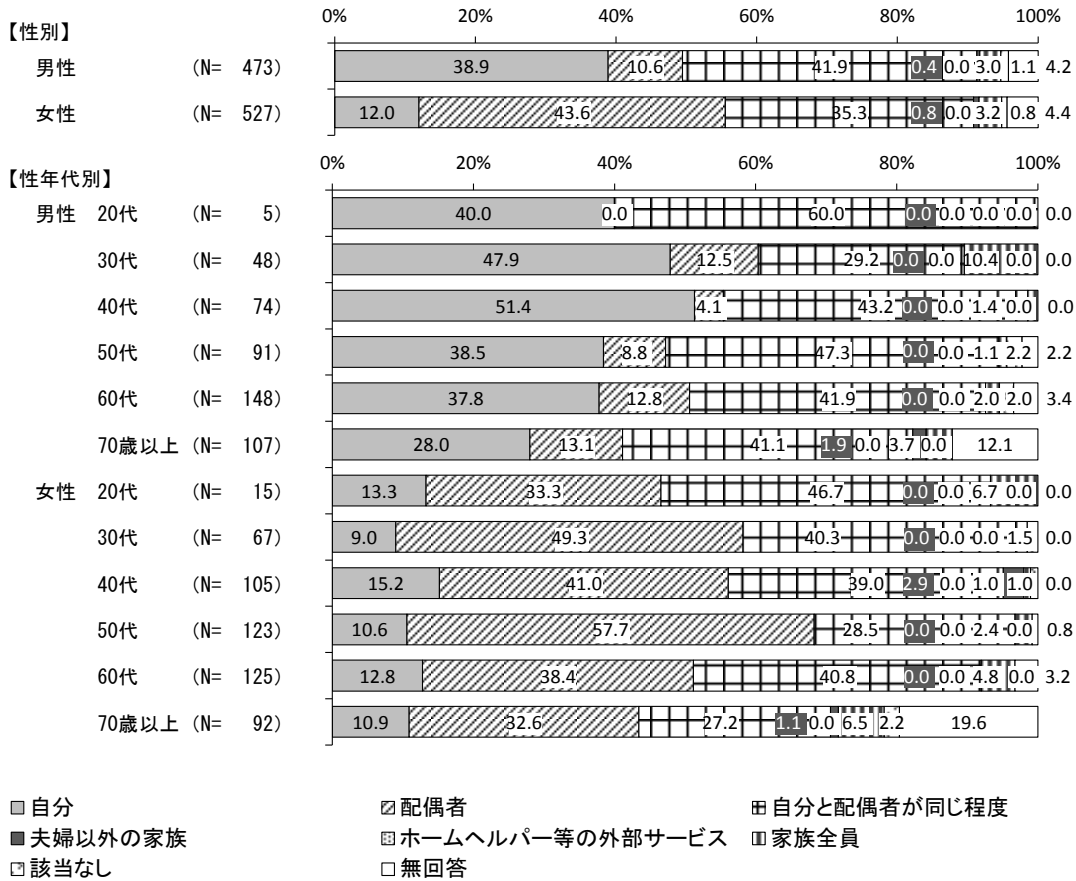
性別で見ると、男性では「自分」が52.2%と女性より多く、女性では「配偶者」が36.2%と男性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、30代では「自分」が31.3%と他の年代より少なく、「該当なし」が18.8%と他の年代より多くなっています。また、70歳以上では「自分と配偶者が同じ程度」が17.8%と他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）で見ると、年代が高くなるほど「自分」が少なくなる傾向がみられます。また、30代では「該当なし」が16.4%と他の年代より多く、50代・60代では「配偶者」が4割を超えて他の年代より多くなっています。

【H 高額な商品（テレビ家具等）の購入】

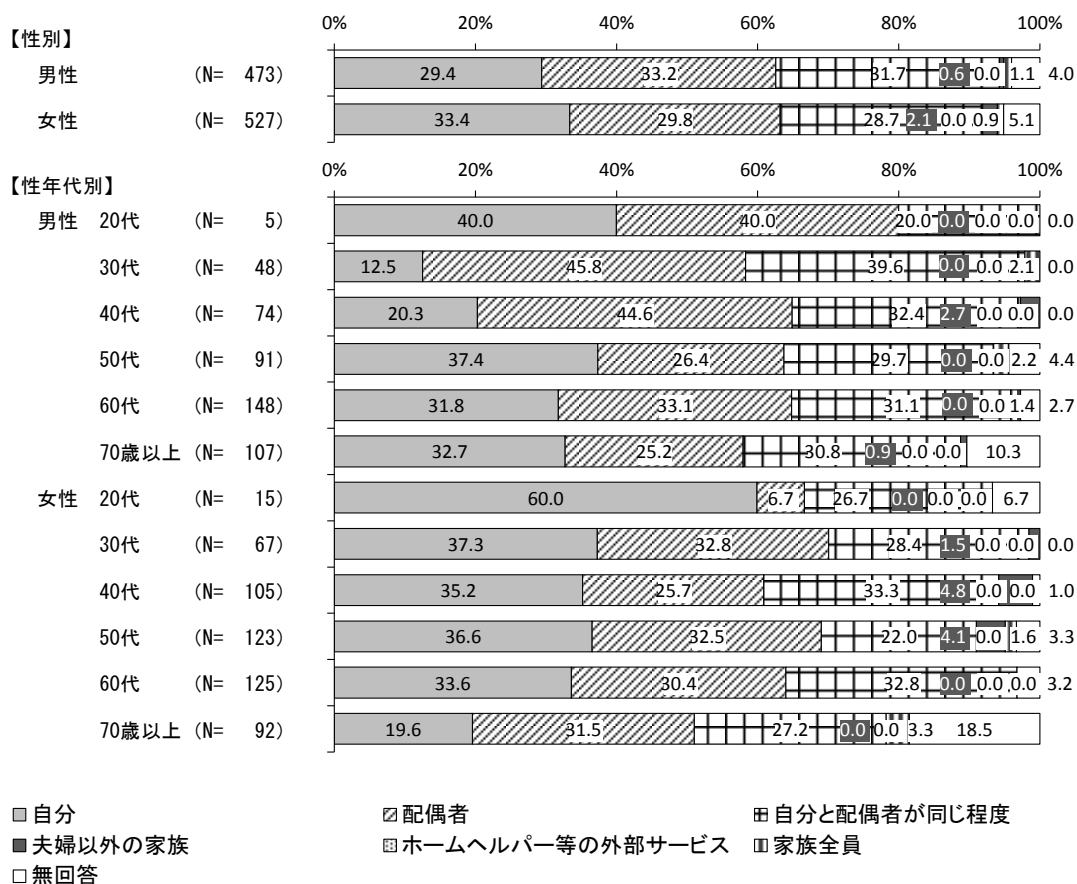
【性別・性年代別の状況】



性別で見ると、男性では「自分」が38.9%と女性より多く、女性では「配偶者」が43.6%と男性より多くなっています。
 性年代別（男性）で見ると、30代では「自分と配偶者が同じ程度」が29.2%と他の年代より少なく、30代・40代では「自分」が4割を超えて他の年代より多くなっています。
 性年代別（女性）で見ると、50代では「配偶者」が57.7%と他の年代より多く、50代・70歳以上では「自分と配偶者が同じ程度」が3割を下回って他の年代より少なくなっています。

【1 財産の管理】

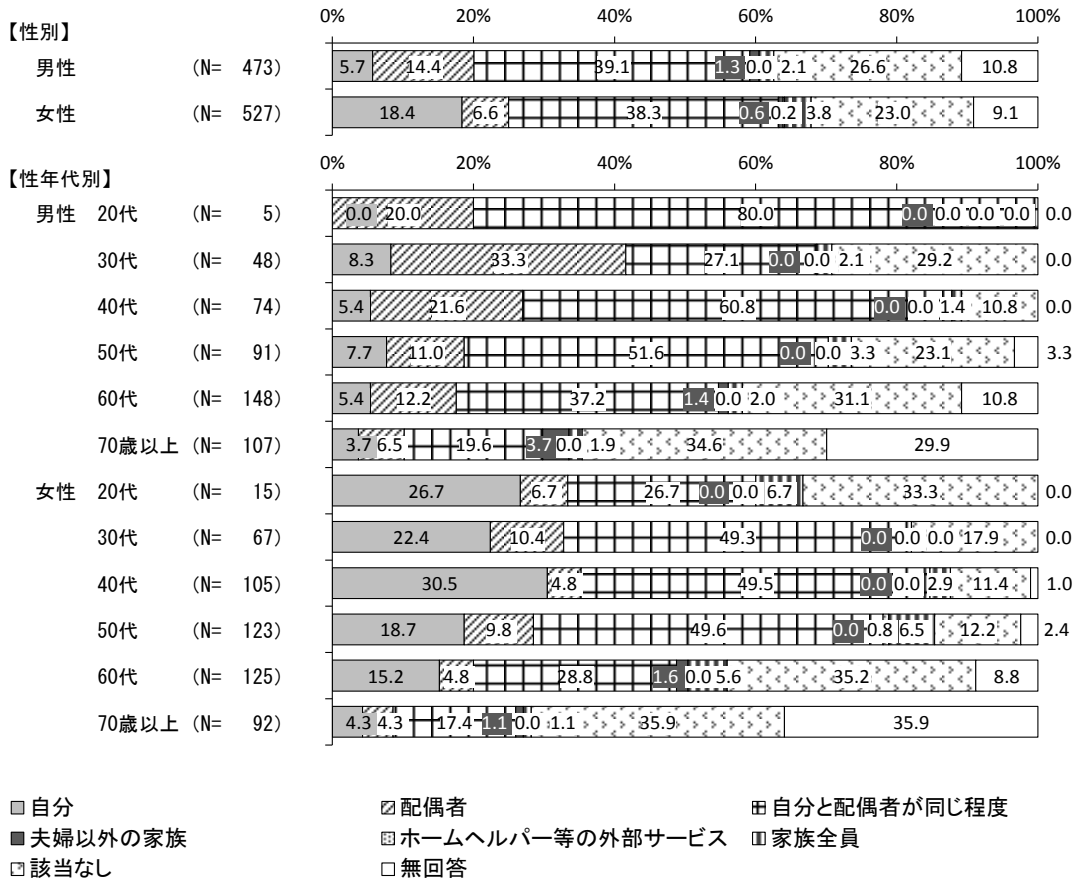
〔性別・性年代別の状況〕



性別で見ると、女性では「自分」が33.4%と男性より多くなっています。
 性年代別（男性）で見ると、30代・40代では「自分」が3割を下回って他の年代より少なく、「配偶者」が4割を超えて他の年代より多くなっています。
 性年代別（女性）で見ると、40代・60代では「自分と配偶者が同じ程度」が3割を超えて他の年代より多く、70歳以上では「自分」が19.6%と他の年代より少なくなっています。

【 J 子どもの教育・就職】

〔性別・性年代別の状況〕

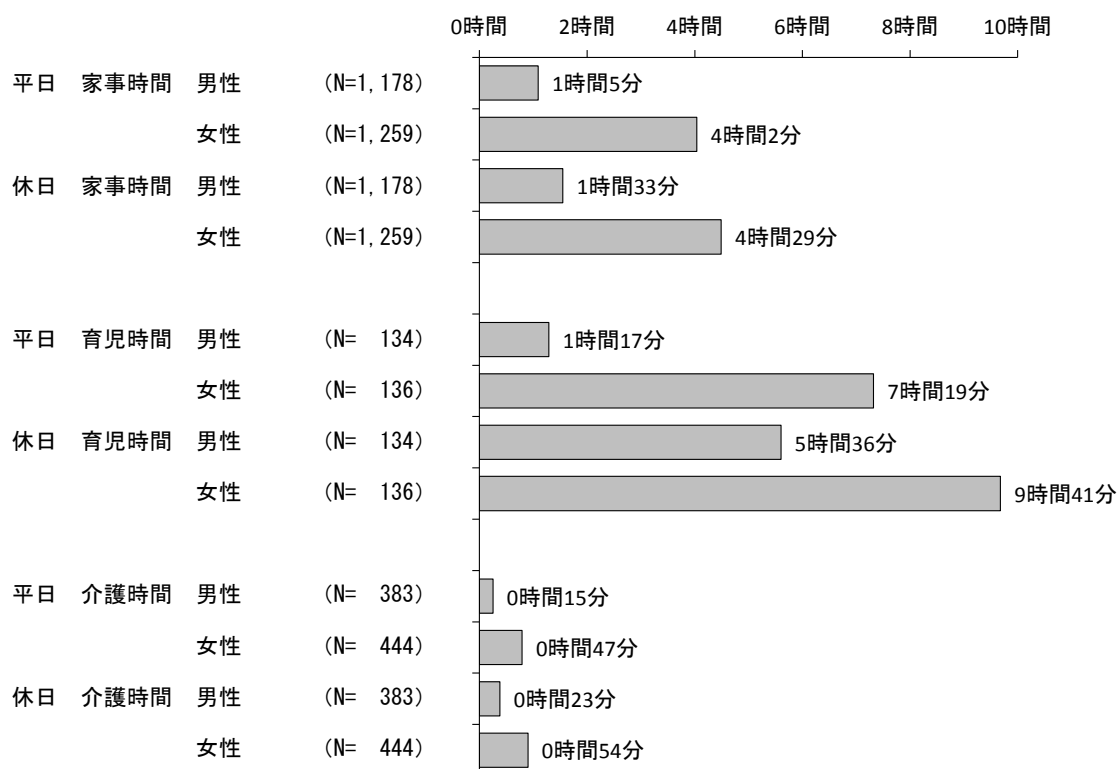


性別で見ると、女性では「自分」が18.4%と男性より多くなっています。
 性年代別（男性）で見ると、年代が高くなるほど「配偶者」が少なくなる傾向がみられます。また、40代では「該当なし」が10.8%と他の年代より少なく、40代・50代では「自分と配偶者が同じ程度」が半数を超えて他の年代より多くなっています。
 性年代別（女性）で見ると、40代では「自分」が30.5%と他の年代より多く、60歳以上では「該当なし」が3割を超えて他の年代より多くなっています。

問3 あなた、あなたの配偶者が、1日のうちで家事、育児、介護に費やす平均時間をご記入ください。（配偶者がいない場合は、女性、男性どちらかのみご記入ください。）

	男性 F1で「男性」と回答した方 または F1で「女性」と回答し、F5で「既婚（事実婚を含む）」と回答した方（=回答者の配偶者）	女性 F1で「女性」と回答した方 または F1で「男性」と回答し、F5で「既婚（事実婚を含む）」と回答した方（=回答者の配偶者）
家事時間	全員	全員
育児時間	そのうち、F6で「いる」、F7で「3歳未満」、「3歳以上から就学前」と回答した方	そのうち、F6で「いる」、F7で「3歳未満」、「3歳以上から就学前」と回答した方
介護時間	そのうち、問3の介護時間に記入があった方	そのうち、問3の介護時間に記入があった方

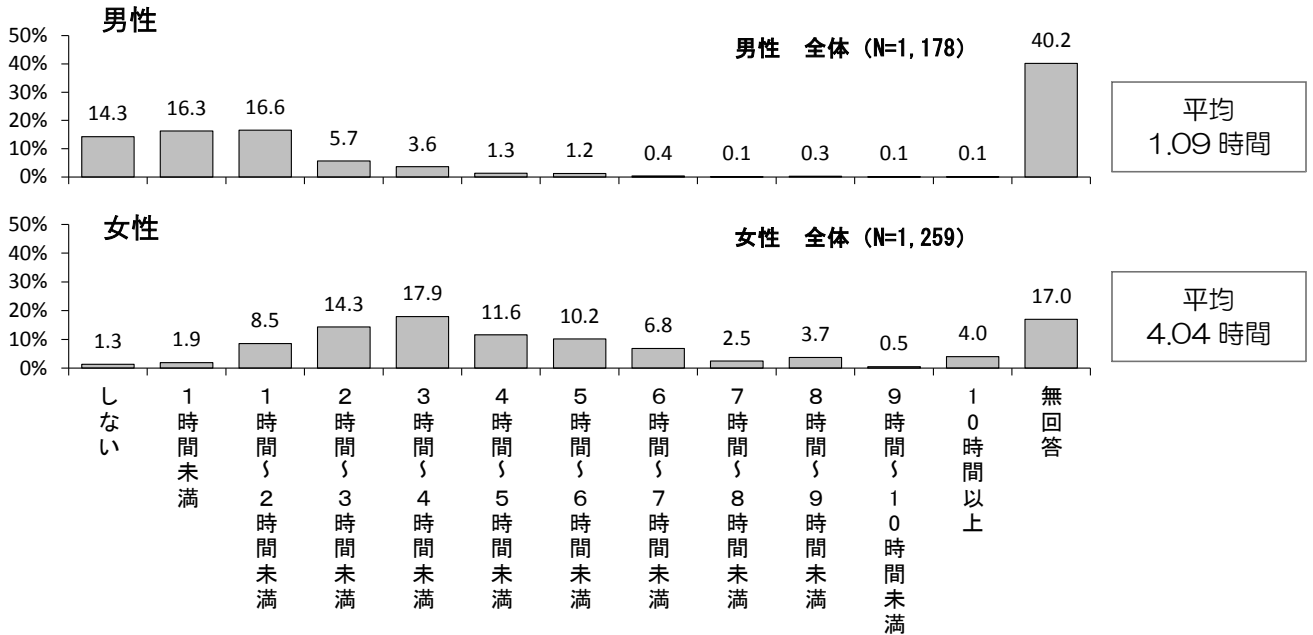
【性別の状況】



1日のうちで家事、育児、介護に費やす平均時間は、いずれも平日より休日、男性より女性が長くなっています。性別による差が最も大きいのは、【平日 育児時間】で女性が男性より6時間2分長くなっています。また、曜日による差が最も大きいのは、【育児時間 男性】で休日が平日より4時間19分長くなっています。

【平日：家事時間】

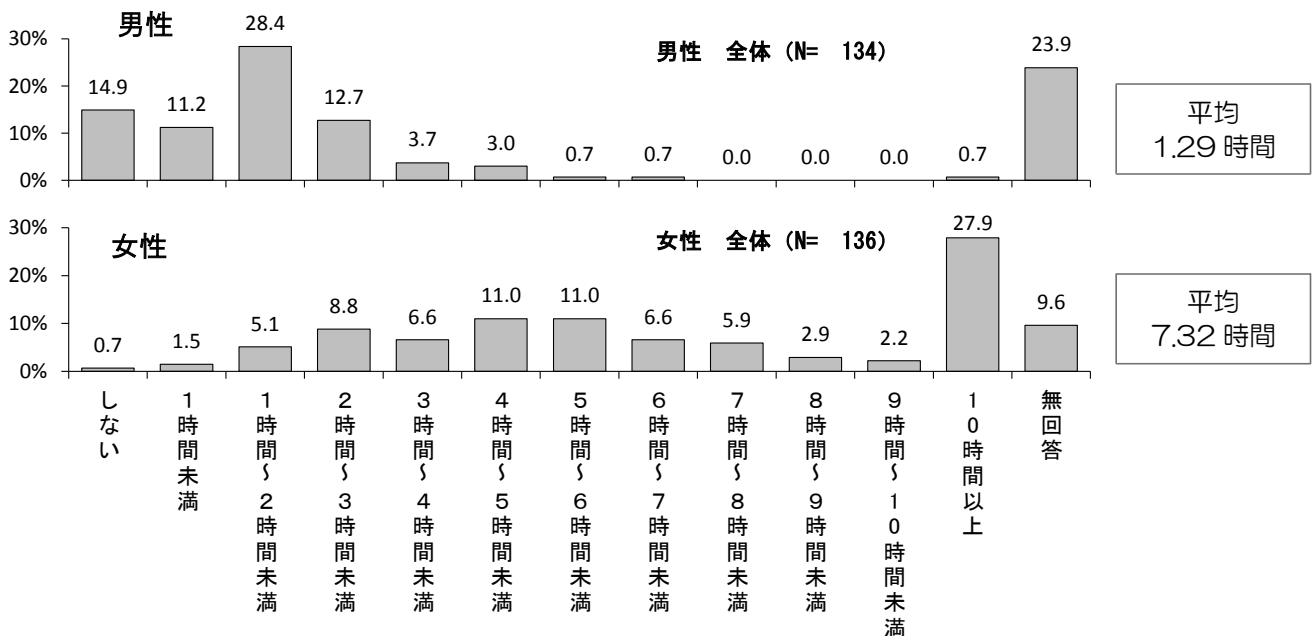
[性別の状況]



男性の平日の平均家事時間は、「1時間～2時間未満」が16.6%と最も多く、次いで「1時間未満」が16.3%、「しない」が14.3%などとなっています。
 女性の平日の平均家事時間は、「3時間～4時間未満」が17.9%と最も多く、次いで「2時間～3時間未満」が14.3%、「4時間～5時間未満」が11.6%などとなっています。

【平日：育児時間】

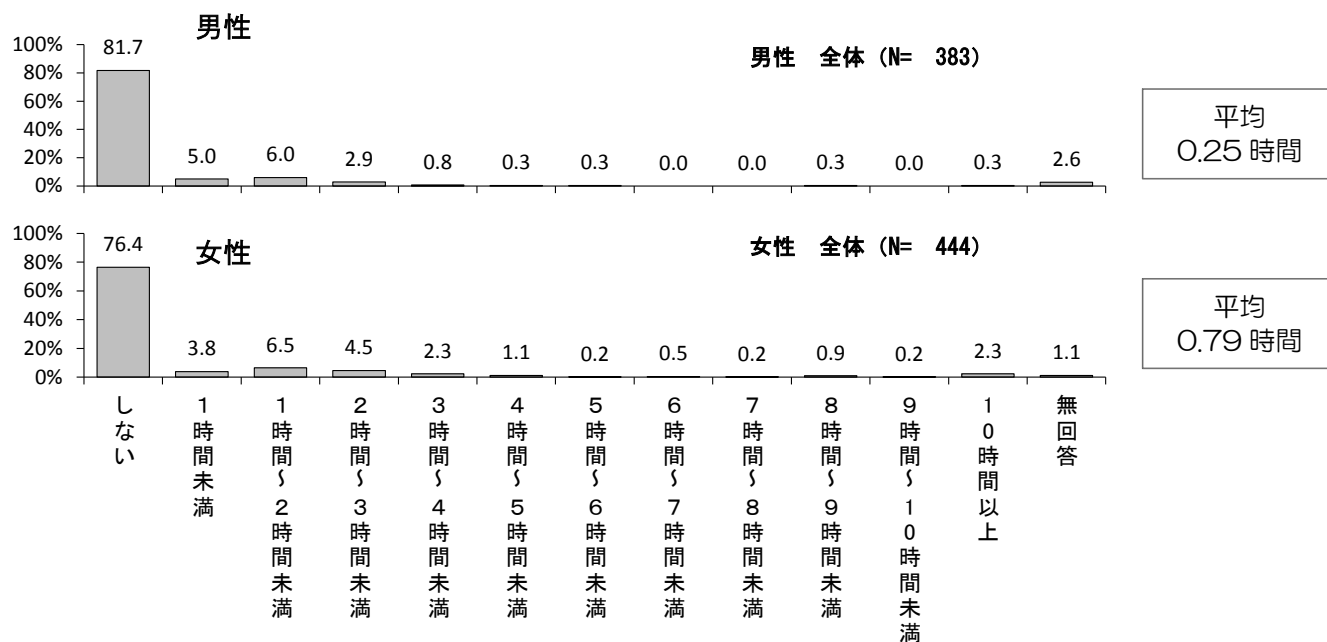
[性別の状況]



男性の平日の平均育児時間は、「1時間～2時間未満」が28.4%と最も多く、次いで「しない」が14.9%、「2時間～3時間未満」が12.7%などとなっています。
 女性の平日の平均育児時間は、「10時間以上」が27.9%と最も多く、次いで「4時間～5時間未満」、「5時間～6時間未満」がそれぞれ11.0%、「2時間～3時間未満」が8.8%などとなっています。

【平日：介護時間】

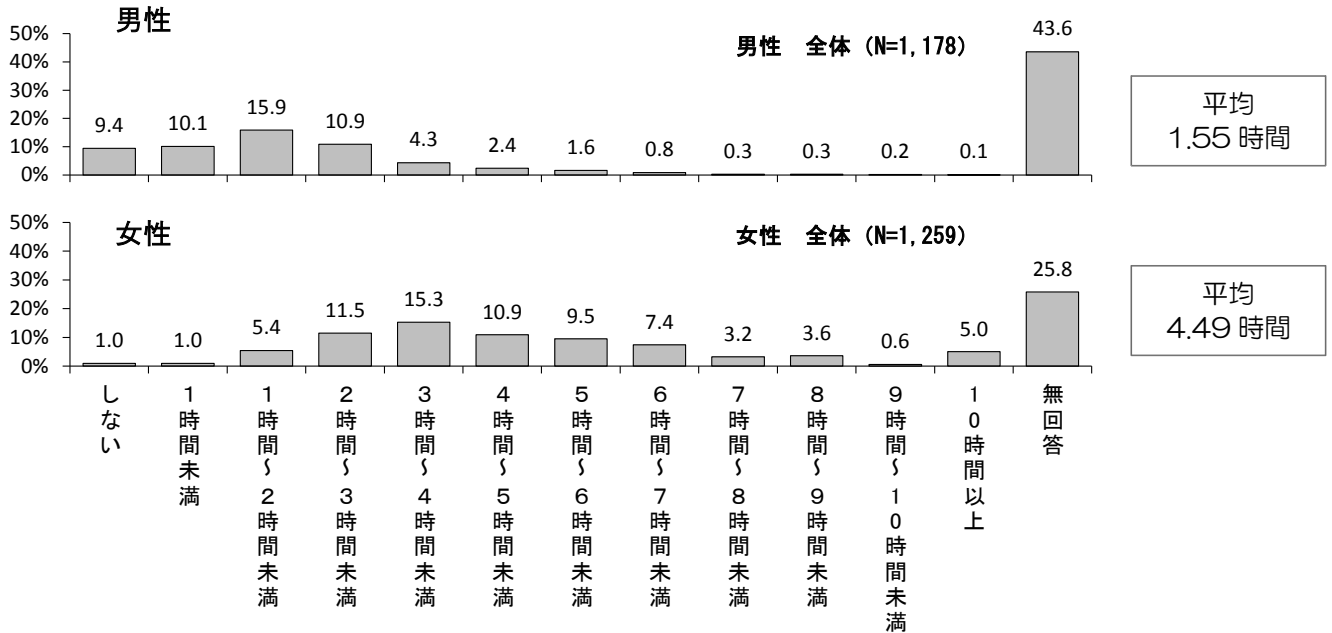
〔性別の状況〕



男性の平日の平均介護時間は、「しない」が81.7%ともっとも多くなっています。
 女性の平日の平均介護時間は、「しない」が76.4%ともっとも多くなっています。

【休日：家事時間】

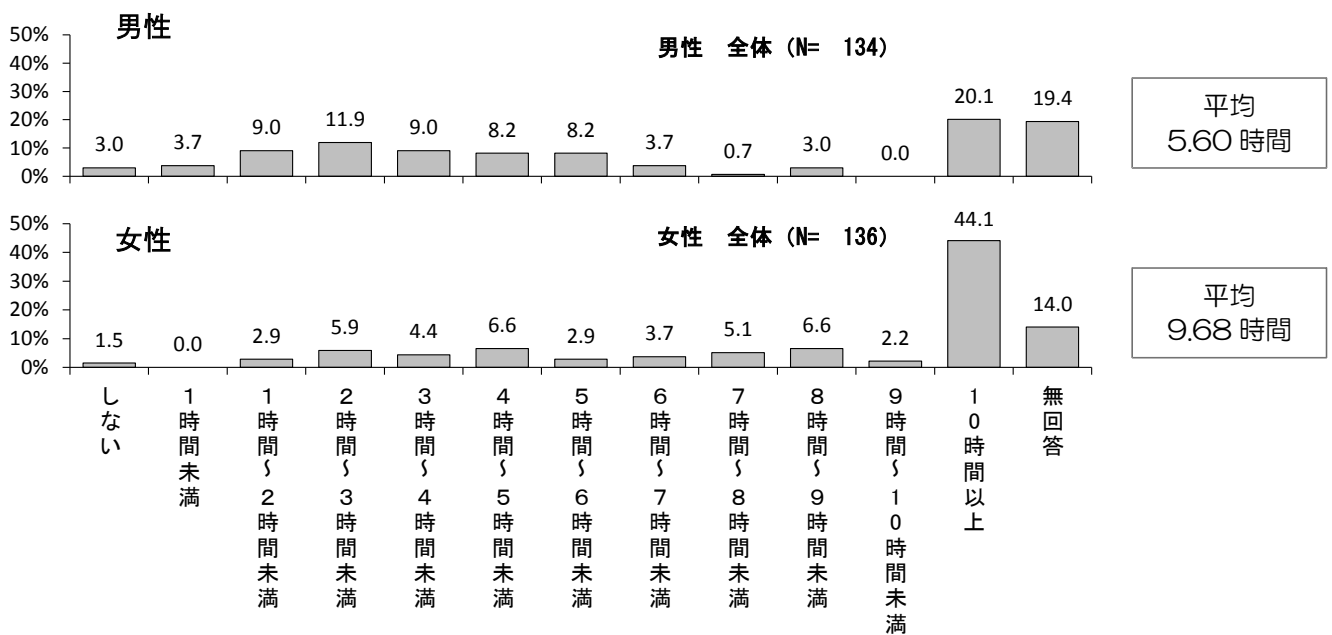
[性別の状況]



男性の休日の平均家事時間は、「1時間～2時間未満」が15.9%と最も多く、次いで「2時間～3時間未満」が10.9%、「1時間未満」が10.1%などとなっています。
 女性の休日の平均家事時間は、「3時間～4時間未満」が15.3%と最も多く、次いで「2時間～3時間未満」が11.5%、「4時間～5時間未満」が10.9%などとなっています。

【休日：育児時間】

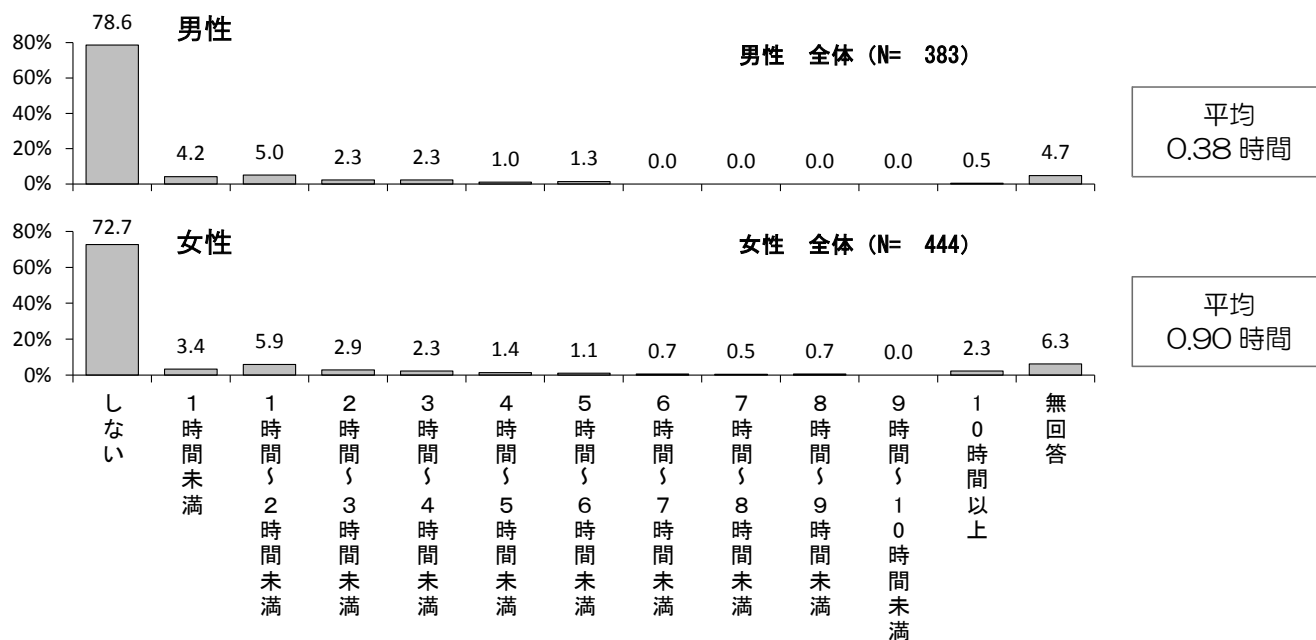
[性別の状況]



男性の休日の平均育児時間は、「10時間以上」が20.1%と最も多く、次いで「2時間～3時間未満」が11.9%、「1時間～2時間未満」、「3時間～4時間未満」がそれぞれ9.0%などとなっています。
 女性の休日の平均育児時間は、「10時間以上」が44.1%と最も多く、次いで「4時間～5時間未満」、「8時間～9時間未満」がそれぞれ6.6%、「2時間～3時間未満」が5.9%などとなっています。

【休日：介護時間】

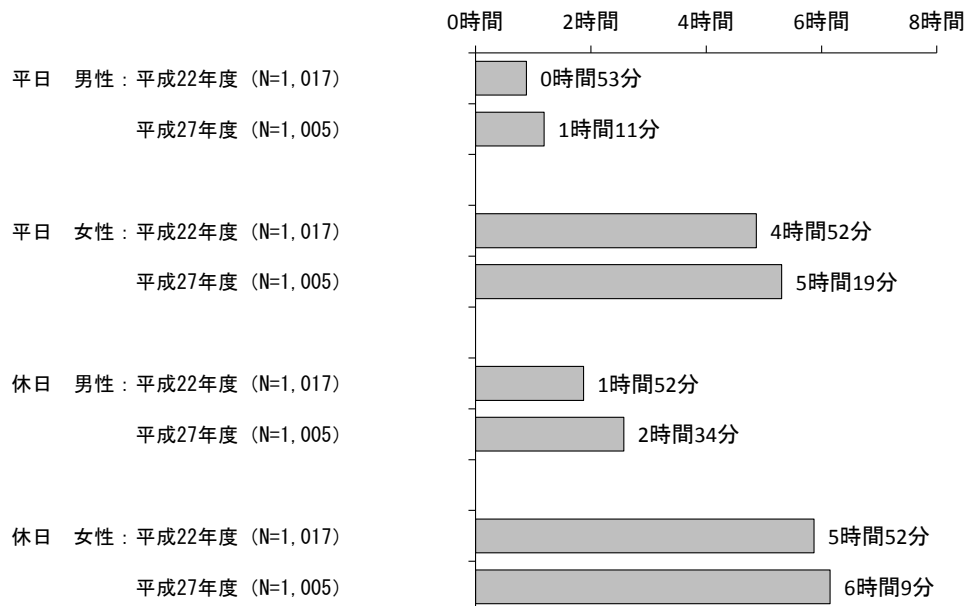
〔性別の状況〕



男性の休日の平均介護時間は、「しない」が78.6%ともっとも多くなっています。
 女性の休日の平均介護時間は、「しない」が72.7%ともっとも多くなっています。

◎ 経年比較 ◎

【家事時間＋育児時間】

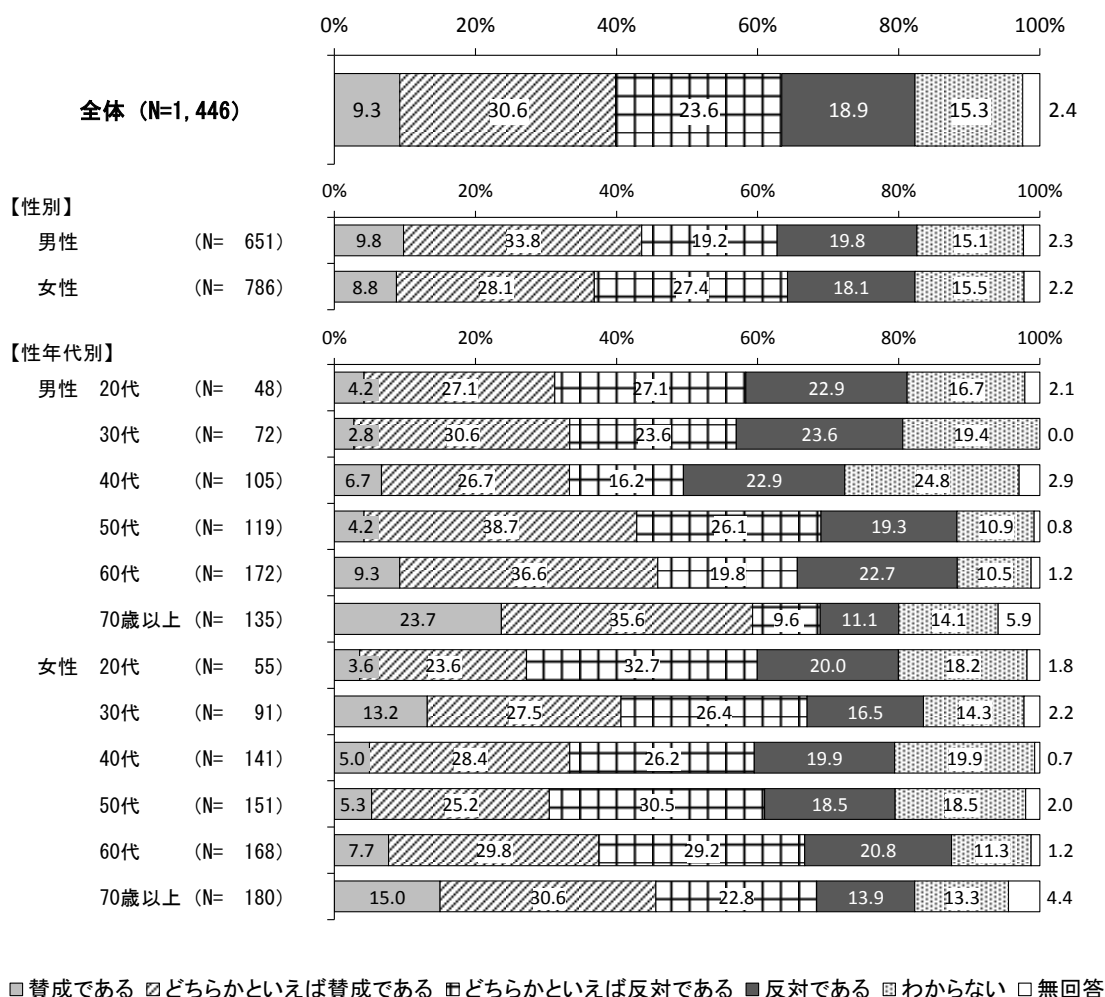


※経年比較のみ、F 5で「既婚（事実婚を含む）」と回答した方に回答者を限定しています。

経年比較でみると、男女ともに、平日も休日も家事や育児に費やす時間が長くなっています。一番長くなったのは、休日の男性で42分の差がみられます。

問4 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えに賛成ですか、反対ですか。

【全体・性別・性年代別の状況】



『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方については、「どちらかといえば賛成である」が30.6%と最も多く、次いで「どちらかといえば反対である」が23.6%、「反対である」が18.9%などとなっています。また、『賛成である』（賛成である＋どちらかといえば賛成である）は39.9%、『反対である』（反対である＋どちらかといえば反対である）は42.5%となっており、『反対である』が『賛成である』より2.6ポイント高くなっています。

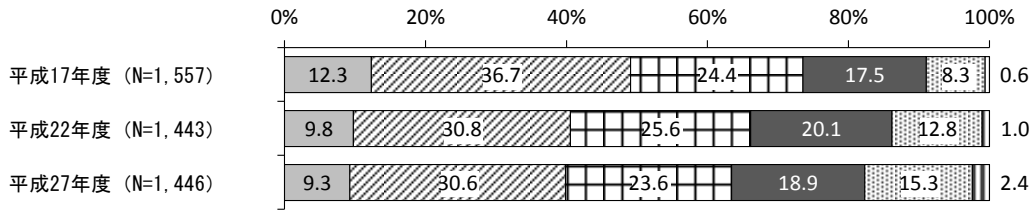
性別で見ると、男性は『賛成である』が『反対である』より多く、女性は『反対である』が『賛成である』より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、50代・70歳以上では「反対である」が2割を下回って他の年代より少なく、70歳以上では「賛成である」が23.7%と他の年代より多くなっています。また、『賛成である』は、年代が高くなるほど多くなる傾向がみられます。

性年代別（女性）で見ると、30代・70歳以上では「賛成である」が1割を超えて他の年代より多くなっています。また、『賛成である』は、20代では27.2%と他の年代より少なくなっています。

※以下、『賛成である』は「賛成である」と「どちらかといえば賛成である」を合計したもの、『反対である』は「反対である」と「どちらかといえば反対である」を合計したものを表します。

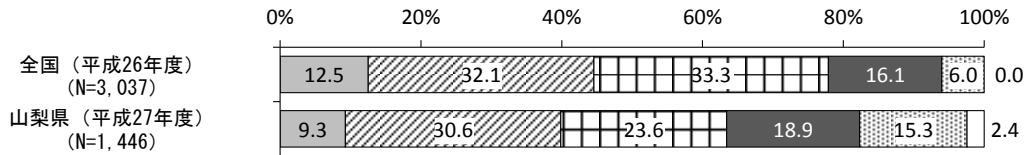
◎ 経年比較 ◎



□ 賛成である □ どちらかといえば賛成である □ どちらかといえば反対である ■ 反対である □ わからない □ 無回答

経年比較でみると、平成17年度調査は『賛成である』が最も多く、平成22年度調査と平成27年度調査は『反対である』が最も多くなっています。

◎ 全国調査との比較 ◎



□ 賛成である □ どちらかといえば賛成である □ どちらかといえば反対である ■ 反対である □ わからない □ 無回答

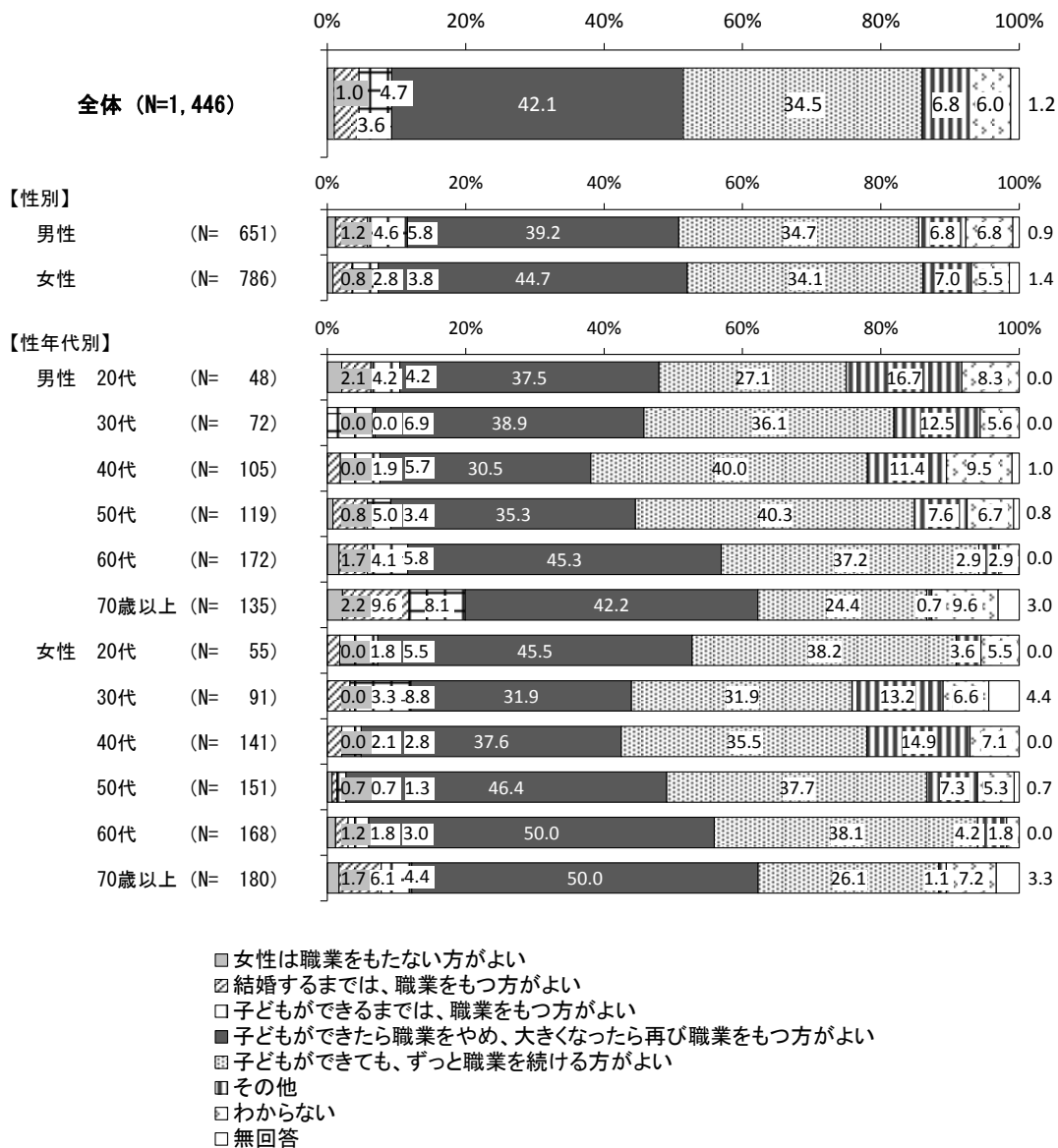
* 全国調査は内閣府「女性の活躍推進に関する世論調査」(平成26年度)より抜粋しています。

全国調査と比較すると、山梨県調査の方が、『賛成である』は4.7ポイント少なく、『反対である』は6.9ポイント少なくなっています。

◆ 仕事と家庭・社会活動とそのバランスについて ◆

問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。

【全体・性別・性年代別の状況】



一般的に女性が職業をもつことについては、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が42.1%と最も多く、次いで「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が34.5%などとなっています。

性別で見ると、女性では「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が44.7%と男性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、20代・70歳以上では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が3割を下回って他の年代より少なく、60歳以上では「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が4割を超えて他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、30代・40代では「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が4割を下回って他の年代より少なく、70歳以上では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が26.1%と他の年代より少なくなっています。

◎ 経年比較 ◎

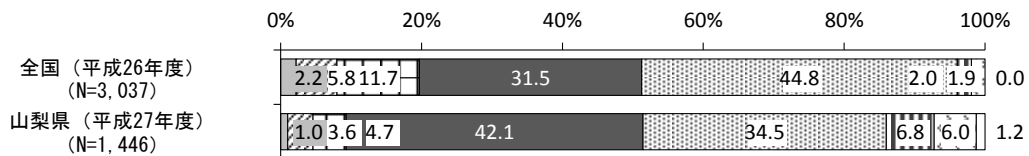


- 女性は無職業の方がよい
- 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができれば、職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- その他
- わからない
- 無回答

※平成17年度調査では「女性は無職業の方がよい」という選択肢はありませんでした。

平成17年度調査、平成22年度調査との経年比較でみると、「子どもができれば、職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が少なくなり、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が多くなっています。

◎ 全国調査との比較 ◎



- 女性は無職業の方がよい
- 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができれば、職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- その他
- わからない
- 無回答

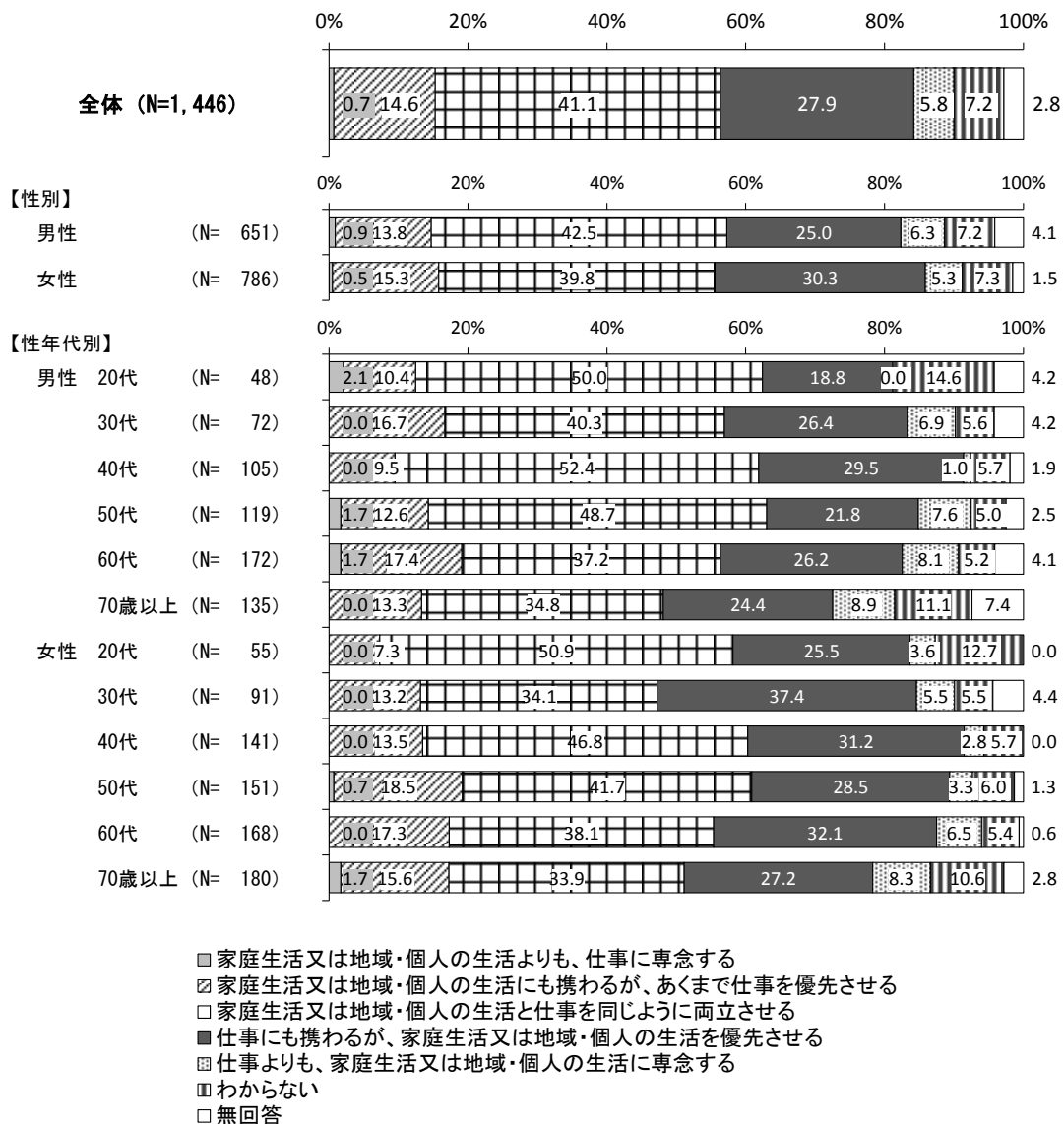
*全国調査は内閣府「女性の活躍推進に関する世論調査」(平成26年度)より抜粋しています。

全国調査と比較すると、「子どもができれば、職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は全国調査より多く、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は全国調査より少なくなっています。

問6 仕事との関係において、家庭生活又は地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・つきあい等）をどのように位置づけるかということについてお聞きします。

（1）女性の望ましい係わり方

〔全体・性別・性年代別の状況〕



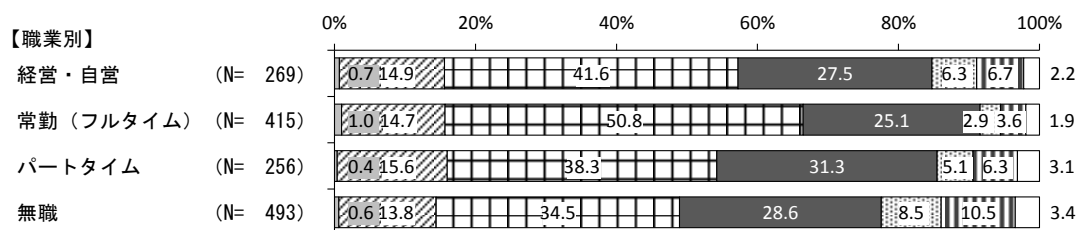
女性の望ましい仕事と家庭生活又は地域・個人の生活の係わり方は、「家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を同じように両立させる」が41.1%と最も多く、次いで「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域・個人の生活を優先させる」が27.9%、「家庭生活又は地域・個人の生活にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が14.6%などとなっています。

性別で見ると、女性では「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域・個人の生活を優先させる」が30.3%と男性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、20代では「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域・個人の生活を優先させる」が18.8%と他の年代より少なく、20代・40代では「家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を同じように両立させる」が半数を超えて他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、20代では「家庭生活又は地域・個人の生活にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が7.3%と他の年代より少なく、「家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を同じように両立させる」が50.9%と他の年代より多くなっています。また、30代・40代・60代では「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域・個人の生活を優先させる」が3割を超えて他の年代より多くなっています。

【職業別の状況】

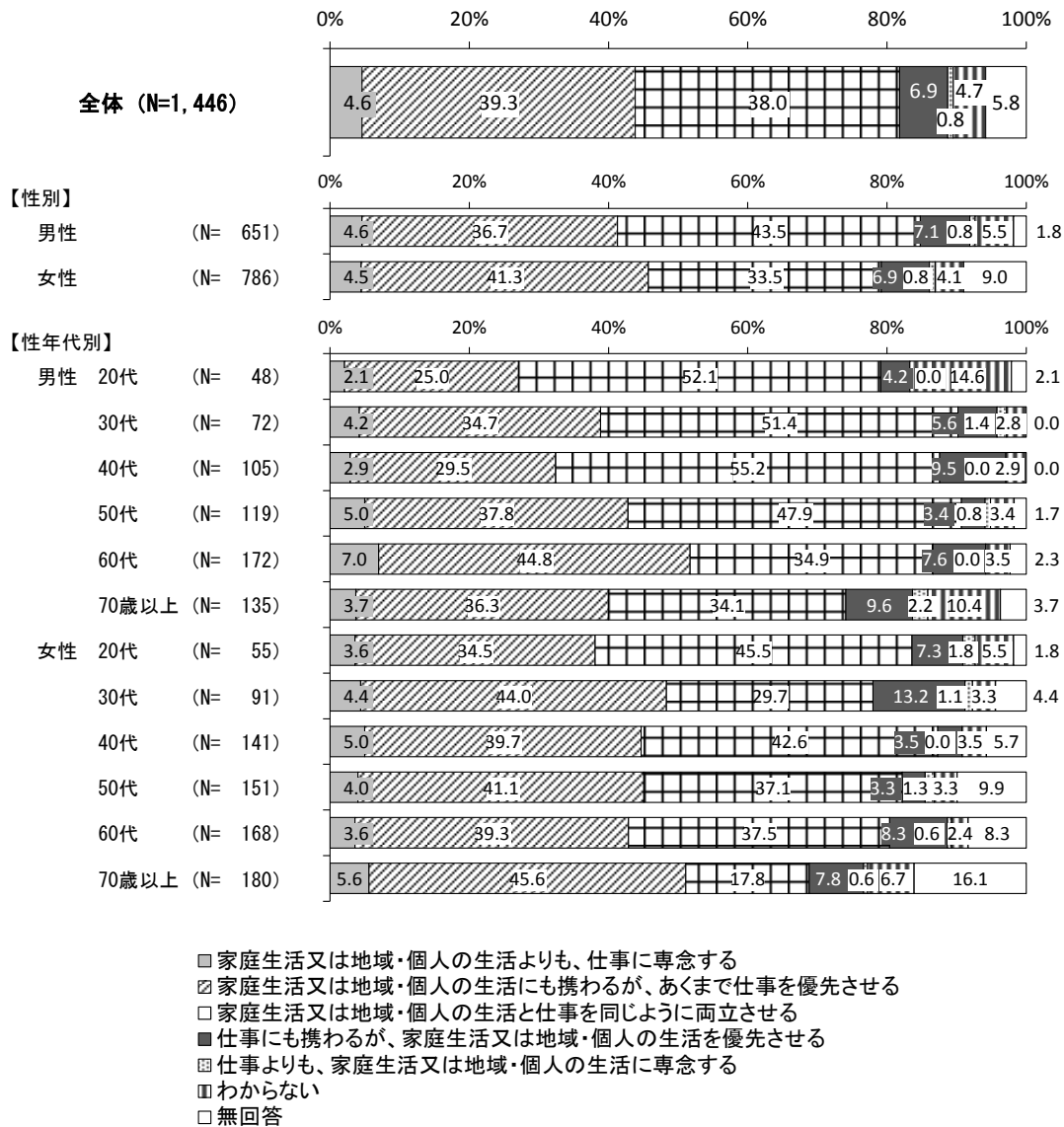


- 家庭生活又は地域・個人の生活よりも、仕事に専念する
- ▣ 家庭生活又は地域・個人の生活にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- 家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を同じように両立させる
- 仕事にも携わるが、家庭生活又は地域・個人の生活を優先させる
- ▣ 仕事よりも、家庭生活又は地域・個人の生活に専念する
- わからない
- 無回答

職業別で見ると、常勤（フルタイム）では「家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を同じように両立させる」が50.8%と他の職業より多くなっています。

(2) 男性の望ましい係わり方

[全体・性別・性年代別の状況]



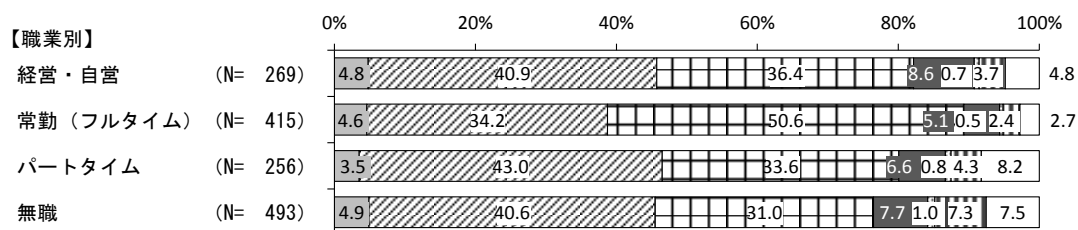
男性の望ましい仕事と家庭生活又は地域・個人の生活の係わり方は、「家庭生活又は地域・個人の生活にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が39.3%と最も多く、次いで「家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を同じように両立させる」が38.0%、「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域・個人の生活を優先させる」が6.9%などとなっています。

性別で見ると、男性では「家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を同じように両立させる」が43.5%と女性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、20代・40代では「家庭生活又は地域・個人の生活にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が3割を下回って他の年代より少なく、60歳以上では「家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を同じように両立させる」が4割を下回って他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）で見ると、30代・50代・70歳以上では「家庭生活又は地域・個人の生活にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が4割を超えて他の年代より多く、30代・70歳以上では「家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を同じように両立させる」が3割を下回って他の年代より少なくなっています。

【職業別の状況】

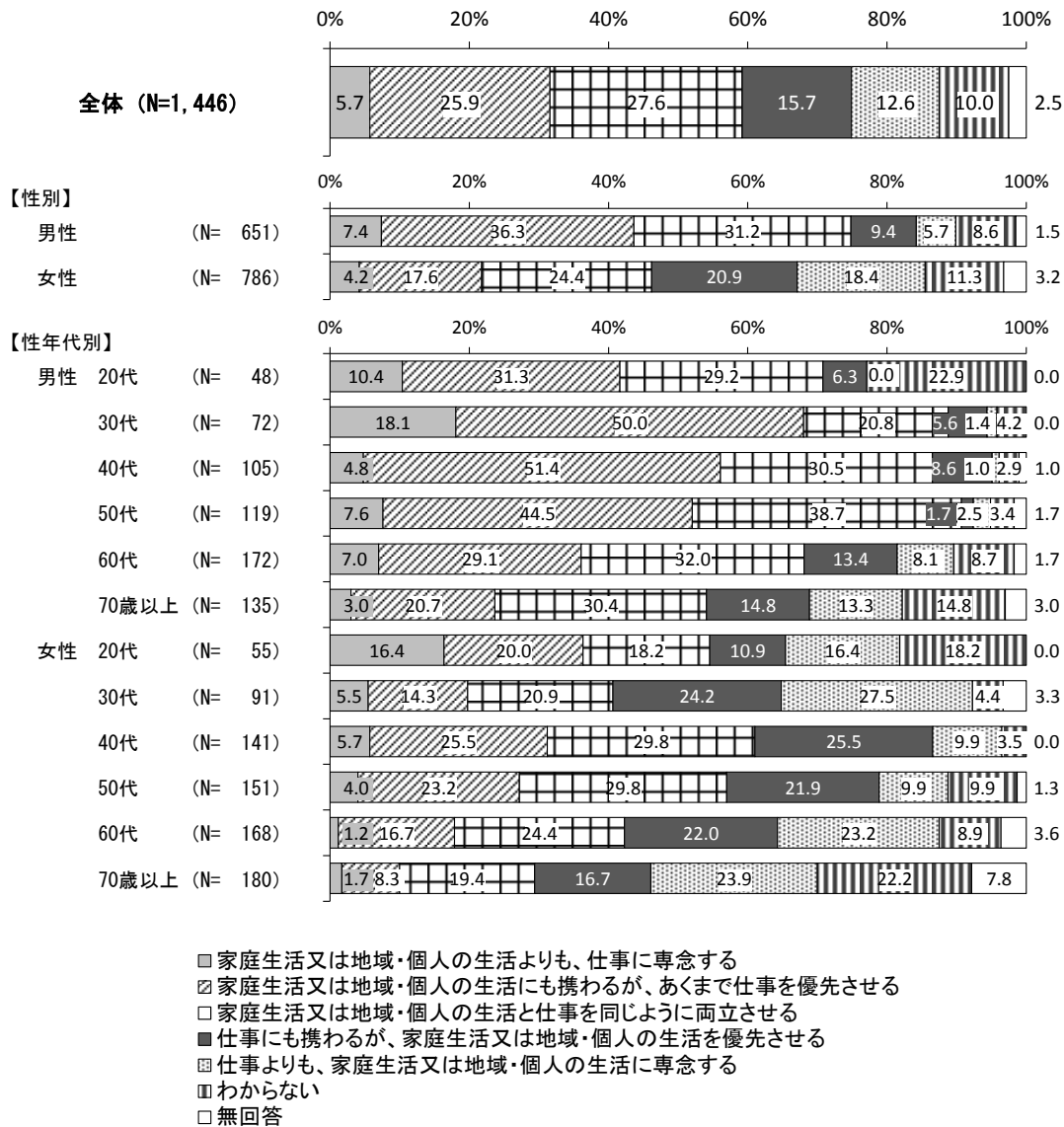


- 家庭生活又は地域・個人の生活よりも、仕事に専念する
- ▣ 家庭生活又は地域・個人の生活にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- 家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を同じように両立させる
- 仕事にも携わるが、家庭生活又は地域・個人の生活を優先させる
- ▣ 仕事よりも、家庭生活又は地域・個人の生活に専念する
- ▣ わからない
- 無回答

職業別で見ると、常勤（フルタイム）では「家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を同じように両立させる」が50.6%と他の職業より多くなっています。

(3) 現在の自身の状況

[全体・性別・性年代別の状況]



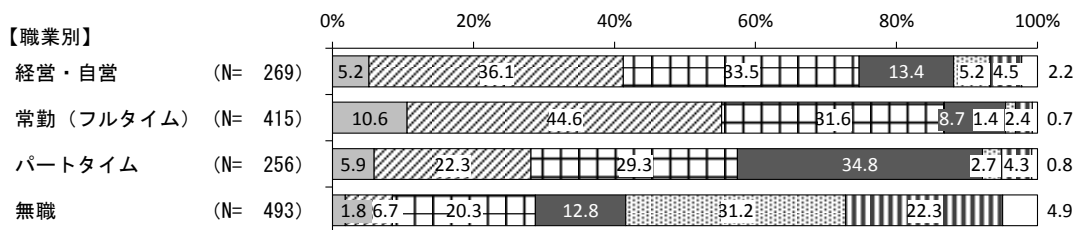
現在の自身の仕事と家庭生活又は地域・個人の生活の係わり方は、「家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を同じように両立させる」が27.6%と最も多く、次いで「家庭生活又は地域・個人の生活にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が25.9%、「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域・個人の生活を優先させる」が15.7%などとなっています。

性別でみると、男性では「家庭生活又は地域・個人の生活にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が36.3%と女性より多く、女性では「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域・個人の生活を優先させる」、「仕事よりも、家庭生活又は地域・個人の生活に専念する」が男性より多くなっています。

性年代別（男性）でみると、20代・30代では「家庭生活又は地域・個人の生活よりも、仕事に専念する」が1割を超えて他の年代より多く、「家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を同じように両立させる」が3割を下回って他の年代より少なくなっています。また、30代・40代では「家庭生活又は地域・個人の生活にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が半数を超えて他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）でみると、20代では「家庭生活又は地域・個人の生活よりも、仕事に専念する」が16.4%と他の年代より多く、40代・50代では「仕事よりも、家庭生活又は地域・個人の生活に専念する」が1割を下回って他の年代より少なくなっています。また、70歳以上では「家庭生活又は地域・個人の生活にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が8.3%と他の年代より少なくなっています。

【職業別の状況】

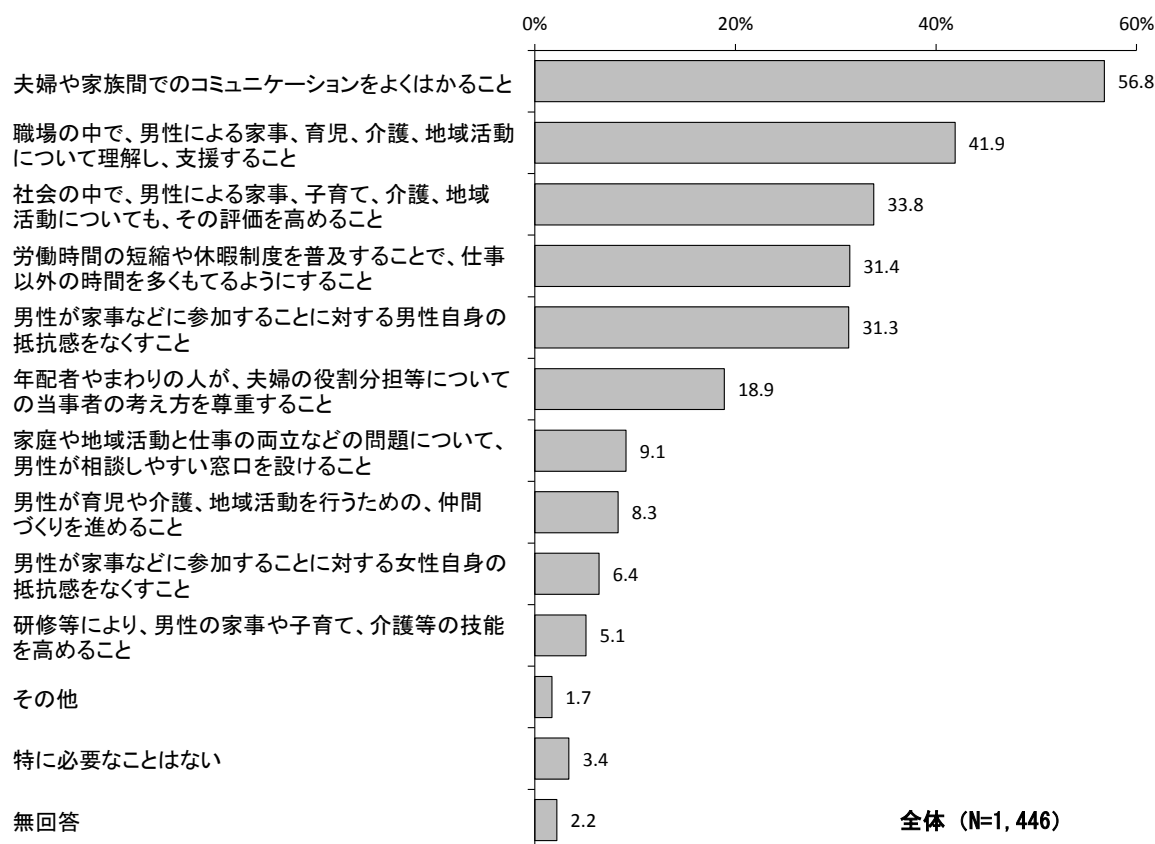


- 家庭生活又は地域・個人の生活よりも、仕事に専念する
- ▨ 家庭生活又は地域・個人の生活にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- 家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を同じように両立させる
- 仕事にも携わるが、家庭生活又は地域・個人の生活を優先させる
- ▨ 仕事よりも、家庭生活又は地域・個人の生活に専念する
- わからない
- 無回答

職業別で見ると、パートタイムでは「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域・個人の生活を優先させる」が34.8%と他の職業より多くなっています。また、無職では「家庭生活又は地域・個人の生活にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が6.7%と他の職業より少なく、「仕事よりも、家庭生活又は地域・個人の生活に専念する」が31.2%と他の職業より多くなっています。

問7 あなたは今後、男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動等への参加をするために必要なことは何だと思いますか。（回答は3つまで）

【全体の状況】



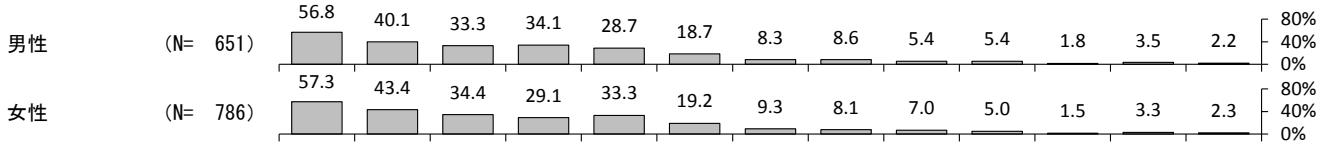
今後、男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動等への参加をするために必要なことは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が56.8%と最も多く、次いで「職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動について理解し、支援すること」が41.9%、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」が33.8%などとなっています。

性年代別（男性）で見ると、20代・30代では「労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多くもてるようにすること」が4割を超えて他の年代より多く、70歳以上では「職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動について理解し、支援すること」、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」が他の年代より少なくなっています。

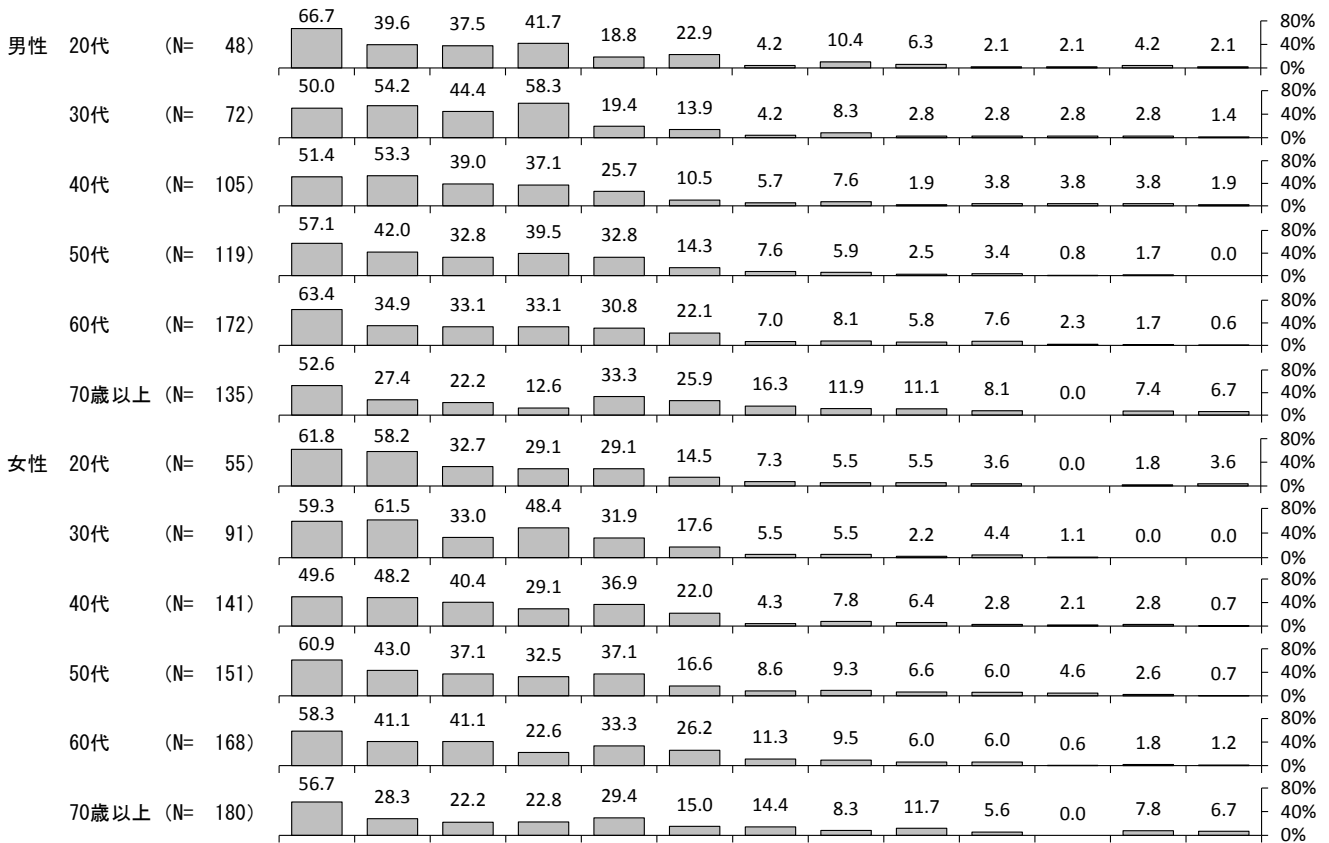
性年代別（女性）で見ると、20代・30代では「職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動について理解し、支援すること」が半数を超えて他の年代より多く、30代では「労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多くもてるようにすること」が48.4%と他の年代より多くなっています。また、70歳以上では「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」が22.2%と他の年代より少なくなっています。

【性別・性年代別の状況】

【性別】



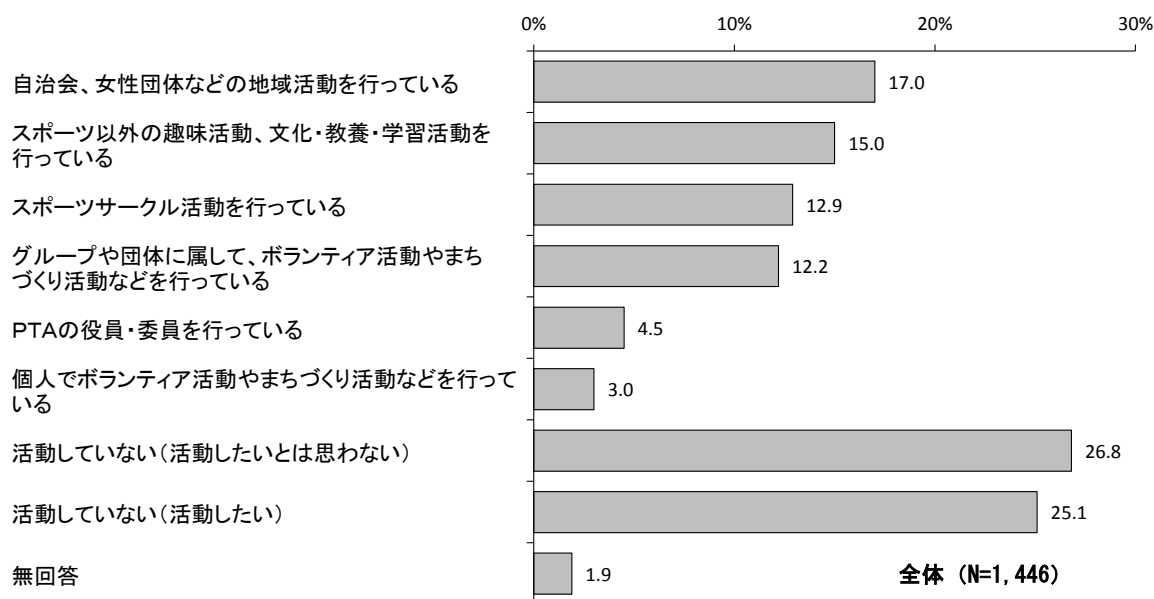
【性年代別】



夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
 職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動
 活動についても、男性による家事、子育て、介護、地域
 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域
 以外の時間を多くもてるようにすること
 労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事
 男性が家事などに参加することに対する男性自身の
 抵抗感をなくすこと
 男性が家事などの考え方を尊重すること
 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等について
 の当事者の考え方を尊重すること
 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、
 男性が相談しやすい窓口を設けること
 男性が育児や介護、地域活動を行うための、仲間
 づくりを進めること
 男性が家事などに参加することに対する女性自身の
 抵抗感をなくすこと
 研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能
 を高めること
 その他
 特に必要なことはない
 無回答

問8 あなたは現在、家庭の外で（仕事以外に）何か活動をしていますか。
（回答はいくつでも）

【全体の状況】



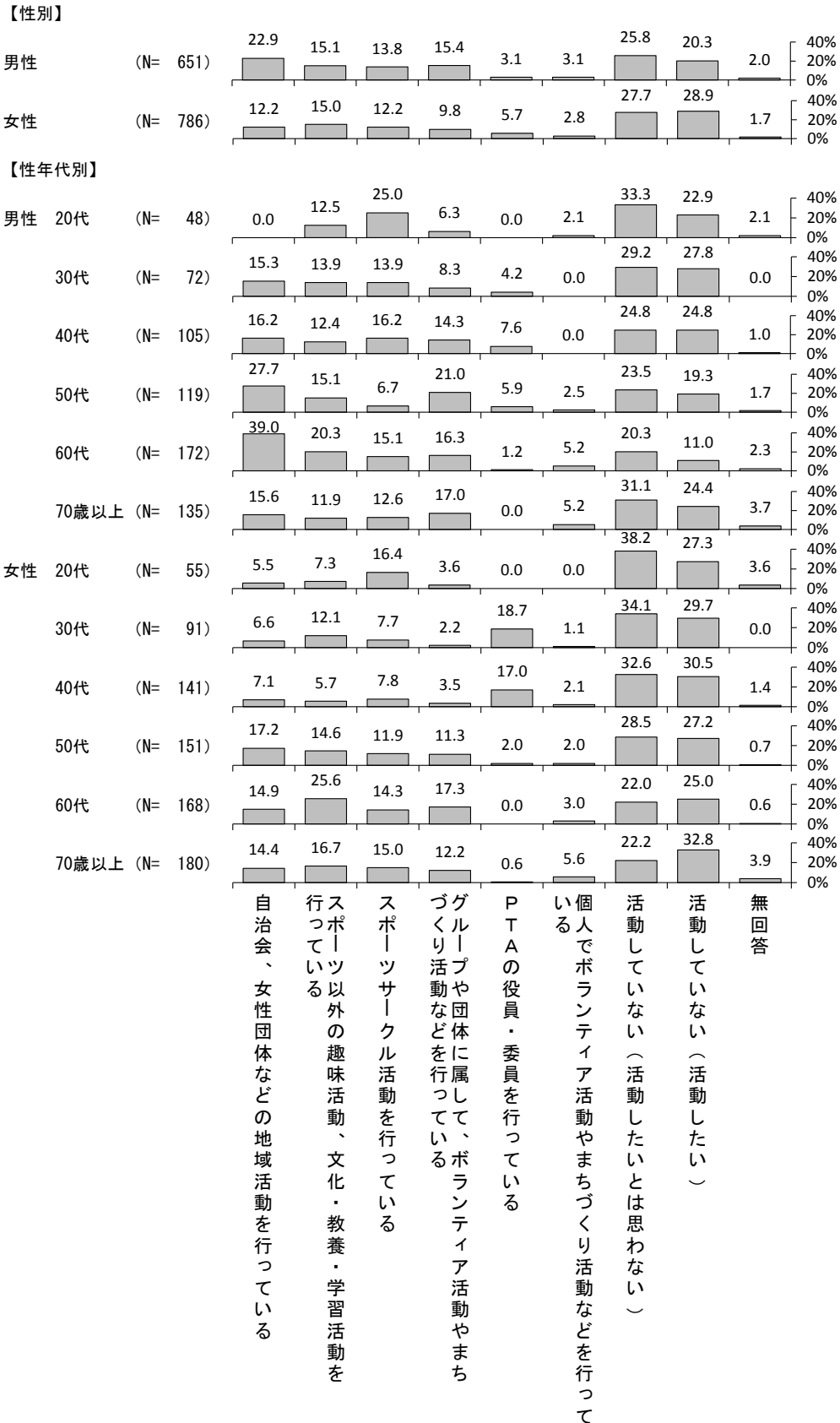
仕事以外に家庭の外で行っている活動は、「活動していない（活動したいとは思わない）」が26.8%と最も多く、次いで「活動していない（活動したい）」が25.1%、「自治会、女性団体などの地域活動を行っている」が17.0%などとなっています。

性別で見ると、男性では「自治会、女性団体などの地域活動を行っている」が22.9%と女性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、20代では「スポーツサークル活動を行っている」が25.0%と他の年代より多く、50代・60代では「活動していない（活動したい）」が2割を下回って他の年代より少なくなっています。また、60代では「自治会、女性団体などの地域活動を行っている」が39.0%と他の年代より多くなっています。

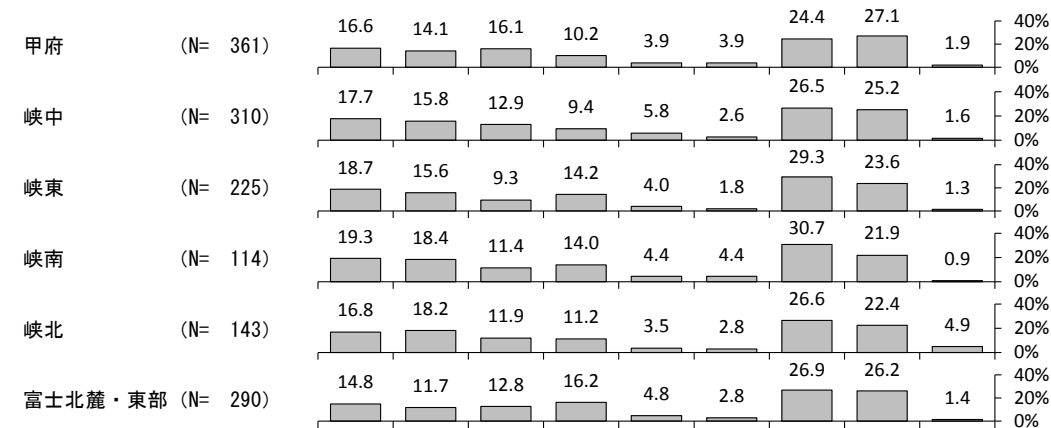
性年代別（女性）で見ると、年代が高くなるほど「活動していない（活動したいとは思わない）」が少なくなる傾向がみられます。また、30代・40代では「PTAの役員・委員を行っている」が1割を超えて他の年代より多く、60代では「スポーツ以外の趣味活動、文化・教養・学習活動を行っている」が25.6%と他の年代より多くなっています。

【性別・性年代別の状況】

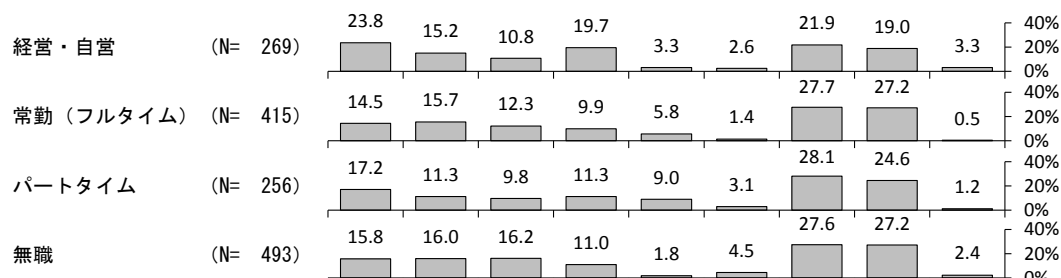


【居住地域別・職業別の状況】

【居住地域別】



【職業別】



自治会、女性団体などの地域活動を行っている

スポーツ以外の趣味活動、文化・教養・学習活動を行っている

スポーツサークル活動を行っている

グループや団体に属して、ボランティア活動やまちづくり活動などを行っている

P T A の役員・委員を行っている

個人でボランティア活動やまちづくり活動などを行っている

活動していない（活動したいとは思わない）

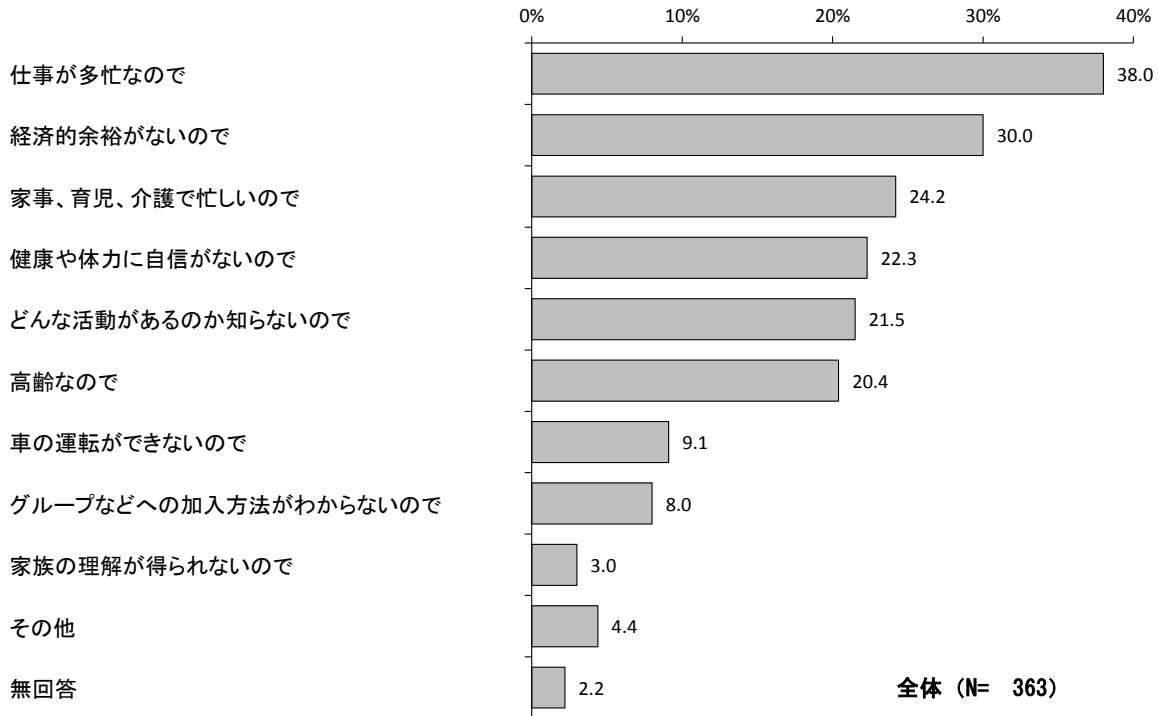
活動していない（活動したい）

無回答

問9 活動したいのに活動していない理由は何ですか。(回答は3つまで)

問8で「活動していない(活動したい)」と回答した方のみ

【全体の状況】



活動したいのに活動していない理由は、「仕事が多忙なので」が38.0%と最も多く、次いで「経済的余裕がないので」が30.0%、「家事、育児、介護で忙しいので」が24.2%などとなっています。

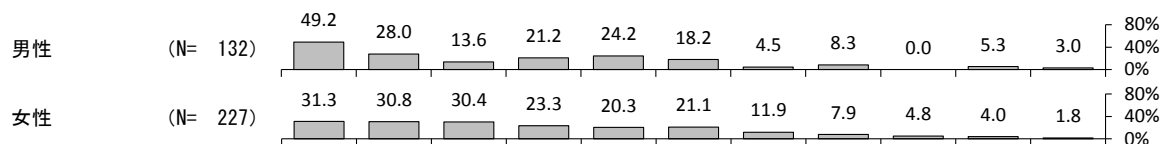
性別で見ると、男性では「仕事が多忙なので」が49.2%と女性より多く、女性では「家事、育児、介護で忙しいので」が30.4%と男性より多くなっています。

性年代別(男性)で見ると、40代では「家事、育児、介護で忙しいので」が34.6%と他の年代より多くなっています。また、70歳以上では「高齢なので」が63.6%と他の年代より多くなっています。

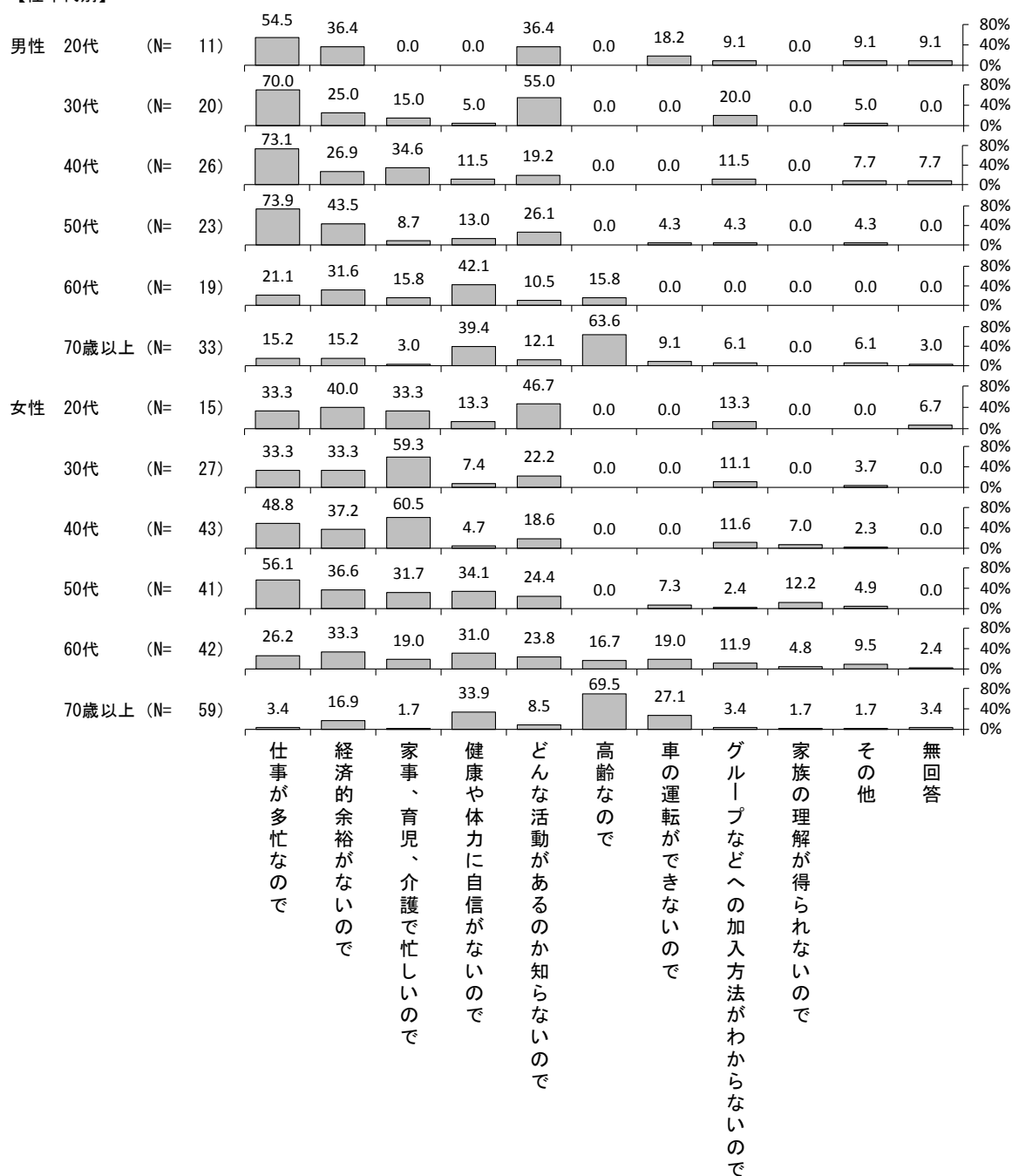
性年代別(女性)で見ると、30代・40代では「家事、育児、介護で忙しいので」が半数を超えて他の年代より多くなっています。また、70歳以上では「高齢なので」が69.5%と他の年代より多くなっています。

【性別・性年代別の状況】

【性別】



【性年代別】

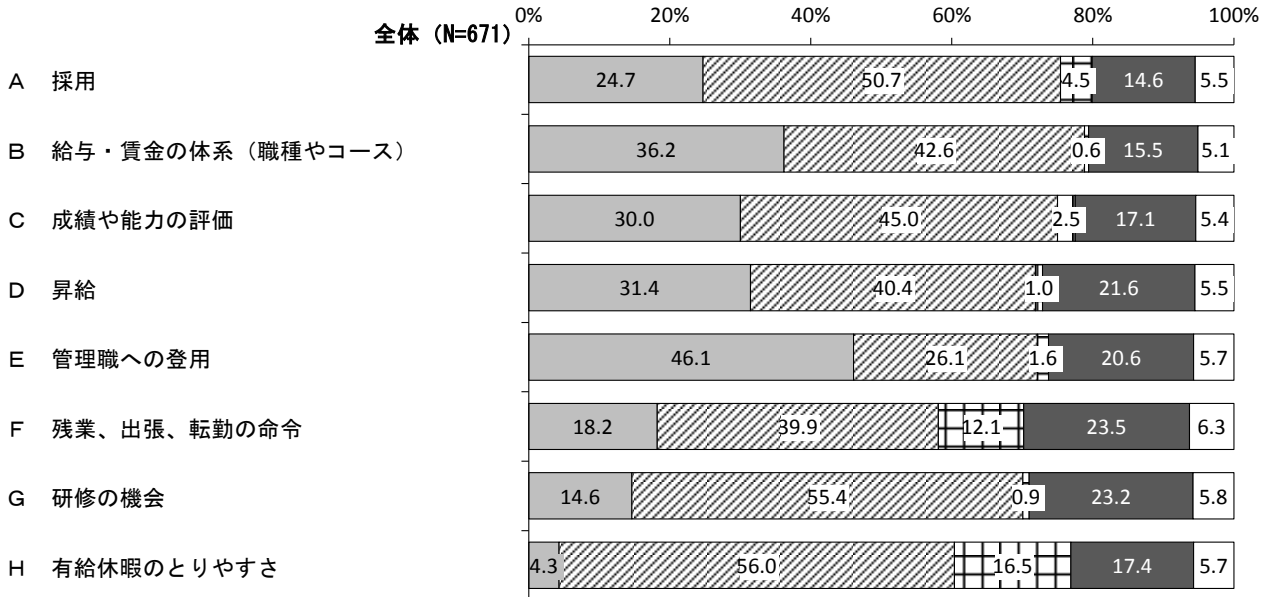


◆ 女性の活躍推進について ◆

問 10 あなたは現在の自分の職場において、次のAからHについてどのように感じていますか。

F 4で「雇用者《常勤》」、「雇用者《パートタイム》」と回答した方のみ

【全体の状況】

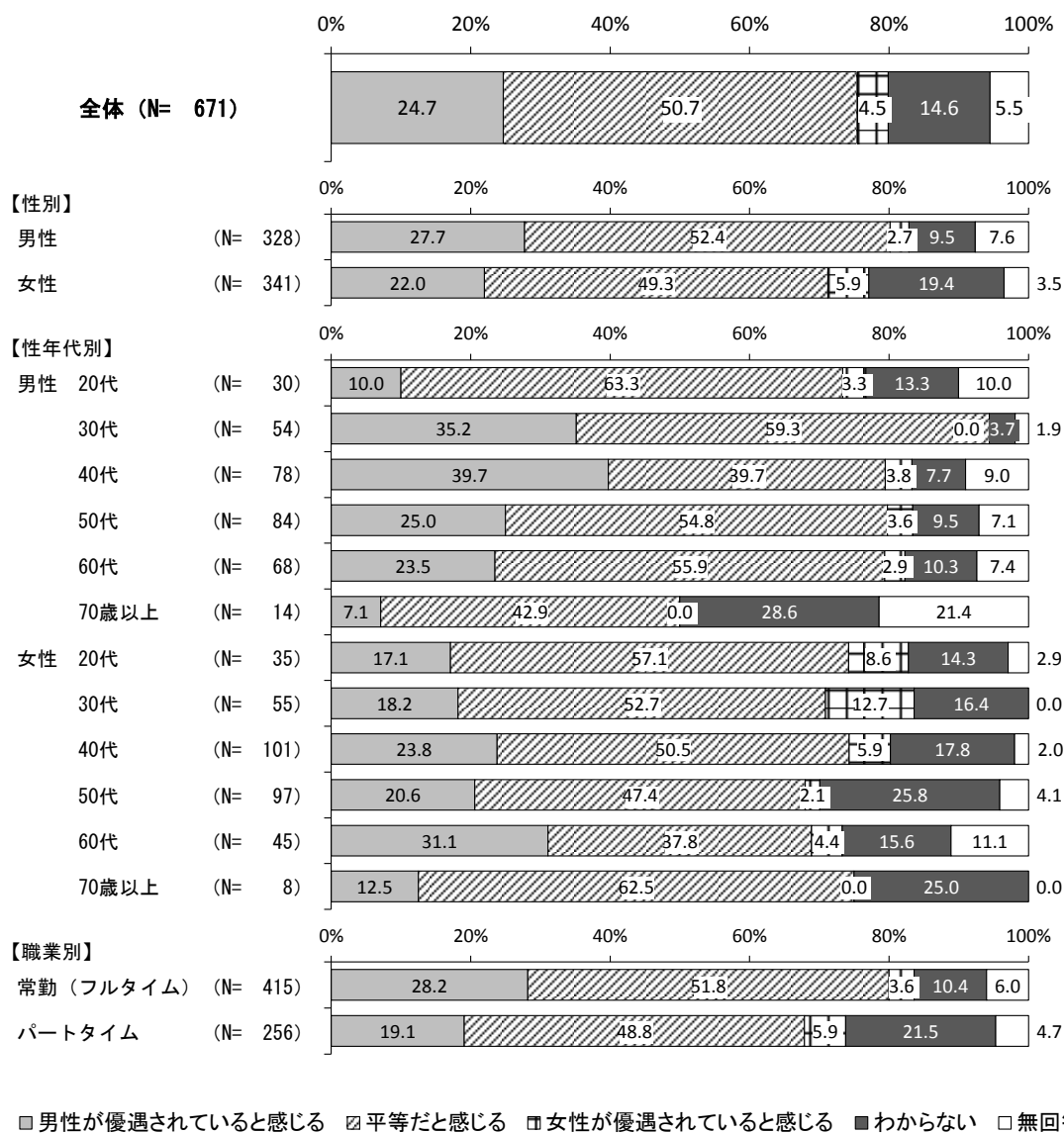


□男性が優遇されていると感じる ▨平等だと感じる □女性が優遇されていると感じる ■わからない □無回答

職場における男女の地位は、【A 採用】、【G 研修の機会】、【H 有給休暇のとりやすさ】では「平等だと感じる」が半数を超えています。また、【E 管理職への登用】では「男性が優遇されていると感じる」が46.1%と唯一4割を超えています。

【A 採用】

【全体・性別・性年代別・職業別の状況】



A 採用における男女の地位は、「平等だと感じる」が50.7%と最も多く、次いで「男性が優遇されていると感じる」が24.7%などとなっています。

性別で見ると、「男性が優遇されていると感じる」が男性では27.7%と女性より多くなっています。

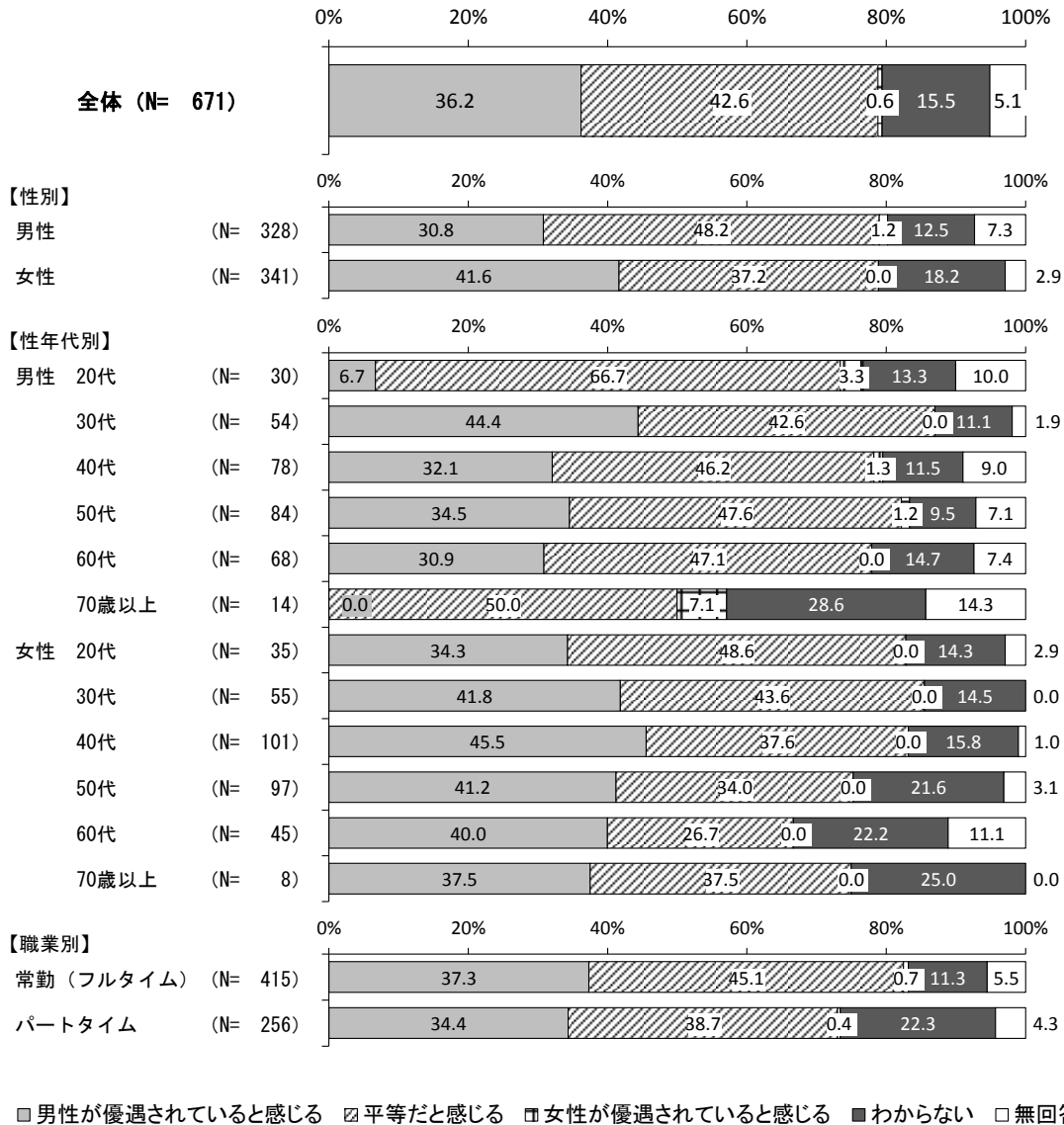
性年代別（男性）で見ると、20代では「男性が優遇されていると感じる」が10.0%と他の年代より少なく、40代では「平等だと感じる」が39.7%と他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）で見ると、年代が高くなるほど「平等だと感じる」が少なくなる傾向がみられます。また、20代・30代では「男性が優遇されていると感じる」が2割を下回って他の年代より少なく、30代では「女性が優遇されていると感じる」が12.7%と他の年代より多くなっています。

職業別で見るとは、常勤（フルタイム）では「男性が優遇されていると感じる」が28.2%とパートタイムより多くなっています。

【B 給与・賃金の体系（職種やコース）】

【全体・性別・性年代別・職業別の状況】



B 給与・賃金の体系（職種やコース）における男女の地位は、「平等だと感じる」が42.6%と最も多く、次いで「男性が優遇されていると感じる」が36.2%などとなっています。

性別で見ると、男性では「平等だと感じる」が48.2%と女性より多く、女性では「男性が優遇されていると感じる」が41.6%と男性より多くなっています。

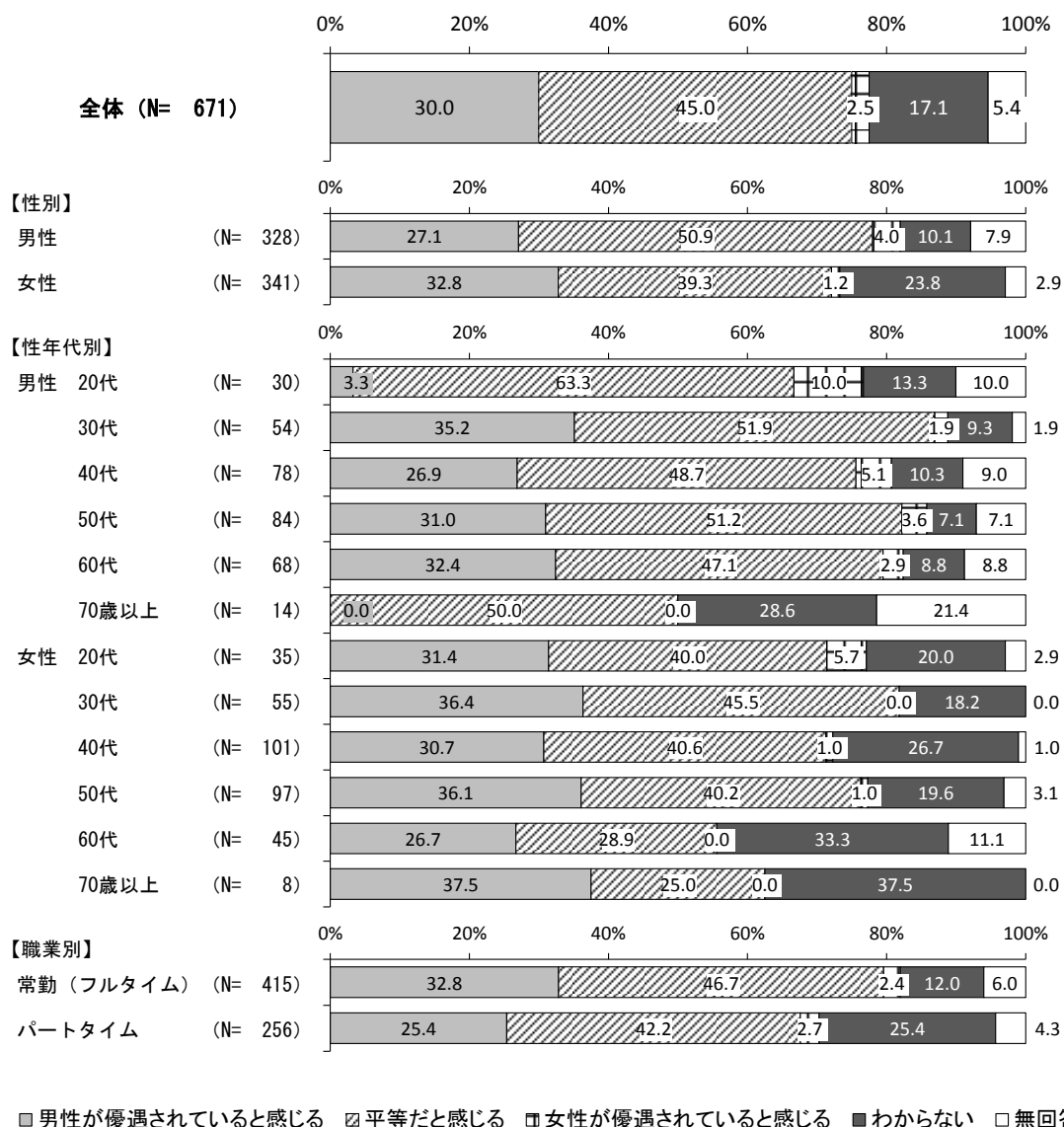
性年代別（男性）で見ると、20代では「男性が優遇されていると感じる」が6.7%と他の年代より少なく、「平等だと感じる」が66.7%と他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、年代が高くなるほど「平等だと感じる」が少なくなる傾向がみられます。また、20代では「男性が優遇されていると感じる」が34.3%と他の年代より少なくなっています。

職業別で見ると、常勤（フルタイム）では「平等だと感じる」が45.1%とパートタイムより多くなっています。

【C 成績や能力の評価】

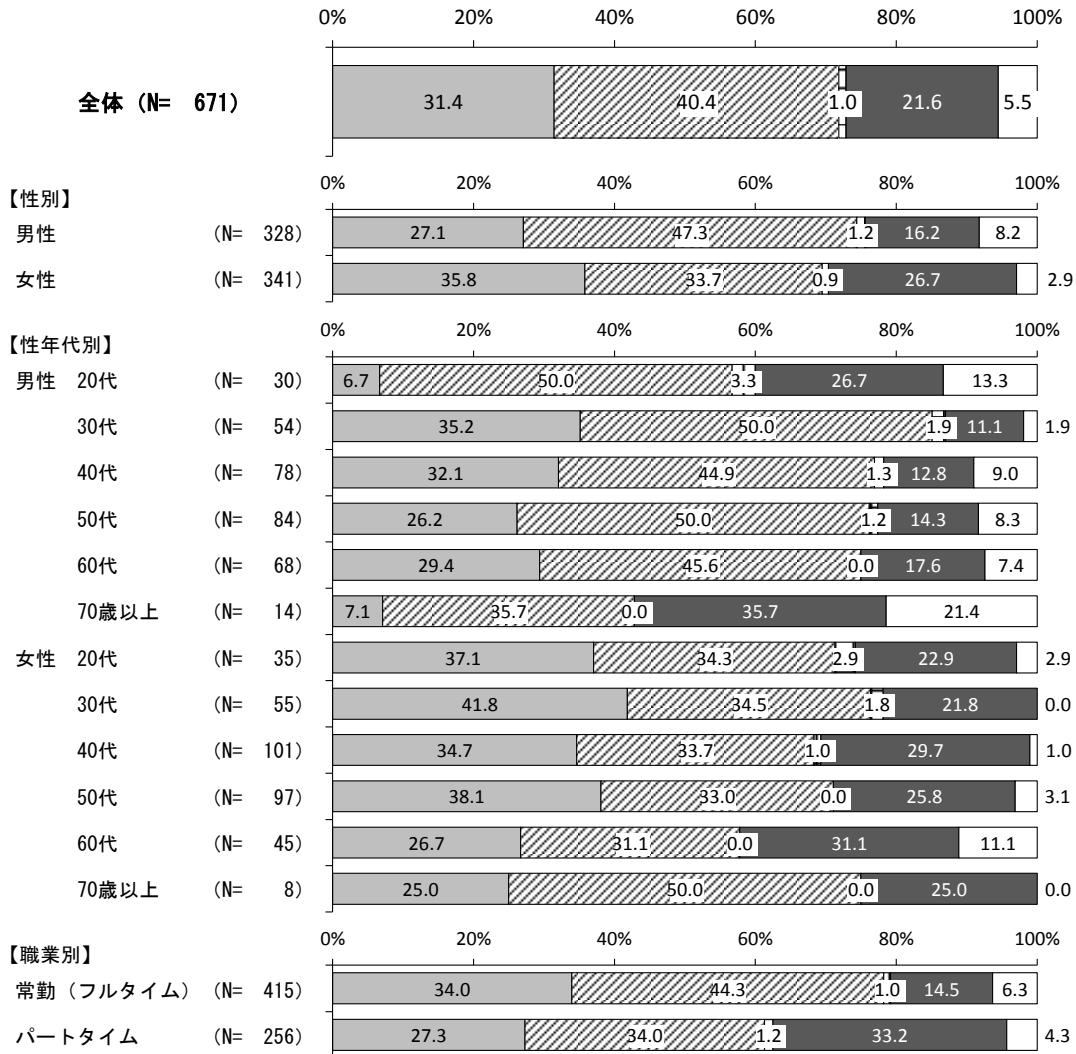
【全体・性別・性年代別・職業別の状況】



C 成績や能力の評価における男女の地位は、「平等だと感じる」が45.0%と最も多く、次いで「男性が優遇されていると感じる」が30.0%などとなっています。
 性別で見ると、男性では「平等だと感じる」が50.9%と女性より多くなっています。
 性年代別（男性）で見ると、年代が高くなるほど「平等だと感じる」が少なくなる傾向がみられます。また、20代では「男性が優遇されていると感じる」が3.3%と他の年代より少なくなっています。
 性年代別（女性）で見ると、60代では「平等だと感じる」が28.9%と他の年代より少なくなっています。
 職業別で見ると、常勤（フルタイム）では「男性が優遇されていると感じる」が32.8%とパートタイムより多くなっています。

【D 昇給】

【全体・性別・性年代別・職業別の状況】

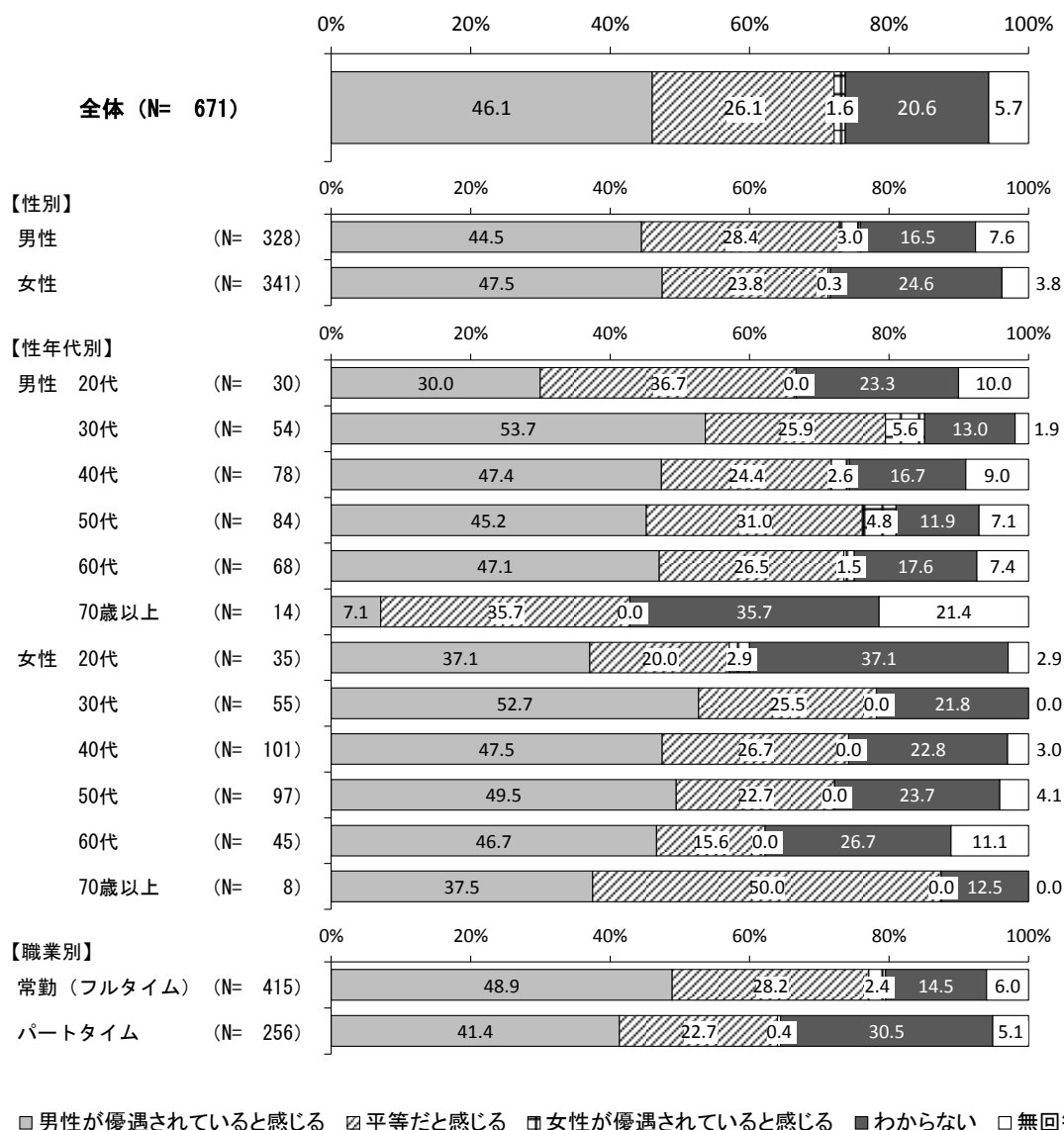


□男性が優遇されていると感じる ▨平等だと感じる ▩女性が優遇されていると感じる ■わからない □無回答

D 昇給における男女の地位は、「平等だと感じる」が40.4%と最も多く、次いで「男性が優遇されていると感じる」が31.4%などとなっています。
 性別で見ると、男性では「平等だと感じる」が47.3%と女性より多くなっています。
 性年代別（男性）で見ると、20代では「男性が優遇されていると感じる」が6.7%と他の年代より少なくなっています。
 性年代別（女性）で見ると、30代では「男性が優遇されていると感じる」が41.8%と他の年代より多くなっています。
 職業別で見ると、常勤（フルタイム）では「平等だと感じる」が44.3%とパートタイムより多くなっています。

【E 管理職への登用】

【全体・性別・性年代別・職業別の状況】



E 管理職への登用における男女の地位は、「男性が優遇されていると感じる」が46.1%と最も多く、次いで「平等だと感じる」が26.1%などとなっています。

性別で見ると、「平等だと感じる」が男性では28.4%と女性より多くなっています。

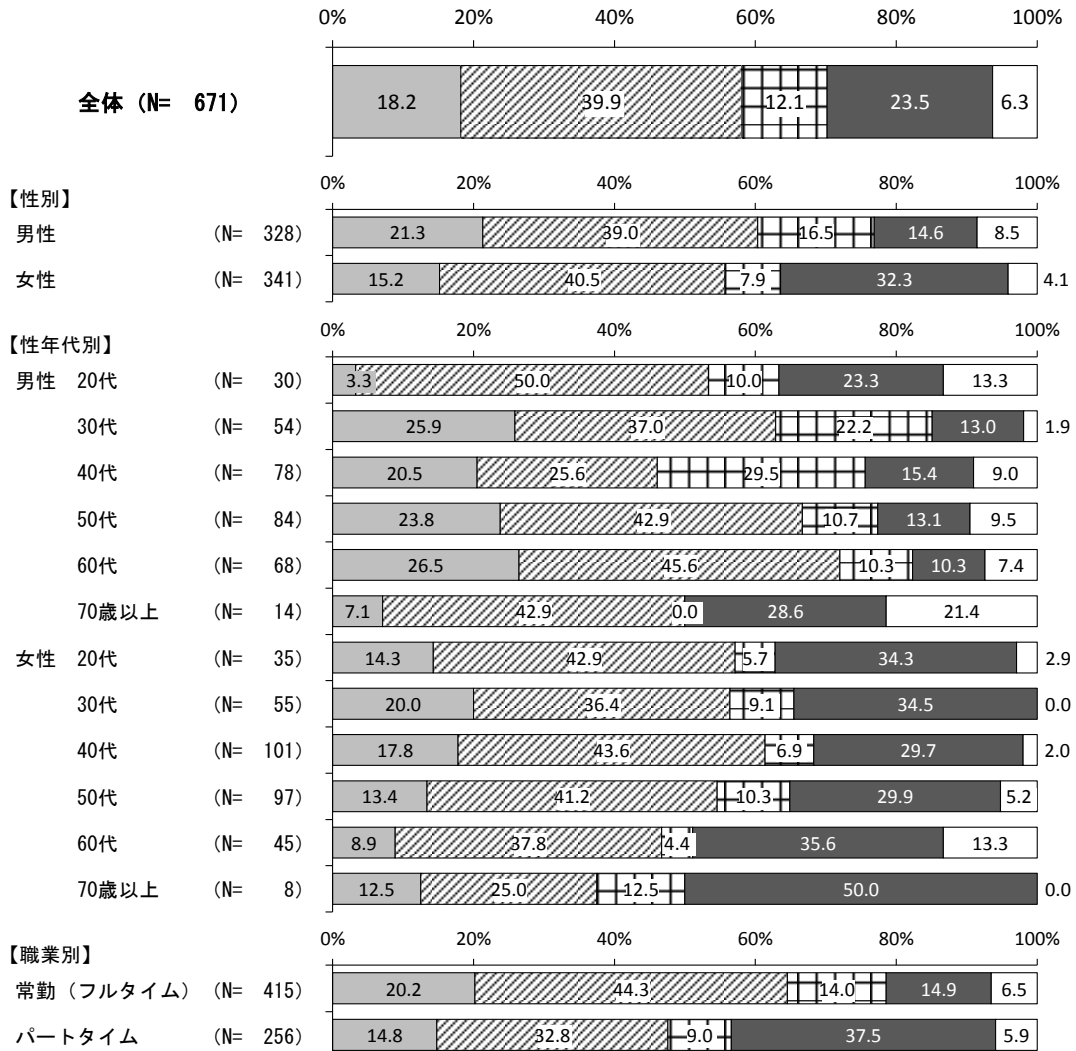
性年代別（男性）で見ると、20代では「男性が優遇されていると感じる」が30.0%と他の年代より少なく、20代・50代では「平等だと感じる」が3割を超えて他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、20代では「男性が優遇されていると感じる」が37.1%と他の年代より少なく、60代では「平等だと感じる」が15.6%と他の年代より少なくなっています。

職業別で見ると、常勤（フルタイム）では「男性が優遇されていると感じる」、「平等だと感じる」がパートタイムより多くなっています。

【F 残業、出張、転勤の命令】

【全体・性別・性年代別・職業別の状況】

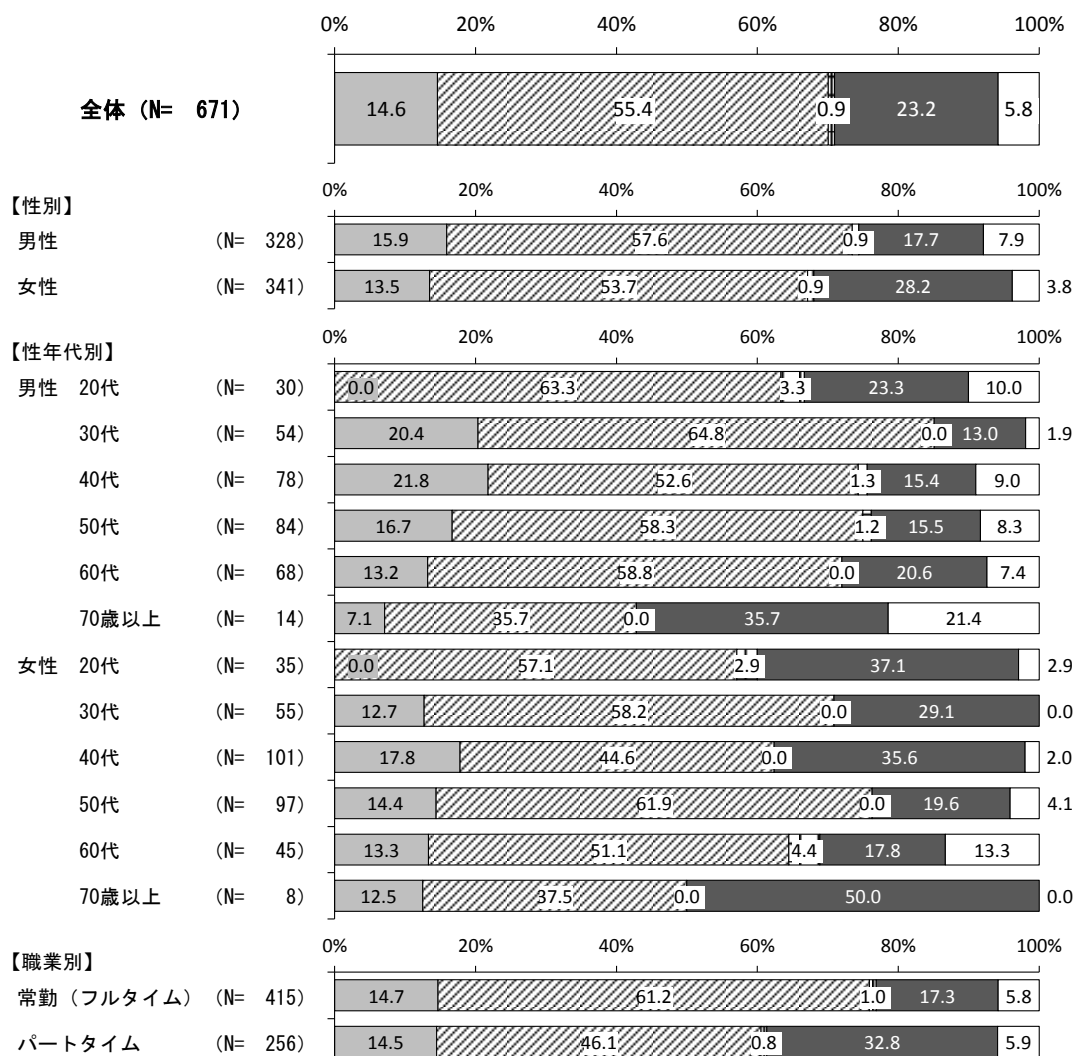


□男性が優遇されていると感じる ▨平等だと感じる ▤女性が優遇されていると感じる ■わからない □無回答

F 残業、出張、転勤の命令における男女の地位は、「平等だと感じる」が39.9%と最も多くなっています。
 性別でみると、「男性が優遇されていると感じる」、「女性が優遇されていると感じる」で男性が女性より多くなっています。
 性年代別（男性）でみると、20代では「男性が優遇されていると感じる」が3.3%と他の年代より少なく、30代・40代では「女性が優遇されていると感じる」が2割を超えて他の年代より多くなっています。また、40代では「平等だと感じる」が25.6%と他の年代より少なくなっています。
 性年代別（女性）でみると、60代では「男性が優遇されていると感じる」が8.9%と他の年代より少なくなっています。
 職業別でみると、常勤（フルタイム）では「平等だと感じる」が44.3%とパートタイムより多くなっています。

【G 研修の機会】

【全体・性別・性年代別・職業別の状況】

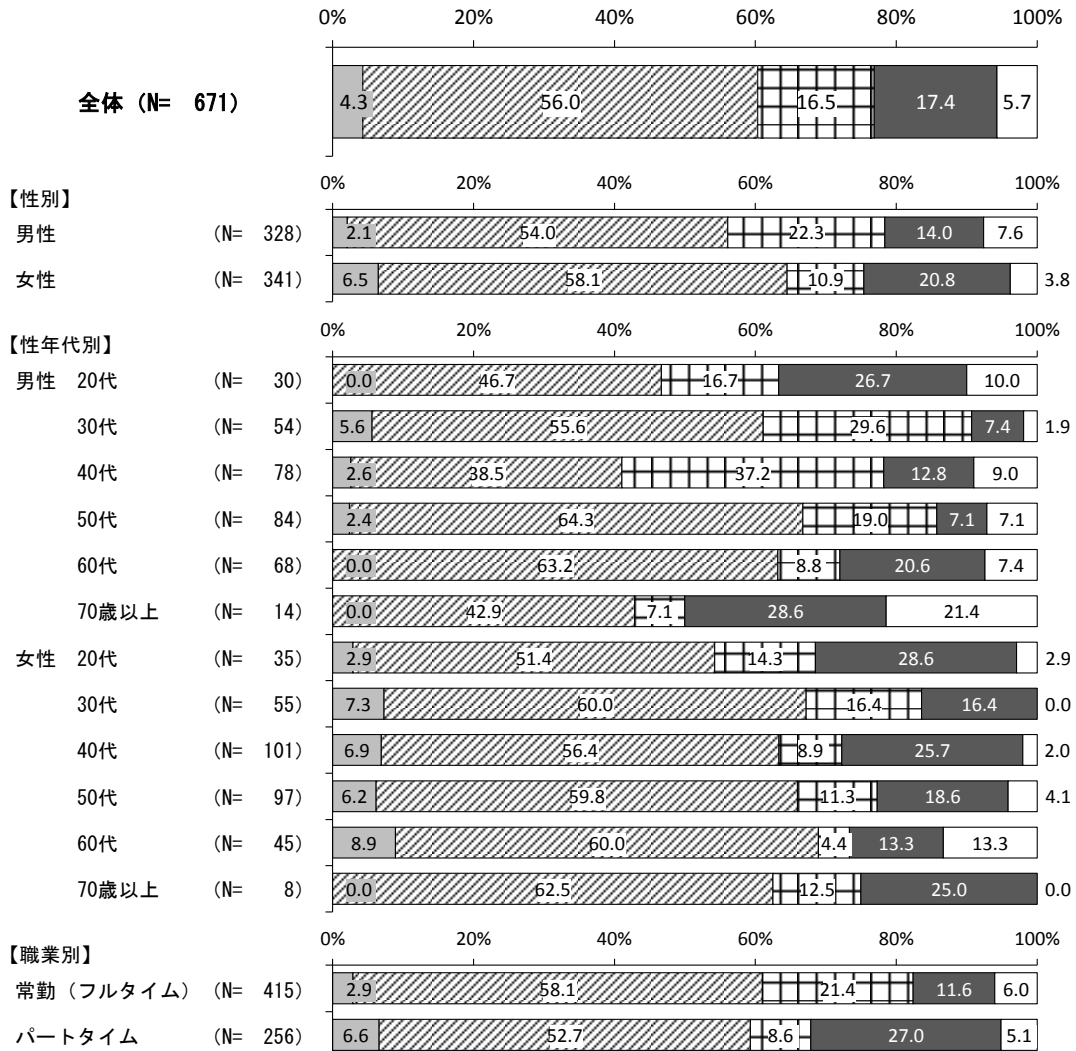


□男性が優遇されていると感じる ▨平等だと感じる ▩女性が優遇されていると感じる ■わからない □無回答

G 研修の機会における男女の地位は、「平等だと感じる」が55.4%と最も多くなっています。
 性年代別（男性）で見ると、20代では「男性が優遇されていると感じる」が0.0%と他の年代より少なく、20代・30代では「平等だと感じる」が6割を超えて他の年代より多くなっています。
 性年代別（女性）で見ると、20代では「男性が優遇されていると感じる」が0.0%と他の年代より少なく、40代では「平等だと感じる」が44.6%と他の年代より少なくなっています。
 職業別で見ると、常勤（フルタイム）では「平等だと感じる」が61.2%とパートタイムより多くなっています。

【H 有給休暇のとりやすさ】

【全体・性別・性年代別・職業別の状況】

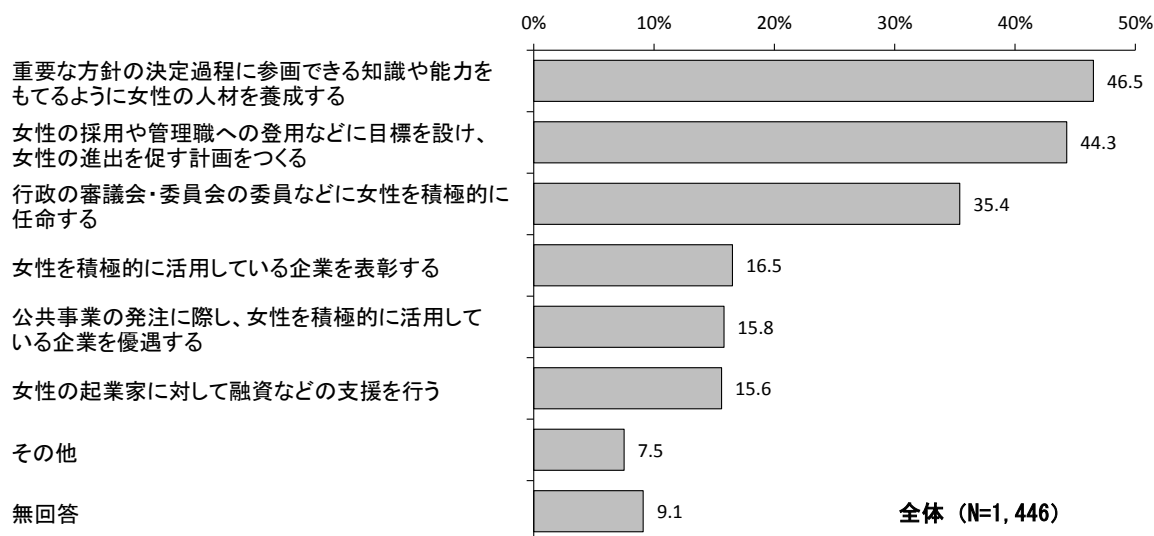


□男性が優遇されていると感じる ▨平等だと感じる ▤女性が優遇されていると感じる ■わからない □無回答

H 有給休暇のとりやすさにおける男女の地位は、「平等だと感じる」が56.0%と最も多くなっています。
 性別でみると、男性では「女性が優遇されていると感じる」が22.3%と女性より多くなっています。
 性年代別（男性）でみると、20代・40代では「平等だと感じる」が半数を下回って他の年代より少なく、30代・40代では「女性が優遇されていると感じる」が2割を超えて他の年代より多くなっています。
 性年代別（女性）でみると、40代・60代では「女性が優遇されていると感じる」が1割を下回って他の年代より少なくなっています。
 職業別でみると、常勤（フルタイム）では「女性が優遇されていると感じる」が21.4%とパートタイムより多くなっています。

問 11 行政や企業はどんな方法で女性の活躍を促進するのがよいと思いますか。
(回答はいくつでも)

【全体の状況】



行政や企業が女性の活躍を促進するために行った方がよい方法は、「重要な方針の決定過程に参画できる知識や能力をもてるように女性の人材を養成する」が46.5%と最も多く、次いで「女性の採用や管理職への登用などに目標を設け、女性の進出を促す計画をつくる」が44.3%、「行政の審議会・委員会の委員などに女性を積極的に任命する」が35.4%などとなっています。

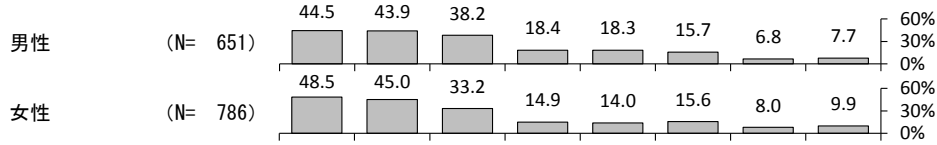
性別で見ると、男性では「行政の審議会・委員会の委員などに女性を積極的に任命する」が38.2%と女性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、年代が高くなるほど「行政の審議会・委員会の委員などに女性を積極的に任命する」が多くなる傾向がみられます。また、20代では「公共事業の発注に際し、女性を積極的に活用している企業を優遇する」が6.3%と他の年代より少なく、20代・40代では「女性の採用や管理職への登用などに目標を設け、女性の進出を促す計画をつくる」が4割を下回って他の年代より少なくなっています。

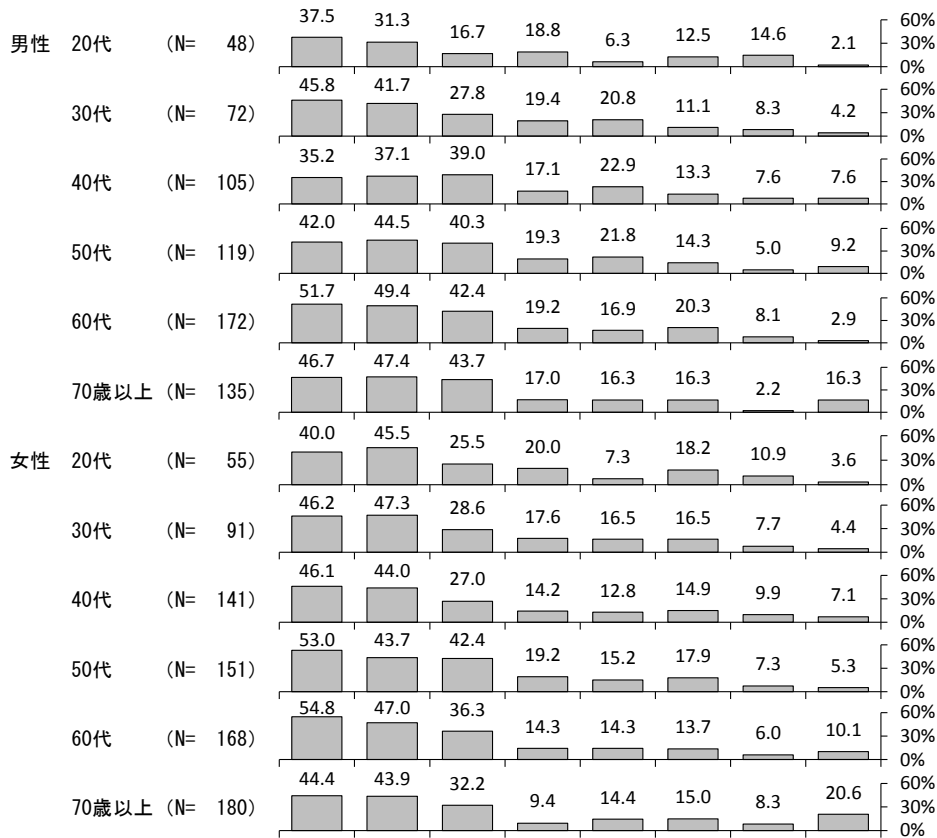
性年代別（女性）で見ると、50代では「行政の審議会・委員会の委員などに女性を積極的に任命する」が42.4%と他の年代より多く、50代・60代では「重要な方針の決定過程に参画できる知識や能力をもてるように女性の人材を養成する」が半数を超えて他の年代より多くなっています。また、70歳以上では「女性を積極的に活用している企業を表彰する」が9.4%と他の年代より少なくなっています。

【性別・性年代別の状況】

【性別】



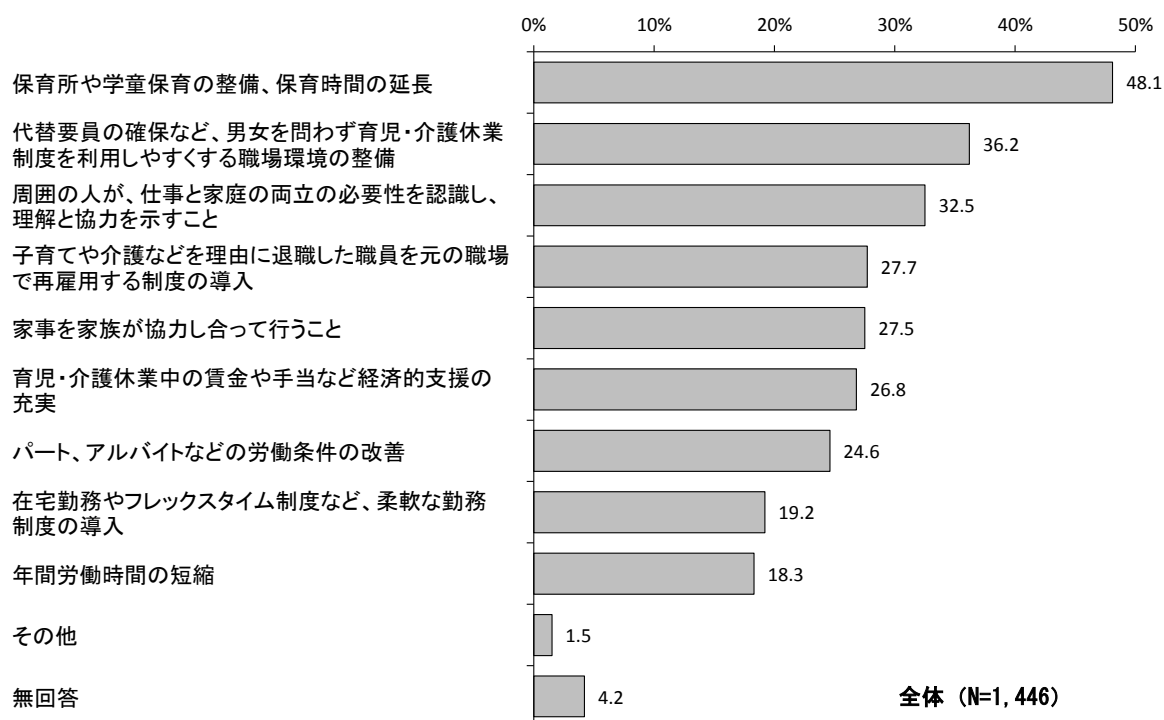
【性年代別】



も重要な方針に女性の決定過程に参画できる知識や能力を
 女性の採用や管理職への登用などに目標を設け、
 行政の審議会・委員会の委員などに女性を積極的に
 女性を積極的に活用している企業を表彰する
 公共事業の発注に際し、女性を積極的に活用して
 女性の起業家に対して融資などの支援を行う
 その他
 無回答

問 12 男女が共に、家庭生活と、仕事など他の活動を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。（回答は3つまで）

【全体の状況】



男女が共に、家庭生活と、仕事など他の活動を両立していくために必要な環境整備は、「保育所や学童保育の整備、保育時間の延長」が48.1%と最も多く、次いで「代替要員の確保など、男女を問わず育児・介護休業制度を利用しやすくする職場環境の整備」が36.2%、「周囲の人が、仕事と家庭の両立の必要性を認識し、理解と協力を示すこと」が32.5%などとなっています。

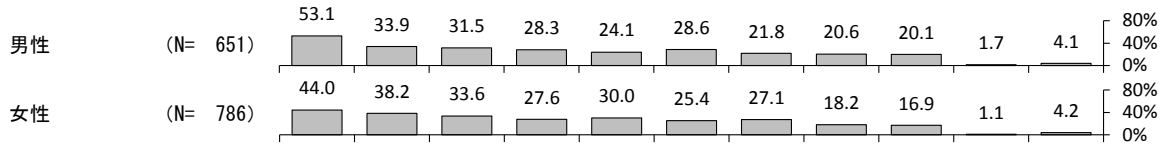
性別で見ると、男性では「保育所や学童保育の整備、保育時間の延長」が53.1%と女性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、30代では「年間労働時間の短縮」が38.9%と他の年代より多く、30代・50代では「保育所や学童保育の整備、保育時間の延長」が6割を超えて他の年代より多くなっています。また、50代では「育児・介護休業中の賃金や手当など経済的支援の充実」が14.3%と他の年代より少なくなっています。

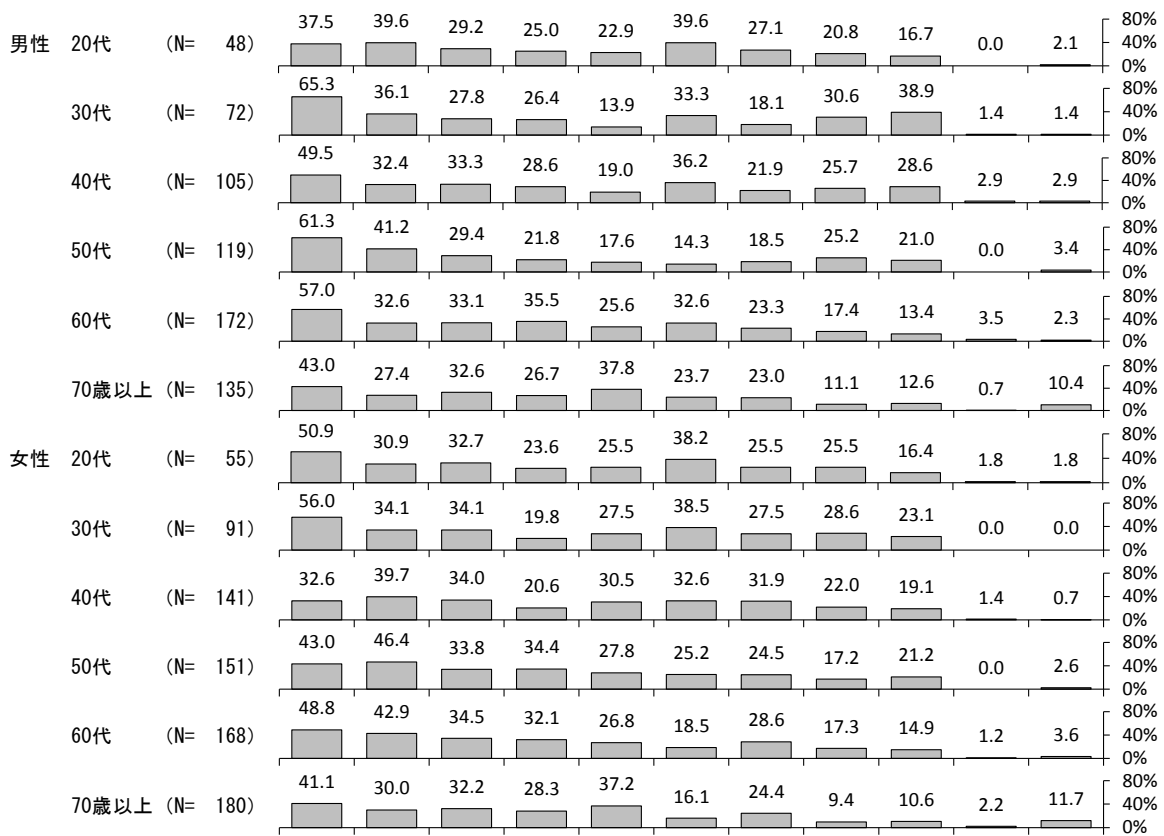
性年代別（女性）で見ると、年代が高くなるほど「育児・介護休業中の賃金や手当など経済的支援の充実」が少なくなる傾向がみられます。また、40代では「保育所や学童保育の整備、保育時間の延長」が32.6%と他の年代より少なく、70歳以上では「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度の導入」が9.4%と他の年代より少なくなっています。

【性別・性年代別の状況】

【性別】



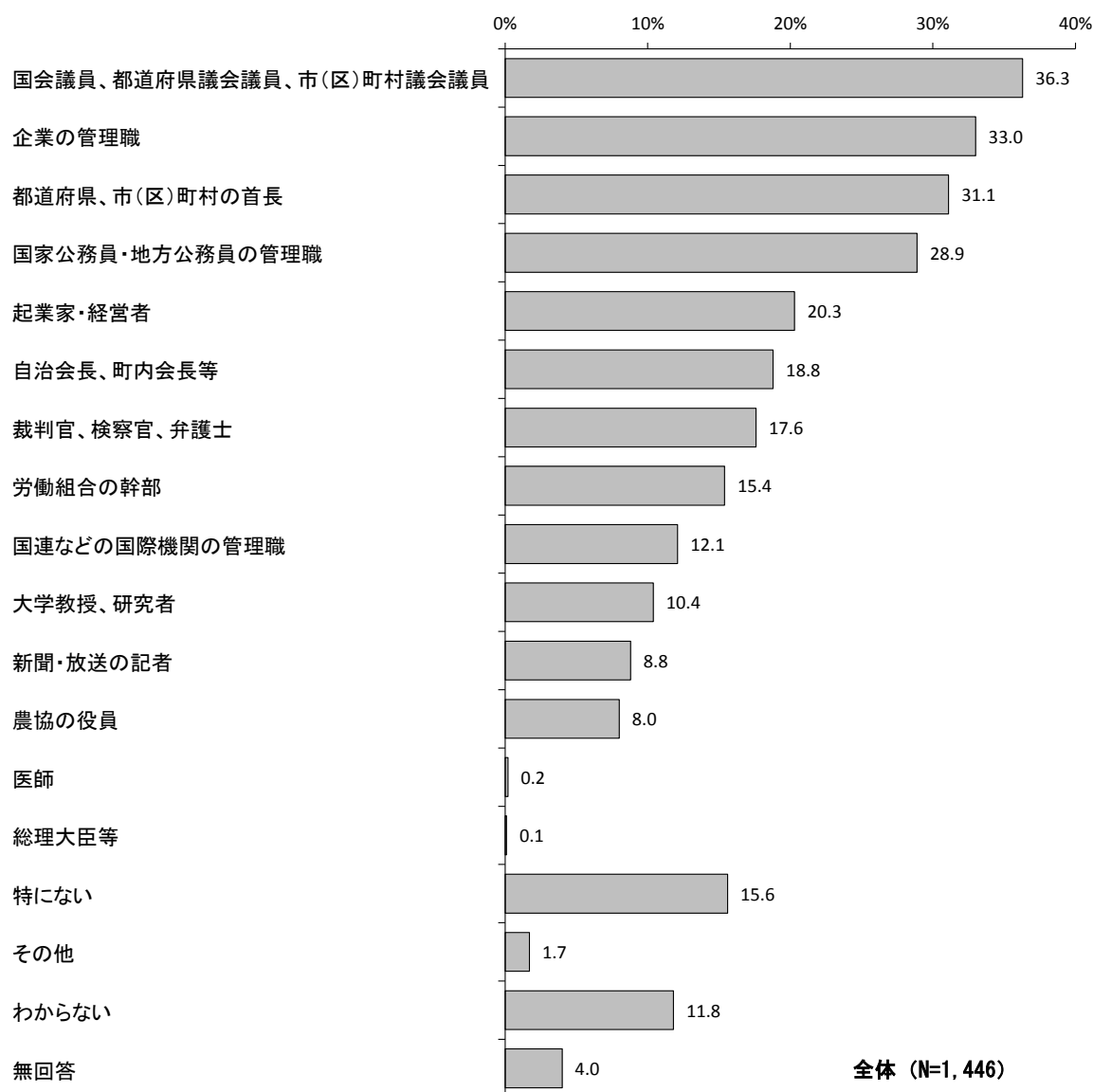
【性年代別】



保育所や学童保育の整備、保育時間の延長
 代替要員の確保など、男女を問わず育児・介護休業制度を利用しやすくする職場環境の整備
 周囲の人が、仕事と家庭の両立の必要性を認識し、理解と協力を示すこと
 子育てや介護などを理由に退職した職員を元の職場で再雇用する制度の導入
 家事を家族が協力し合って行うこと
 育児・介護休業中の賃金や手当など経済的支援の充実
 パート、アルバイトなどの労働条件の改善
 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度の導入
 年間労働時間の短縮
 その他
 無回答

問 13 あなたが、次にあげるような職業や役職において今後女性がもっと増える方がよいと思うのはどれですか。（回答はいくつでも）

【全体の状況】



※「医師」、「総理大臣等」は、その他の内容（自由記述）に多かったため、追加した選択肢です。

今後女性がもっと増える方がよい職業や役職は、「国会議員、都道府県議会議員、市(区)町村議会議員」が36.3%と最も多く、次いで「企業の管理職」が33.0%、「都道府県、市(区)町村の首長」が31.1%などとなっています。

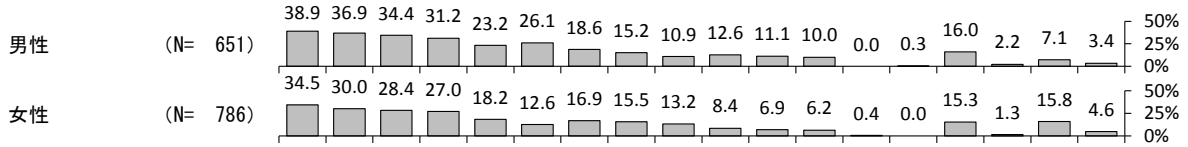
性別で見ると、男性では「自治会長、町内会長等」が26.1%と女性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、20代では「国会議員、都道府県議会議員、市(区)町村議会議員」、「都道府県、市(区)町村の首長」、「企業の管理職」が他の年代より少なくなっています。

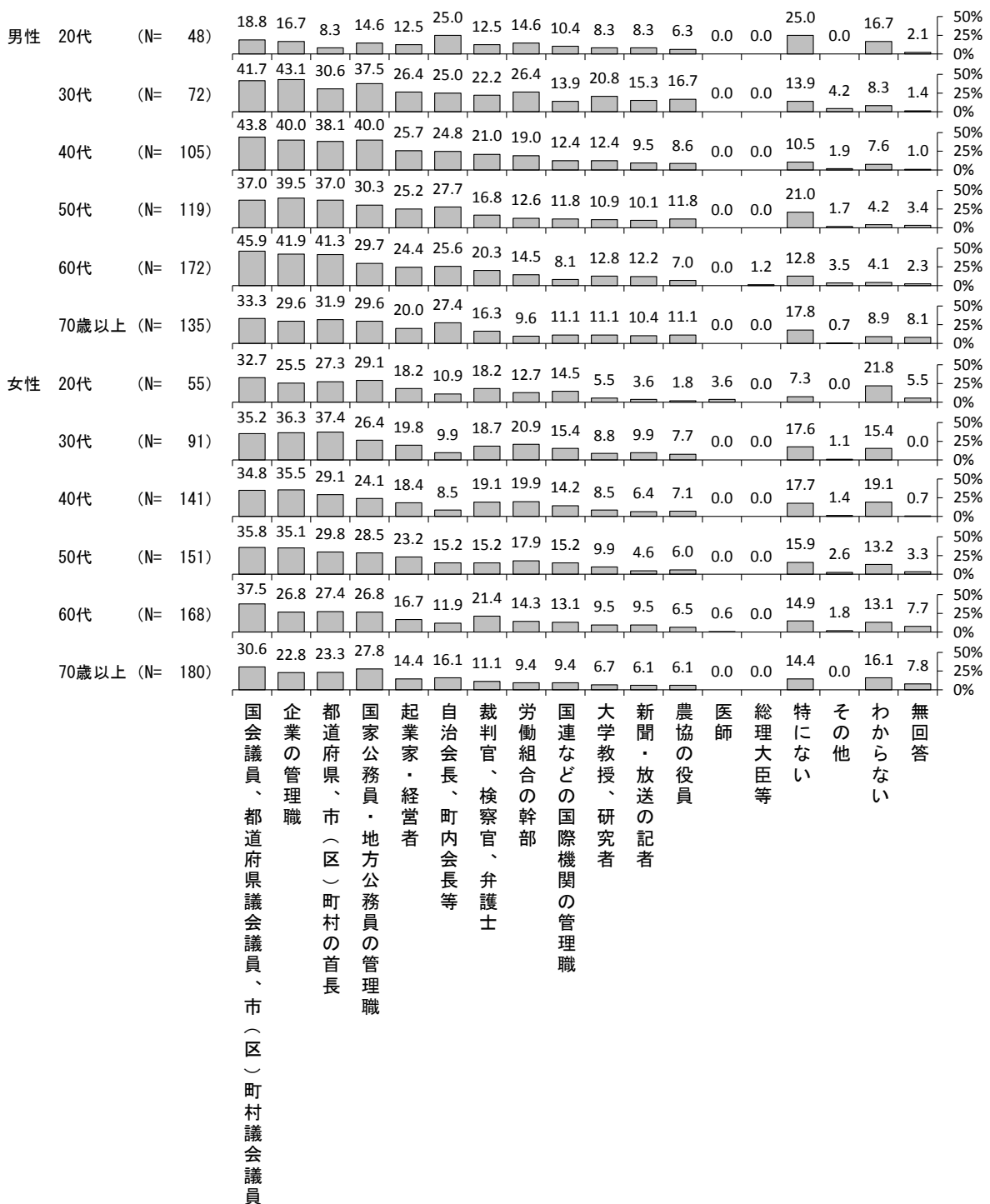
性年代別（女性）で見ると、20代・60歳以上では「企業の管理職」が3割を下回って他の年代より少なく、30代では「都道府県、市(区)町村の首長」が37.4%と他の年代より多くなっています。また、70歳以上では「労働組合の幹部」が9.4%と他の年代より少なくなっています。

【性別・性年代別の状況】

【性別】

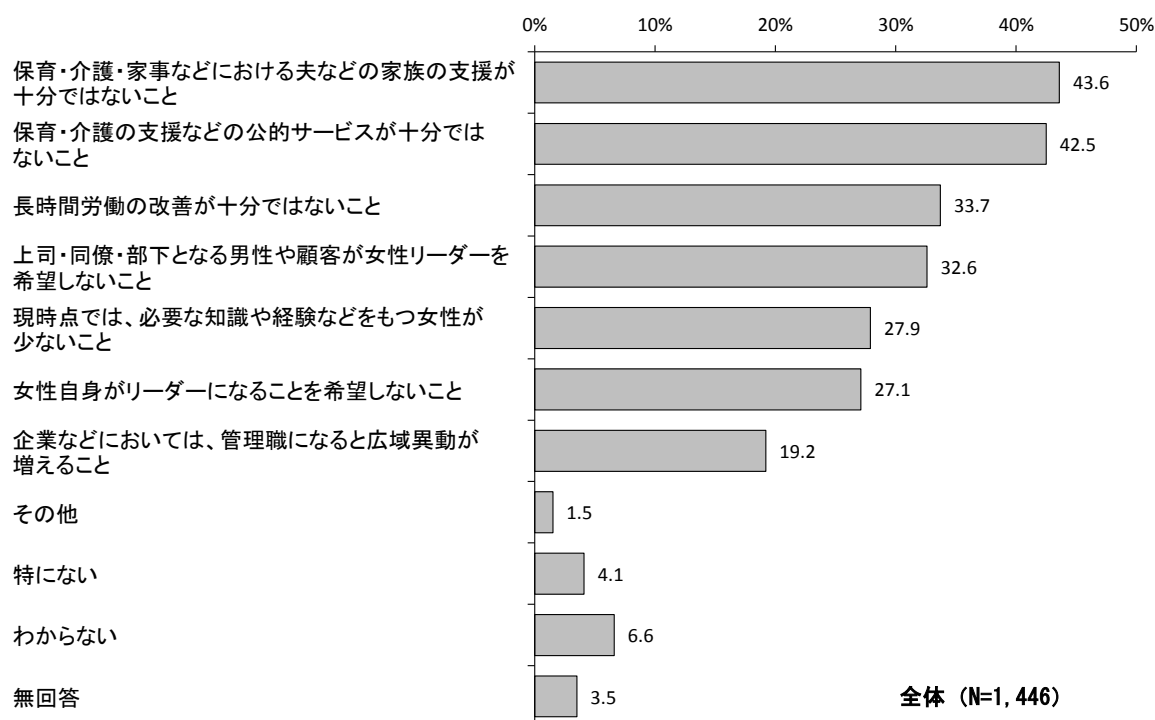


【性年代別】



問 14 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。（回答はいくつでも）

【全体の状況】



政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が43.6%と最も多く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が42.5%、「長時間労働の改善が十分ではないこと」が33.7%などとなっています。

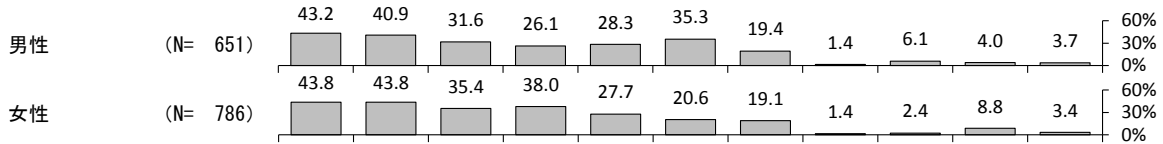
性別で見ると、男性では「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」が35.3%と女性より多く、女性では「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が38.0%と男性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、20代では「長時間労働の改善が十分ではないこと」、「企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること」が他の年代より少なく、70歳以上では「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が17.0%と他の年代より少なくなっています。

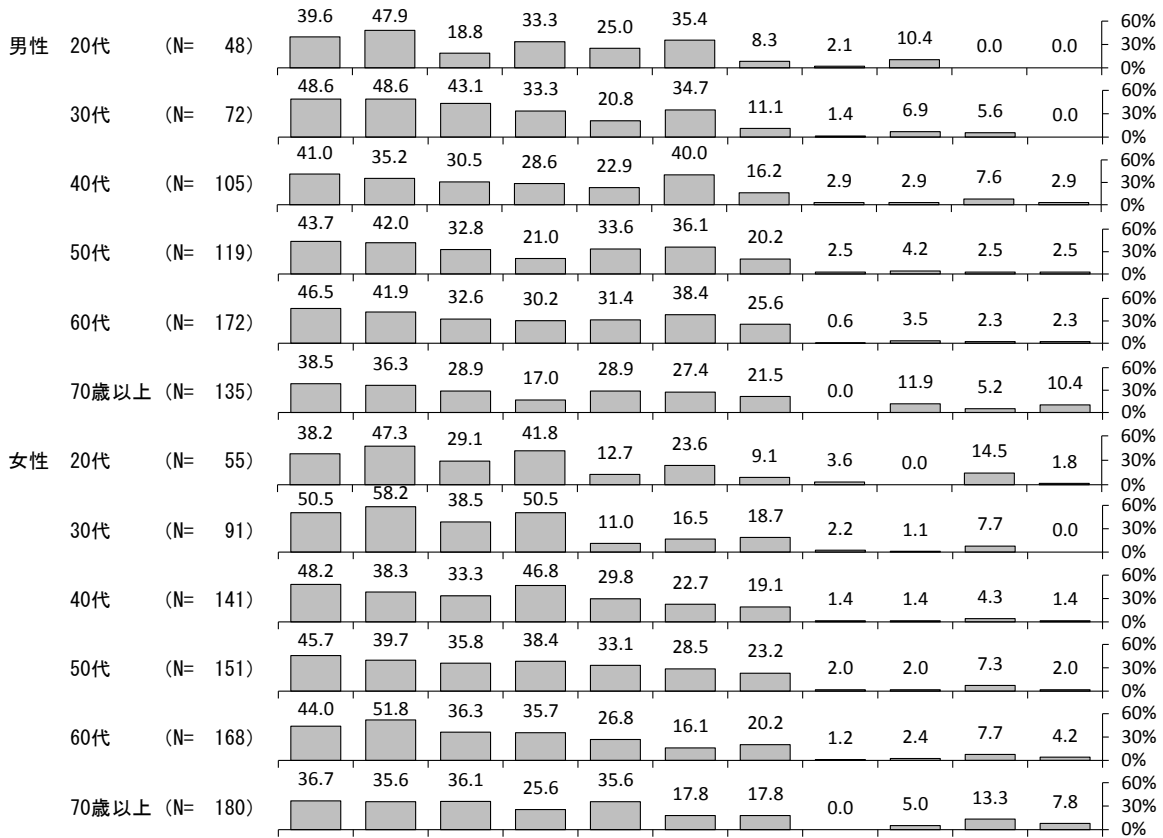
性年代別（女性）で見ると、20代・30代では「現時点では、必要な知識や経験などをもつ女性が少ないこと」が2割を下回って他の年代より少なく、30代では「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が50.5%と他の年代より多くなっています。また、30代・60代では「保育・介護・家事などの公的サービスが十分でないこと」が半数を超えて他の年代より多くなっています。

【性別・性年代別の状況】

【性別】



【性年代別】

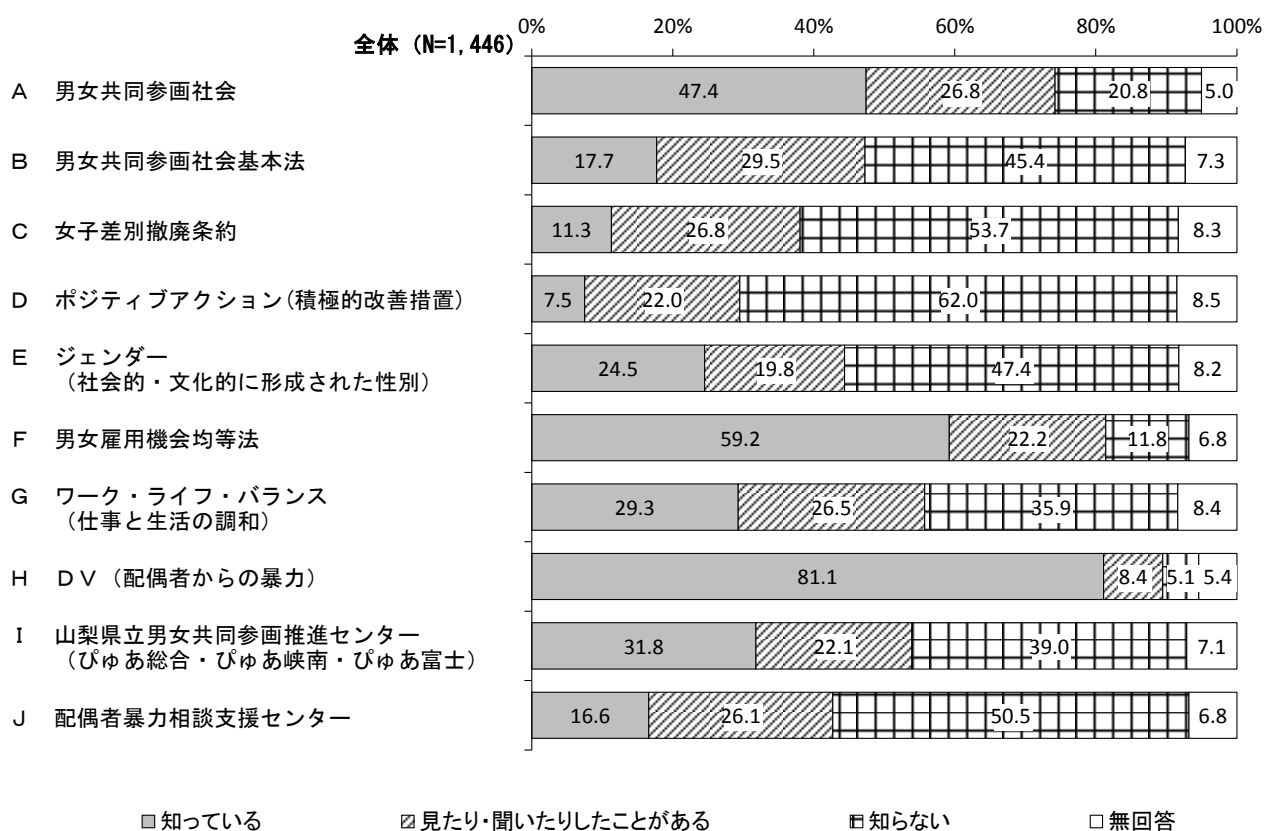


十分ではないこと
 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が足りないこと
 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
 長時間労働の改善が十分ではないこと
 希望しないこと
 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを望まないこと
 現時点では、必要な知識や経験などをもつ女性が少ないこと
 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
 企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること
 その他
 特にない
 わからない
 無回答

◆ 男女共同参画社会に向けて ◆

問 15 (1) これらの言葉を知っていますか。

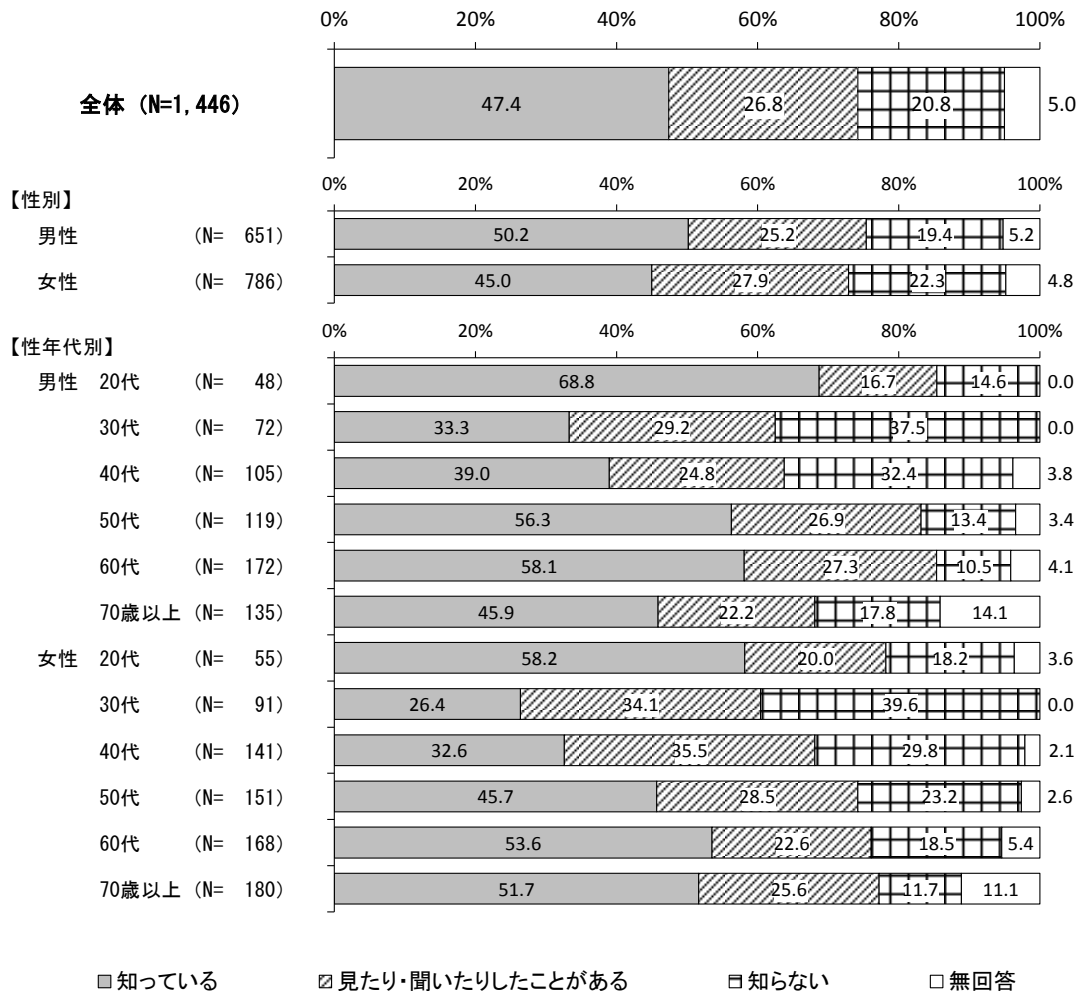
[全体の状況]



言葉の認知状況は、【F 男女雇用機会均等法】、【H DV (配偶者からの暴力)】では「知っている」が半数を超えている一方、【B 男女共同参画社会基本法】、【C 女子差別撤廃条約】、【D ポジティブアクション (積極的改善措置)】、【J 配偶者暴力相談支援センター】では2割を下回っています。

【A 男女共同参画社会】

【全体・性別・性年代別の状況】



A 男女共同参画社会の認知状況は、「知っている」が47.4%と最も多く、次いで「見たり・聞いたりしたことがある」が26.8%、「知らない」が20.8%となっています。

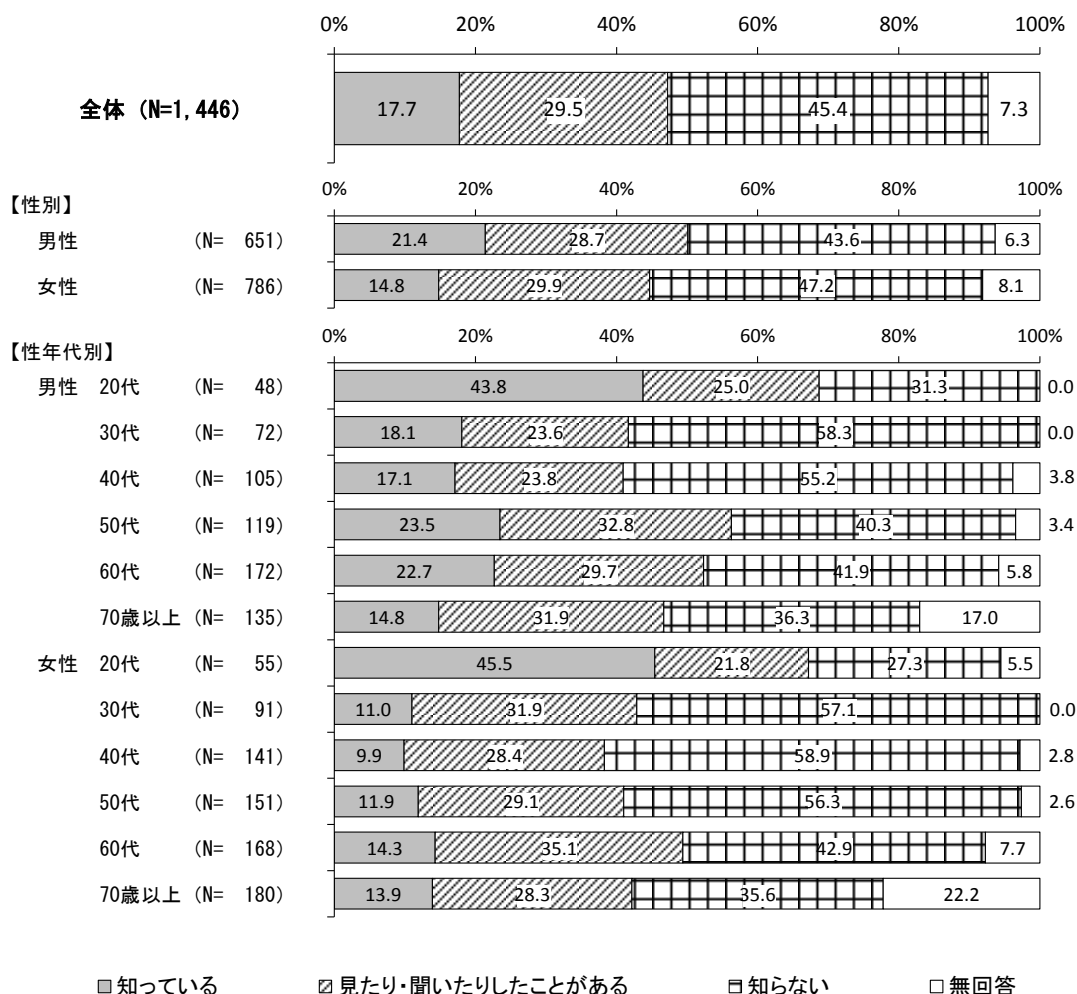
性別で見ると、男性では「知っている」が50.2%と女性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、20代では「知っている」が68.8%と他の年代より多くなっています。また、30代・40代では「知らない」が3割を超えて他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、30代では「知らない」が39.6%と他の年代より多くなっています。また、30代・40代では「知っている」が4割を下回って他の年代より少なくなっています。

【B 男女共同参画社会基本法】

【全体・性別・性年代別の状況】



B 男女共同参画社会基本法の認知状況は、「知らない」が45.4%と最も多く、次いで「見たり・聞いたりしたことがある」が29.5%、「知っている」が17.7%となっています。

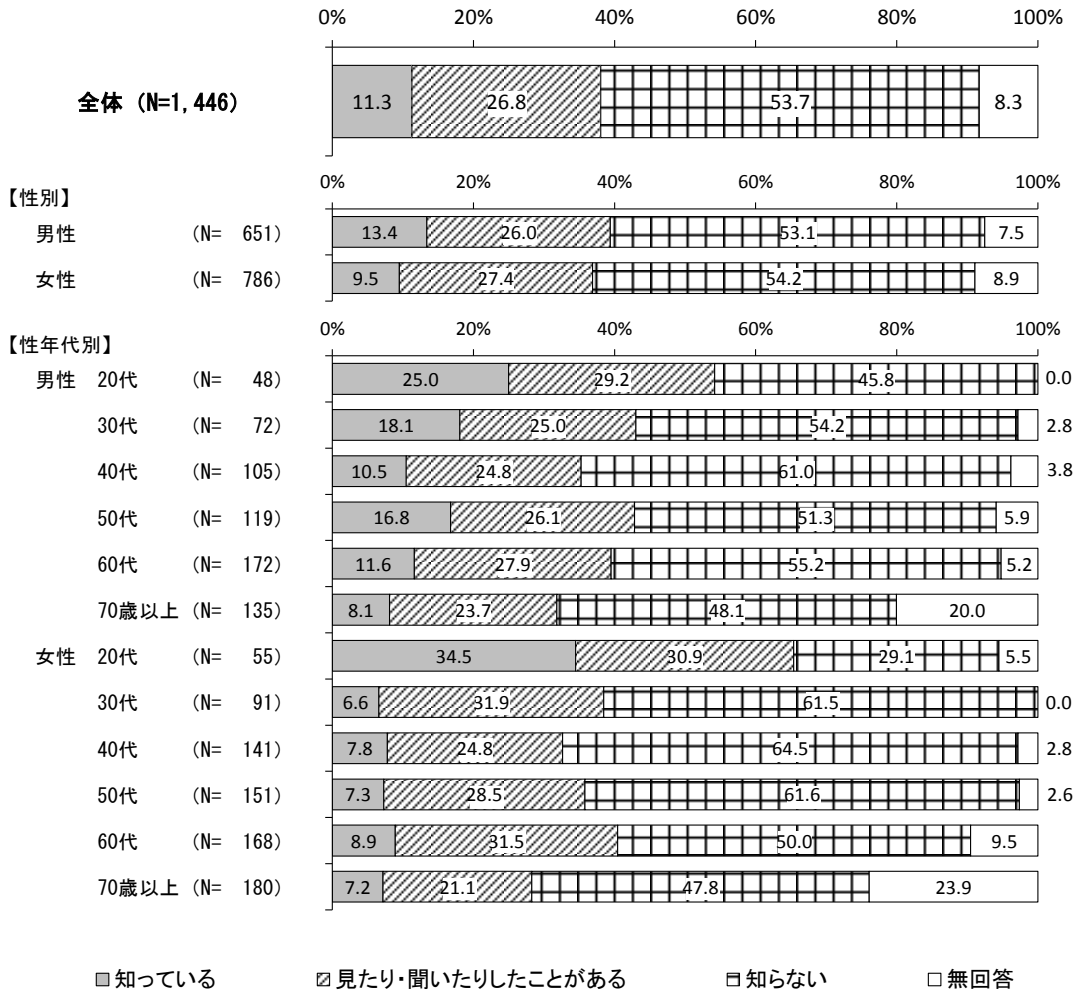
性別で見ると、男性では「知っている」が21.4%と女性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、20代では「知っている」が43.8%と他の年代より多く、20代・70歳以上では「知らない」が4割を下回って他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）で見ると、20代では「知っている」が45.5%と他の年代より多くなっています。また、30代・60代では「見たり・聞いたりしたことがある」が3割を超えて他の年代より多くなっています。

【C 女子差別撤廃条約】

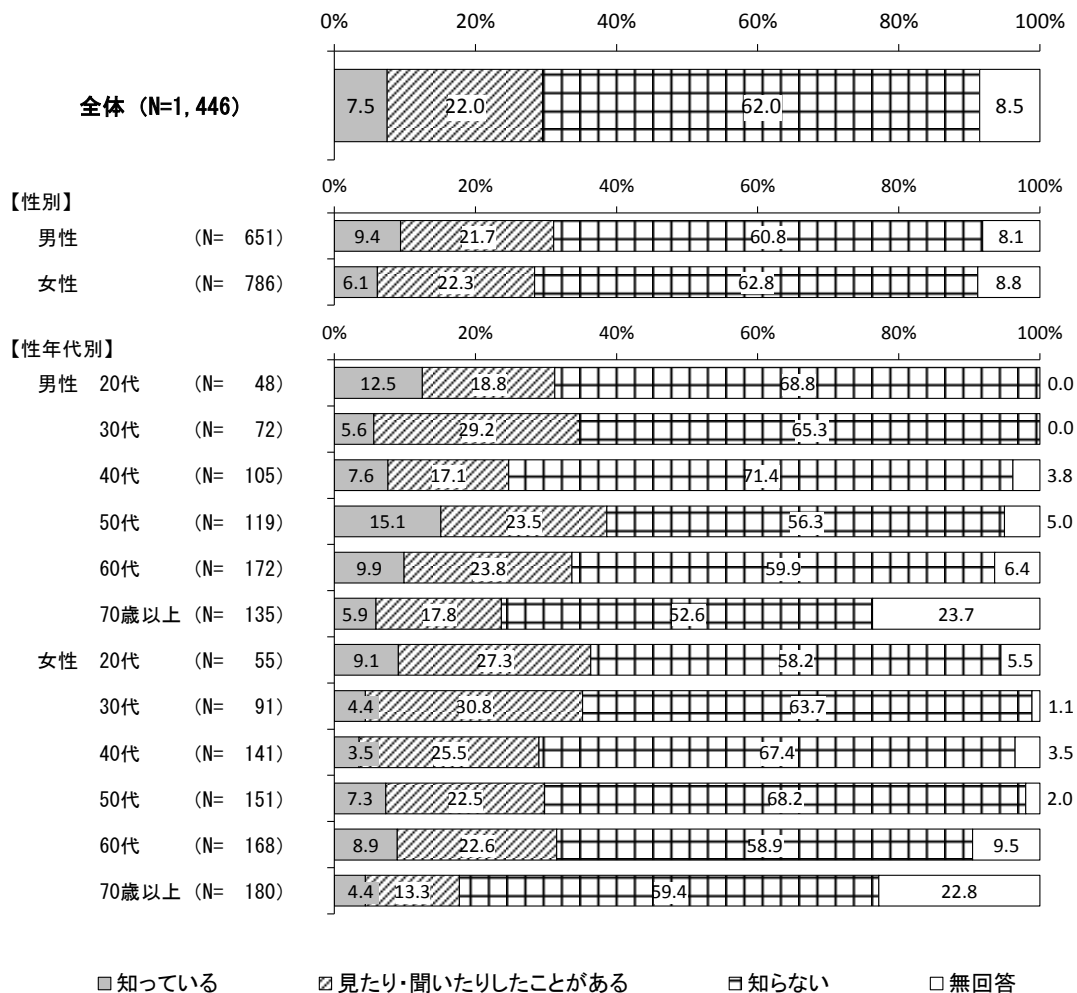
【全体・性別・性年代別の状況】



C 女子差別撤廃条約の認知状況は、「知らない」が53.7%と最も多く、次いで「見たり・聞いたりしたことがある」が26.8%、「知っている」が11.3%となっています。
 性年代別（男性）で見ると、20代では「知っている」が25.0%と他の年代より多くなっています。
 性年代別（女性）で見ると、20代では「知っている」が34.5%と他の年代より多くなっています。また、20代・30代・60代では「見たり・聞いたりしたことがある」が3割を超えて他の年代より多くなっています。

【D ポジティブアクション(積極的改善措置)】

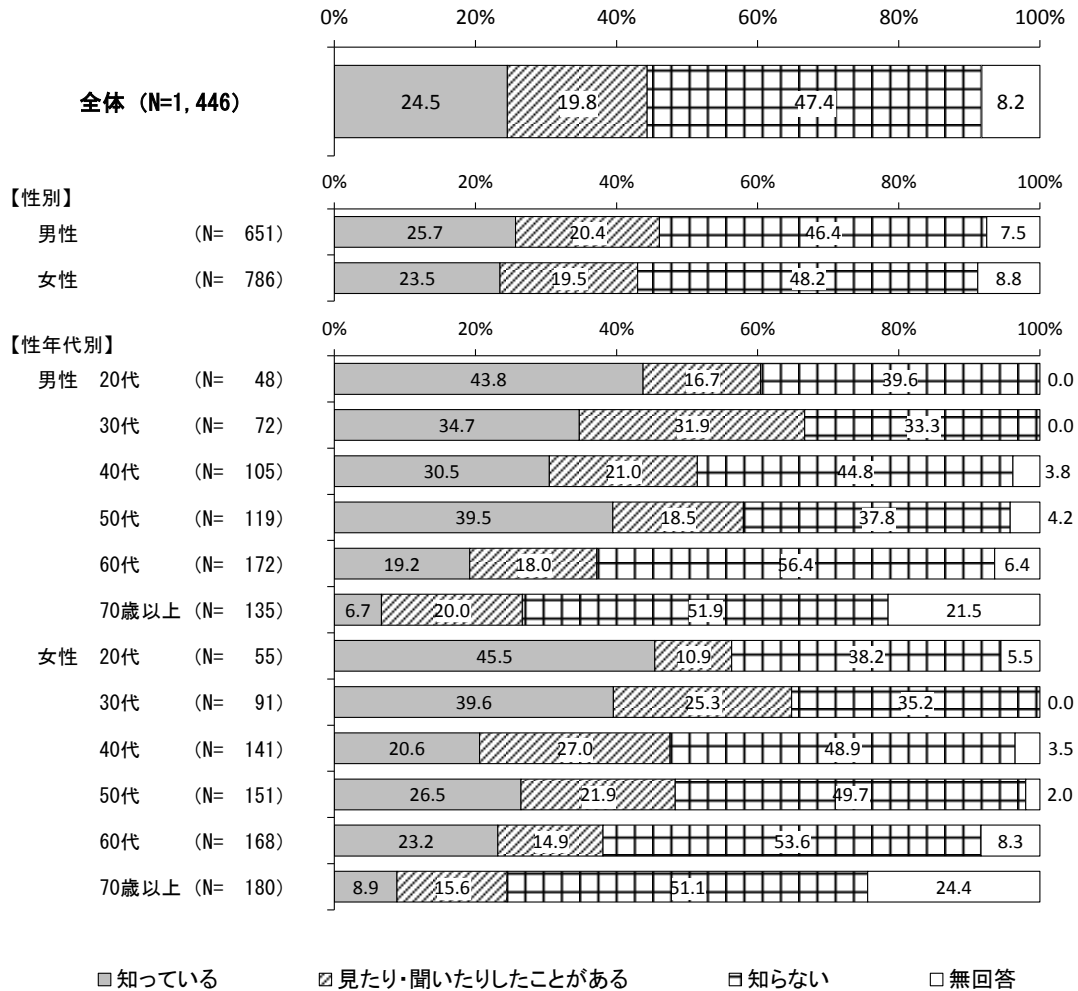
【全体・性別・性年代別の状況】



D ポジティブアクション(積極的改善措置)の認知状況は、「知らない」が62.0%と最も多く、次いで「見たり・聞いたりしたことがある」が22.0%、「知っている」が7.5%となっています。
 性年代別(男性)で見ると、30代・50代・60代では「見たり・聞いたりしたことがある」が2割を超えて他の年代より多く、40代では「知らない」が71.4%と他の年代より多くなっています。
 性年代別(女性)で見ると、30代では「見たり・聞いたりしたことがある」が30.8%と他の年代より多く、30代~50代では「知らない」が6割を超えて他の年代より多くなっています。

【 E ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別） 】

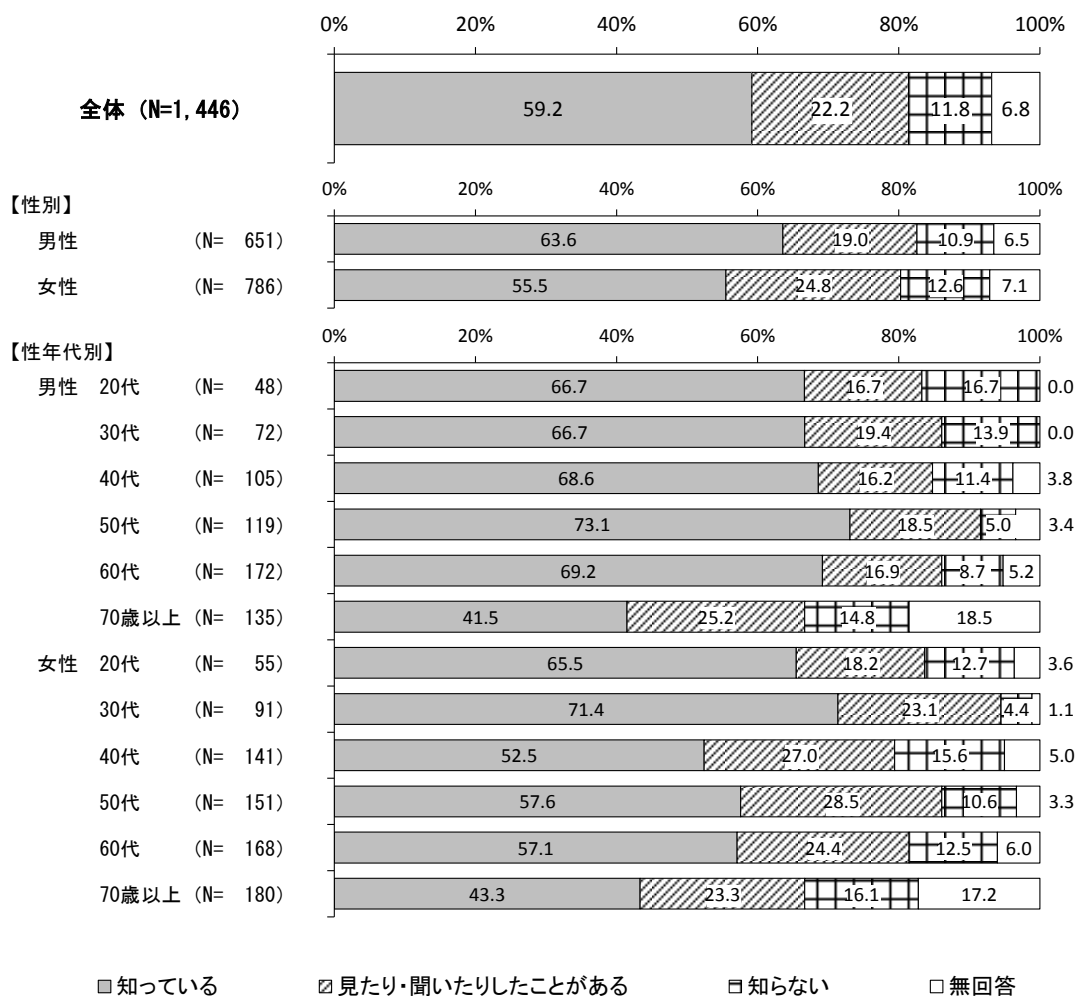
【全体・性別・性年代別の状況】



E ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）の認知状況は、「知らない」が47.4%と最も多く、次いで「知っている」が24.5%、「見たり・聞いたりしたことがある」が19.8%となっています。性年代別（男性）でみると、20代では「知っている」が43.8%と他の年代より多く、30代では「見たり・聞いたりしたことがある」が31.9%と他の年代より多くなっています。また、60歳以上では「知らない」が半数を超えて他の年代より多くなっています。性年代別（女性）でみると、20代・30代では「知っている」が3割を超えて他の年代より多くなっています。また、30代～50代では「見たり・聞いたりしたことがある」が2割を超えて他の年代より多くなっています。

【F 男女雇用機会均等法】

【全体・性別・性年代別の状況】



F 男女雇用機会均等法の認知状況は、「知っている」が59.2%と最も多く、次いで「見たり・聞いたりしたことがある」が22.2%、「知らない」が11.8%となっています。

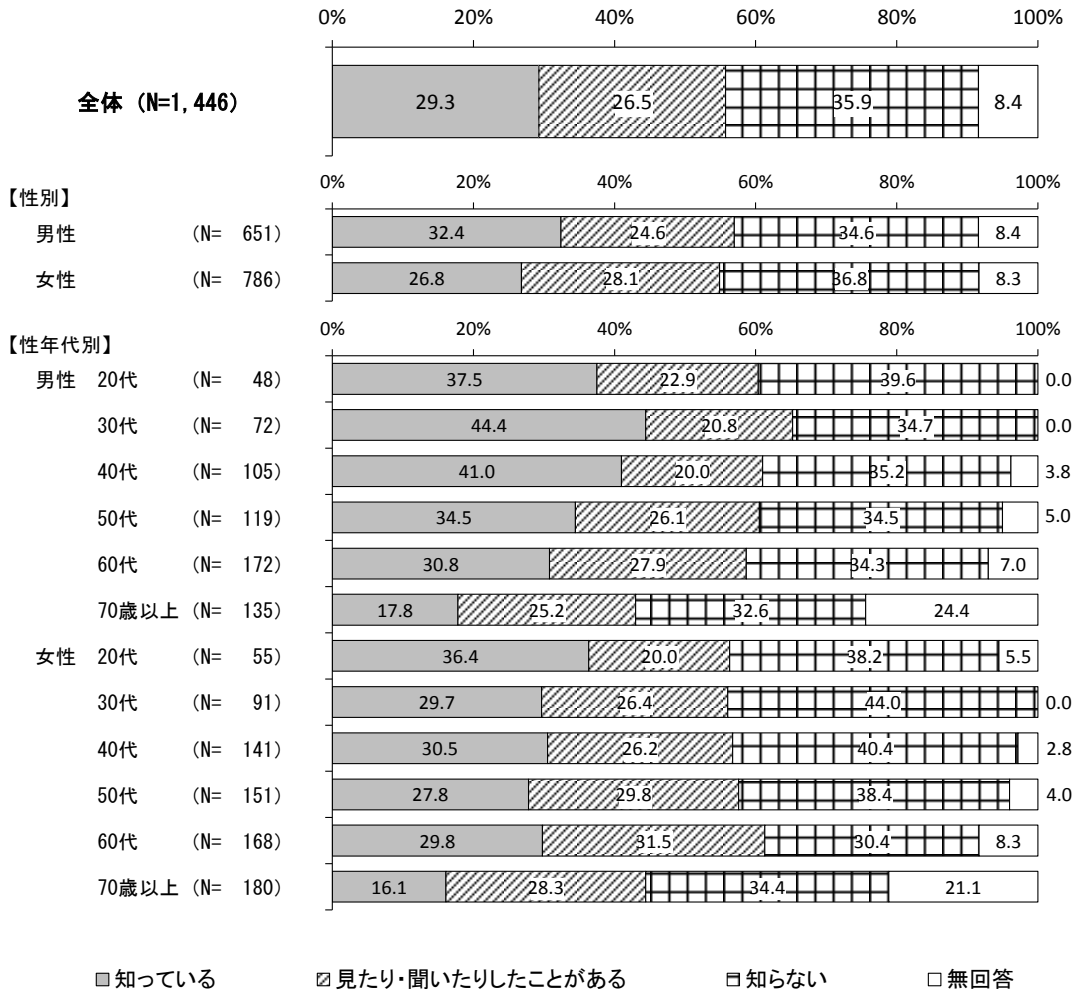
性別で見ると、男性では「知っている」が63.6%と女性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、50代・60代では「知らない」が1割を下回って他の年代より少なく、70歳以上では「知っている」が41.5%と他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）で見ると、30代では「知っている」が7割を超えて他の年代より多くなっています。また、70歳以上では「知っている」が43.3%と他の年代より少なくなっています。

【G ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）】

【全体・性別・性年代別の状況】



G ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の認知状況は、「知らない」が35.9%と最も多く、次いで「知っている」が29.3%、「見たり・聞いたりしたことがある」が26.5%となっています。性別で見ると、男性では「知っている」が32.4%と女性より多くなっています。性年代別（男性）で見ると、70歳以上では「知っている」が17.8%と他の年代より少なくなっています。性年代別（女性）で見ると、30代・40代では「知らない」が4割を超えて他の年代より多く、60代では「見たり・聞いたりしたことがある」が31.5%と他の年代より多くなっています。また、70歳以上では「知っている」が16.1%と他の年代より少なくなっています。

【H DV（配偶者からの暴力）】

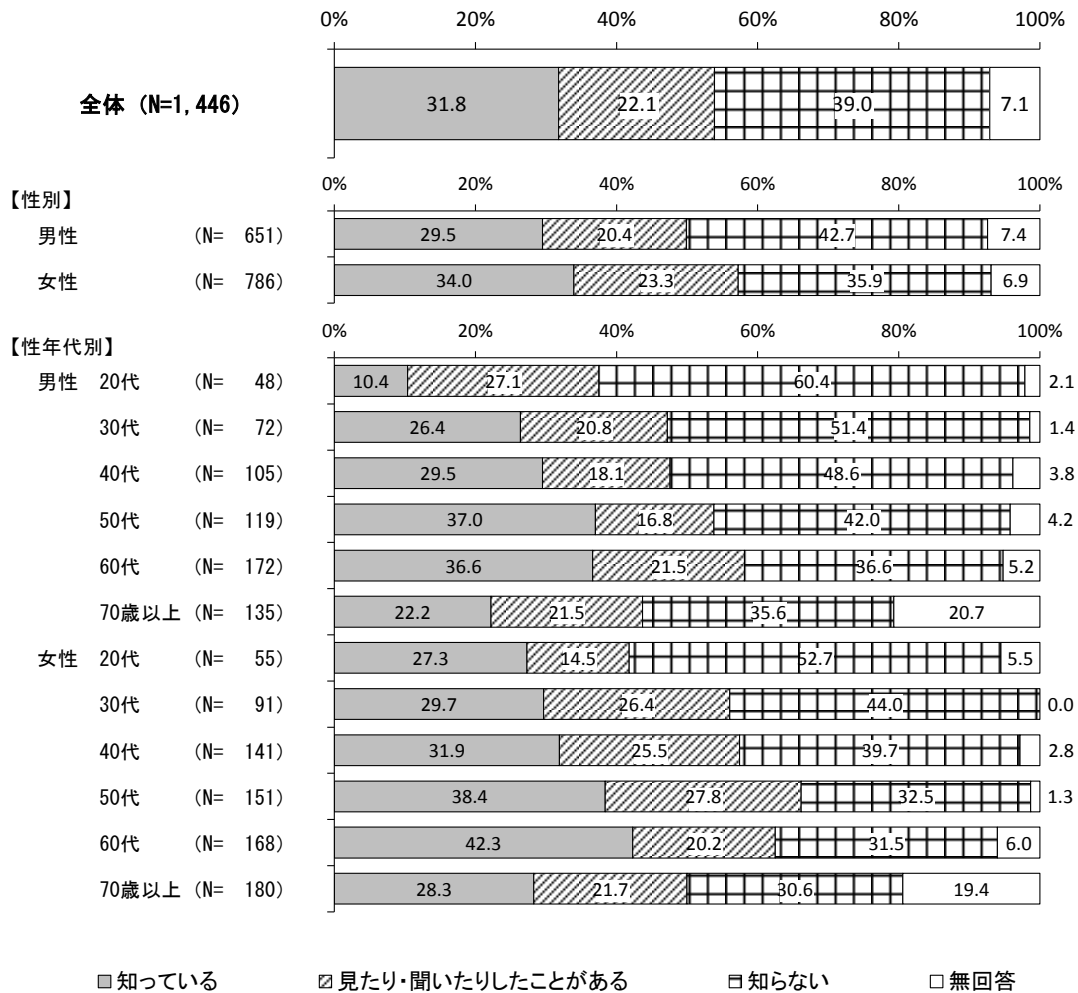
【全体・性別・性年代別の状況】



H DV（配偶者からの暴力）の認知状況は、「知っている」が81.1%と多くなっています。
 性年代別（男性）で見ると、70歳以上では「知っている」が57.8%と他の年代より少なくなっています。
 性年代別（女性）で見ると、70歳以上では「知っている」が65.0%と他の年代より少なくなっています。

【 I 山梨県立男女共同参画推進センター（びゅあ総合・びゅあ峡南・びゅあ富士）】

【全体・性別・性年代別の状況】



I 山梨県立男女共同参画推進センター（びゅあ総合・びゅあ峡南・びゅあ富士）の認知状況は、「知らない」が39.0%と最も多く、次いで「知っている」が31.8%、「見たり・聞いたりしたことがある」が22.1%となっています。

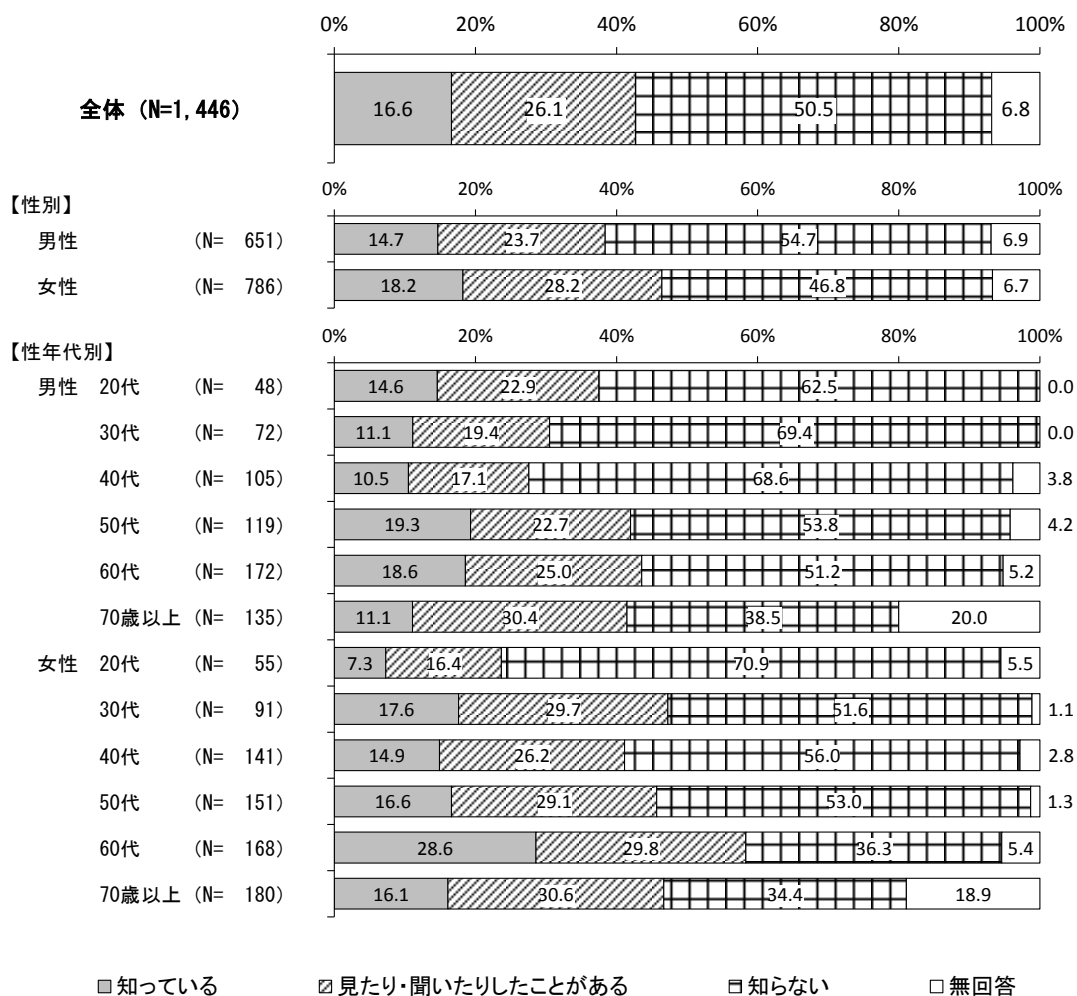
性別で見ると、男性では「知らない」が42.7%と女性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、年代が高くなるほど「知らない」が少なくなる傾向がみられます。また、20代では「知っている」が10.4%と他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）で見ると、年代が高くなるほど「知らない」が少なくなる傾向がみられます。また、60代では「知っている」が42.3%と他の年代より多くなっています。

【 J 配偶者暴力相談支援センター】

【全体・性別・性年代別の状況】



J 配偶者暴力相談支援センターの認知状況は、「知らない」が50.5%と最も多く、次いで「見たり・聞いたりしたことがある」が26.1%、「知っている」が16.6%となっています。

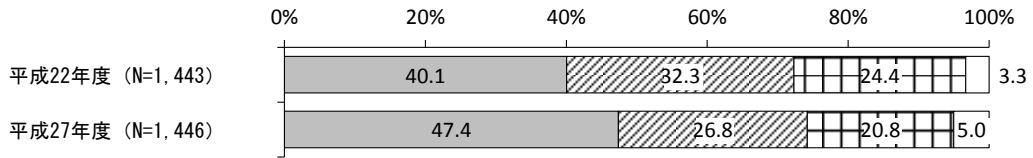
性別で見ると、男性では「知らない」が54.7%と女性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、70歳以上では「知らない」が38.5%と他の年代より少なくなっています。

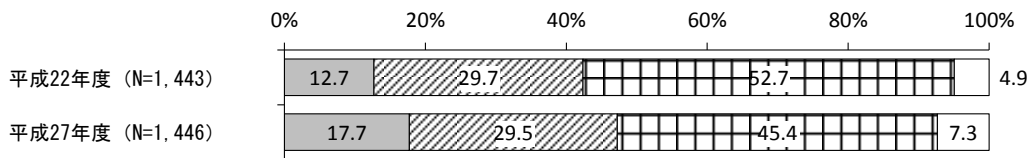
性年代別（女性）で見ると、20代では「知らない」が70.9%と他の年代より多くなっています。

◎ 経年比較 ◎

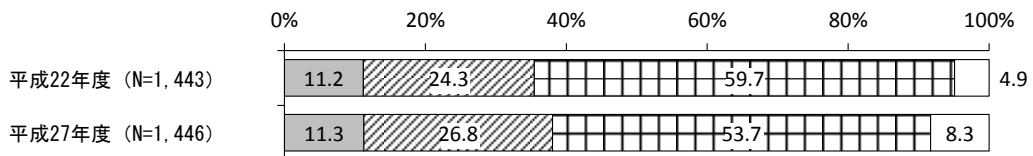
【A 男女共同参画社会】



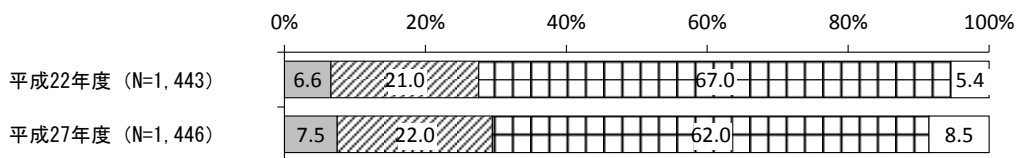
【B 男女共同参画社会基本法】



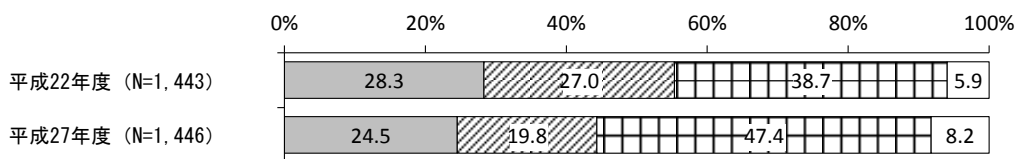
【C 女子差別撤廃条約】



【D ポジティブアクション（積極的改善措置）】

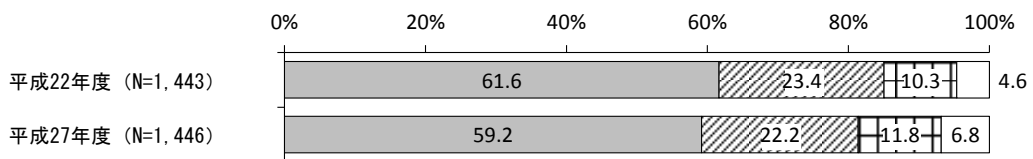


【E ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】



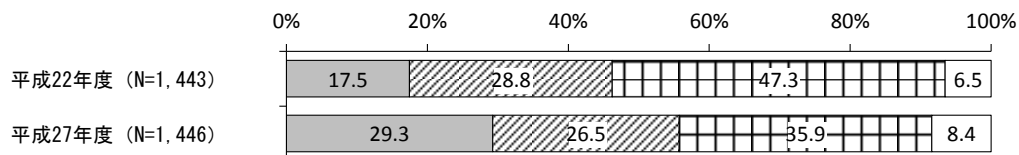
※平成22年度調査では「ジェンダー」の用語解説を「社会的差別」と記載しています。

【F 男女雇用機会均等法】

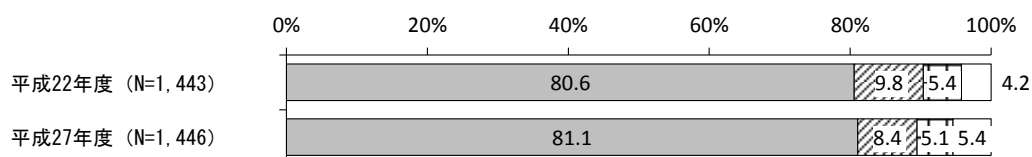


□知っている □見たり・聞いたりしたことがある □知らない □無回答

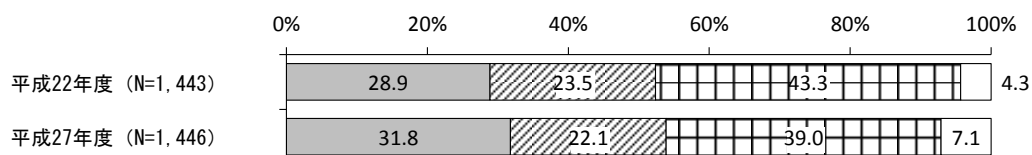
【G ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）】



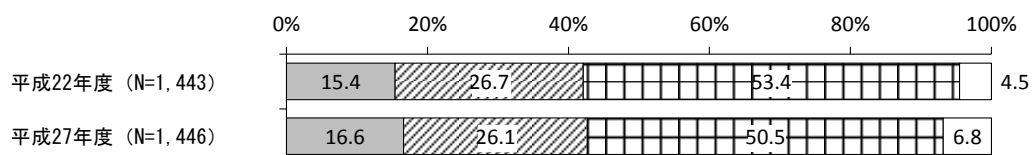
【H DV（配偶者からの暴力）】



【I 山梨県立男女共同参画推進センター（びゅあ総合・びゅあ峡南・びゅあ富士）】



【J 配偶者暴力相談支援センター】

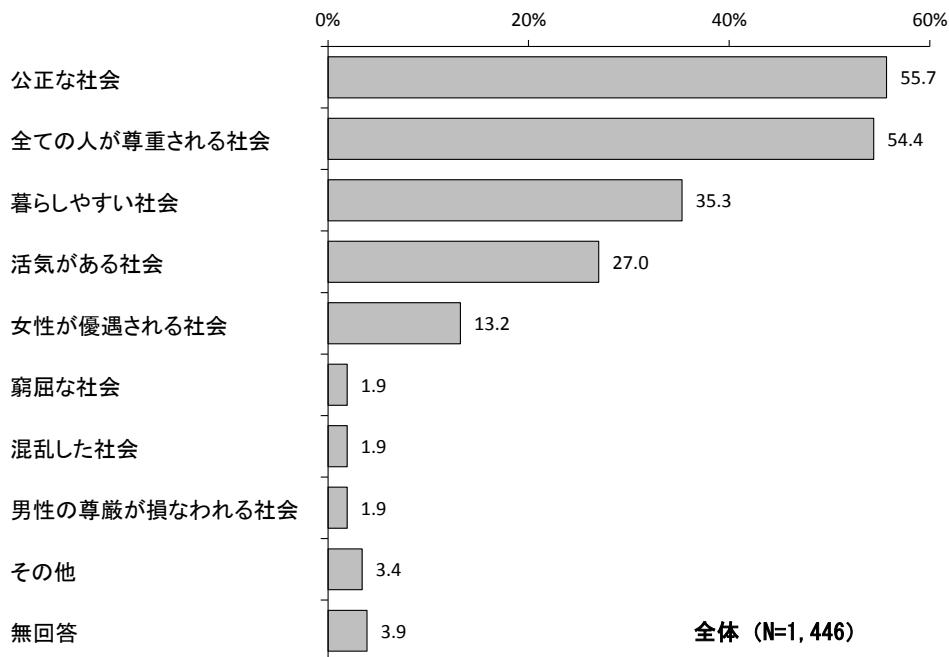


知っている
 見たり・聞いたりしたことがある
 知らない
 無回答

経年比較でみると、【G ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）】では「知っている」が10ポイント以上多くなっています。

問 15 (2) あなたは「男女共同参画社会」と聞いたとき、どんな社会をイメージしますか。
あなたのイメージに近いものをご回答ください。(回答はいくつでも)

【全体の状況】



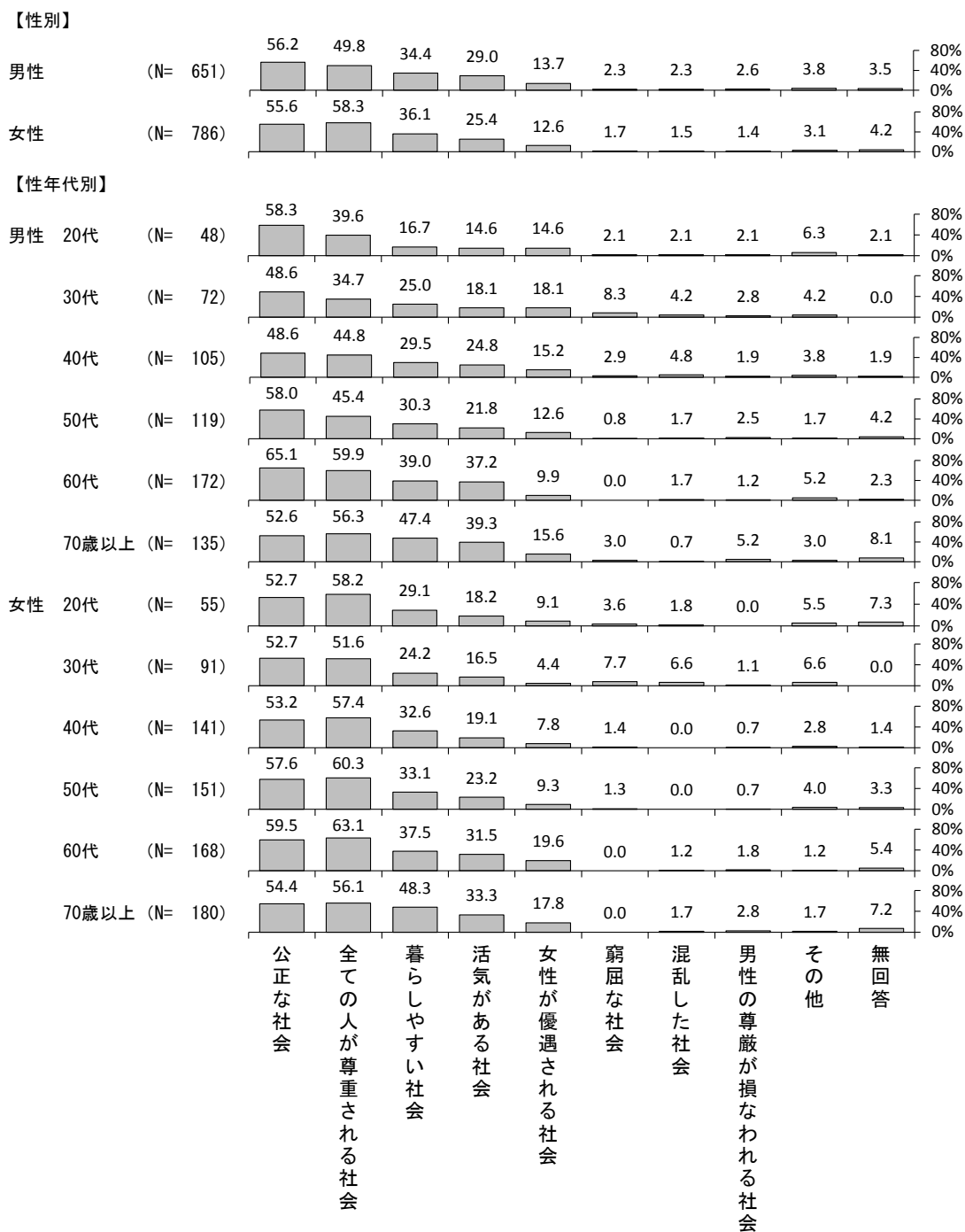
男女共同参画社会のイメージは、「公正な社会」が 55.7% と最も多く、次いで「全ての人が尊重される社会」が 54.4%、「暮らしやすい社会」が 35.3% などとなっています。

性別で見ると、女性では「全ての人が尊重される社会」が 58.3% と男性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、年代が高くなるほど「暮らしやすい社会」が多くなる傾向がみられます。また、20代・30代では「全ての人が尊重される社会」、「活気がある社会」が他の年代より少なくなっています。

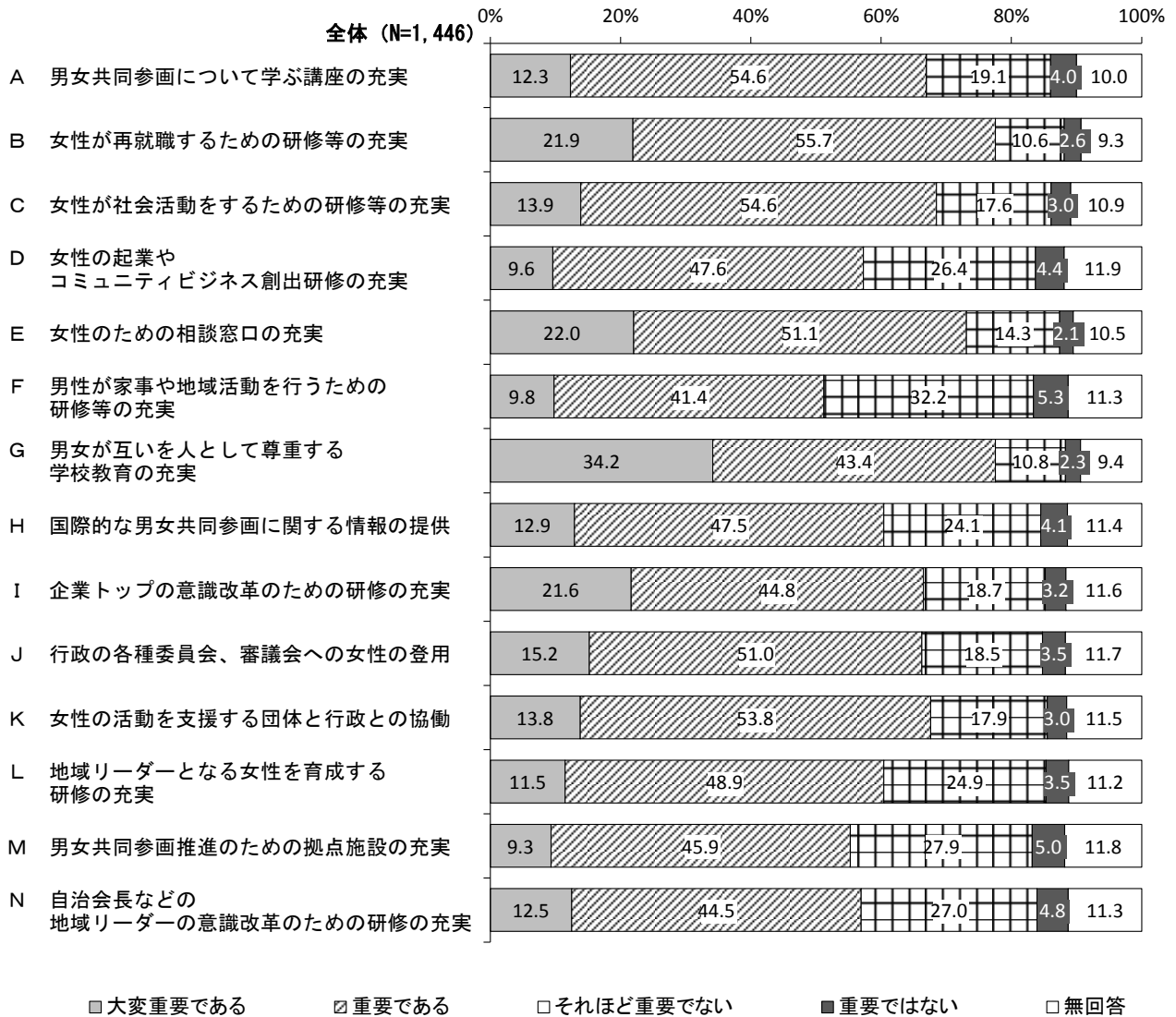
性年代別（女性）で見ると、年代が高くなるほど「活気がある社会」が多くなる傾向がみられます。また、60歳以上では「女性が優遇される社会」が 1割を超えて他の年代より多く、70歳以上では「暮らしやすい社会」が 48.3% と他の年代より多くなっています。

【性別・性年代別の状況】



問 16 男女共同参画社会を実現するために、山梨県が行う施策の重要度についてあなたはどうお考えですか。

【全体の状況】

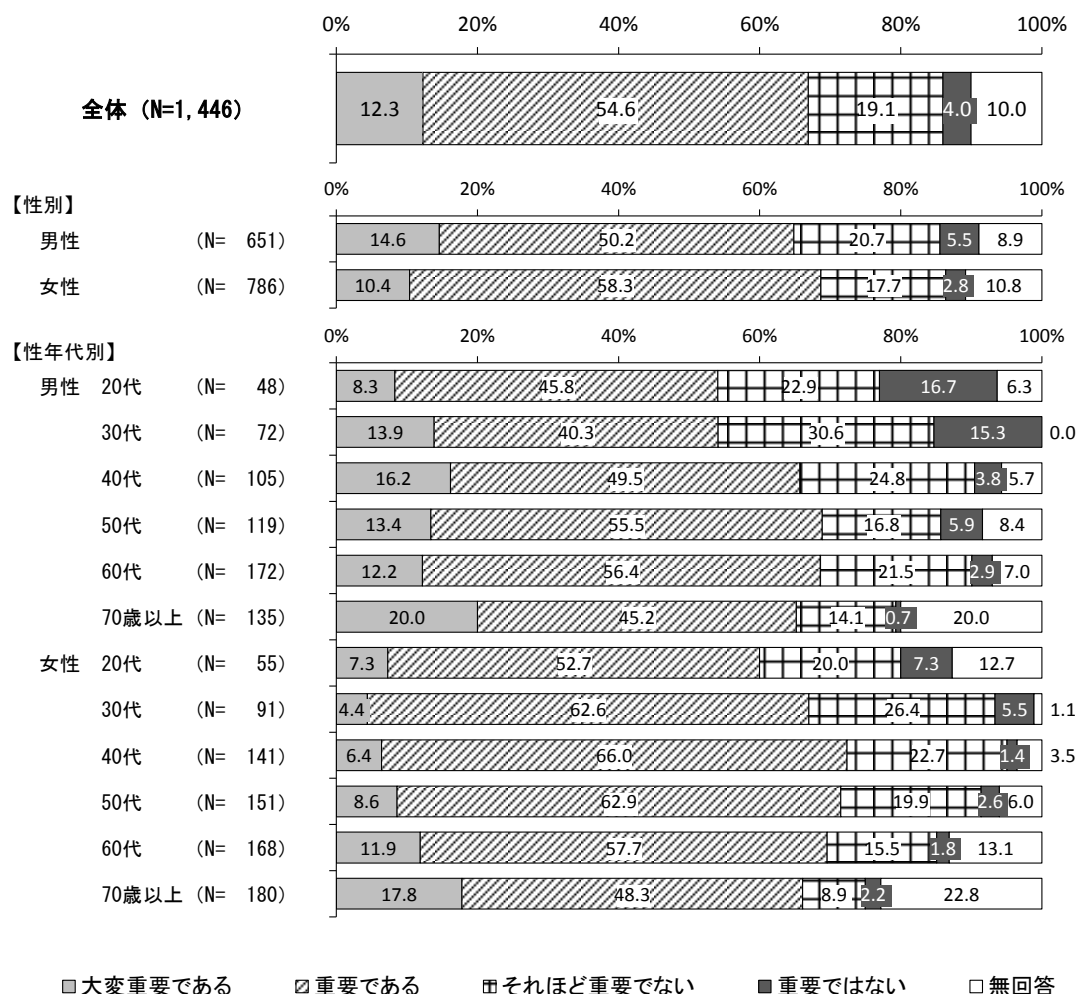


男女共同参画社会を実現するために山梨県が行う施策の重要度は、【G 男女が互いを人として尊重する学校教育の充実】では「大変重要である」が34.2%と唯一3割を超えています。また、『重要である』（大変重要である+重要である）は、【B 女性が再就職するための研修等の充実】、【E 女性のための相談窓口の充実】、【G 男女が互いを人として尊重する学校教育の充実】では7割を超えています。

※以下、『重要である』は「大変重要である」と「重要である」を合計したものを表します。

【A 男女共同参画について学ぶ講座の充実】

【全体・性別・性年代別の状況】

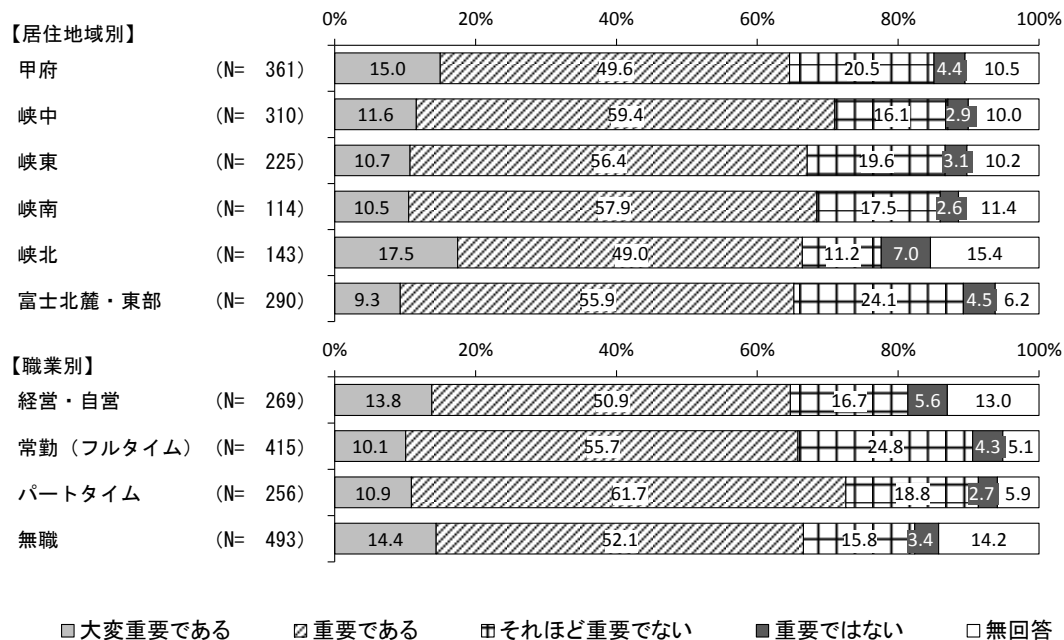


A 男女共同参画について学ぶ講座の充実の重要度は、「重要である」が54.6%と最も多く、次いで「それほど重要でない」が19.1%、「大変重要である」が12.3%などとなっています。また、『重要である』は、66.9%となっています。

性年代別（男性）で見ると、20代・30代では「重要ではない」が1割を超えて他の年代より多く、70歳以上では「大変重要である」が20.0%と他の年代より多くなっています。また、『重要である』は、20代・30代では6割を下回って他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）で見ると、年代が高くなるほど「大変重要である」が多くなる傾向がみられます。また、『重要である』は、40代・50代では7割を超えて他の年代より多くなっています。

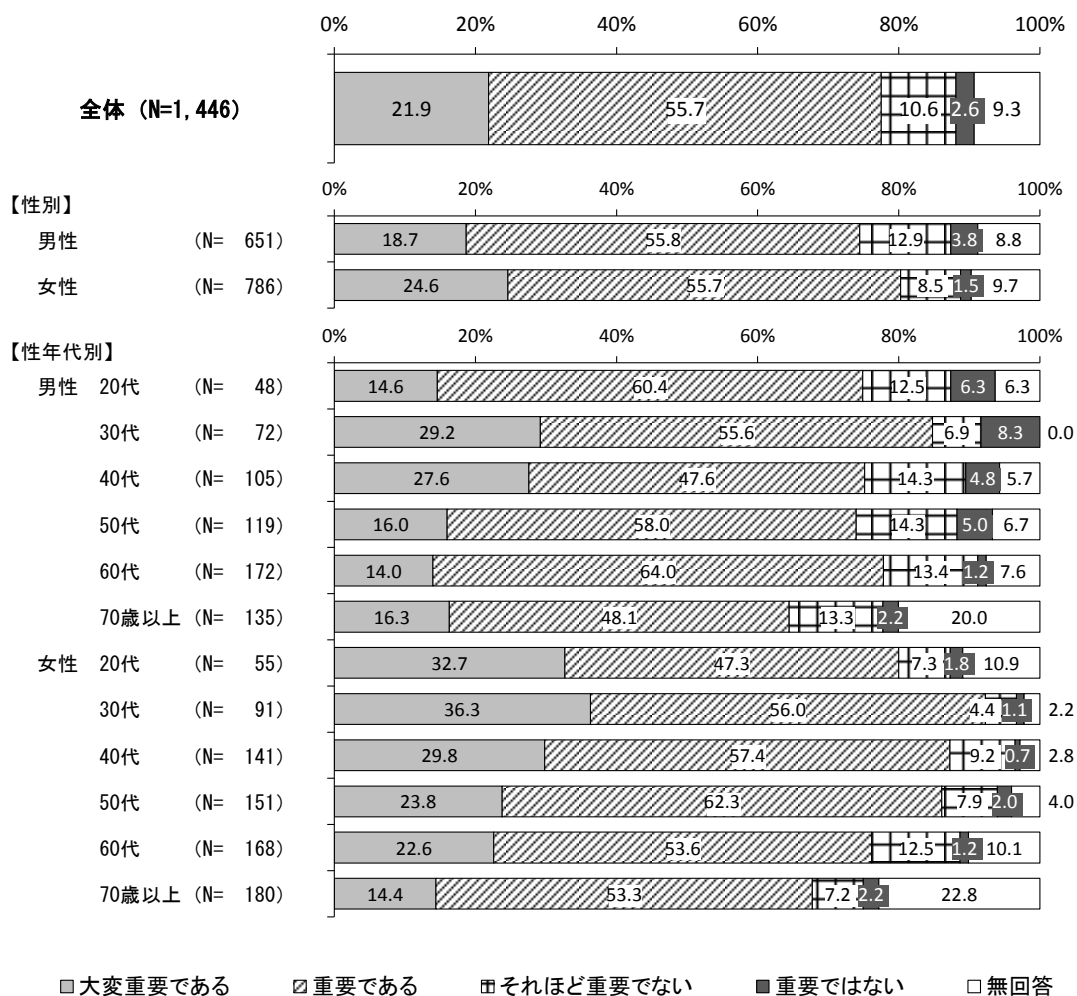
【居住地域別・職業別の状況】



職業別で見ると、パートタイムでは『重要である』が72.6%と他の職業より多くなっています。

【B 女性が再就職するための研修等の充実】

【全体・性別・性年代別の状況】



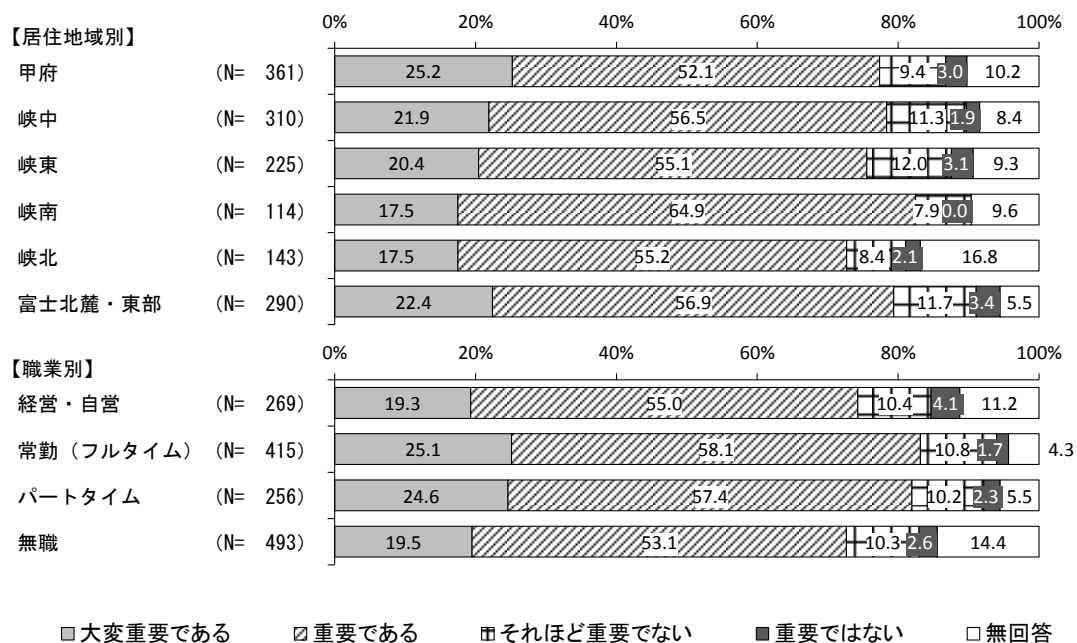
B 女性が再就職するための研修等の充実の重要度は、「重要である」が55.7%と最も多く、次いで「大変重要である」が21.9%、「それほど重要でない」が10.6%などとなっています。また、『重要である』は、77.6%となっています。

性別で見ると、女性では「大変重要である」が24.6%と男性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、30代・40代では「大変重要である」が2割を超えて他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、20代・30代では「大変重要である」が3割を超えて他の年代より多くなっています。

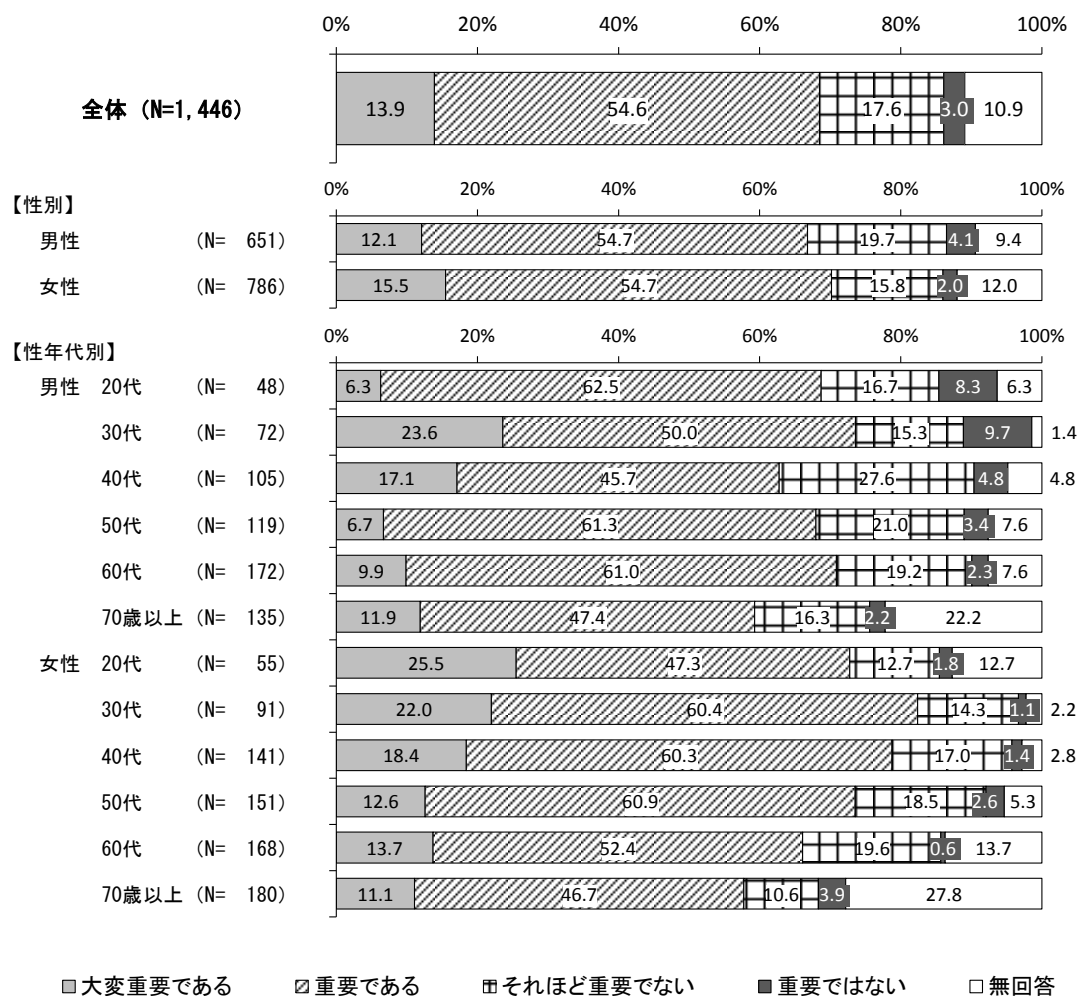
【居住地域別・職業別の状況】



居住地域別で見ると、峡南では『重要である』が82.4%と他の地域より多くなっています。
 職業別で見ると、常勤（フルタイム）・パートタイムでは、『重要である』が8割を超えて他の職業より多くなっています。

【C 女性が社会活動をするための研修等の充実】

【全体・性別・性年代別の状況】

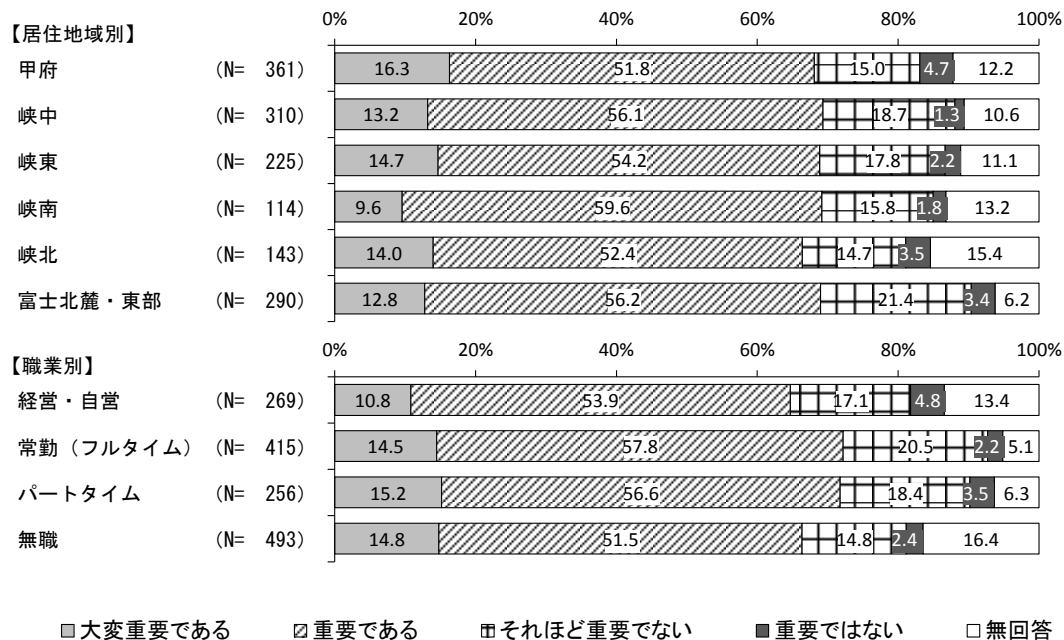


C 女性が社会活動をするための研修等の充実の重要度は、「重要である」が54.6%と最も多く、次いで「それほど重要でない」が17.6%、「大変重要である」が13.9%などとなっています。また、『重要である』は、68.5%となっています。

性年代別（男性）で見ると、30代では「大変重要である」が23.6%と他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、年代が高くなるほど「大変重要である」が少なくなる傾向がみられます。

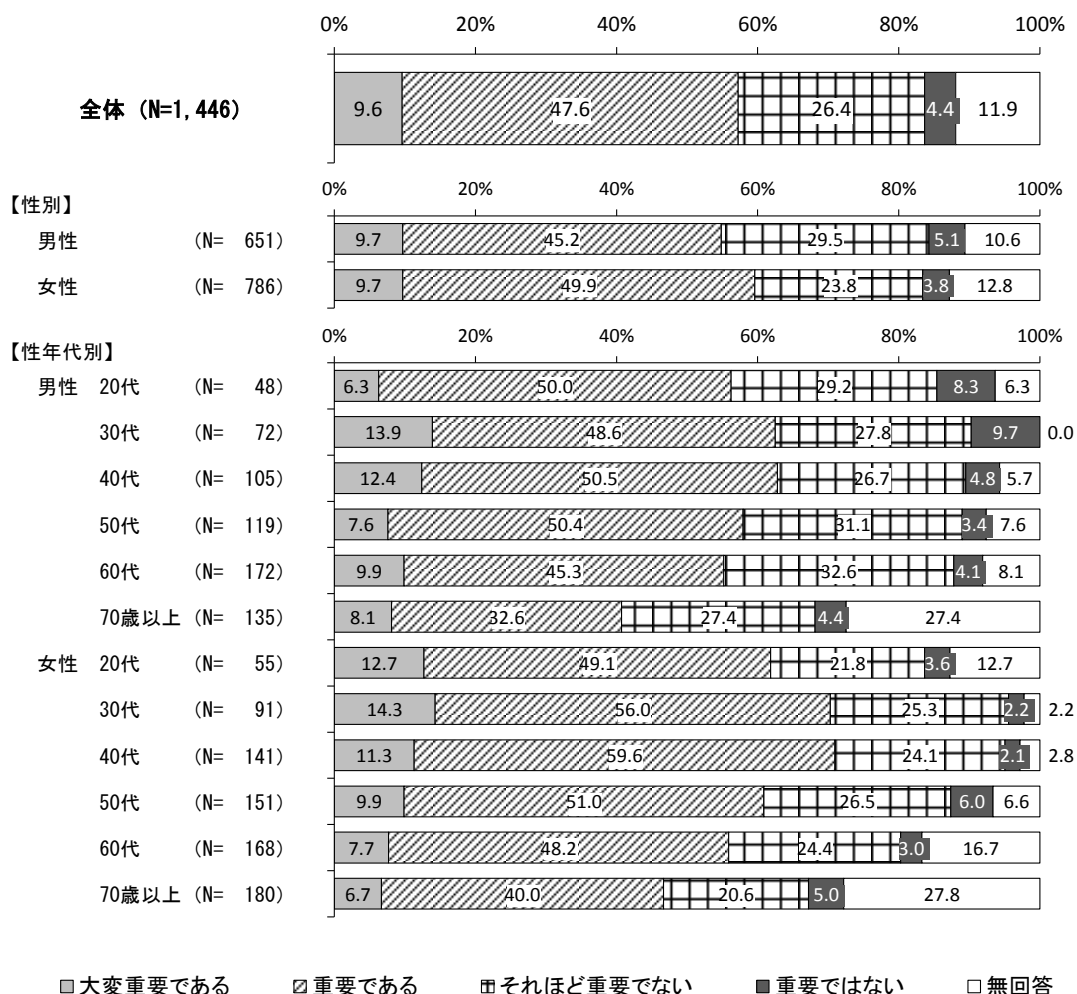
【居住地域別・職業別の状況】



居住地域別で見ると、峡南では「大変重要である」が9.6%と他の地域より少なくなっています。
 職業別で見ると、常勤（フルタイム）・パートタイムでは『重要である』が7割を超えて他の職業より多くなっています。

【D 女性の起業やコミュニティビジネス創出研修の充実】

【全体・性別・性年代別の状況】



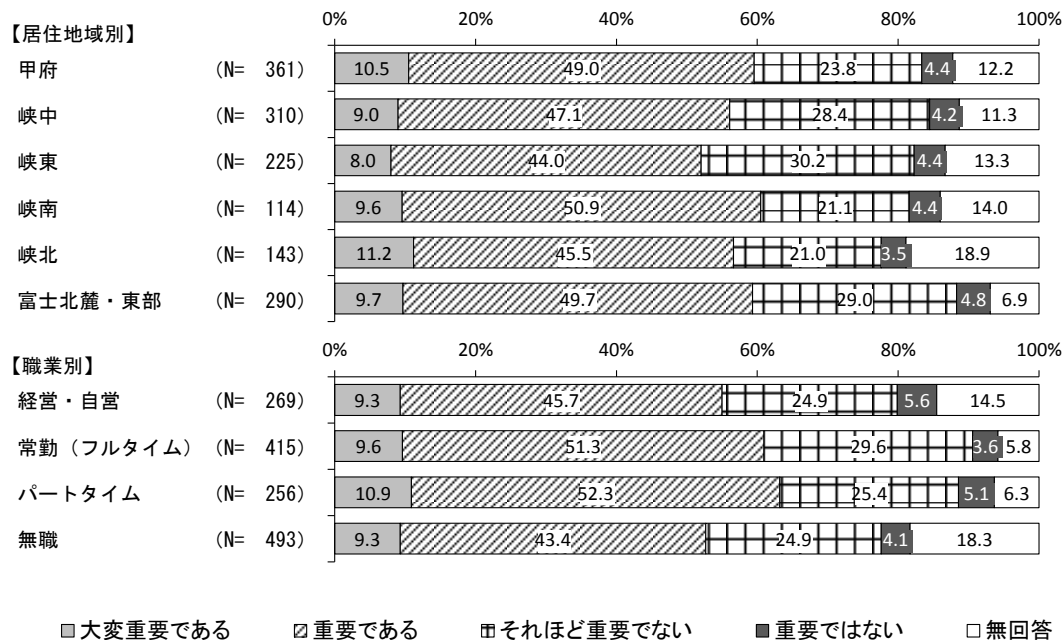
D 女性の起業やコミュニティビジネス創出研修の充実の重要度は、「重要である」が47.6%と最も多く、次いで「それほど重要でない」が26.4%、「大変重要である」が9.6%などとなっています。また、『重要である』は、57.2%となっています。

性別で見ると、男性では「それほど重要ではない」が29.5%と女性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、『重要である』は、70歳以上では40.7%と他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）で見ると、『重要である』は、60歳以上では6割を下回って他の年代より少なくなっています。

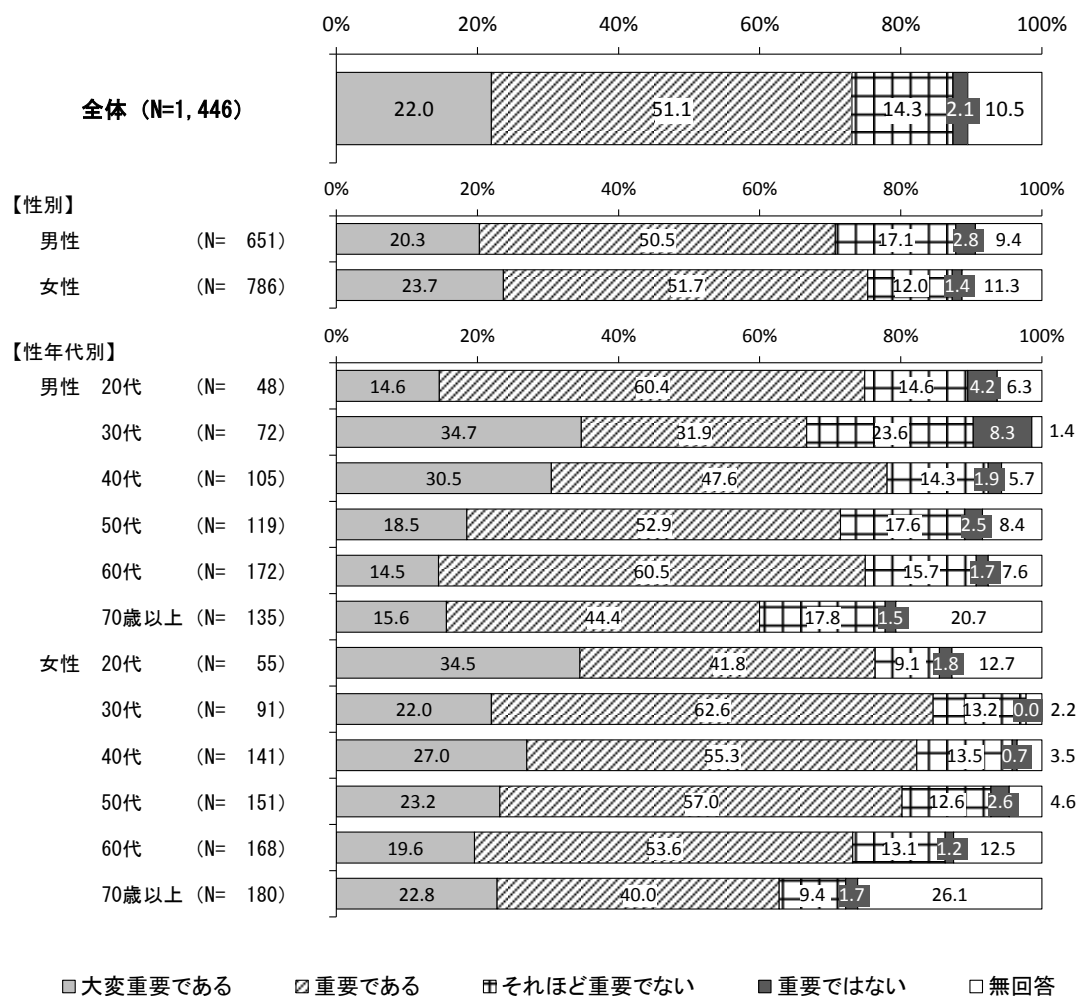
【居住地域別・職業別の状況】



居住地域別で見ると、峡南では『重要である』が60.5%と他の地域より多くなっています。
 職業別で見ると、『重要である』は、常勤（フルタイム）・パートタイムでは6割を超えて他の職業より多くなっています。

【E 女性のための相談窓口の充実】

【全体・性別・性年代別の状況】



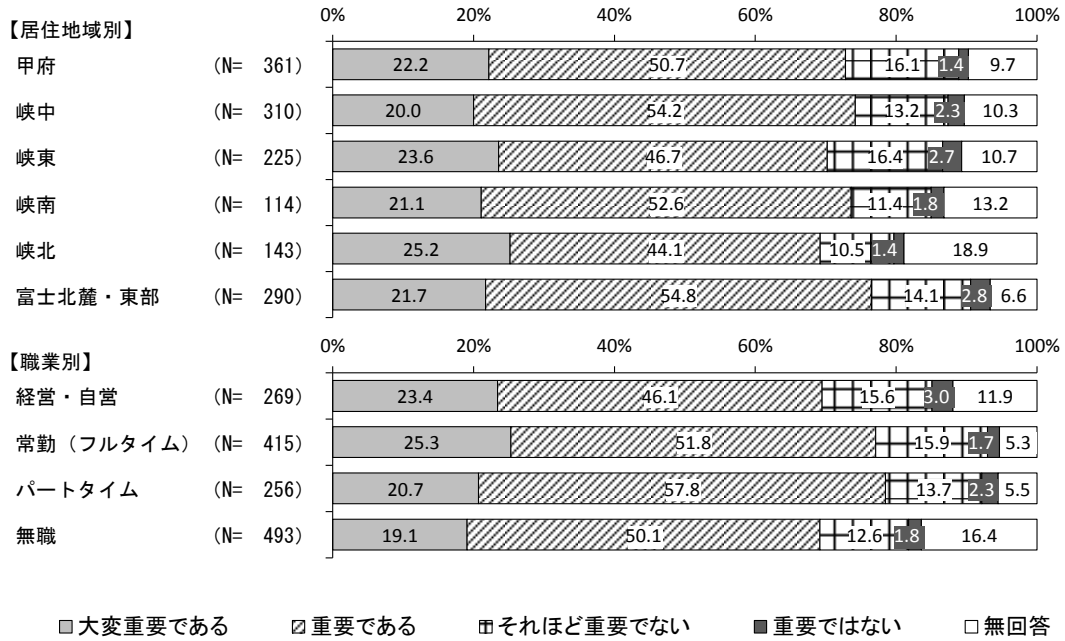
E 女性のための相談窓口の充実の重要度は、「重要である」が51.1%と最も多く、次いで「大変重要である」が22.0%、「それほど重要でない」が14.3%などとなっています。また、『重要である』は、73.1%となっています。

性別で見ると、男性では「それほど重要ではない」が17.1%と女性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、30代・40代では「大変重要である」が3割を超えて他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、20代では「大変重要である」が34.5%と他の年代より多くなっています。

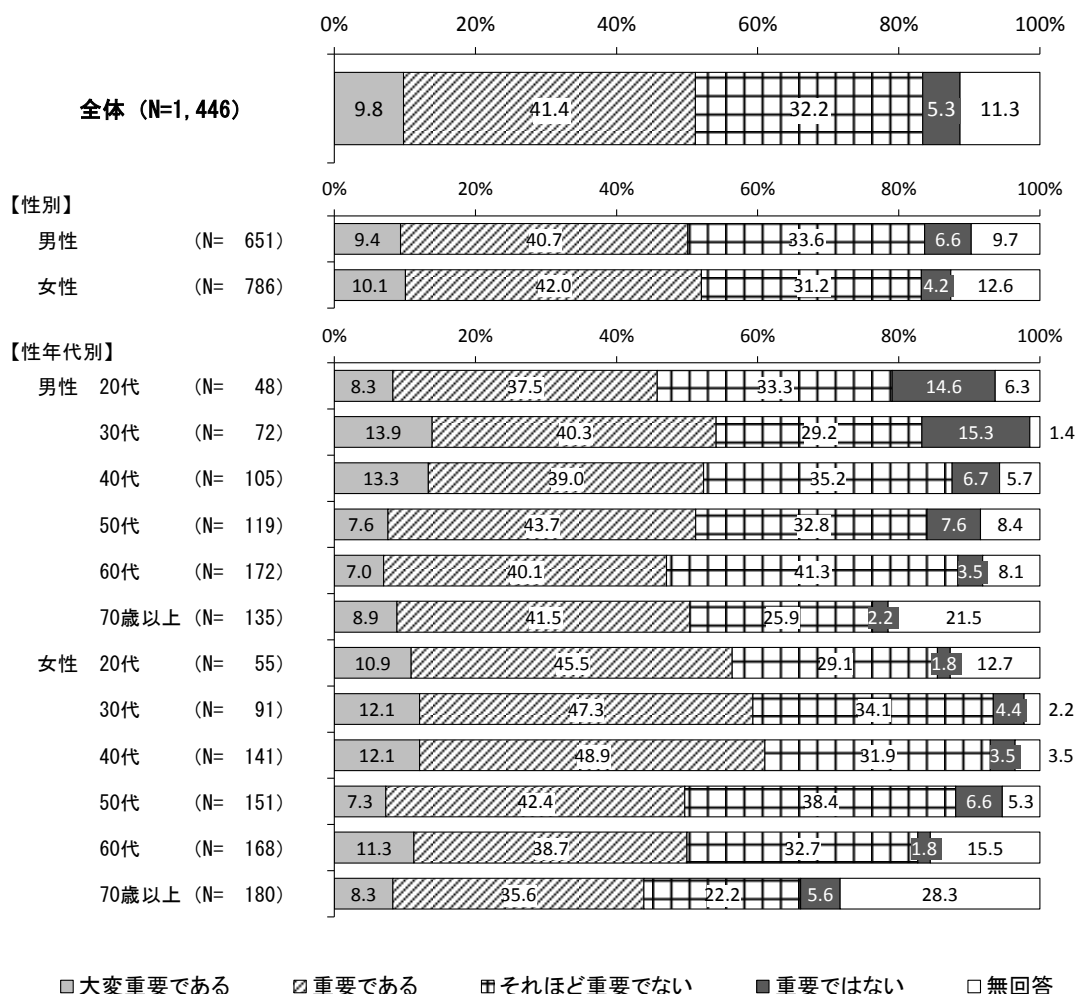
【居住地域別・職業別の状況】



居住地域別で見ると、峡北では『重要である』が69.3%と他の地域より少なくなっています。
 職業別で見ると、常勤（フルタイム）・パートタイムでは『重要である』が7割を超えて他の職業より多くなっています。

【F 男性が家事や地域活動を行うための研修等の充実】

【全体・性別・性年代別の状況】

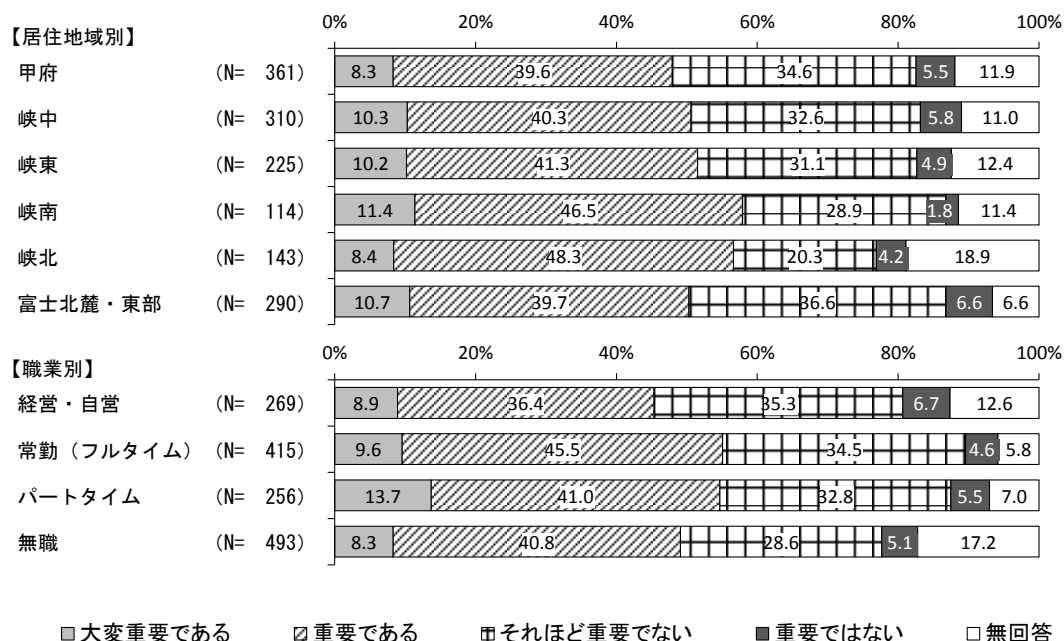


F 男性が家事や地域活動を行うための研修等の充実の重要度は、「重要である」が41.4%と最も多く、次いで「それほど重要でない」が32.2%、「大変重要である」が9.8%などとなっています。また、『重要である』は、51.2%となっています。

性年代別（男性）でみると、20代・30代では「重要ではない」が1割を超えて他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）でみると、50代・70歳以上では『重要である』が半数を下回って他の年代より少なくなっています。

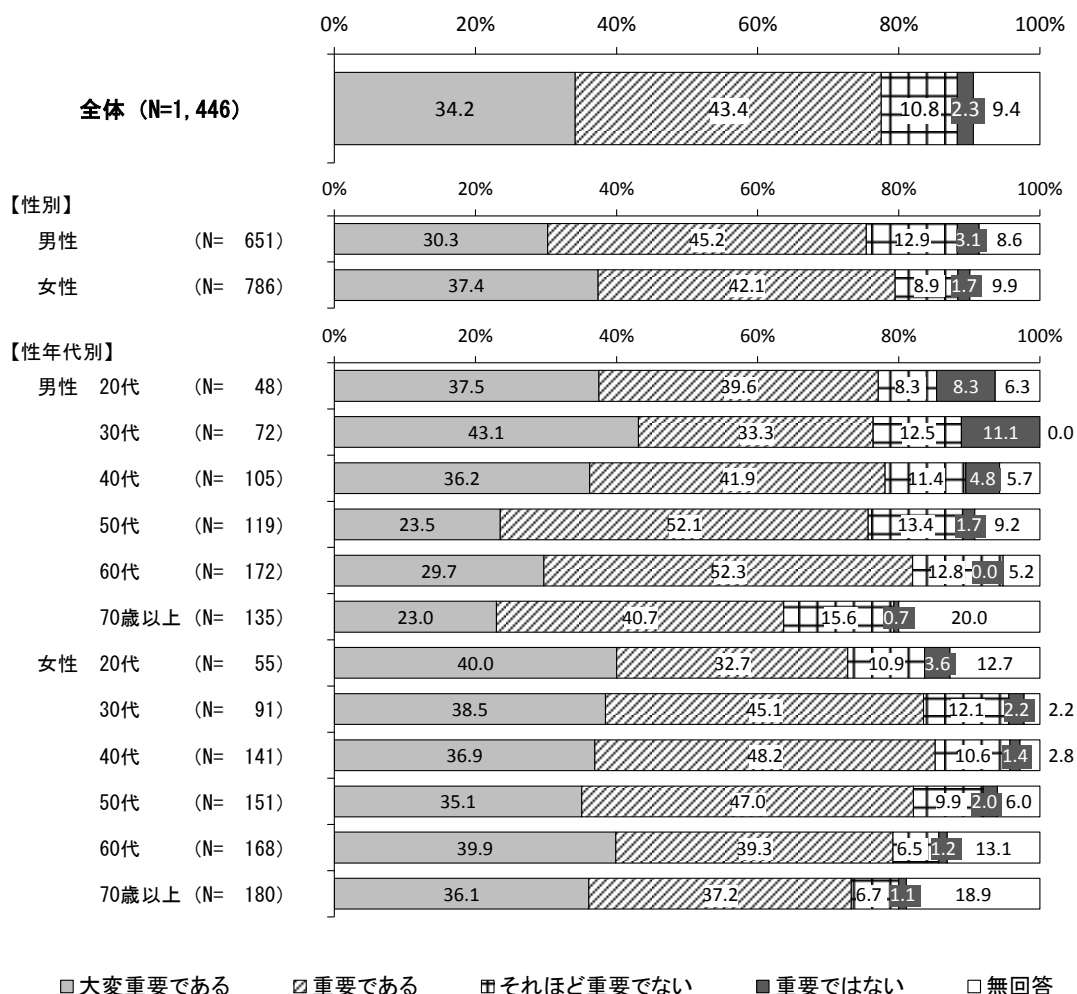
【居住地域別・職業別の状況】



居住地域別で見ると、『重要である』は、甲府では47.9%と他の地域より少なくなっています。
 職業別で見ると、常勤（フルタイム）・パートタイムでは『重要である』が半数を超えて他の職業より多くなっています。

【G 男女が互いを人として尊重する学校教育の充実】

【全体・性別・性年代別の状況】



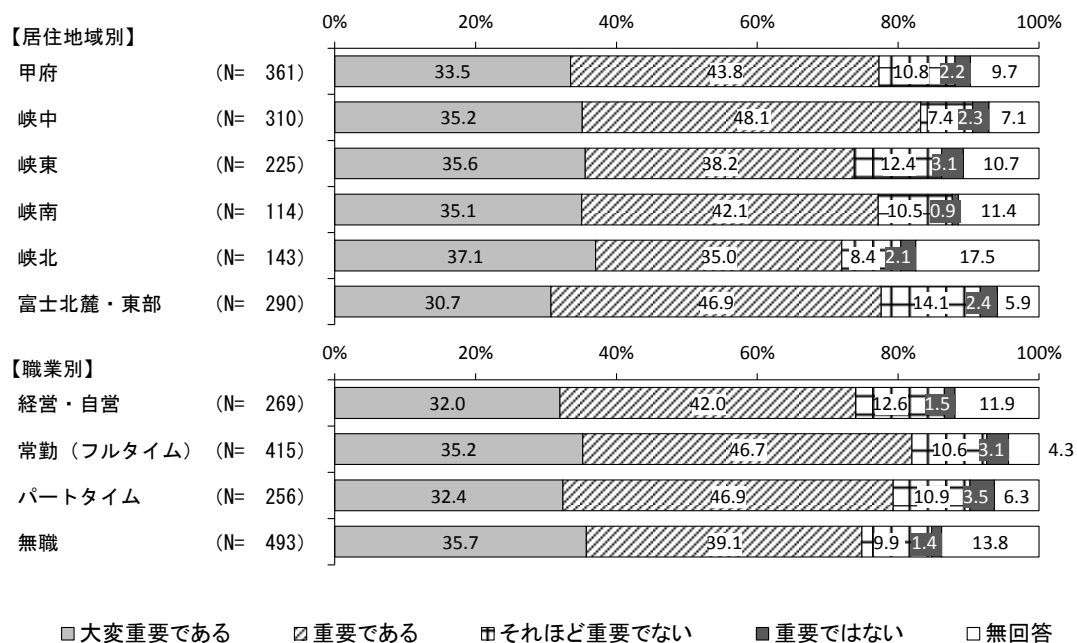
G 男女が互いを人として尊重する学校教育の充実の重要度は、「重要である」が43.4%と最も多く、次いで「大変重要である」が34.2%、「それほど重要でない」が10.8%などとなっています。また、『重要である』は、77.6%となっています。

性別で見ると、女性では「大変重要である」が37.4%と男性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、30代では「大変重要である」、「重要ではない」が他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、30代～50代では『重要である』が8割を超えて他の年代より多くなっています。

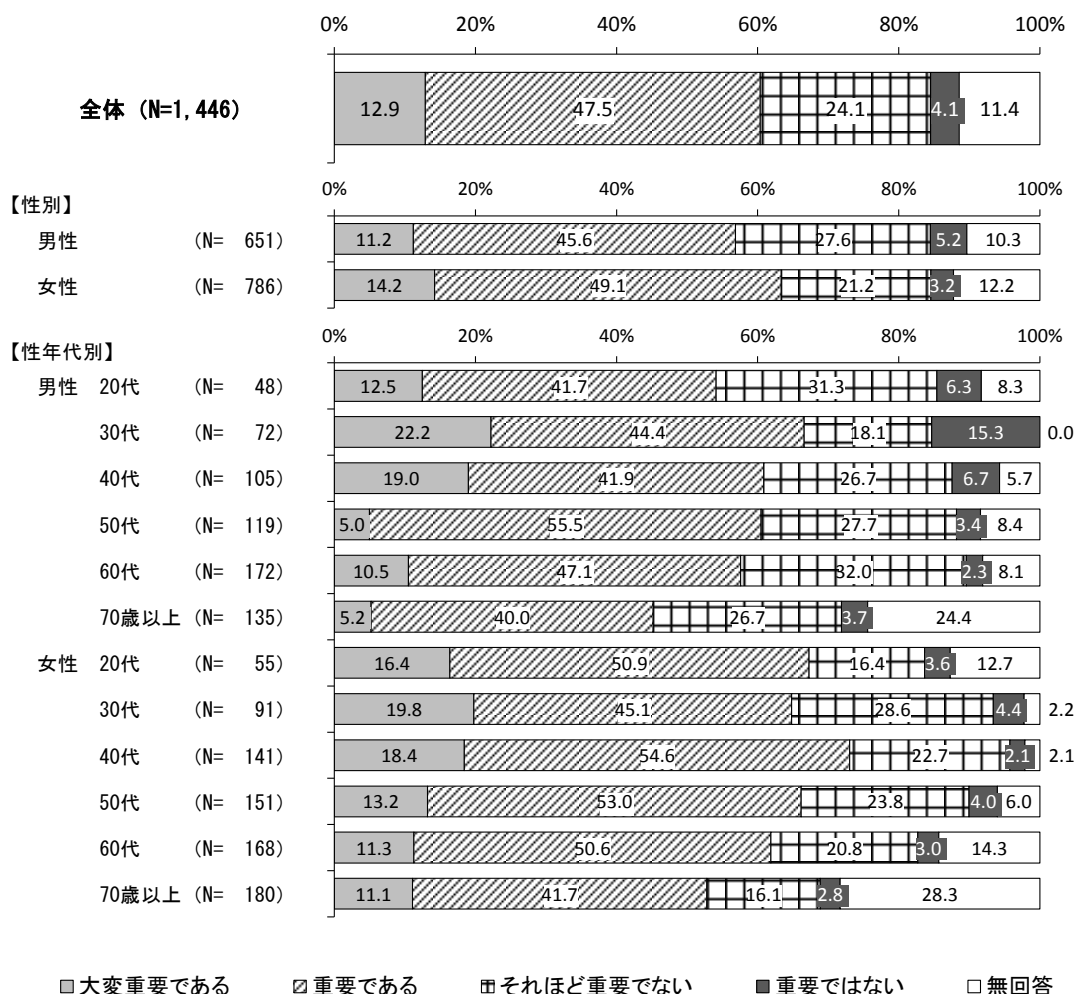
【居住地域別・職業別の状況】



居住地域別で見ると、『重要である』は、峡中では83.3%と他の地域より多くなっています。
 職業別で見ると、常勤（フルタイム）では『重要である』が81.9%と他の職業より多くなっています。

【H 国際的な男女共同参画に関する情報の提供】

【全体・性別・性年代別の状況】



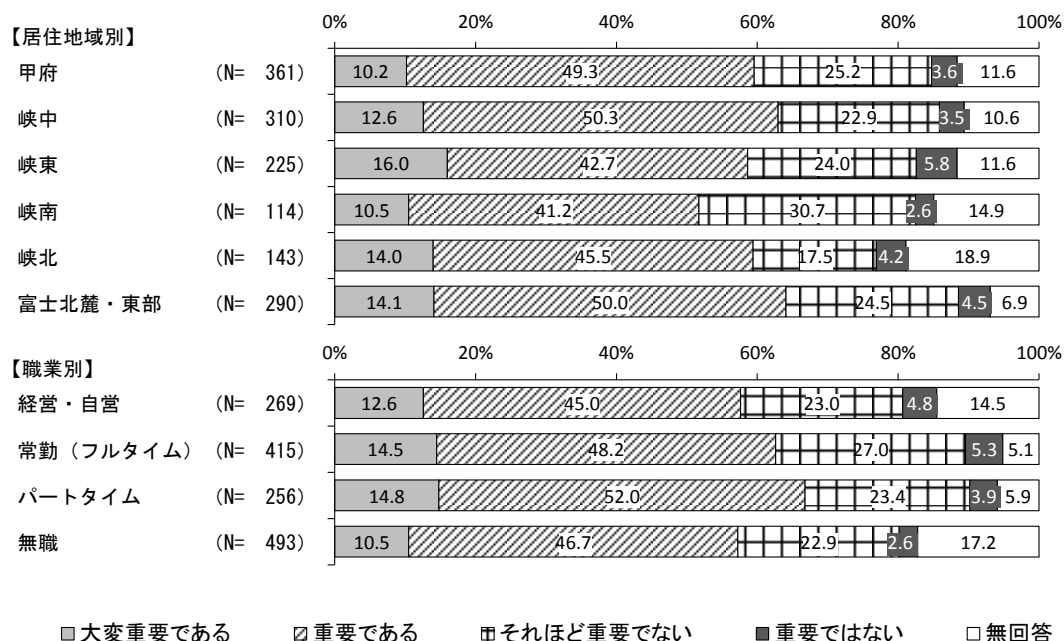
H 国際的な男女共同参画に関する情報の提供の重要度は、「重要である」が47.5%と最も多く、次いで「それほど重要でない」が24.1%、「大変重要である」が12.9%などとなっています。また、『重要である』は、60.4%となっています。

性別で見ると、女性では『重要である』が63.3%と男性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、30代では「大変重要である」、「重要ではない」が他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、『重要である』は、40代では73.0%と他の年代より多くなっています。

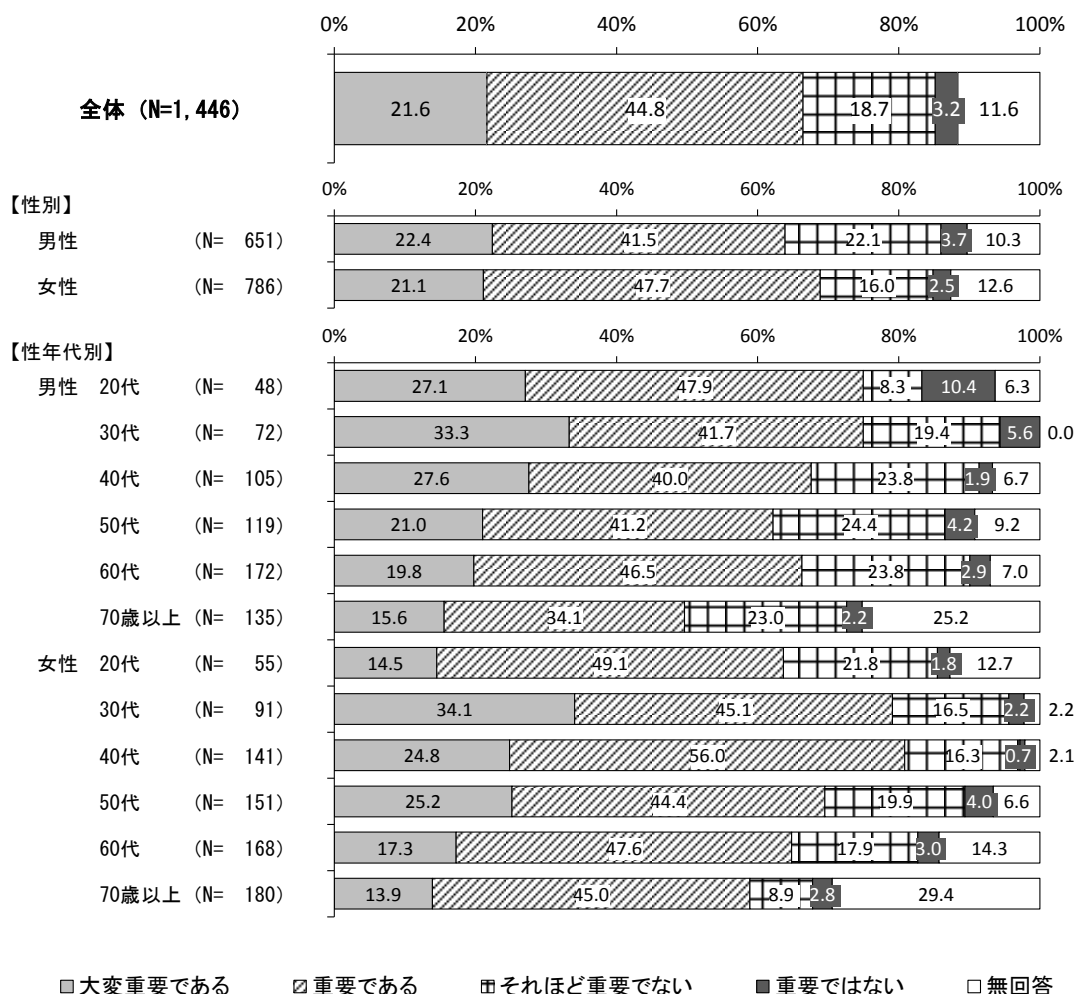
【居住地域別・職業別の状況】



居住地域別で見ると、『重要である』は、峡中・富士北麓・東部では6割を超えて他の地域より多くなっています。
 職業別で見ると、常勤（フルタイム）・パートタイムでは『重要である』が6割を超えて他の職業より多くなっています。

【1 企業トップの意識改革のための研修の充実】

【全体・性別・性年代別の状況】



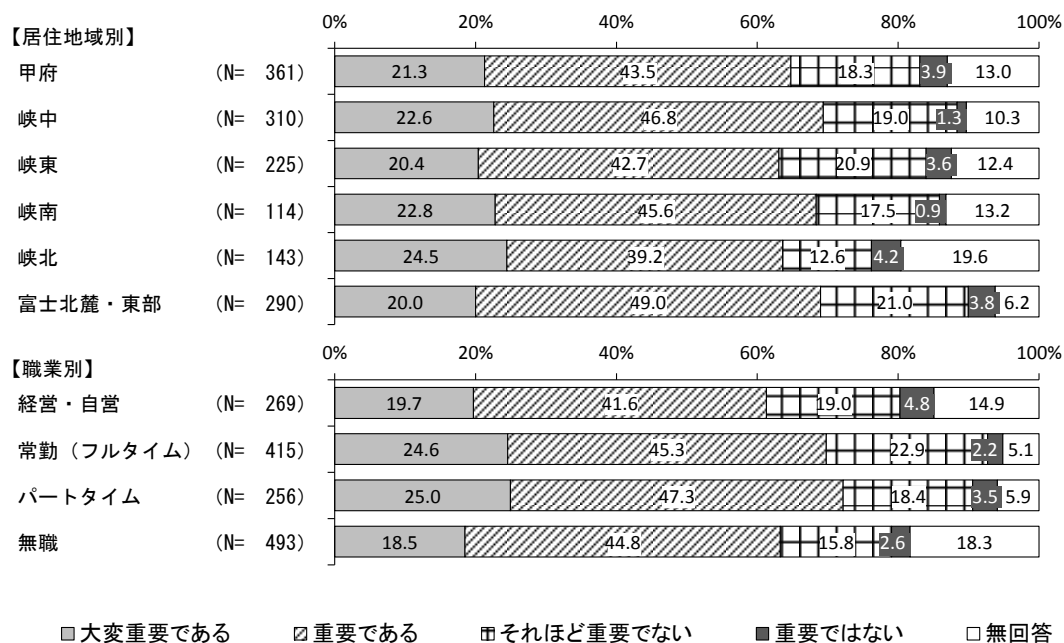
I 企業トップの意識改革のための研修の充実の重要度は、「重要である」が44.8%と最も多く、次いで「大変重要である」が21.6%、「それほど重要でない」が18.7%などとなっています。また、『重要である』は、66.4%となっています。

性年代別（男性）で見ると、30代では「大変重要である」が33.3%と他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、30代では「大変重要である」が34.1%と他の年代より多くなっています。

また、『重要である』は、30代・40代では7割を超えて他の年代より多くなっています。

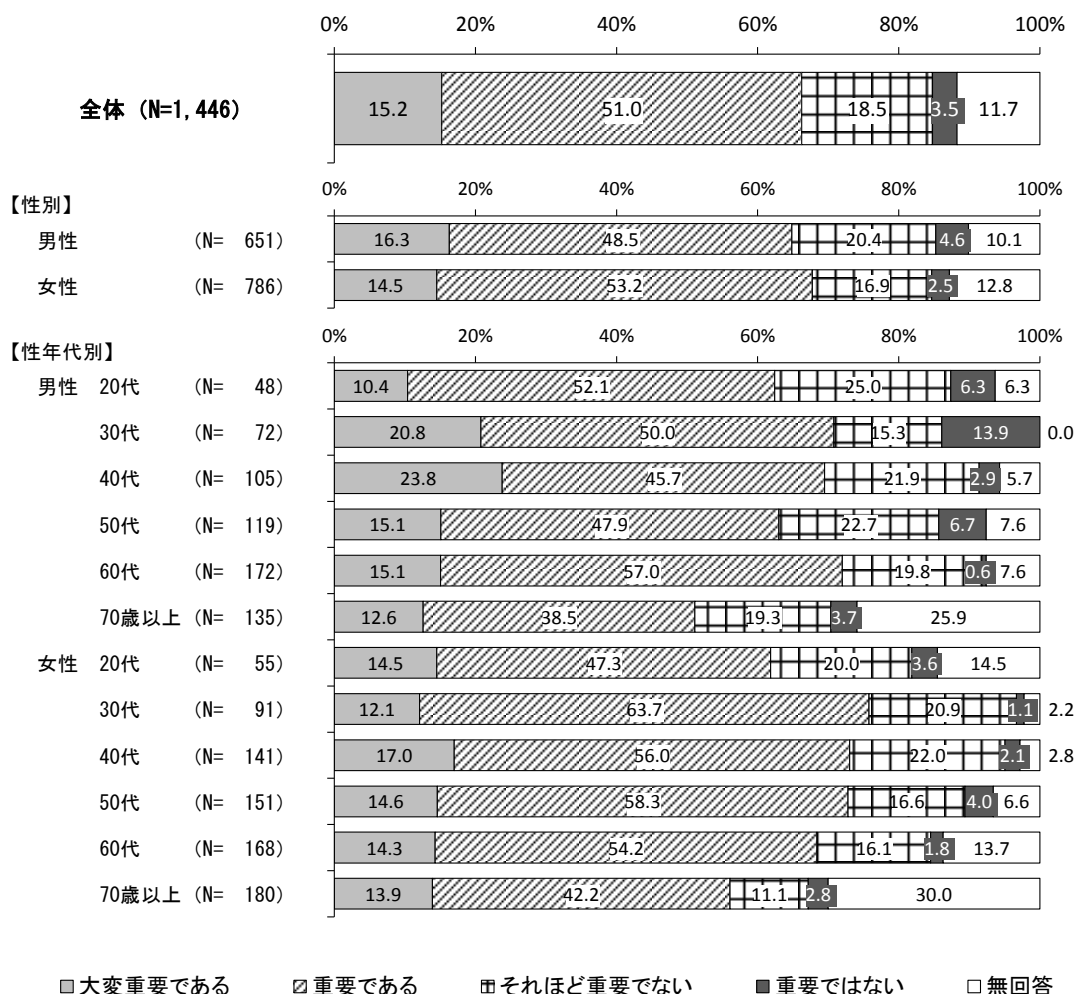
【居住地域別・職業別の状況】



職業別で見ると、『重要である』は、パートタイムでは72.3%と他の職業より多くなっています。

【 J 行政の各種委員会、審議会への女性の登用】

【全体・性別・性年代別の状況】

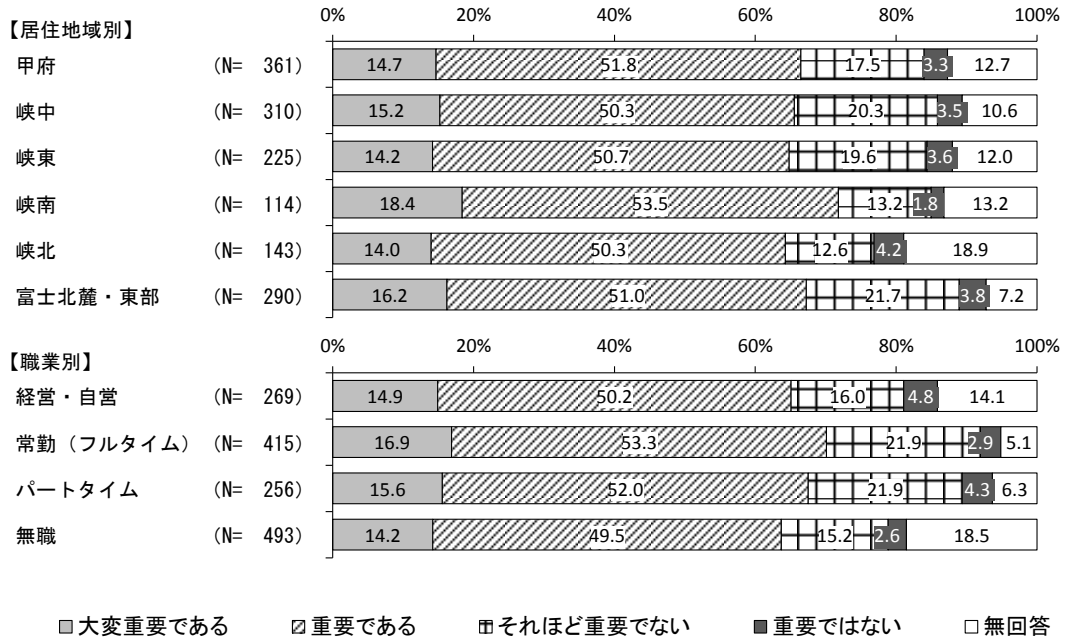


J 行政の各種委員会、審議会への女性の登用の重要度は、「重要である」が51.0%と最も多く、次いで「それほど重要でない」が18.5%、「大変重要である」が15.2%などとなっています。また、『重要である』は、66.2%となっています。

性年代別（男性）でみると、30代では「重要ではない」が13.9%と他の年代より多く、30代・40代では「大変重要である」が2割を超えて他の年代より多くなっています。また、『重要である』は、70歳以上では51.1%と他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）でみると、『重要である』は、70歳以上では56.1%と他の年代より少なくなっています。

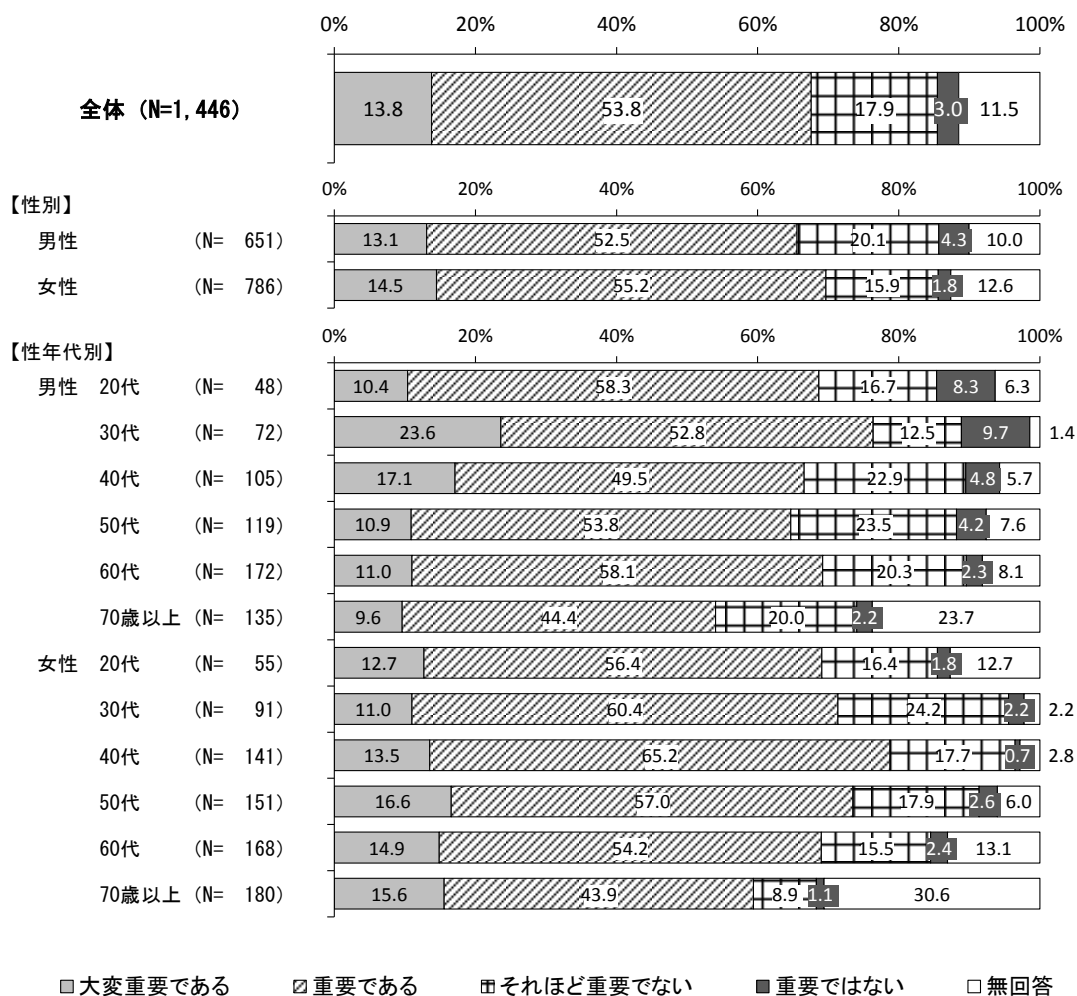
【居住地域別・職業別の状況】



居住地域別で見ると、峡南では『重要である』が71.9%と他の地域より多くなっています。
 職業別で見ると、常勤（フルタイム）では『重要である』が70.2%と他の職業より多くなっています。

【K 女性の活動を支援する団体と行政との協働】

【全体・性別・性年代別の状況】

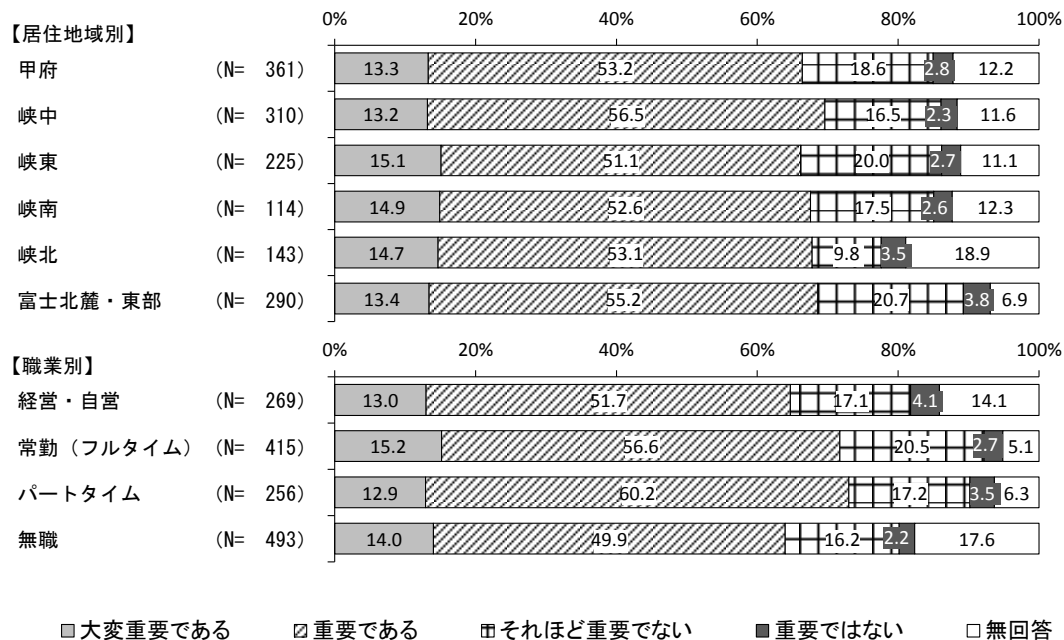


K 女性の活動を支援する団体と行政との協働の重要度は、「重要である」が53.8%と最も多く、次いで「それほど重要でない」が17.9%、「大変重要である」が13.8%などとなっています。また、『重要である』は、67.6%となっています。

性年代別（男性）で見ると、30代では「大変重要である」が23.6%と他の年代より多くなっています。また、『重要である』は、70歳以上では54.0%と他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）で見ると、『重要である』は、70歳以上では59.5%と他の年代より少なくなっています。

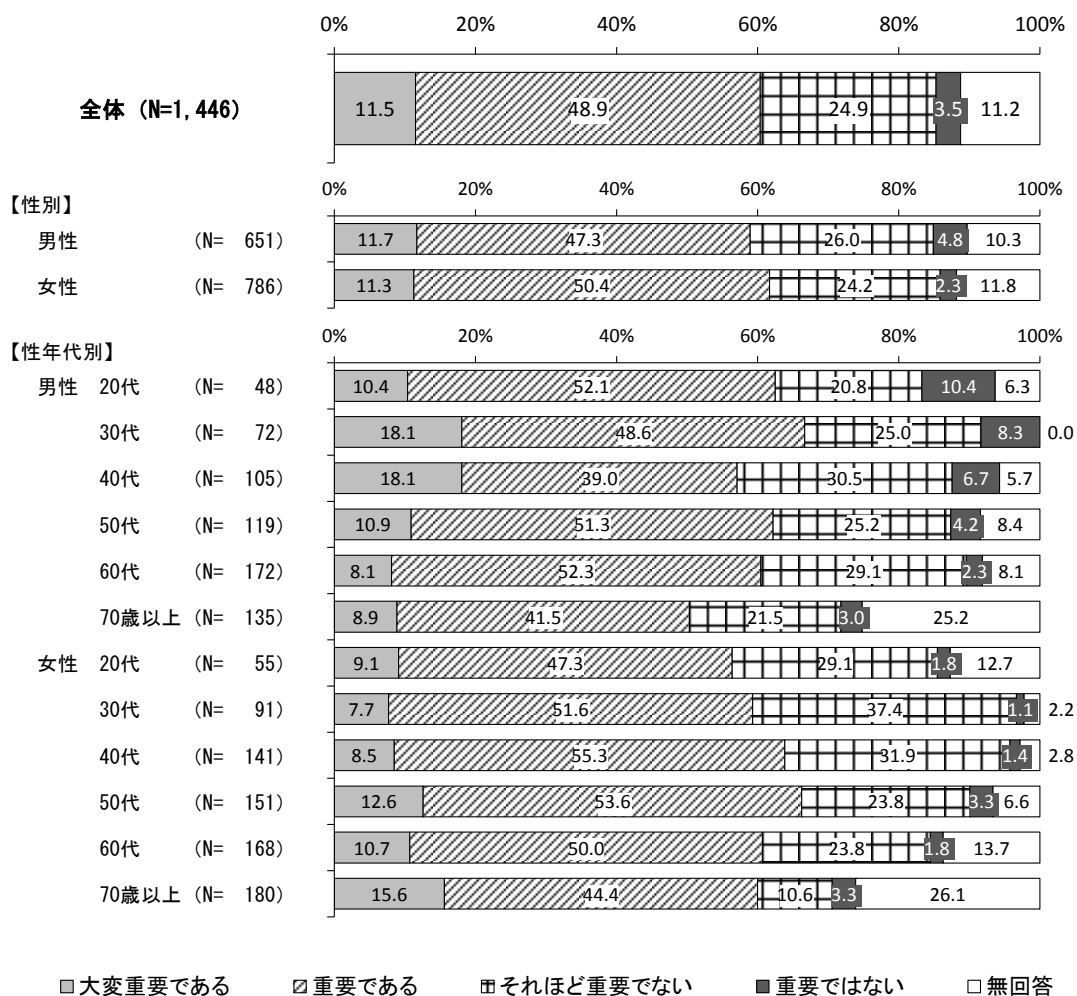
【居住地域別・職業別の状況】



職業別で見ると、常勤（フルタイム）・パートタイムでは『重要である』が7割を超えて他の職業より多くなっています。

【L 地域リーダーとなる女性を育成する研修の充実】

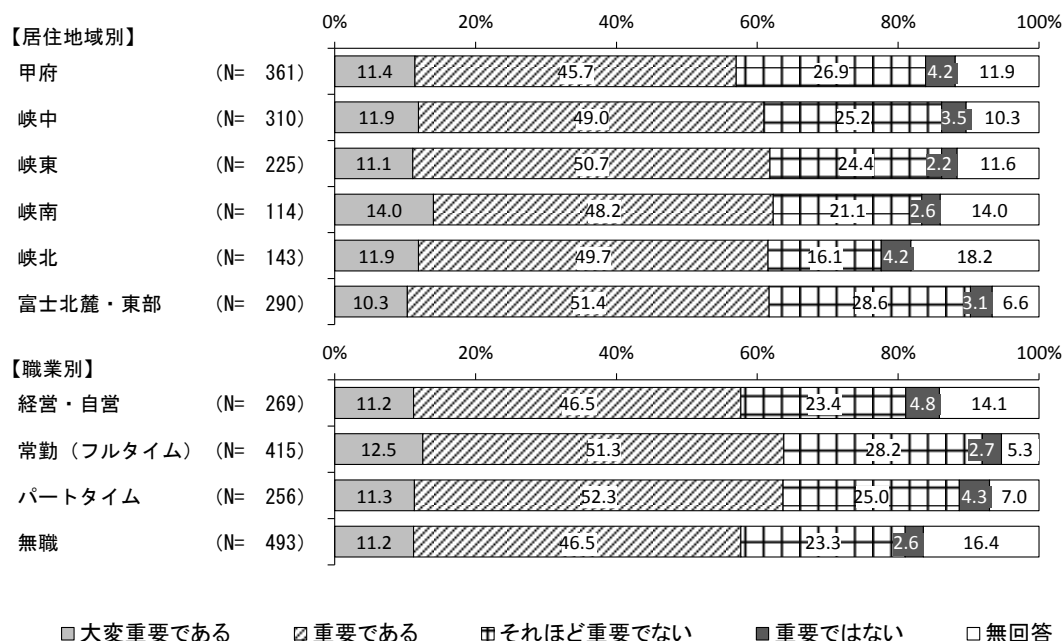
【全体・性別・性年代別の状況】



L 地域リーダーとなる女性を育成する研修の充実の重要度は、「重要である」が48.9%と最も多く、次いで「それほど重要でない」が24.9%、「大変重要である」が11.5%などとなっています。また、『重要である』は、60.4%となっています。

性年代別（男性）でみると、60歳以上では「大変重要である」が1割を下回って他の年代より少なくなっています。また、『重要である』は、40代・70歳以上では6割を下回って他の年代より少なくなっています。

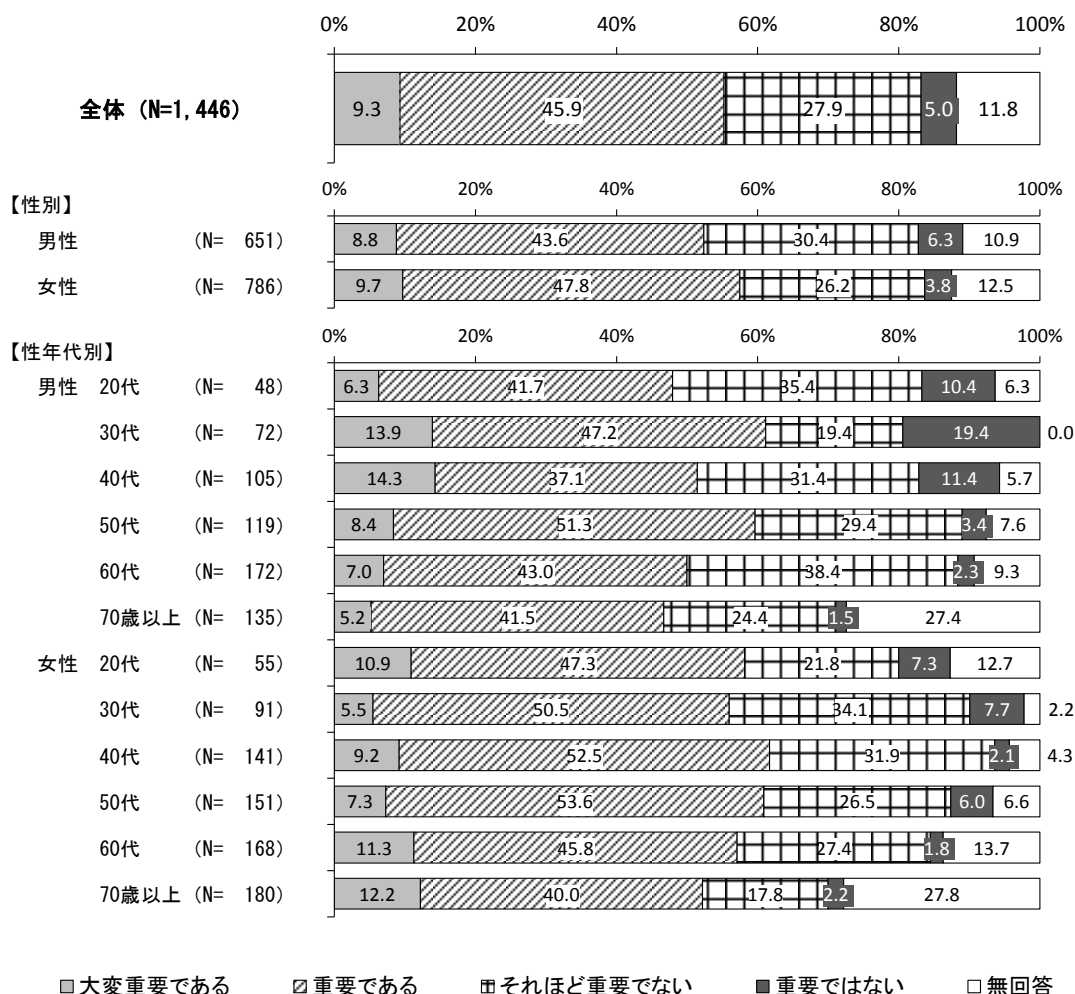
【居住地域別・職業別の状況】



居住地域別で見ると、甲府では『重要である』が57.1%と他の地域より少なくなっています。
 職業別で見ると、常勤（フルタイム）・パートタイムでは『重要である』が6割を超えて他の職業より多くなっています。

【M 男女共同参画推進のための拠点施設の充実】

【全体・性別・性年代別の状況】



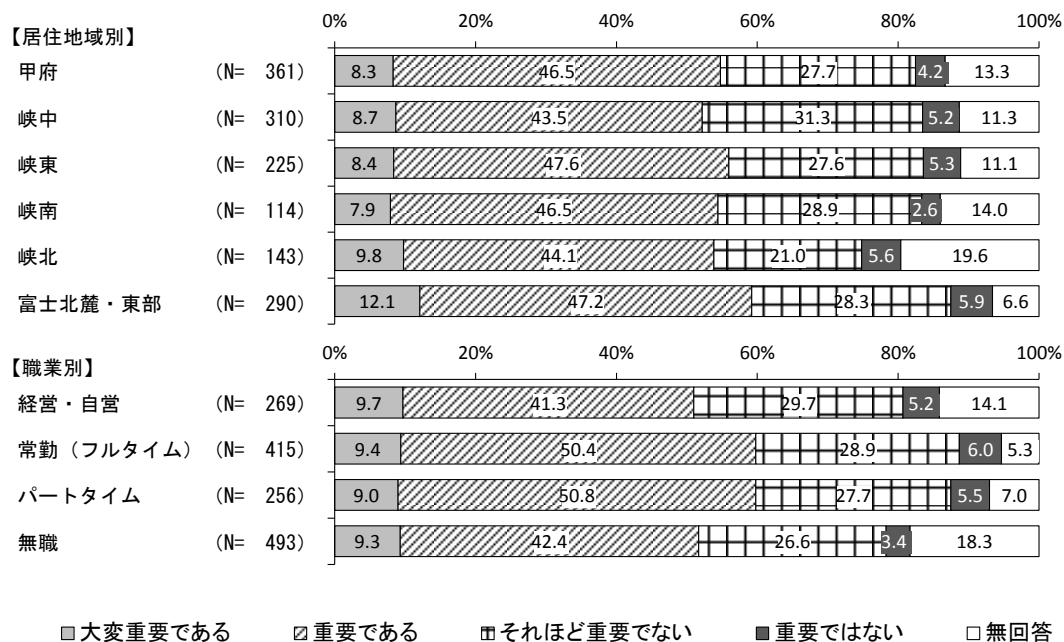
M 男女共同参画推進のための拠点施設の充実の重要度は、「重要である」が45.9%と最も多く、次いで「それほど重要でない」が27.9%、「大変重要である」が9.3%などとなっています。また、『重要である』は、55.2%となっています。

性別で見ると、女性では『重要である』が57.5%と男性より多くなっています。

性年代別（男性）で見ると、20代～40代では「重要ではない」が1割を超えて他の年代より多くなっています。また、20代・70歳以上では『重要である』が半数を下回って他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）で見ると、40代・50代では『重要である』が6割を超えて他の年代より多くなっています。

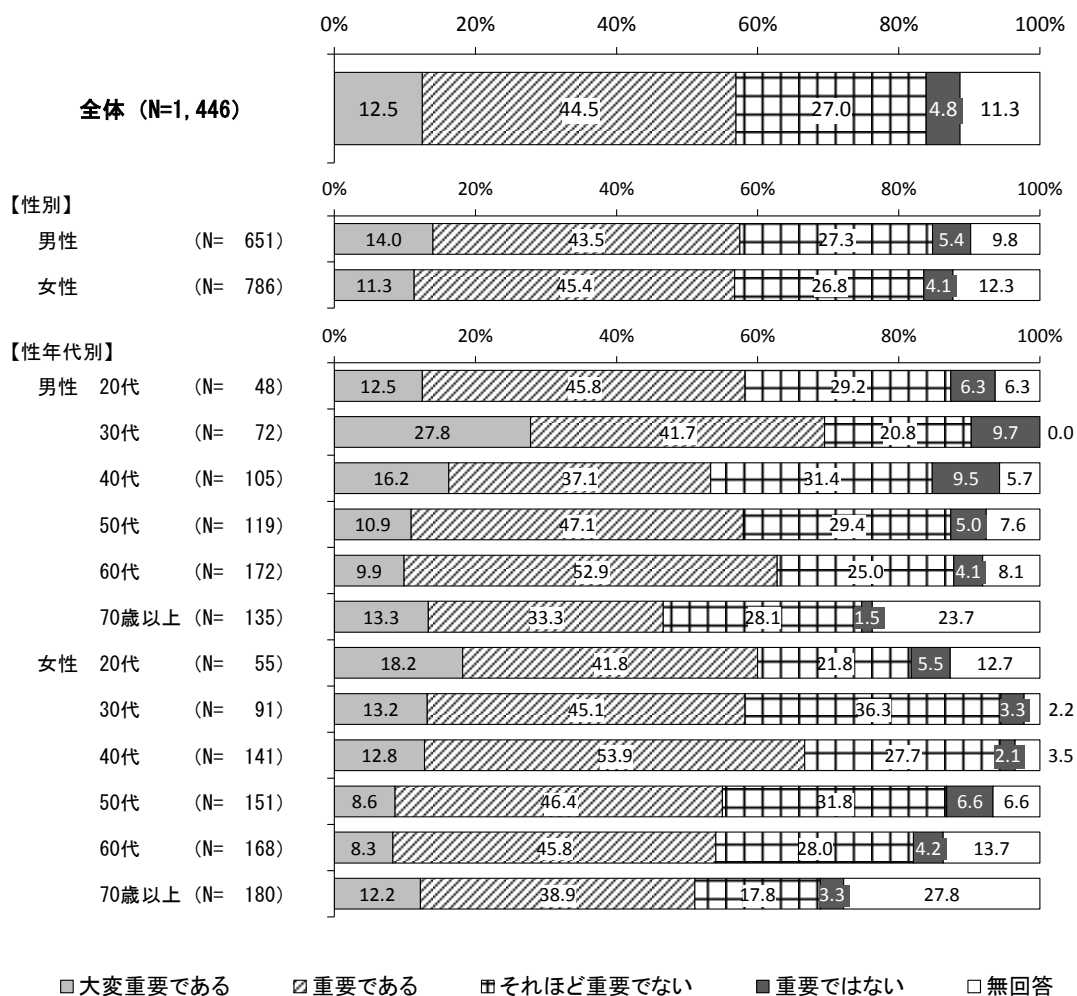
【居住地域別・職業別の状況】



職業別でみると、常勤（フルタイム）・パートタイムでは『重要である』がそれぞれ59.8%と他の職業より多くなっています。

【N 自治会長などの地域リーダーの意識改革のための研修の充実】

【全体・性別・性年代別の状況】

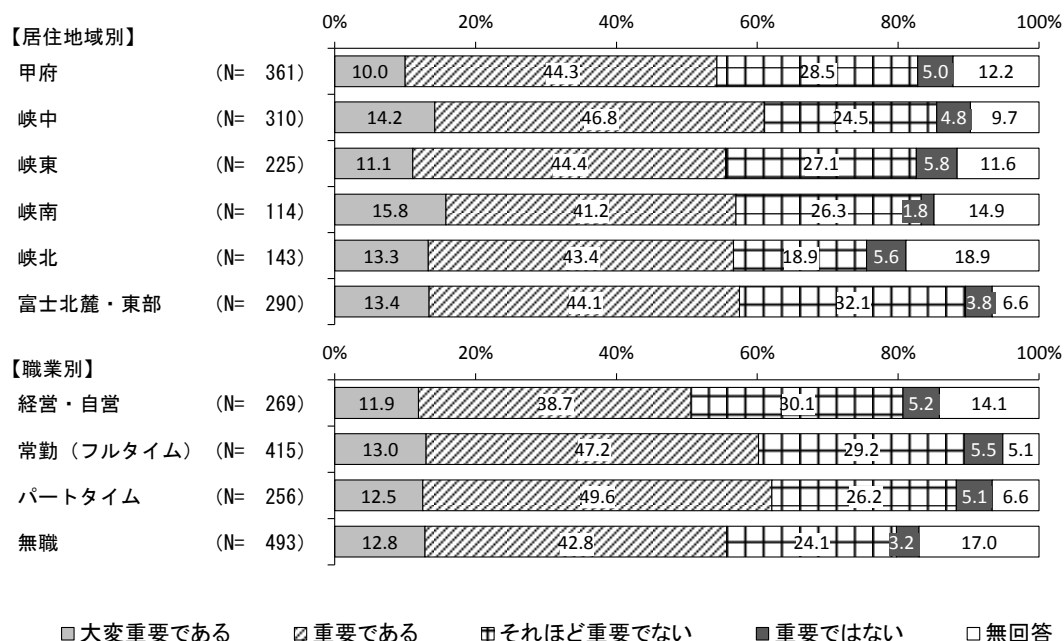


N 自治会長などの地域リーダーの意識改革のための研修の充実の重要度は、「重要である」が44.5%と最も多く、次いで「それほど重要でない」が27.0%、「大変重要である」が12.5%などとなっています。また、『重要である』は、57.0%となっています。

性年代別（男性）で見ると、30代では「大変重要である」が27.8%と他の年代より多くなっています。また、『重要である』は、70歳以上では46.6%と他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）で見ると、『重要である』は、20代・40代では6割を超えて他の年代より多くなっています。

【居住地域別・職業別の状況】

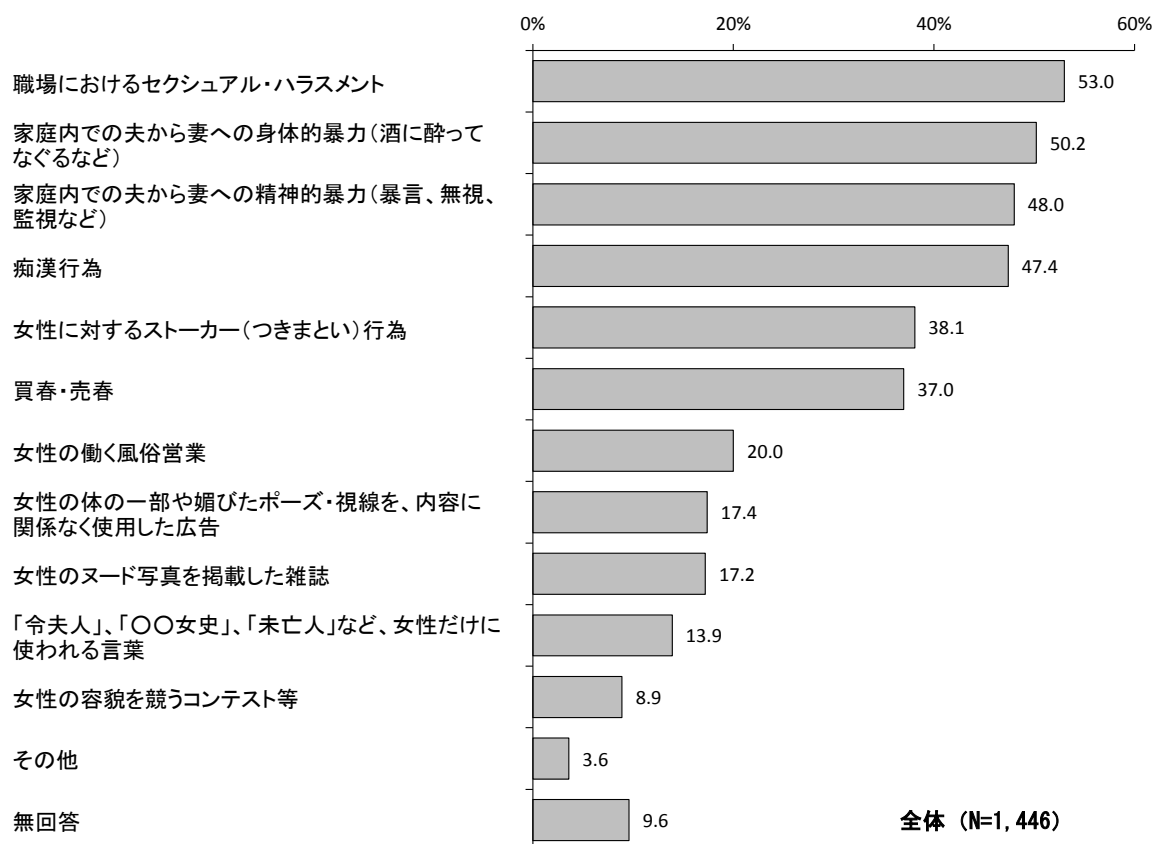


居住地域別で見ると、峡中では『重要である』が61.0%と他の地域より多くなっています。
 職業別で見ると、『重要である』は、常勤（フルタイム）・パートタイムでは6割を超えて他の職業より多くなっています。

◆ 人権について ◆

問17 普段あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じることはどのようなことですか。
(回答はいくつでも)

[全体の状況]



普段、女性の人権が尊重されていないと感じることは、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」が53.0%と最も多く、次いで「家庭内での夫から妻への身体的暴力(酒に酔ってなぐるなど)」が50.2%、「家庭内での夫から妻への精神的暴力(暴言、無視、監視など)」が48.0%などとなっています。

性別で見ると、女性では「家庭内での夫から妻への精神的暴力(暴言、無視、監視など)」が53.3%と男性より多くなっています。

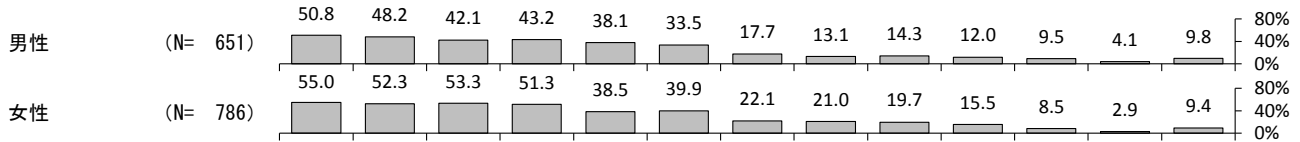
性年代別(男性)で見ると、20代・40代では「買春・売春」が3割を下回って他の年代より少なく、30代・40代では「女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告」が1割を下回って他の年代より少なくなっています。また、40代では「女性に対するストーカー(つきまとい)行為」が29.5%と他の年代より少なくなっています。

性年代別(女性)で見ると、40代では「家庭内での夫から妻への精神的暴力(暴言、無視、監視など)」、「痴漢行為」が他の年代より多く、60代では「家庭内での夫から妻への身体的暴力(酒に酔ってなぐるなど)」が61.9%と他の年代より多くなっています。

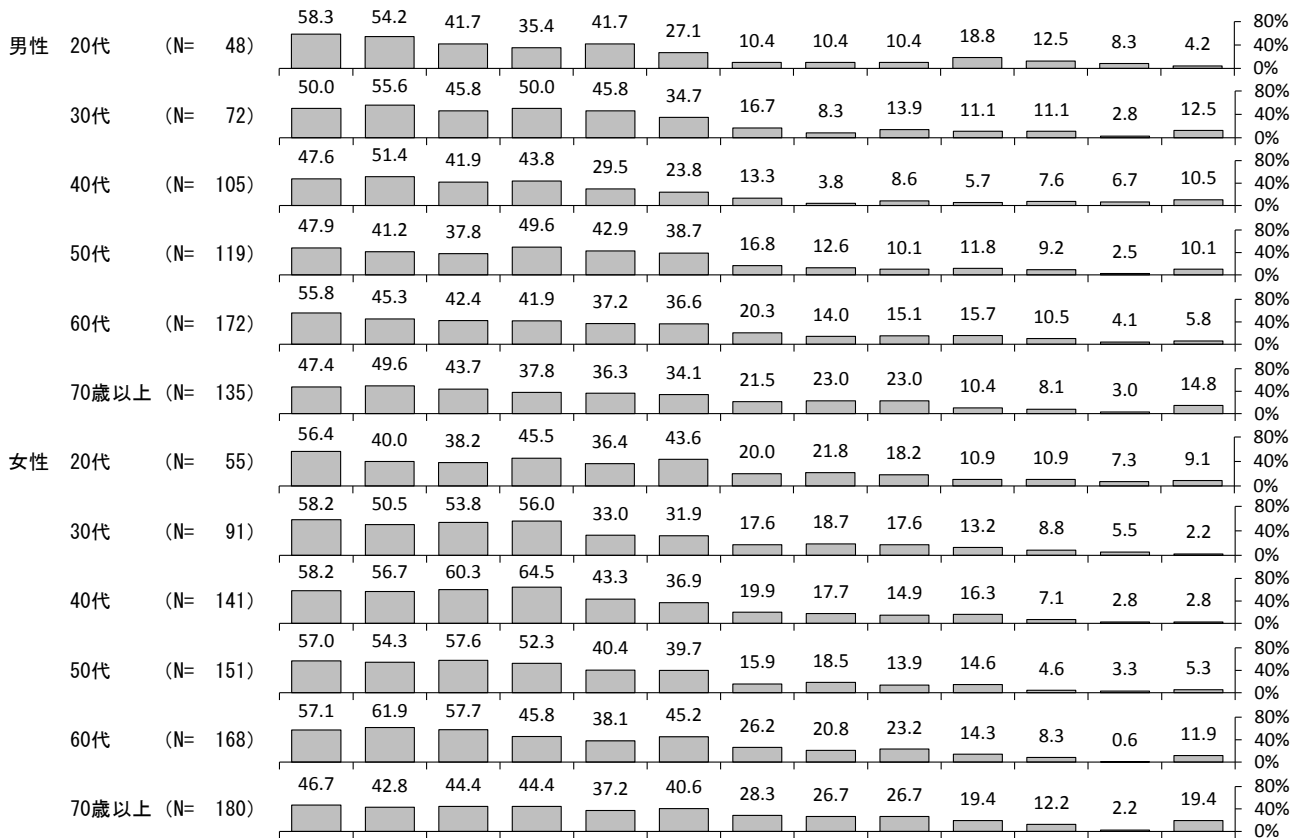
居住地域別で見ると、甲府・峡中では「家庭内での夫から妻への精神的暴力(暴言、無視、監視など)」が半数を超えて他の地域より多くなっています。

【性別・性年代別の状況】

【性別】



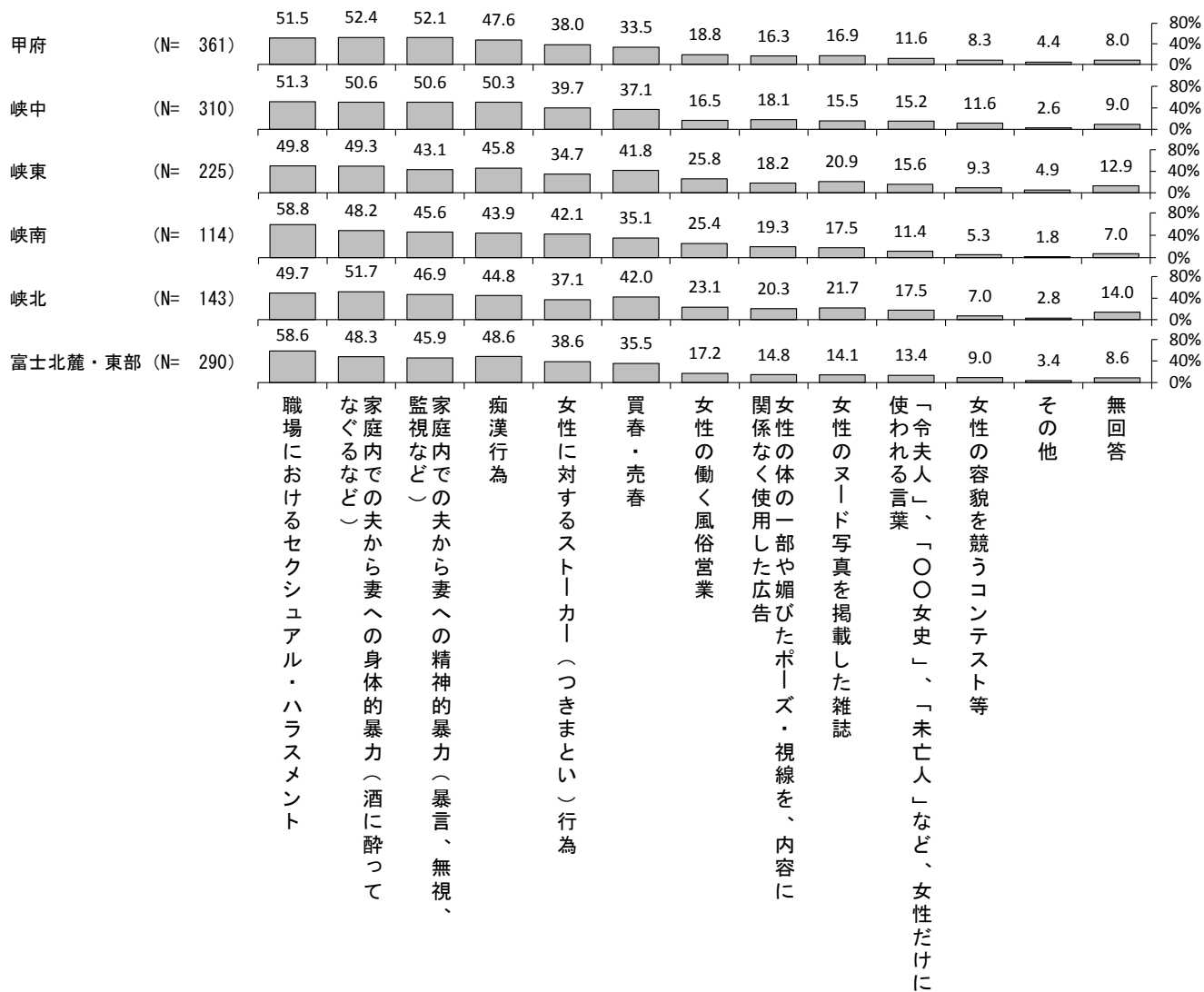
【性年代別】



職場におけるセクシュアル・ハラスメント
 家庭内での夫から妻への身体的暴力(酒に酔って
 なるなど)
 家庭内での夫から妻への精神的暴力(暴言、無視、
 監視など)
 痴漢行為
 女性に対するストーカー(つきまとい)行為
 買春・売春
 女性の働く風俗営業
 女性関係なく使用した広告
 女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に
 関係なく使用した広告
 女性のヌード写真を掲載した雑誌
 「令夫人」、「〇〇女史」、「未亡人」など、女性だけに
 使われる言葉
 女性の容貌を競うコンテスト等
 その他
 無回答

【居住地域別の状況】

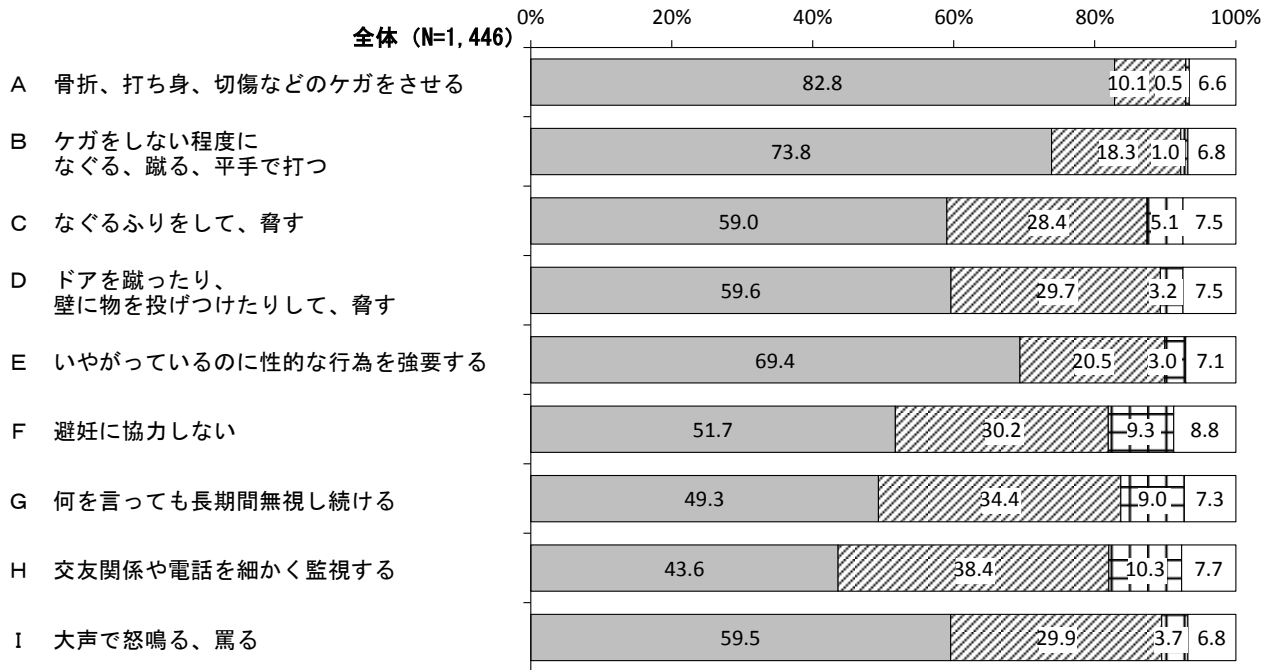
【居住地域別】



◆ DVについて ◆

問 18 あなたは、夫婦の間で次のようなことが行われた場合、それを暴力だと思いますか。

[全体の状況]



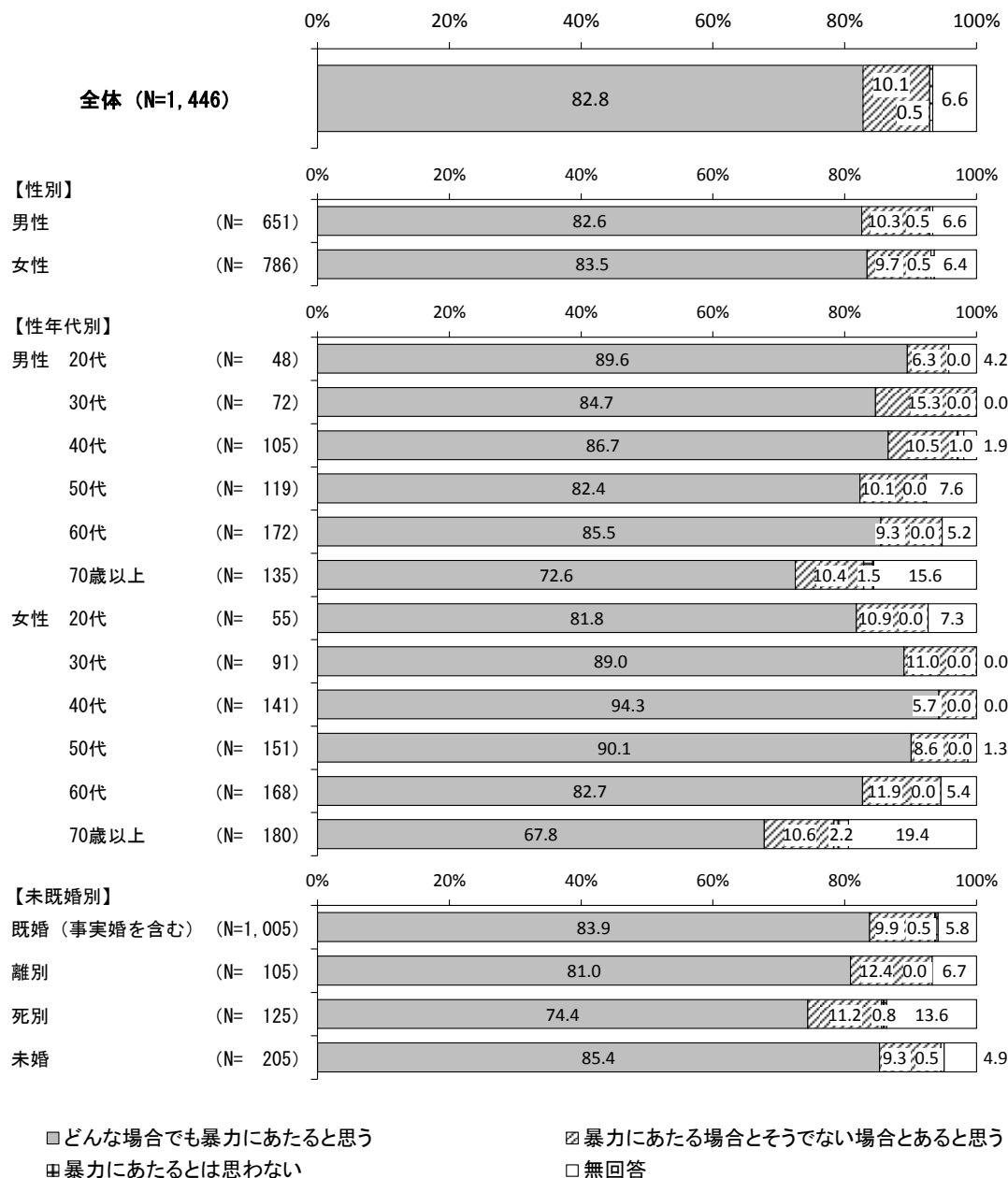
どんな場合でも暴力にあたると思う
 暴力にあたるとは思わない

暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う
 無回答

夫婦間における暴力は、【A 骨折、打ち身、切傷などのケガをさせる】、【B ケガをしない程度になぐる、蹴る、平手で打つ】、【E いやがっているのに性的な行為を強要する】では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が6割を超えている一方、【G 何を言っても長期間無視し続ける】、【H 交友関係や電話を細かく監視する】では半数を下回っています。

【A 骨折、打ち身、切傷などのケガをさせる】

【全体・性別・性年代別・未既婚別の状況】



A 骨折、打ち身、切傷などのケガをさせることは、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が82.8%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が10.1%、「暴力にあたるとは思わない」が0.5%となっています。

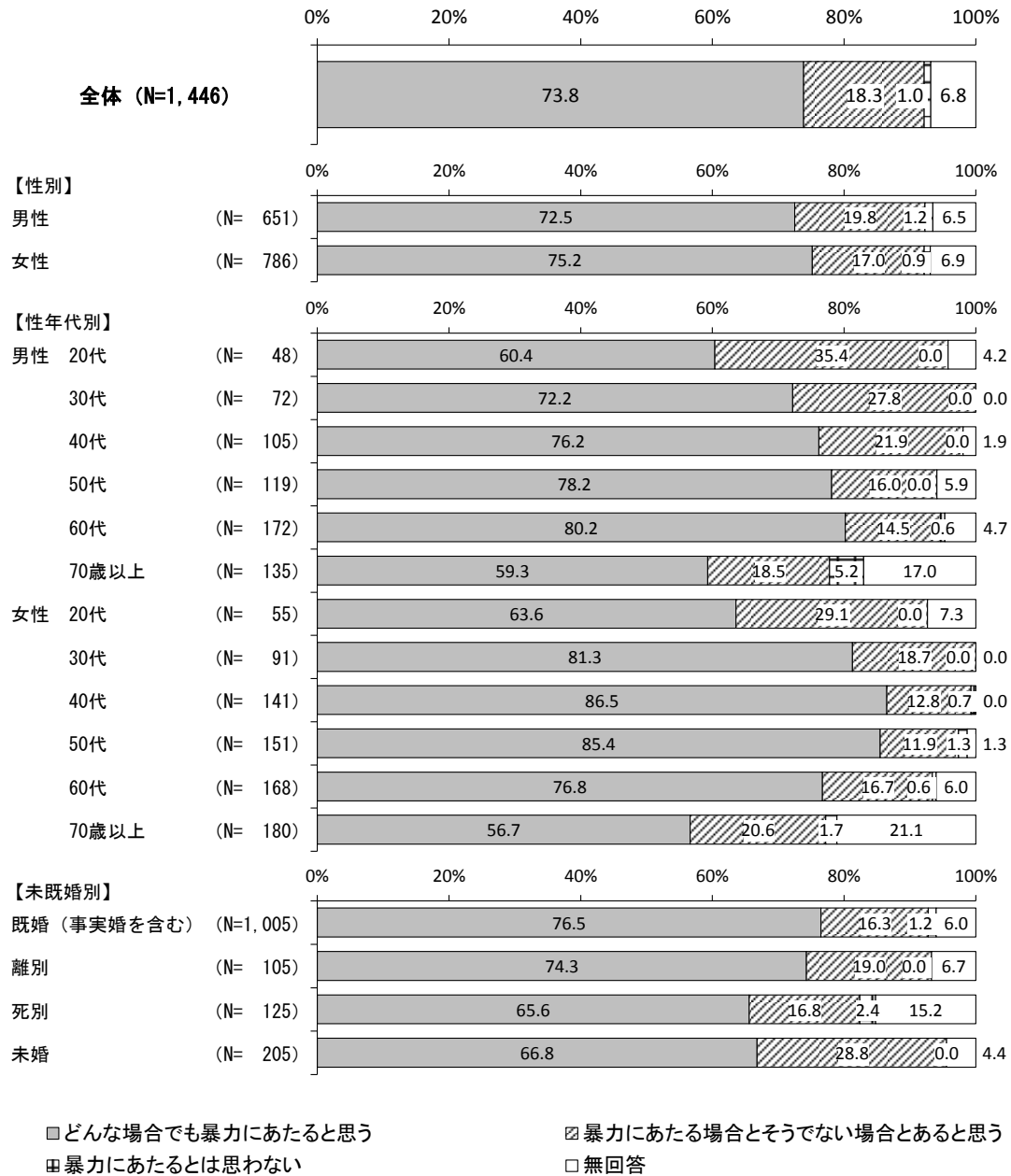
性年代別（男性）で見ると、70歳以上では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が72.6%と他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）で見ると、70歳以上では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が67.8%と他の年代より少なくなっています。

未既婚別で見ると、死別では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が74.4%と他の婚姻状況より少なくなっています。

【B ケガをしない程度になぐる、蹴る、平手で打つ】

【全体・性別・性年代別・未既婚別の状況】



B ケガをしない程度になぐる、蹴る、平手で打つことは、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が73.8%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が18.3%、「暴力にあたるとは思わない」が1.0%となっています。

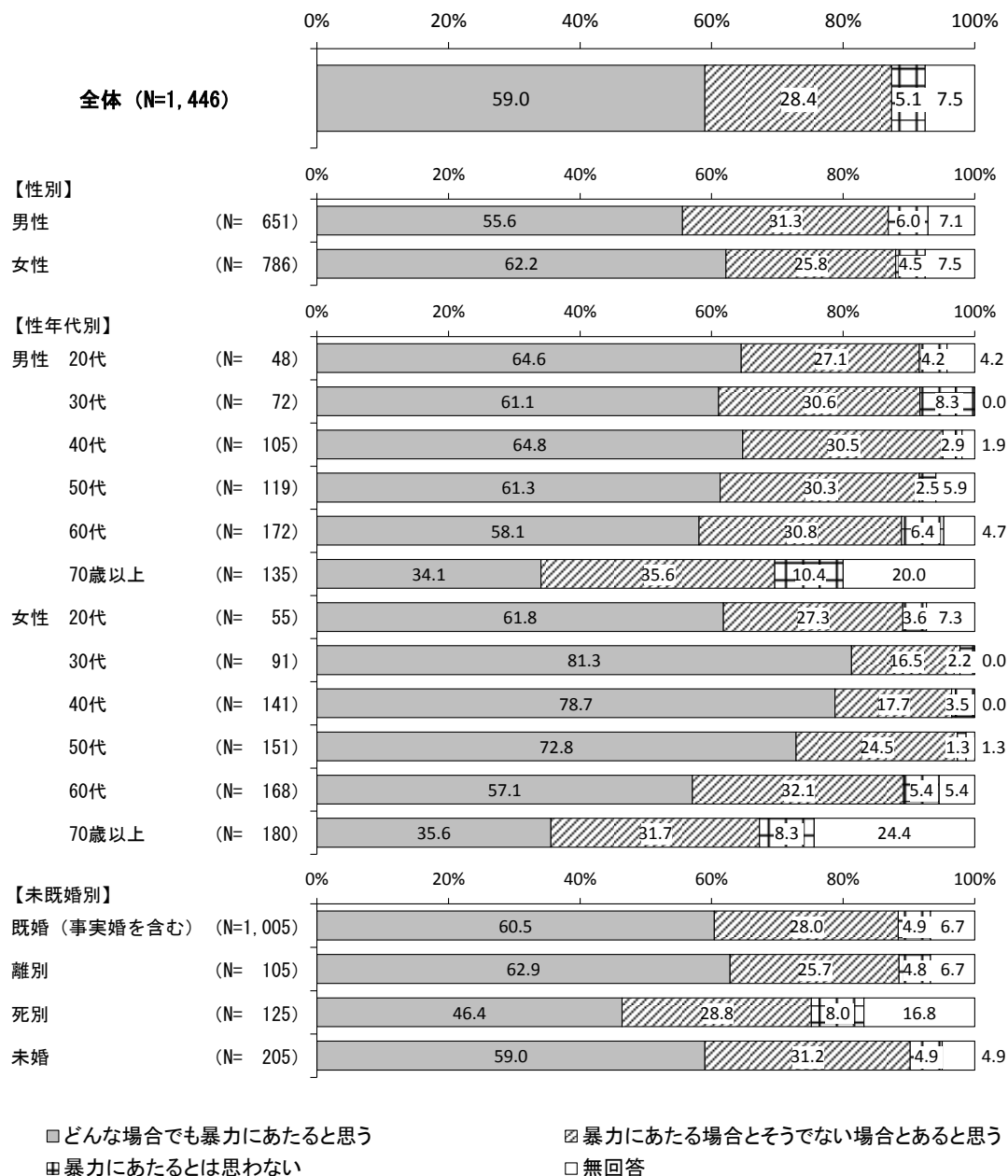
性年代別（男性）でみると、20代では「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が35.4%と他の年代より多く、20代・70歳以上では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割を下回って他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）でみると、20代・70歳以上では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割を下回って他の年代より少なく、「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が2割を超えて他の年代より多くなっています。

未既婚別でみると、死別・未婚では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割を下回って他の婚姻状況より少なく、未婚では「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が28.8%と他の婚姻状況より多くなっています。

【C なぐるふりをして、脅す】

【全体・性別・性年代別・未既婚別の状況】



C なぐるふりをして、脅すことは、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が59.0%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が28.4%、「暴力にあたるとは思わない」が5.1%となっています。

性別で見ると、女性では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が62.2%と男性より多くなっています。

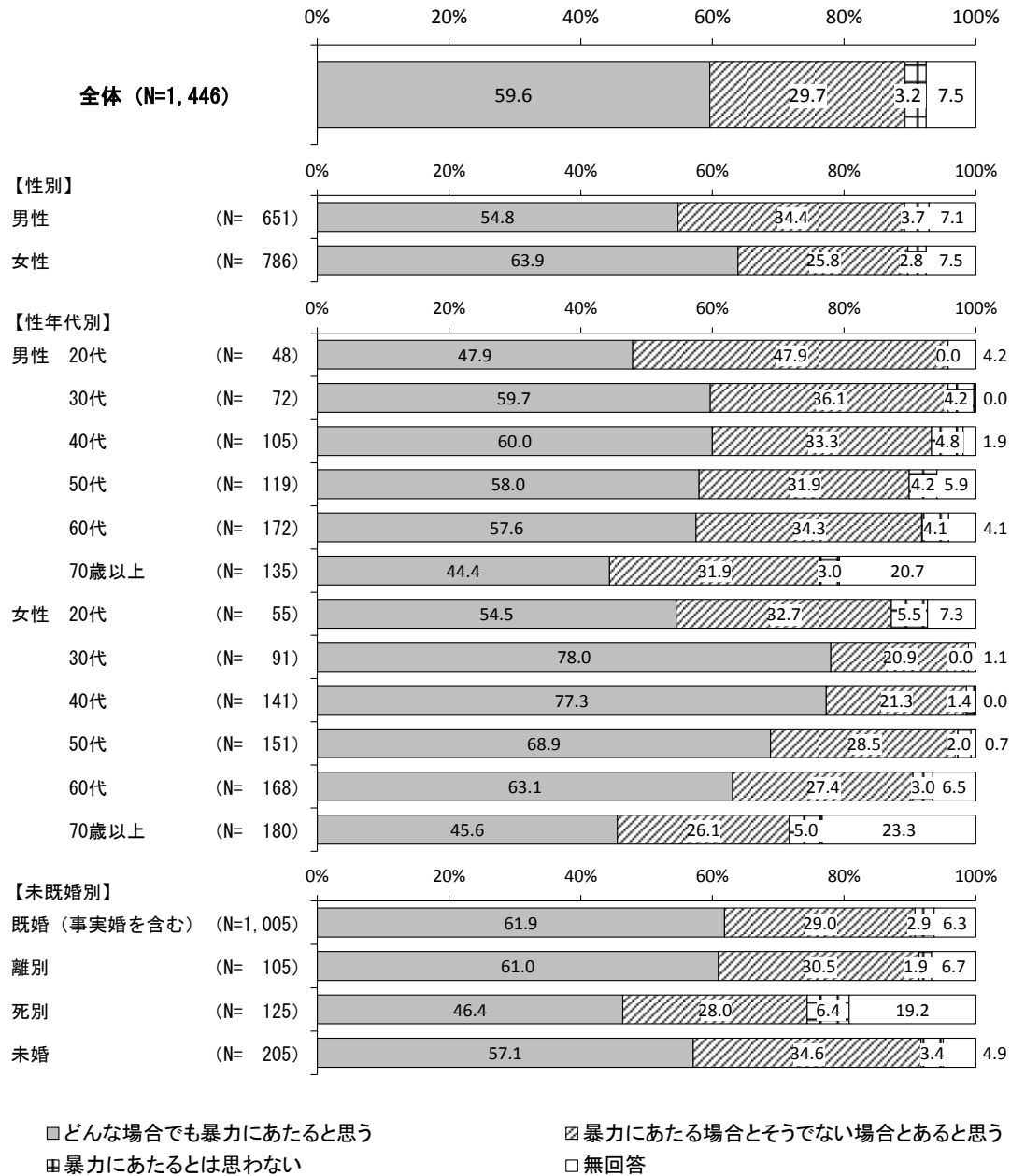
性年代別（男性）で見ると、70歳以上では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が34.1%と他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）で見ると、70歳以上では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が35.6%と他の年代より少なくなっています。

未既婚別で見ると、死別では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が46.4%と他の婚姻状況より少なくなっています。

【D ドアを蹴ったり、壁に物を投げつけたりして、脅す】

【全体・性別・性年代別・未既婚別の状況】



D ドアを蹴ったり、壁に物を投げつけたりして、脅すことは、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が59.6%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が29.7%、「暴力にあたるとは思わない」が3.2%となっています。

性別で見ると、女性では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が63.9%と男性より多くなっています。

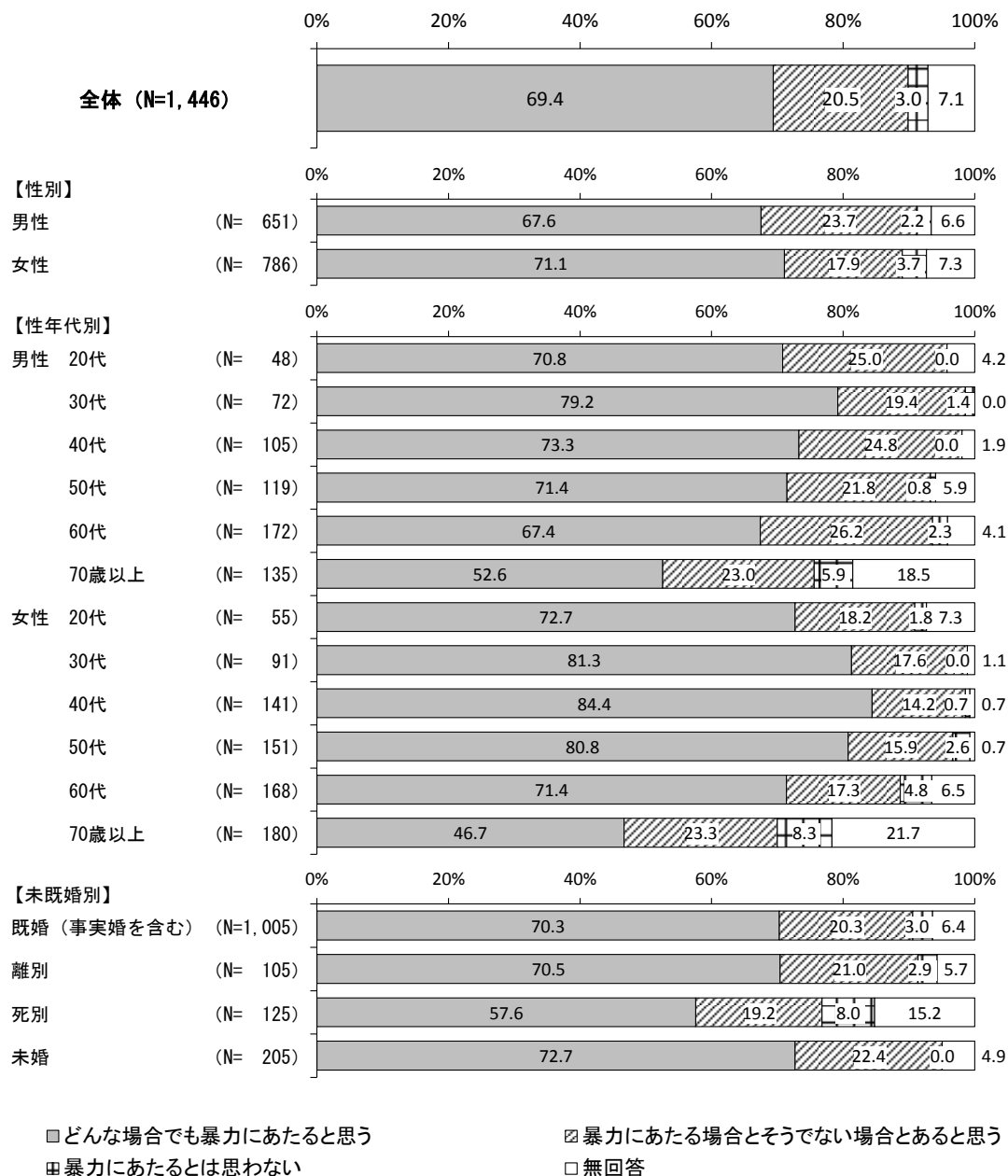
性年代別（男性）で見ると、20代では「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が47.9%と他の年代より多く、20代・70歳以上では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が半数を下回って他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）で見ると、20代では「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が32.7%と他の年代より多く、30代・40代では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割を超えて他の年代より多くなっています。

未既婚別で見ると、死別では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が46.4%と他の婚姻状況より少なくなっています。

【E いやがっているのに性的な行為を強要する】

【全体・性別・性年代別・未既婚別の状況】



E いやがっているのに性的な行為を強要することは、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が69.4%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が20.5%、「暴力にあたると思わない」が3.0%となっています。

性別でみると、男性では「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が23.7%と女性より多くなっています。

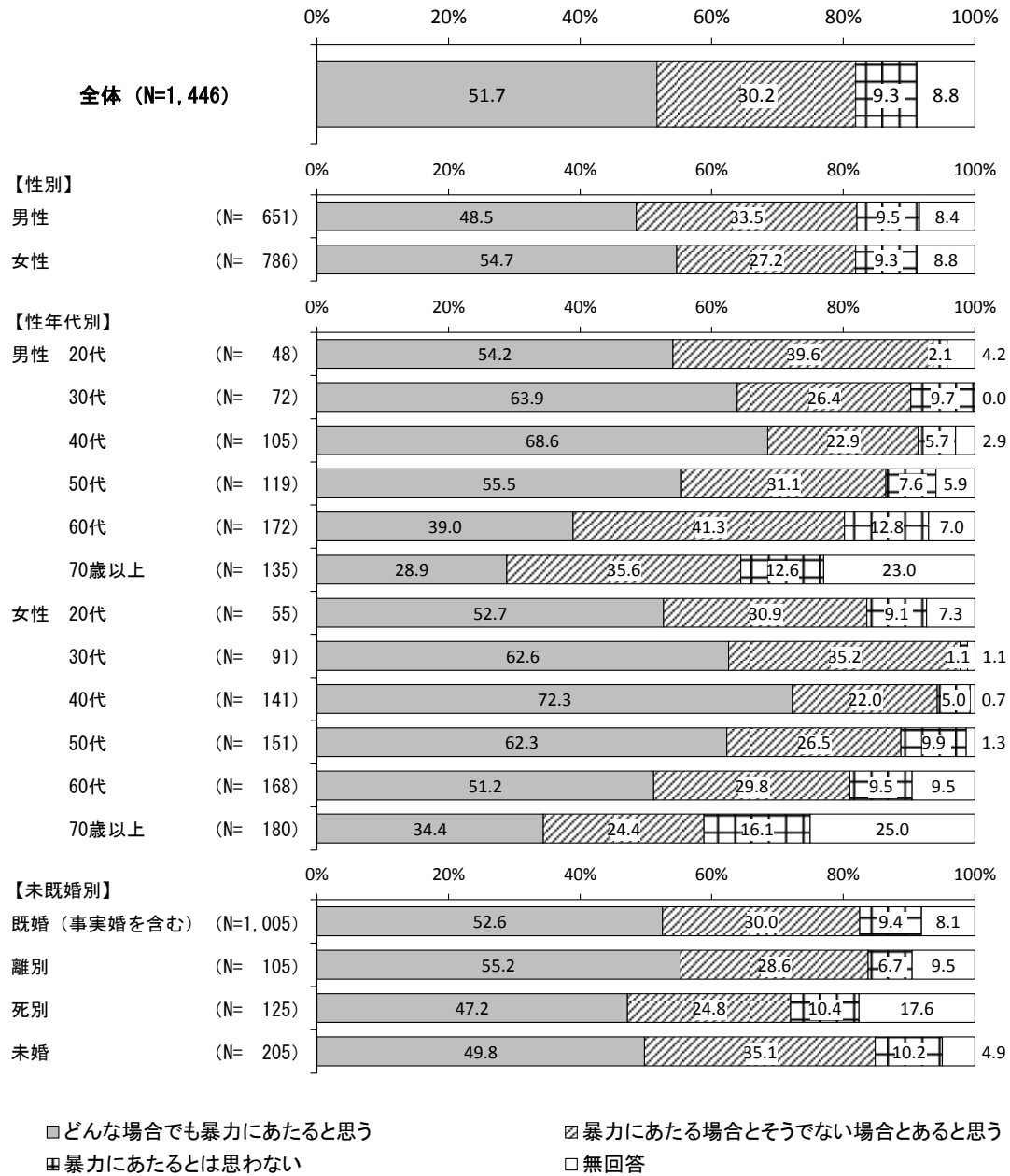
性年代別（男性）でみると、70歳以上では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が52.6%と他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）でみると、70歳以上では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が46.7%と他の年代より少なくなっています。

未既婚別でみると、死別では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が57.6%と他の婚姻状況より少なくなっています。

【F 避妊に協力しない】

【全体・性別・性年代別・未既婚別の状況】



F 避妊に協力しないことは、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が51.7%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が30.2%、「暴力にあたるとは思わない」が9.3%となっています。

性別で見ると、男性では「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が33.5%と女性より多くなっています。

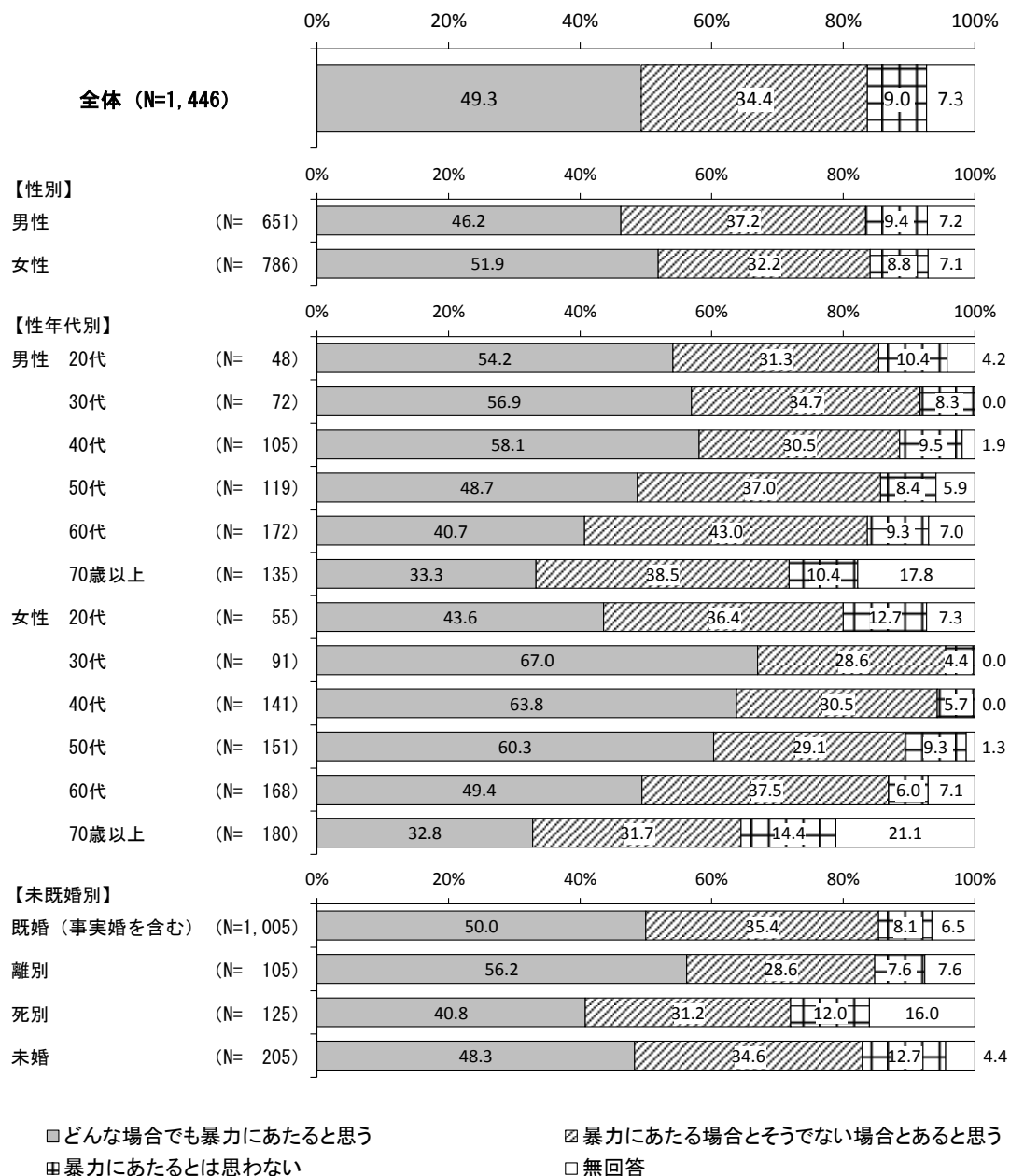
性年代別（男性）で見ると、60代では「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が41.3%と他の年代より多くなっています。また、60歳以上では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が4割を下回って他の年代より少なく、「暴力にあたるとは思わない」が1割を超えて他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、20代・30代では「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が3割を超えて他の年代より多く、40代では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が72.3%と他の年代より多くなっています。また、70歳以上では「暴力にあたるとは思わない」が16.1%と他の年代より多くなっています。

未既婚別で見ると、離別・死別では「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が3割を下回って他の婚姻状況より少なくなっています。

【G 何を言っても長期間無視し続ける】

【全体・性別・性年代別・未既婚別の状況】



G 何を言っても長期間無視し続けることは、「どのような場合でも暴力にあたると思う」が49.3%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が34.4%、「暴力にあたるとは思わない」が9.0%となっています。

性別で見ると、女性では「どのような場合でも暴力にあたると思う」が51.9%と男性より多くなっています。

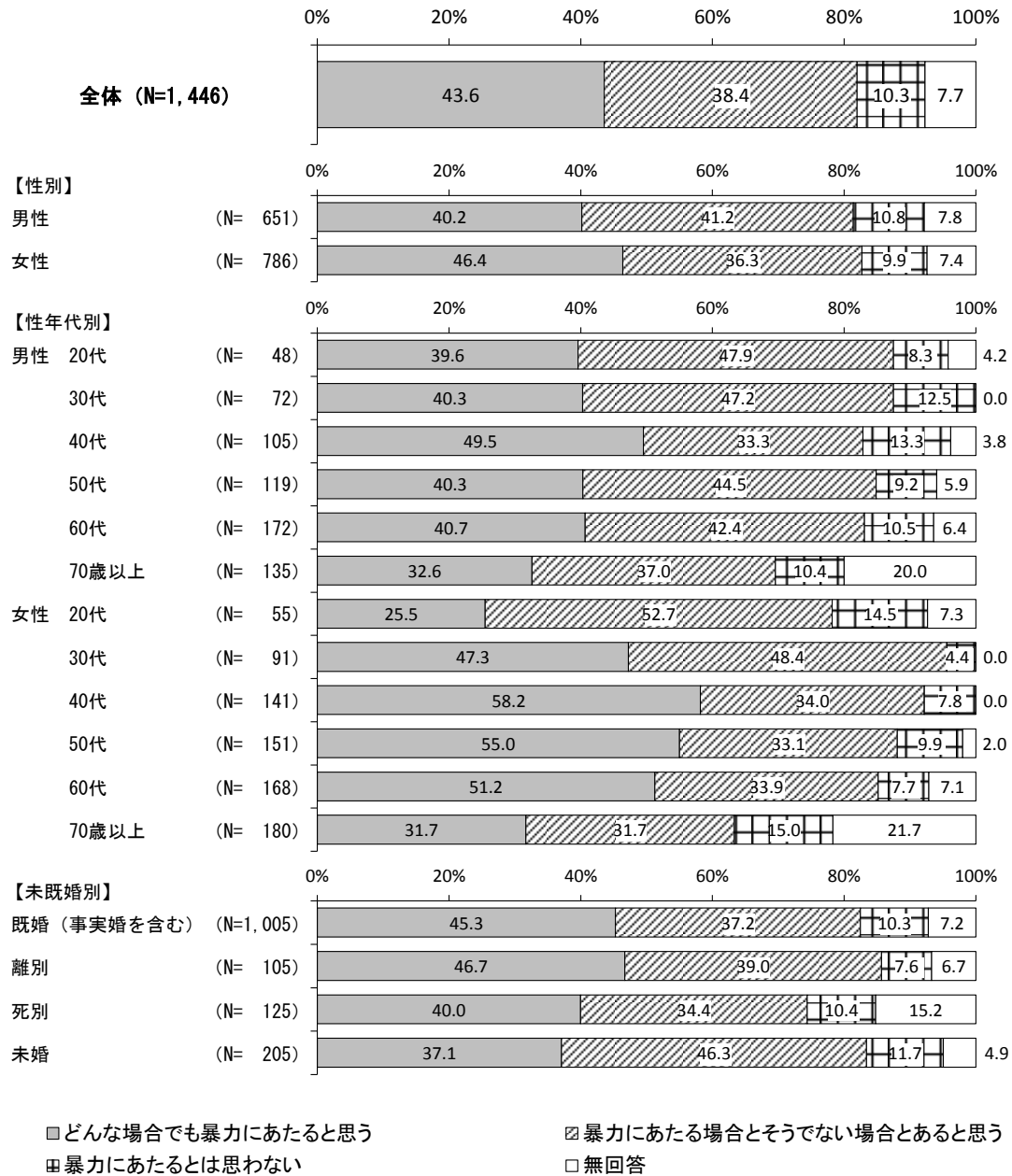
性年代別（男性）で見ると、70歳以上では「どのような場合でも暴力にあたると思う」が33.3%と他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）で見ると、20代・70歳以上では「暴力にあたるとは思わない」が1割を超えて他の年代より多く、70歳以上では「どのような場合でも暴力にあたると思う」が32.8%と他の年代より少なくなっています。

未既婚別で見ると、死別・未婚では「どのような場合でも暴力にあたると思う」が半数を下回って他の婚姻状況より少なくなっています。

【H 交友関係や電話を細かく監視する】

【全体・性別・性年代別・未既婚別の状況】



H 交友関係や電話を細かく監視することは、「どのような場合でも暴力にあたると思う」が43.6%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が38.4%、「暴力にあたるとは思わない」が10.3%となっています。

性別でみると、女性では「どのような場合でも暴力にあたると思う」が46.4%と男性より多くなっています。

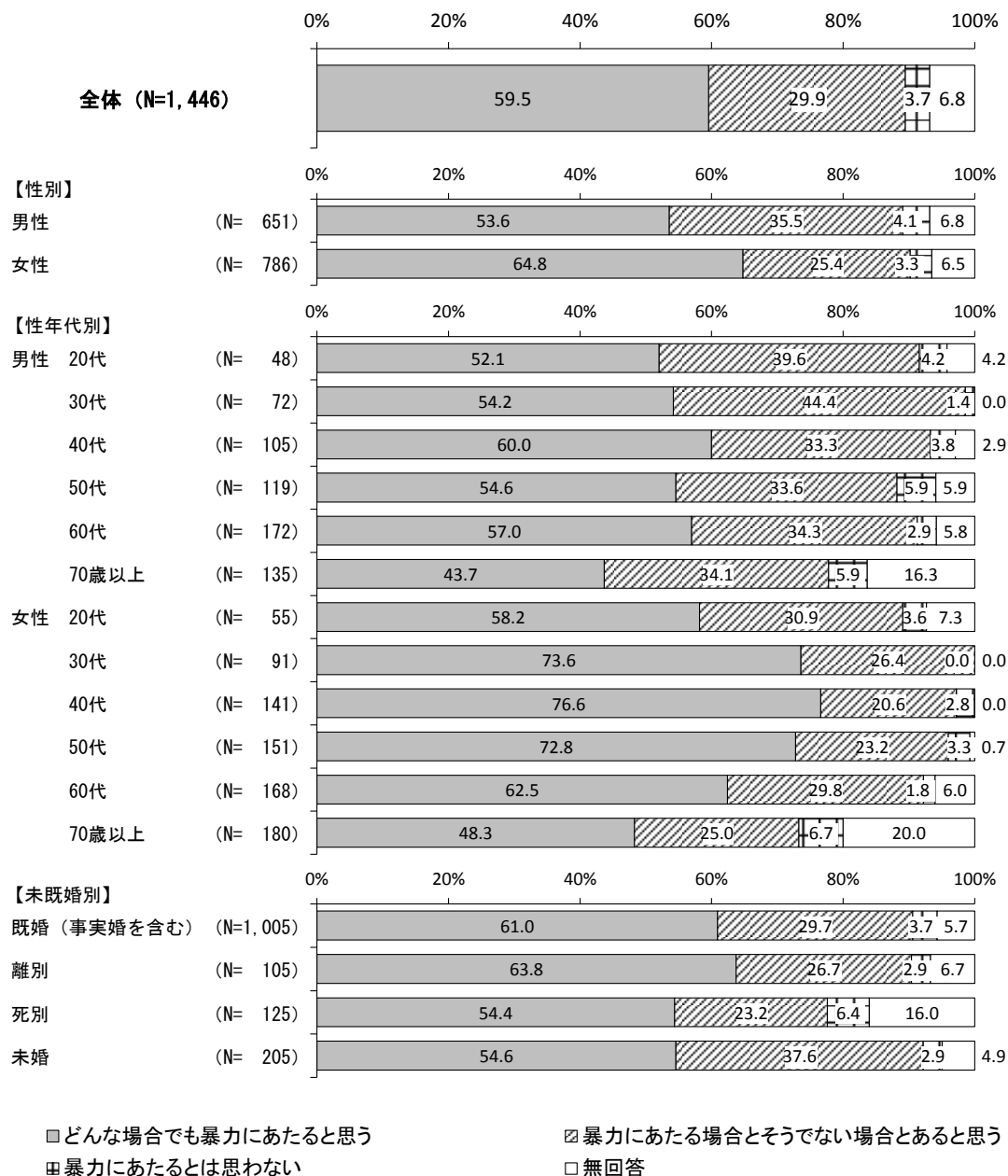
性年代別（男性）でみると、20代・70歳以上では「どのような場合でも暴力にあたると思う」が4割を下回って他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）でみると、20代・70歳以上では「どのような場合でも暴力にあたると思う」が4割を下回って他の年代より少なく、「暴力にあたるとは思わない」が1割を超えて他の年代より多くなっています。

未既婚別でみると、未婚では「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が46.3%と他の婚姻状況より多くなっています。

【1 大声で怒鳴る、罵る】

【全体・性別・性年代別・未既婚別の状況】



I 大声で怒鳴る、罵ることは、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が59.5%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が29.9%、「暴力にあたるとは思わない」が3.7%となっています。

性別でみると、男性では「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が35.5%と女性より多く、女性では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が64.8%と男性より多くなっています。

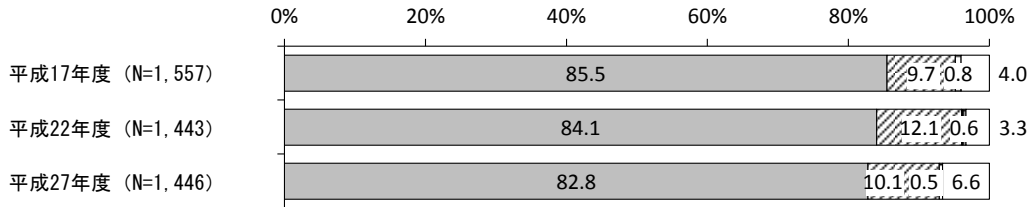
性年代別（男性）でみると、30代では「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が44.4%と他の年代より多く、70歳以上では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が43.7%と他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）でみると、20代では「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が30.9%と他の年代より多く、70歳以上では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が48.3%と他の年代より少なくなっています。

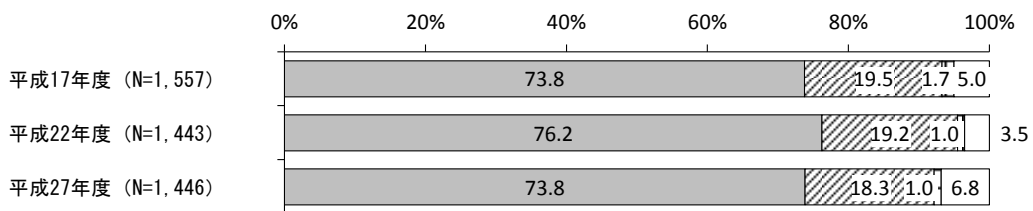
未既婚別でみると、未婚では「暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う」が37.6%と他の婚姻状況より多くなっています。

◎ 経年比較 ◎

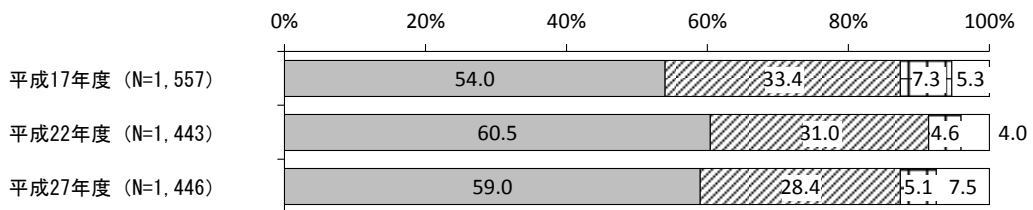
【A 骨折、打ち身、切傷などのケガをさせる】



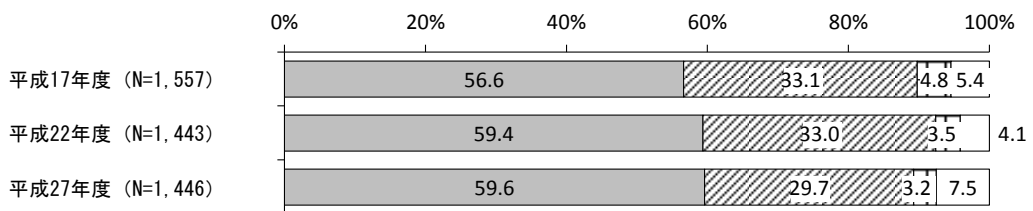
【B ケガをしない程度になぐる、蹴る、平手で打つ】



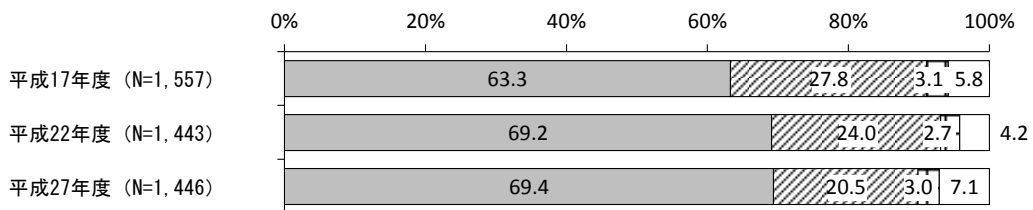
【C なぐるふりをして、脅す】



【D ドアを蹴ったり、壁に物を投げつけたりして、脅す】

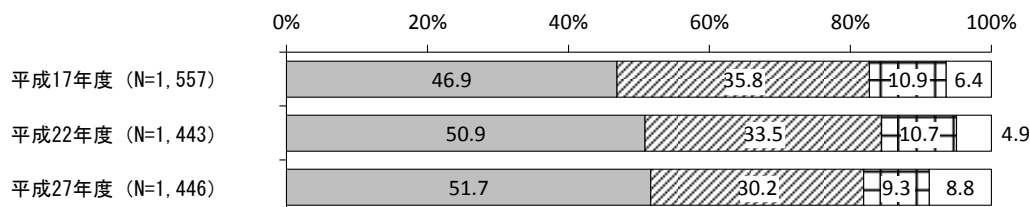


【E いやがっているのに性的な行為を強要する】

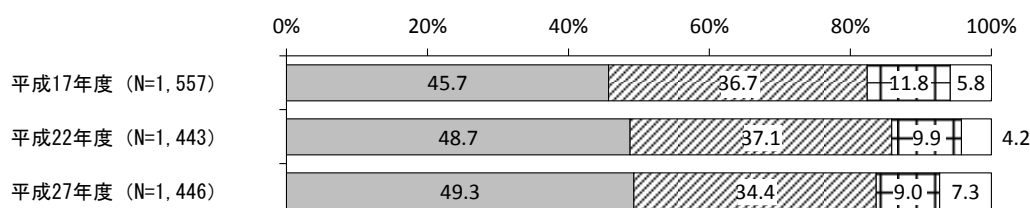


どの場合でも暴力にあたると思う
 暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う
 暴力にあたるとは思わない
 無回答

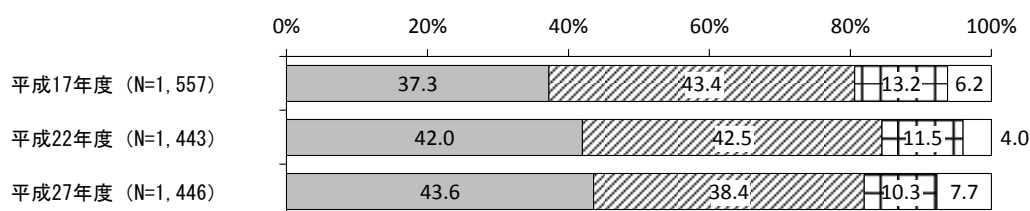
【F 避妊に協力しない】



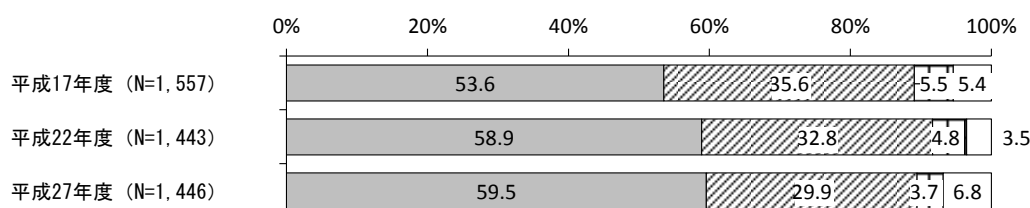
【G 何を言っても長期間無視し続ける】



【H 交友関係や電話を細かく監視する】



【I 大声で怒鳴る、罵る】



□ どんな場合でも暴力にあたると思う

▨ 暴力にあたる場合とそうでない場合とあると思う

▩ 暴力にあたるとは思わない

□ 無回答

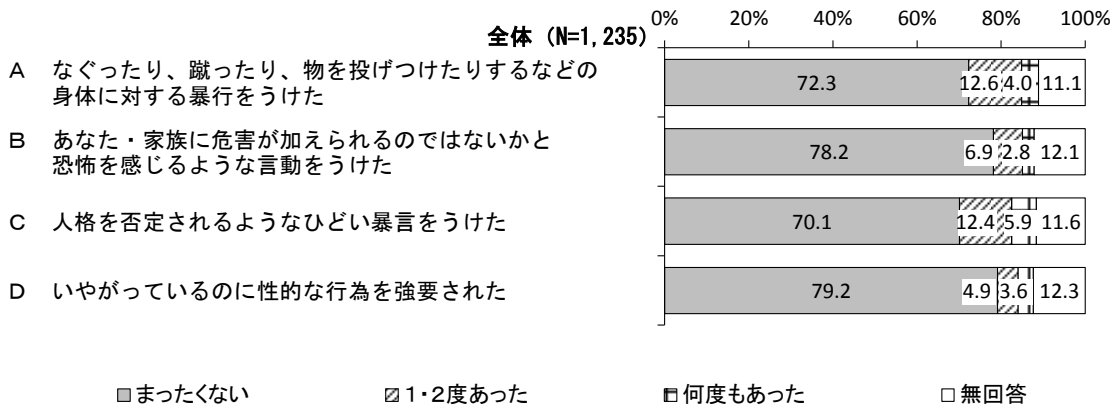
経年比較でみると、【D ドアを蹴ったり、壁に物を投げつけたりして、脅す】、【E いやがっているのに性的な行為を強要する】、【F 避妊に協力しない】、【G 何を言っても長時間無視し続ける】、【H 交友関係や電話を細かく監視する】、【I 大声で怒鳴る、罵る】では「どんな場合も暴力にあたると思う」が多くなっています。

問19 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。また、《これまで》に「1・2度あった」「何度もあった」に○をつけた方は、それぞれの項目について、《この1年間》の状況もお答えください。

《これまで》

F5で「既婚（事実婚を含む）」、「離別」、「死別」と回答した方のみ

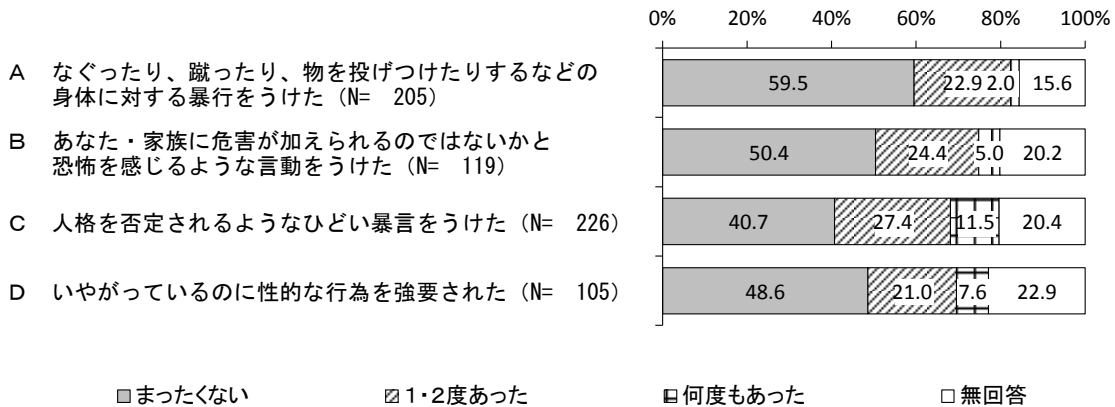
【全体の状況】



《この1年間》

《これまで》で「1・2度あった」、「何度もあった」と回答した方のみ

【全体の状況】

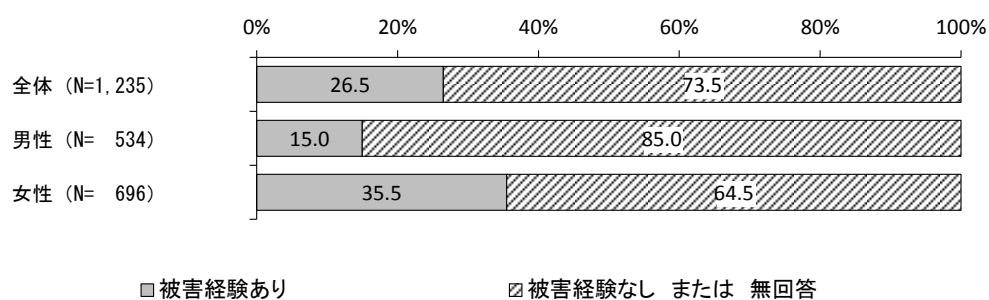


これまでに配偶者にされたことは、いずれの行動でも「まったくくない」が7割を超えて最も多くなっている一方、「1・2度あった」、「何度もあった」を合計すると、1割前後の人が何かしらの被害に遭っています。
この1年間に配偶者にされたことは、「1・2度あった」、「何度もあった」を合計して2割から3割の人が何かしらの被害に遭っています。

【これまでに配偶者から暴力被害を受けた人の状況】

F 5で「既婚（事実婚を含む）」、「離別」、「死別」と回答した方のみ

		配偶者からの暴力被害の経験がある
		問 19 で、いずれかの暴力において 「1・2度あった」または「何度もあった」と回答した方
全体	1,235 人	327 人 (26.5%)
男性	534 人	80 人 (15.0%)
女性	696 人	247 人 (35.5%)

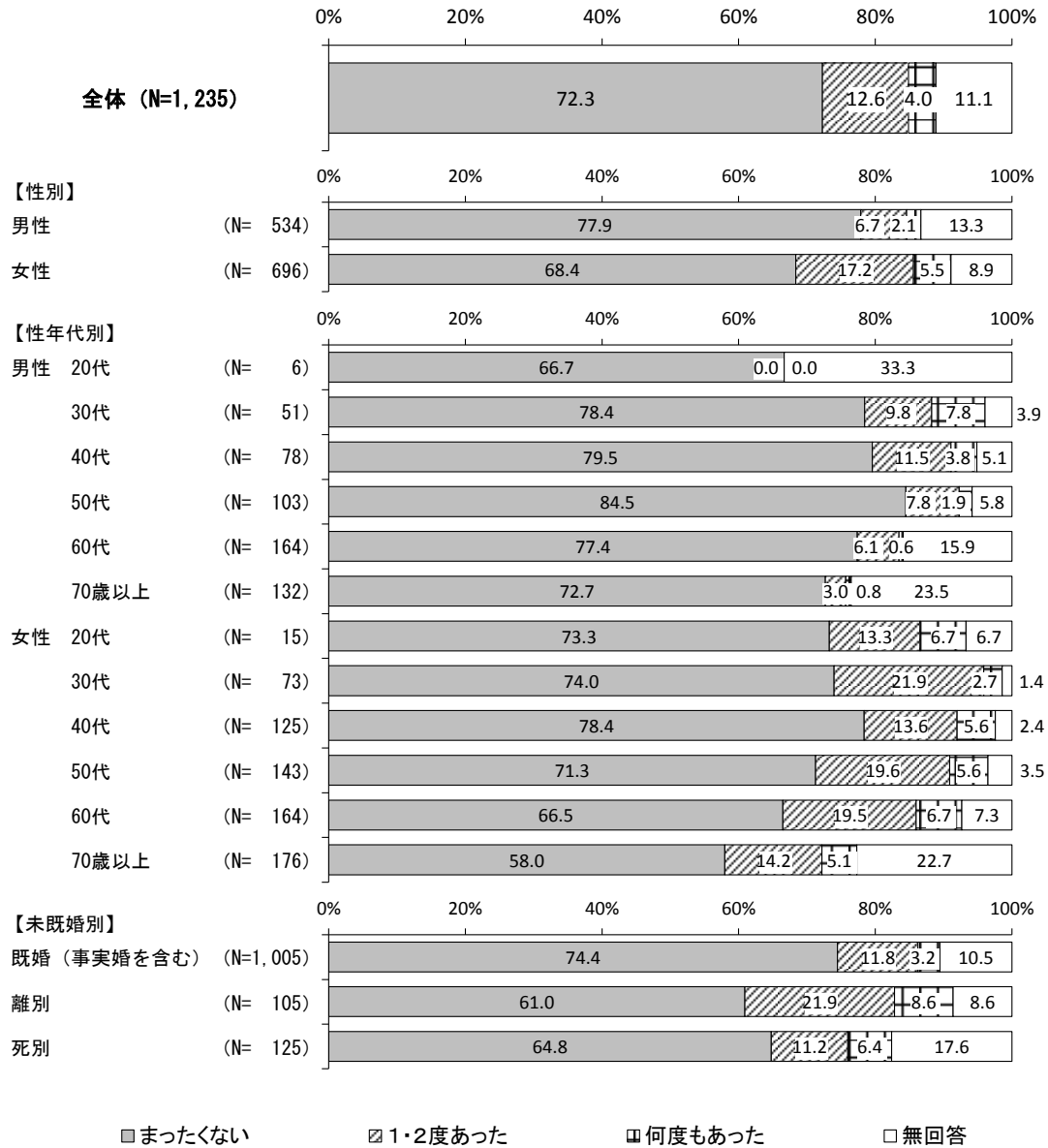


これまでに配偶者から暴力被害を受けた人は、26.5%となっています。
性別で見ると、男性は15.0%、女性は35.5%と、女性の方が多くなっています。

【A なぐったり、蹴ったり、物を投げつけたりするなどの身体に対する暴行を受けた】

《これまで》

【全体・性別・性年代別・未既婚別の状況】



これまでのA なぐったり、蹴ったり、物を投げつけたりするなどの身体に対する暴行を受けた経験は、「まったくない」が72.3%と最も多く、次いで「1・2度あった」が12.6%、「何度もあった」が4.0%となっています。

性別で見ると、女性では「1・2度あった」が17.2%と男性より多くなっています。

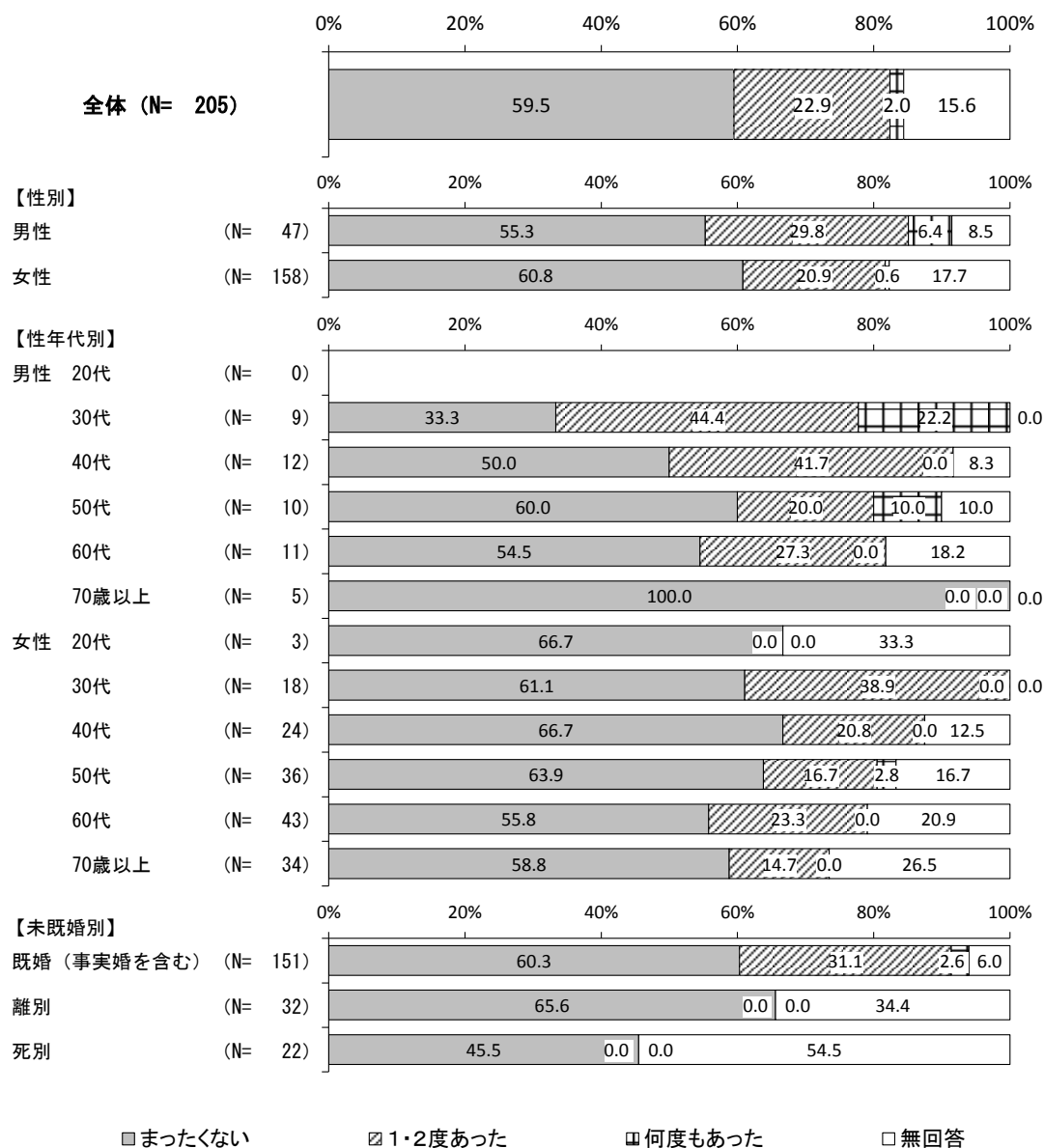
性年代別（男性）で見ると、50代では「まったくない」が84.5%と他の年代より多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、70歳以上では「まったくない」が58.0%と他の年代より少なくなっています。

未既婚別で見ると、既婚（事実婚を含む）では「まったくない」が74.4%と他の婚姻状況より多くなっています。

《この1年間》

[全体・性別・性年代別・未既婚別の状況]



この1年間のA なぐったり、蹴ったり、物を投げつけたりするなどの身体に対する暴行を受けた経験は、「まったくない」が59.5%と最も多く、次いで「1・2度あった」が22.9%、「何度もあった」が2.0%となっています。

性別で見ると、男性では「1・2度あった」、「何度もあった」が女性より多くなっています。

性年代別（男性）は、サンプル数が少ないため、コメントは割愛します。

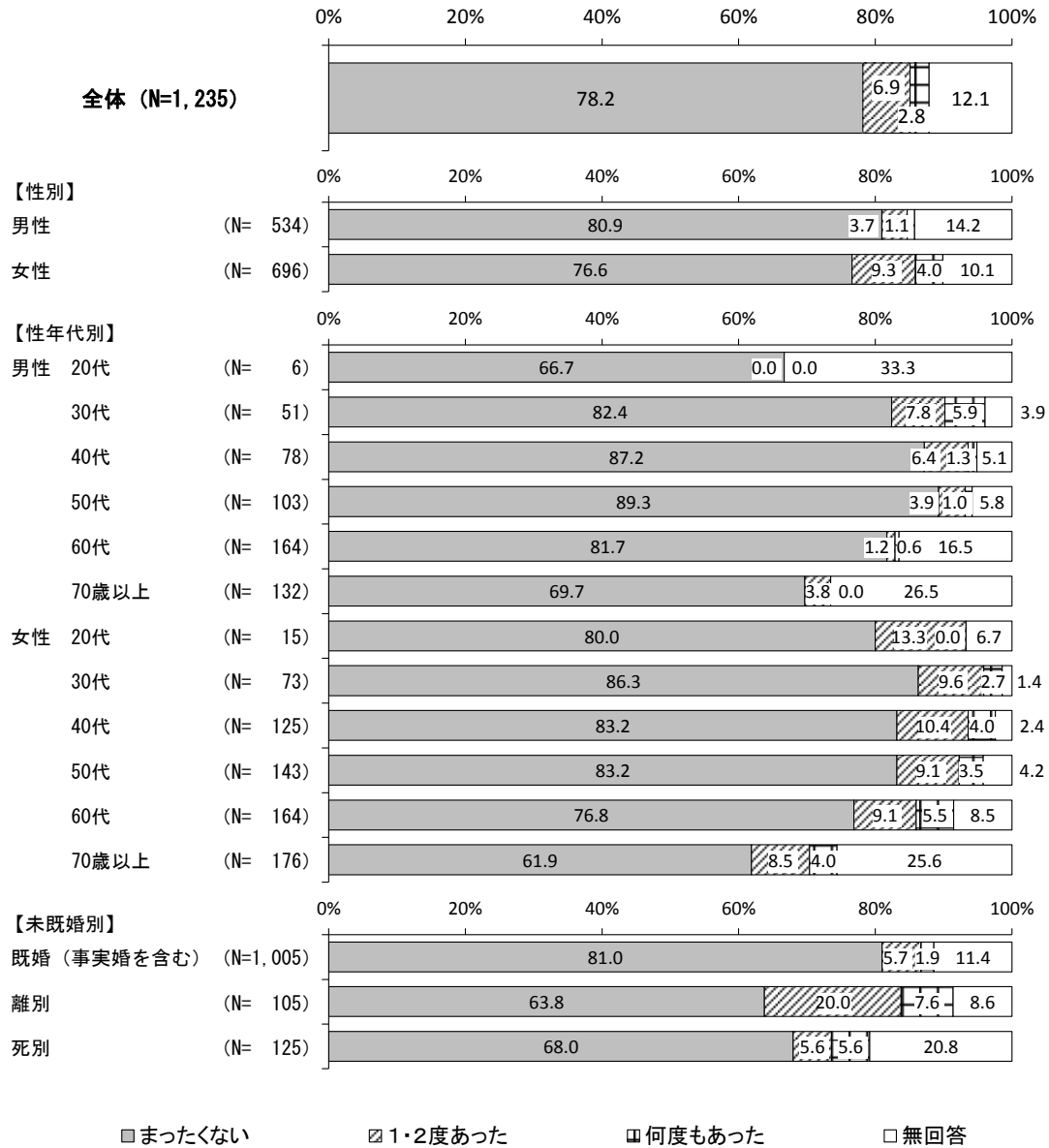
性年代別（女性）で見ると、40代・60代では「1・2度あった」が2割を超えて他の年代より多くなっています。

未既婚別で見ると、既婚（事実婚を含む）では「1・2度あった」が31.1%と他の婚姻状況より多くなっています。

【B あなた・家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような言動をうけた】

《これまで》

【全体・性別・性年代別・未既婚別の状況】



これまでのB あなた・家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような言動をうけた経験は、「まったくくない」が78.2%と最も多く、次いで「1・2度あった」が6.9%、「何度もあった」が2.8%となっています。

性別で見ると、女性では「1・2度あった」、「何度もあった」が男性より多くなっています。

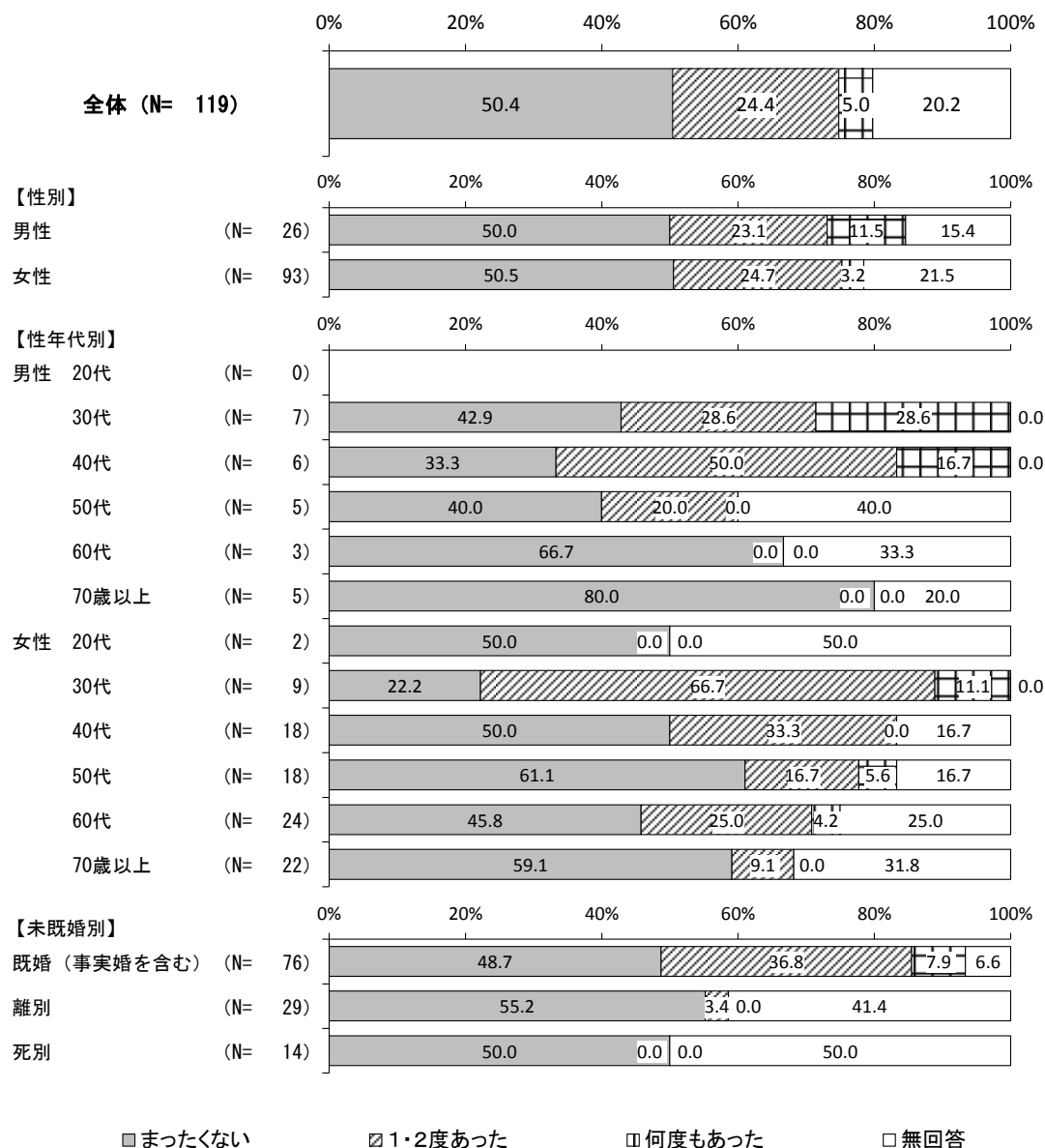
性年代別（男性）で見ると、70歳以上では「まったくくない」が69.7%と他の年代より少なくなっています。

性年代別（女性）で見ると、年代が高くなるほど「まったくくない」が少なくなる傾向がみられます。

未既婚別で見ると、既婚（事実婚を含む）では「まったくくない」が81.0%と他の婚姻状況より多くなっています。

《この1年間》

[全体・性別・性年代別・未既婚別の状況]



この1年間のB あなた・家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような言動をうけた経験は、「まったくくない」が50.4%と最も多く、次いで「1・2度あった」が24.4%、「何度もあった」が5.0%となっています。

性別でみると、男性では「何度もあった」が11.5%と女性より多くなっています。

性年代別（男性）は、サンプル数が少ないため、コメントは割愛します。

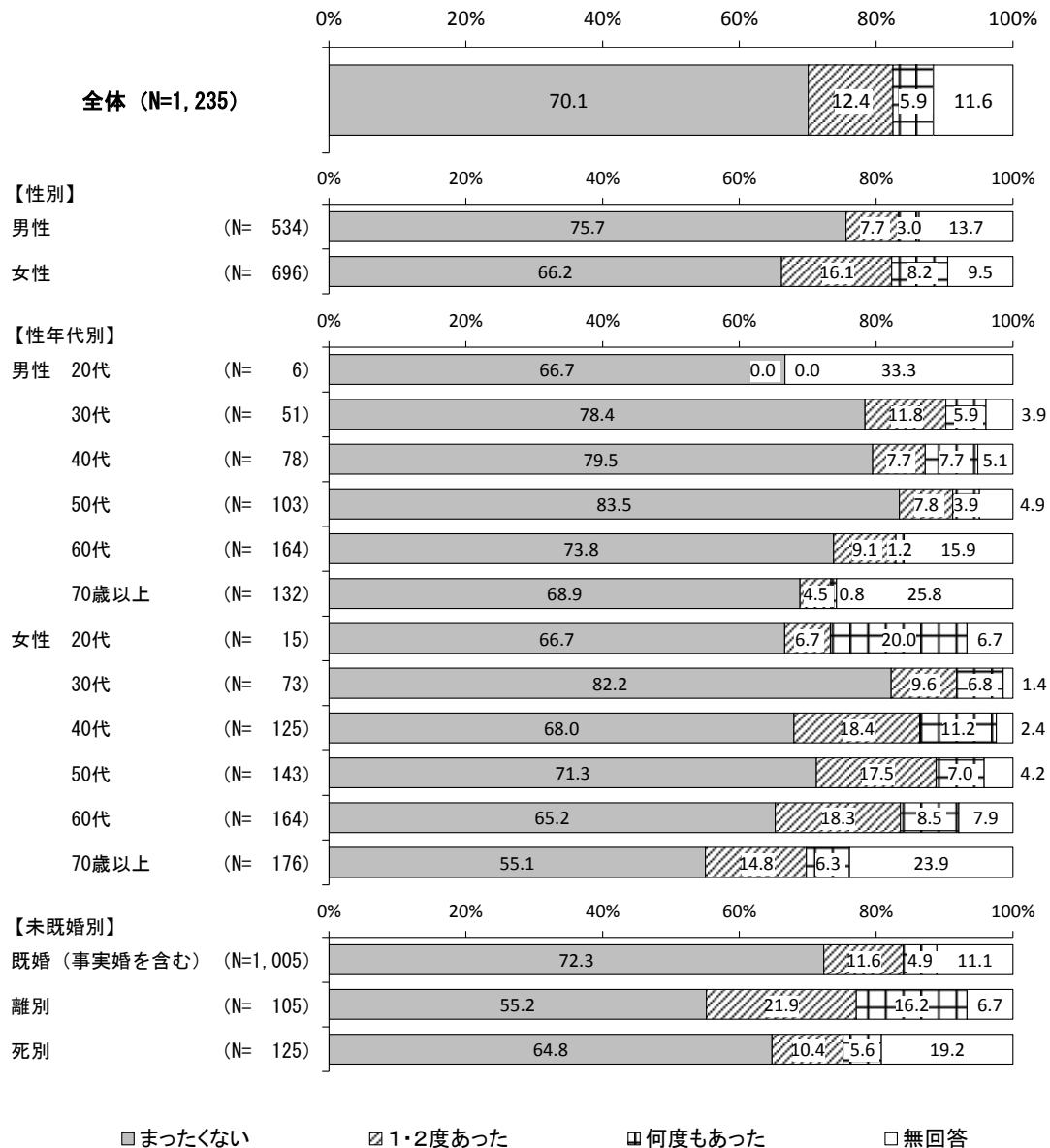
性年代別（女性）でみると、60代では「1・2度あった」が25.0%と70歳以上より多く、70歳以上では「まったくくない」が59.1%と60代より多くなっています。

未既婚別でみると、既婚（事実婚を含む）では「1・2度あった」が36.8%と離別より多くなっています。

【C 人格を否定されるようなひどい暴言をうけた】

《これまで》

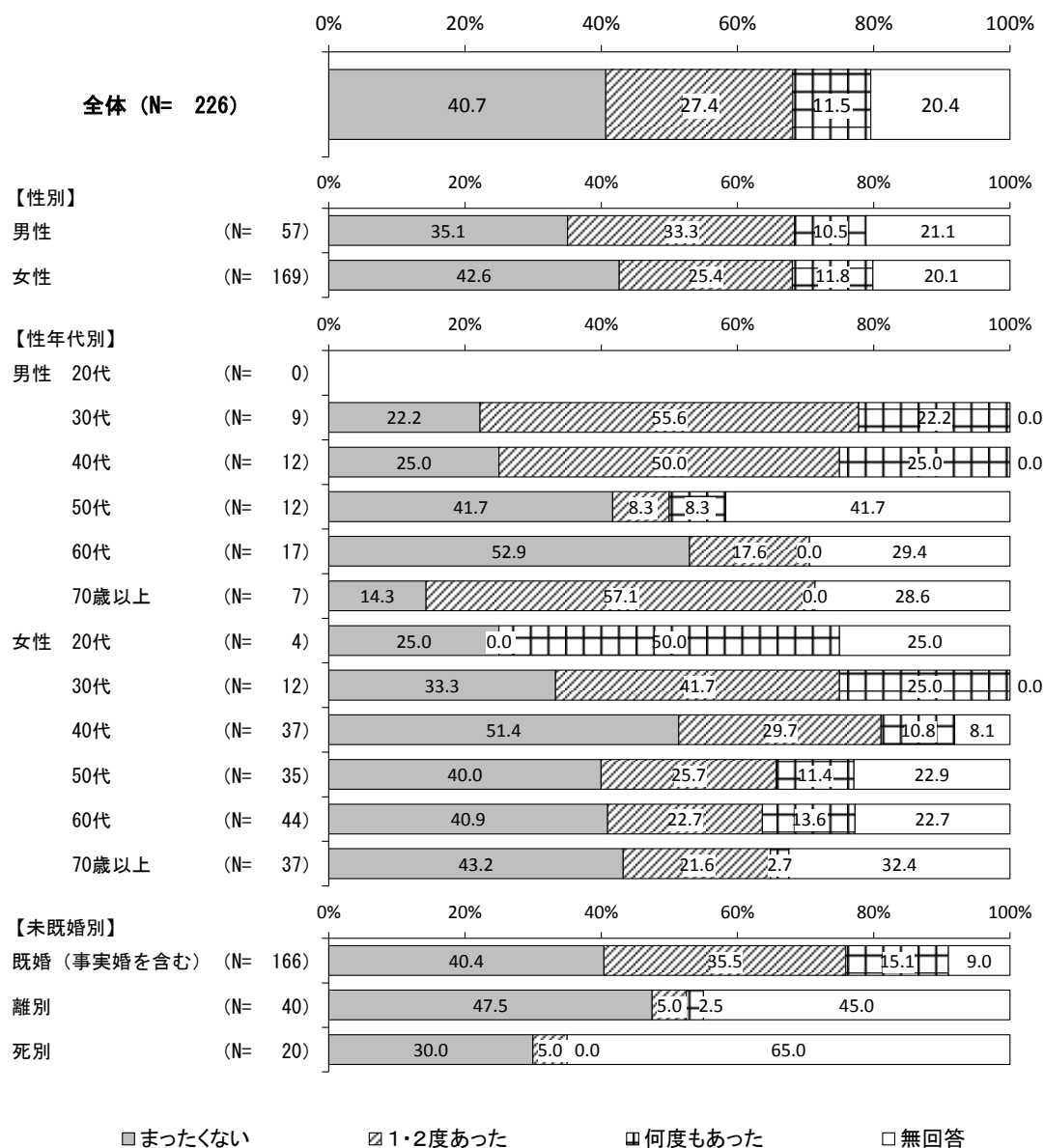
[全体・性別・性年代別・未既婚別の状況]



これまでのC 人格を否定されるようなひどい暴言をうけた経験は、「まったくない」が70.1%と最も多く、次いで「1・2度あった」が12.4%、「何度もあった」が5.9%となっています。
 性別で見ると、女性では「1・2度あった」「何度もあった」が男性より多くなっています。
 性年代別（男性）で見ると、50代では「まったくない」が83.5%と他の年代より多くなっています。
 性年代別（女性）で見ると、70歳以上では「まったくない」が55.1%と他の年代より少なくなっています。
 未既婚別で見ると、離別では「1・2度あった」、「何度もあった」が他の婚姻状況より多くなっています。

《この1年間》

[全体・性別・性年代別・未既婚別の状況]



この1年間のC 人格を否定されるようなひどい暴言をうけた経験は、「まったくくない」が40.7%と最も多く、次いで「1・2度あった」が27.4%、「何度もあった」が11.5%となっています。

性別で見ると、男性では「1・2度あった」が33.3%と女性より多くなっています。

性年代別（男性）は、サンプル数が少ないため、コメントは割愛します。

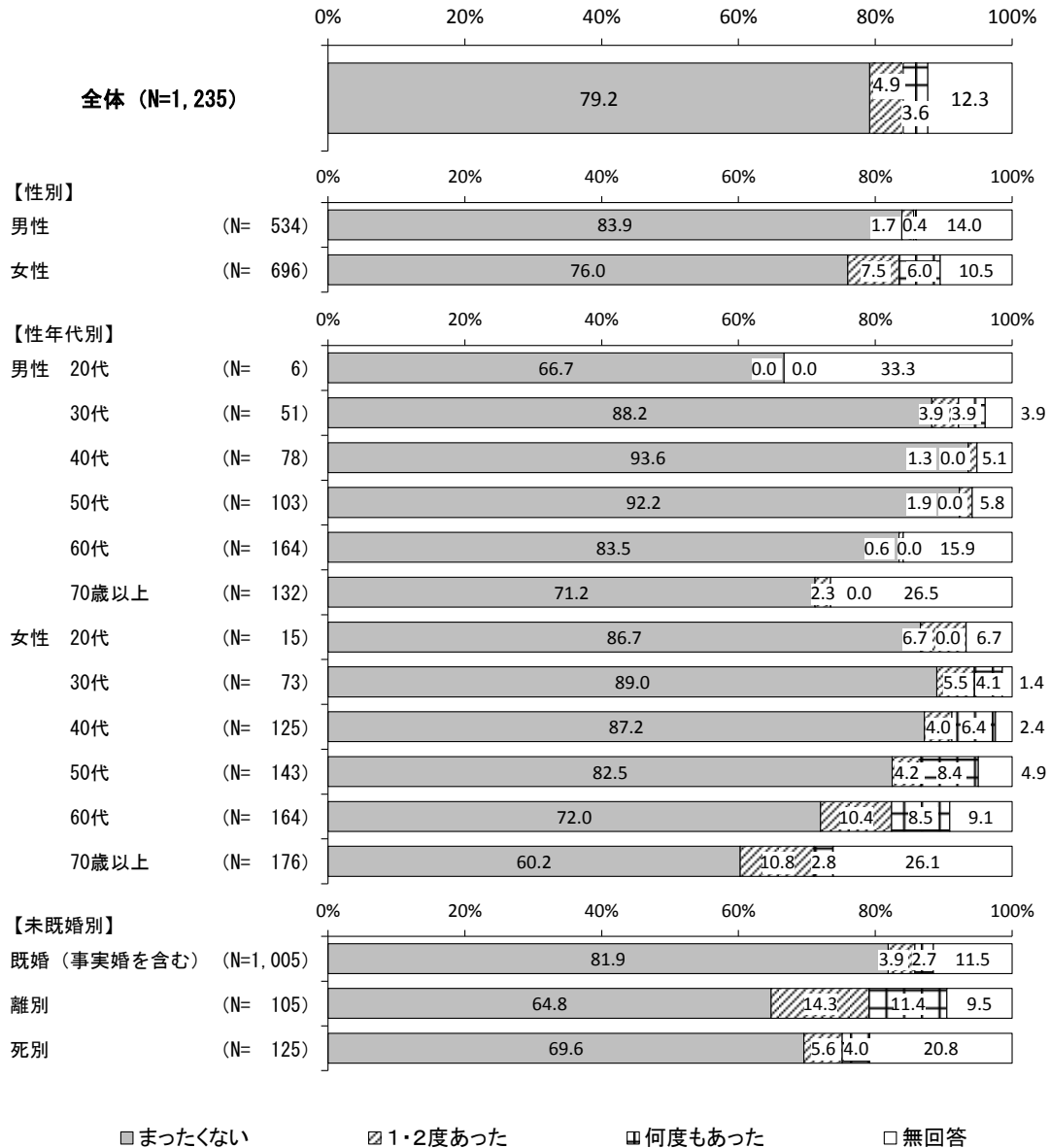
性年代別（女性）で見ると、70歳以上では「何度もあった」が2.7%と他の年代より少なくなっています。

未既婚別で見ると、既婚（事実婚を含む）では「1・2度あった」、「何度もあった」が離別より多くなっています。

【D いやがっているのに性的な行為を強要された】

《これまで》

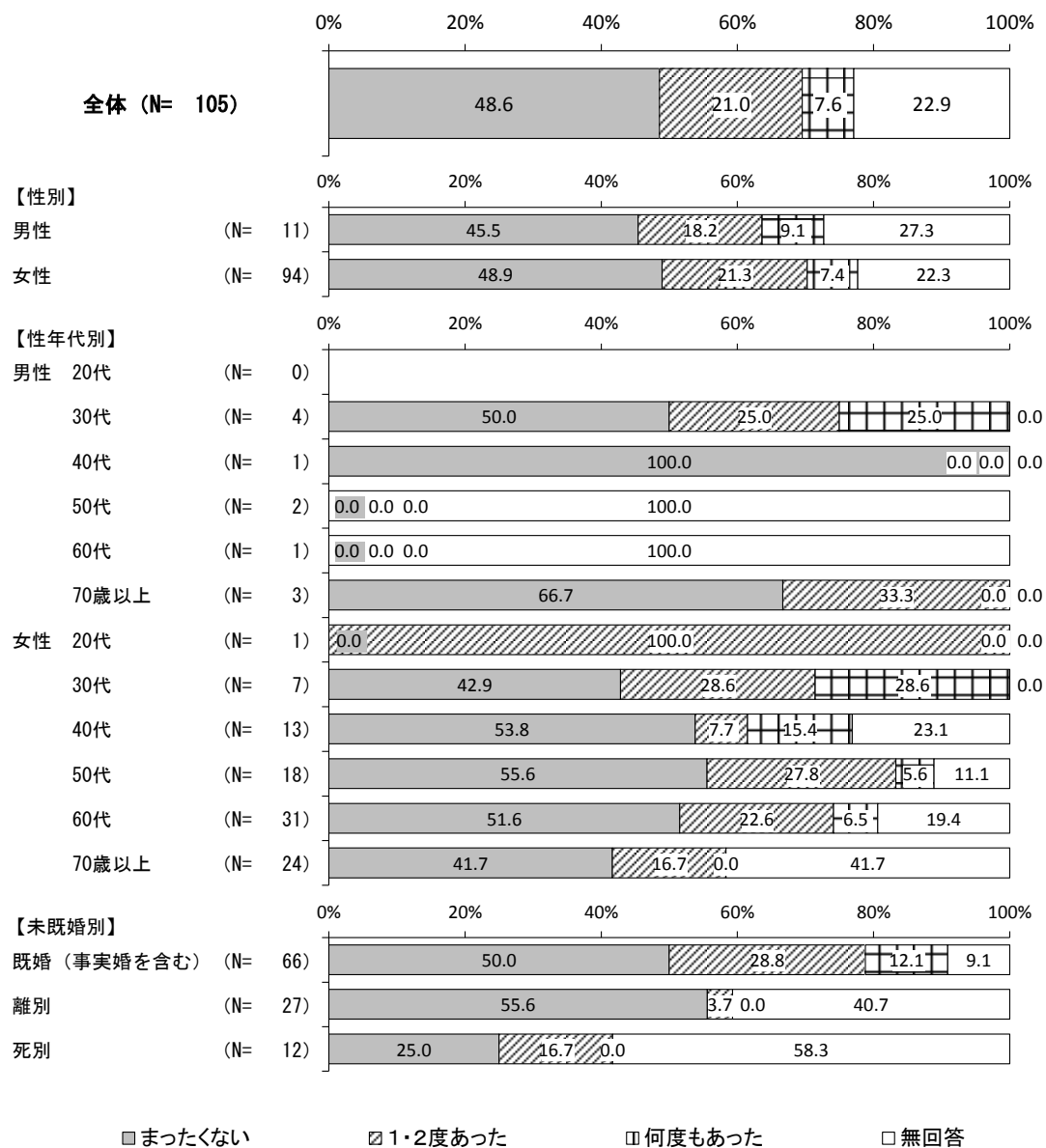
【全体・性別・性年代別・未既婚別の状況】



これまでのD いやがっているのに性的な行為を強要された経験は、「まったくない」が79.2%と最も多く、次いで「1・2度あった」が4.9%、「何度もあった」が3.6%となっています。
 性別で見ると、女性では「1・2度あった」「何度もあった」が男性より多くなっています。
 性年代別（男性）で見ると、40代・50代では「まったくない」が9割を超えて他の年代より多くなっています。
 性年代別（女性）で見ると、年代が高くなるほど「まったくない」が少なくなる傾向がみられます。
 未既婚別で見ると、離別では「1・2度あった」「何度もあった」が他の婚姻状況より多くなっています。

《この1年間》

[全体・性別・性年代別・未既婚別の状況]



この1年間のD いやがっているのに性的な行為を強要された経験は、「まったくくない」が48.6%と最も多く、次いで「1・2度あった」が21.0%、「何度もあった」が7.6%となっています。

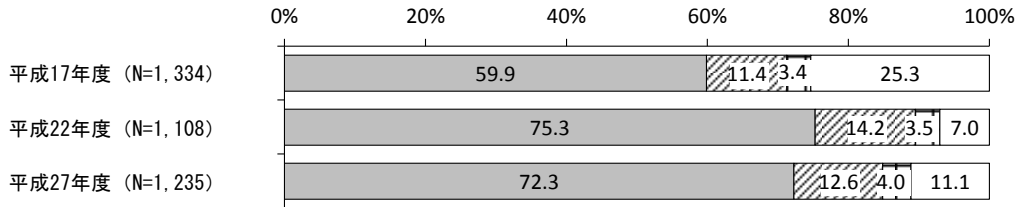
性年代別（男性）は、サンプル数が少ないため、コメントは割愛します。

性年代別（女性）でみると、60代は「まったくくない」、「1・2度あった」、「何度もあった」が70代より多くなっています。

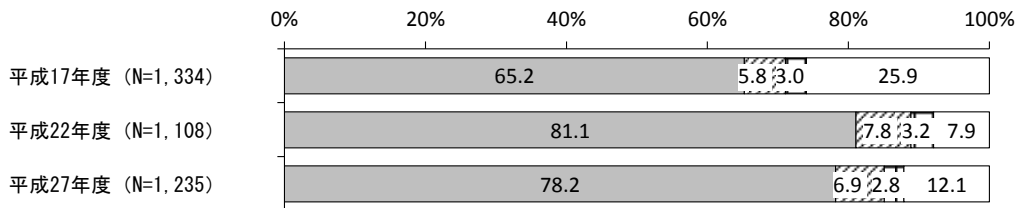
未既婚別でみると、既婚（事実婚を含む）では「1・2度あった」、「何度もあった」が離別より多くなっています。

◎ 経年比較 ◎ <<これまで>>

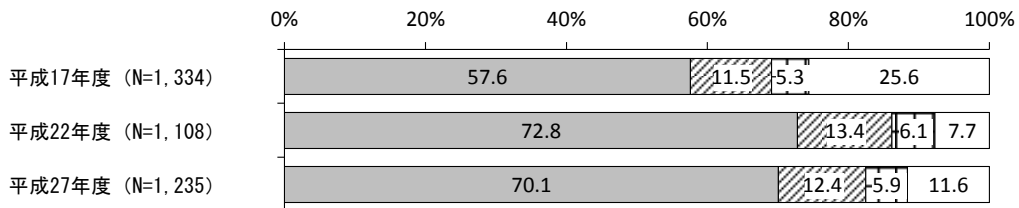
【A なぐったり、蹴ったり、物を投げつけたりするなどの身体に対する暴行を受けた】



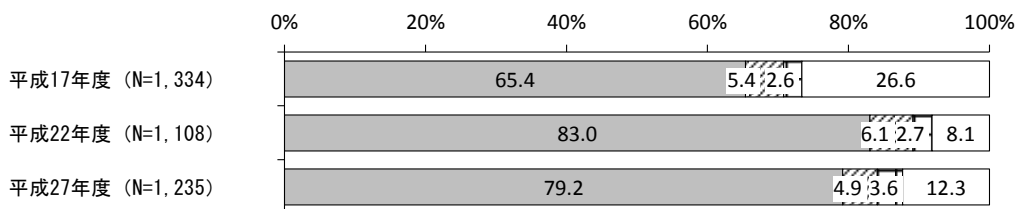
【B あなた・家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような言動を受けた】



【C 人格を否定されるようなひどい暴言を受けた】



【D いやがっているのに性的な行為を強要された】



□まったくない ☒1・2度あった ☒何度もあった □無回答

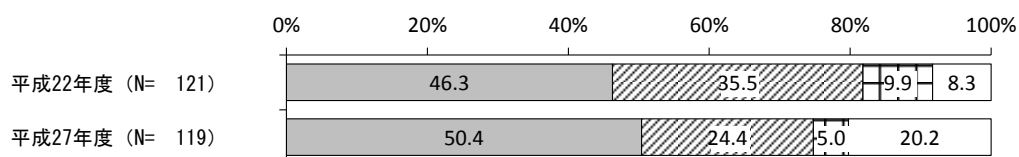
経年比較でみると、「1・2度あった」と「何度もあった」を合計すると、いずれの調査でも1割前後の人が何かしらの被害に遭っています。

◎ 経年比較 ◎ <<この1年間>>

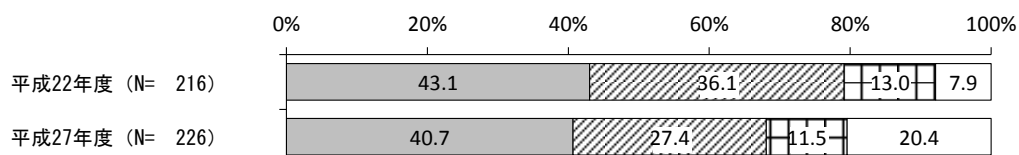
【A なぐったり、蹴ったり、物を投げつけたりするなどの身体に対する暴行を受けた】



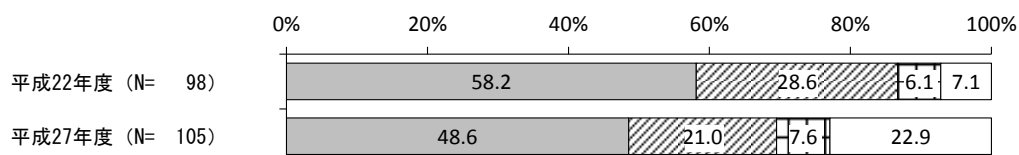
【B あなた・家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような言動を受けた】



【C 人格を否定されるようなひどい暴言を受けた】



【D いやがっているのに性的な行為を強要された】



□ 全くない

▨ 1・2度あった

▩ 何度もあった

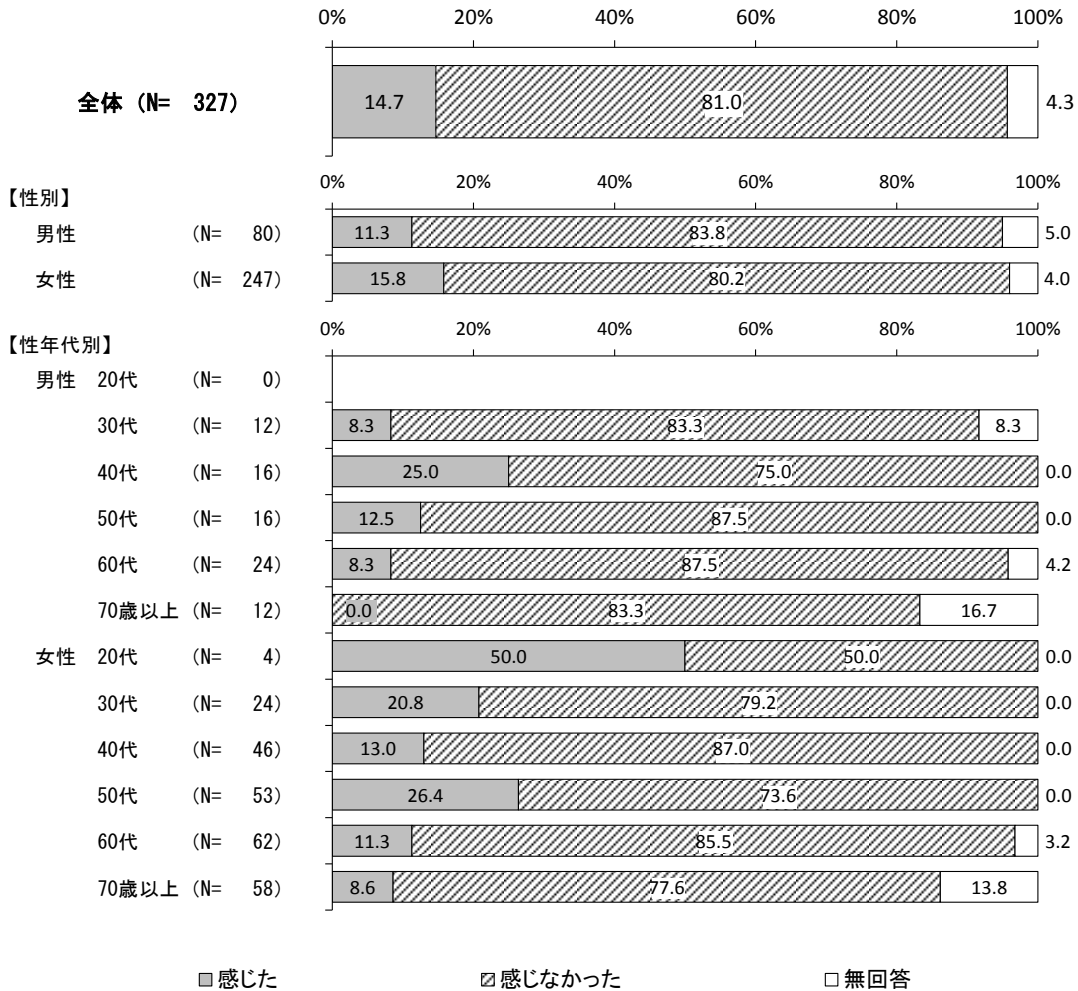
□ 無回答

経年比較でみると、【A なぐったり、蹴ったり、物を投げつけたりするなどの身体に対する暴行を受けた】では「1・2度あった」が多くなっています。

問 20 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことがありますか。

問 19 で1つでも「1・2度あった」、「何度もあった」と回答した方のみ

【全体・性別・性年代別の状況】

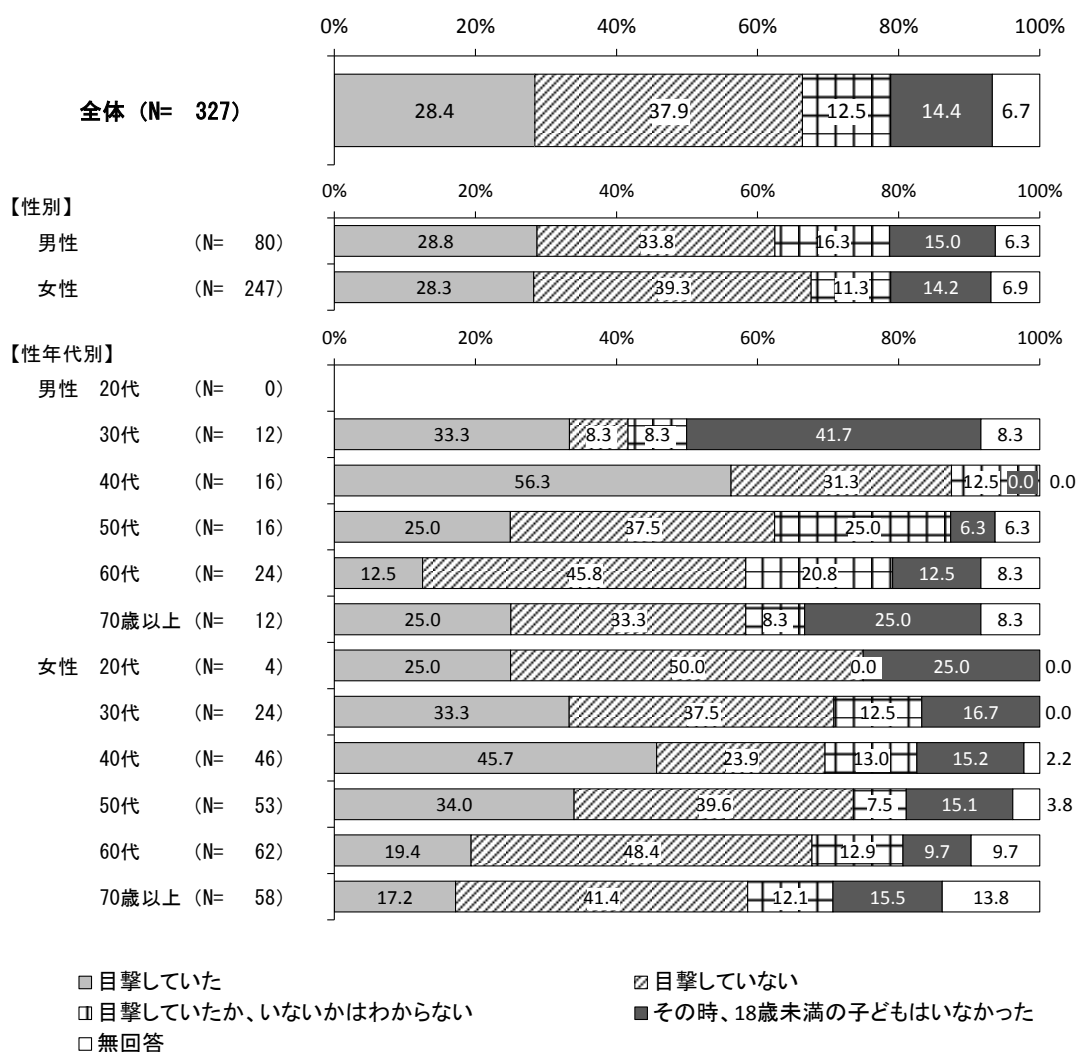


相手の暴力行為によって、命の危険を感じた経験は、「感じなかった」が81.0%、「感じた」が14.7%となっています。
 性別で見ると、女性では「感じた」が15.8%と男性より多くなっています。
 性年代別（男性）で見ると、60代では「感じなかった」が87.5%、「感じた」が8.3%となっています。
 性年代別（女性）で見ると、30代・50代では「感じた」が2割を超えて他の年代より多くなっています。

問 21 あなたが、その相手からの行為をうけた時に、あなたのお子さん（18歳未満）はそれを目撃していましたか。

問 19で1つでも「1・2度あった」、「何度もあった」と回答した方のみ

【全体・性別・性年代別の状況】



相手の暴力行為を18歳未満の子どもに目撃された経験は、「目撃していない」が37.9%と最も多く、次いで「目撃していた」が28.4%、「その時、18歳未満の子どもはいなかった」が14.4%などとなっています。

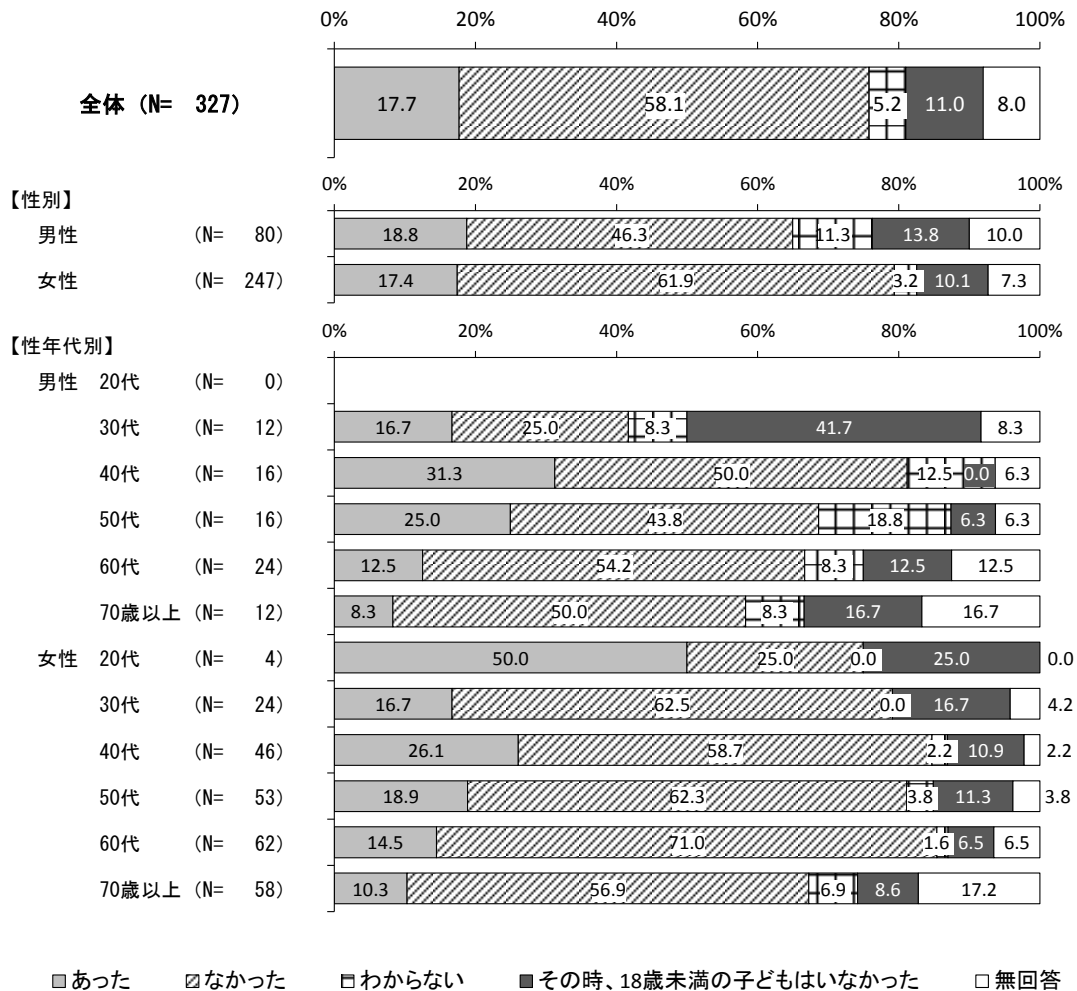
性年代別（男性）で見ると、60代では「目撃していない」が45.8%と最も多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、40代では「目撃していた」が45.7%と他の年代より多くなっています。

問 22 その相手は、あなたのお子さん（18 歳未満）に対して、同じような行為をしたことがありましたか。

問 19 で 1 つでも「1・2 度あった」、「何度もあった」と回答した方のみ

【全体・性別・性年代別の状況】

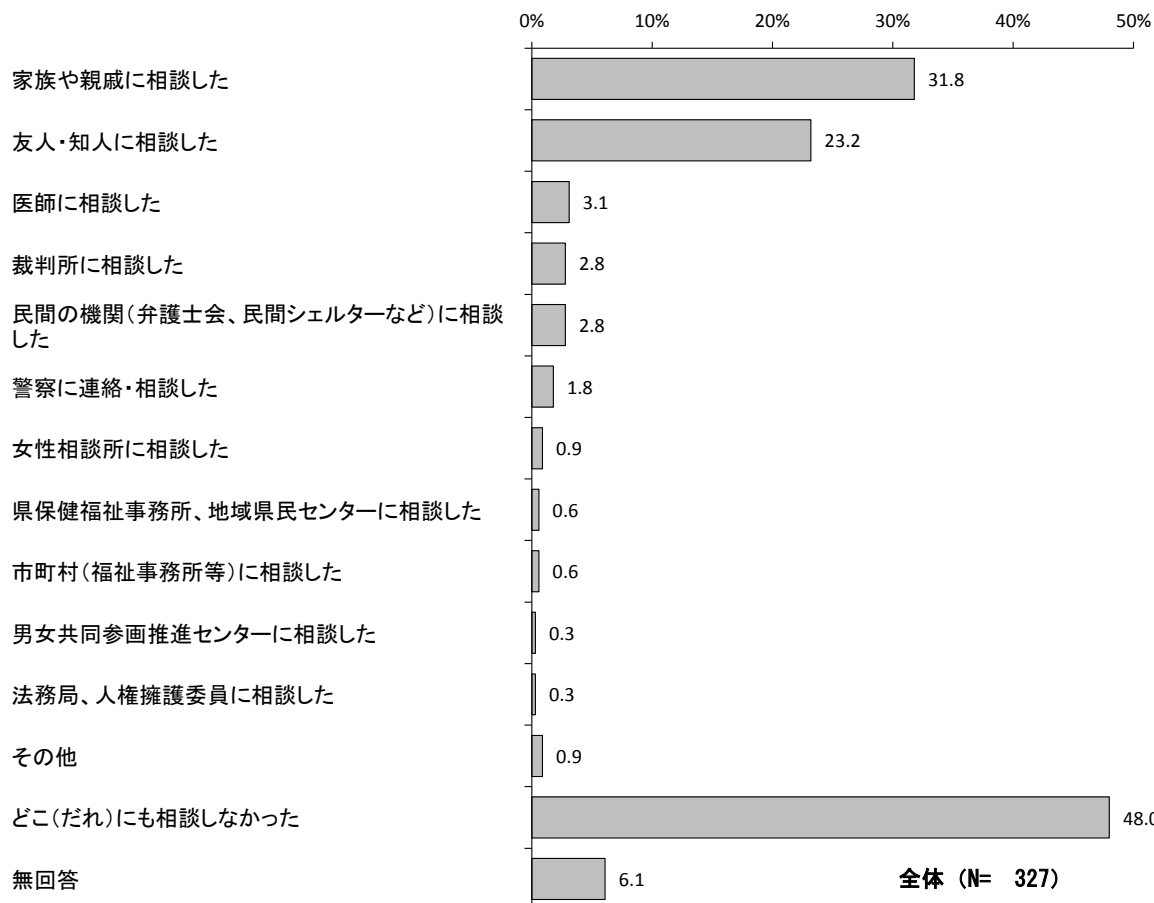


18 歳未満の子どもに対しても暴力がふるわれた経験は、「なかった」が 58.1%と最も多く、次いで「あった」が 17.7%、「その時、18 歳未満の子どもはいなかった」が 11.0%などとなっています。
 性別で見ると、女性では「なかった」が 61.9%と男性より多くなっています。
 性年代別（男性）で見ると、60 代では「なかった」が 54.2%と最も多く、次いで「あった」、「その時、18 歳未満の子どもはいなかった」がそれぞれ 12.5%などとなっています。
 性年代別（女性）で見ると、40 代では「あった」が 26.1%と他の年代より多くなっています。

問 23 あなたはこれまでに、あなたの配偶者からうけた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。（回答はいくつでも）

問 19で1つでも「1・2度あった」、「何度もあった」と回答した方のみ

【全体の状況】



配偶者からうけた行為について打ち明けたり、相談したりした経験は、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が48.0%と最も多く、次いで「家族や親戚に相談した」が31.8%、「友人・知人に相談した」が23.2%などとなっています。

性別で見ると、男性では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が60.0%と女性より多く、女性では「家族や親戚に相談した」が36.0%と男性より多くなっています。

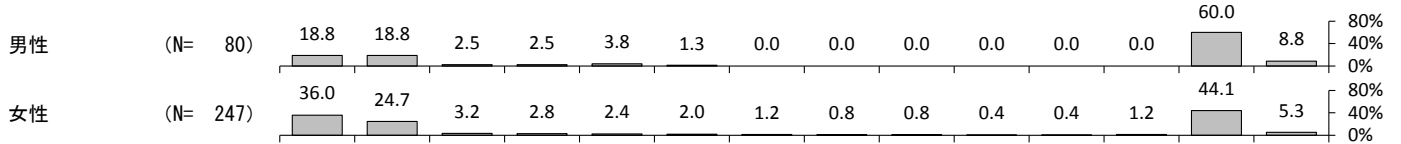
性年代別（男性）で見ると、60代では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が50.0%と最も多くなっています。

性年代別（女性）で見ると、年代が高くなるほど「友人・知人に相談した」が少なくなる傾向がみられます。また、40代では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が32.6%と他の年代より少なくなっています。

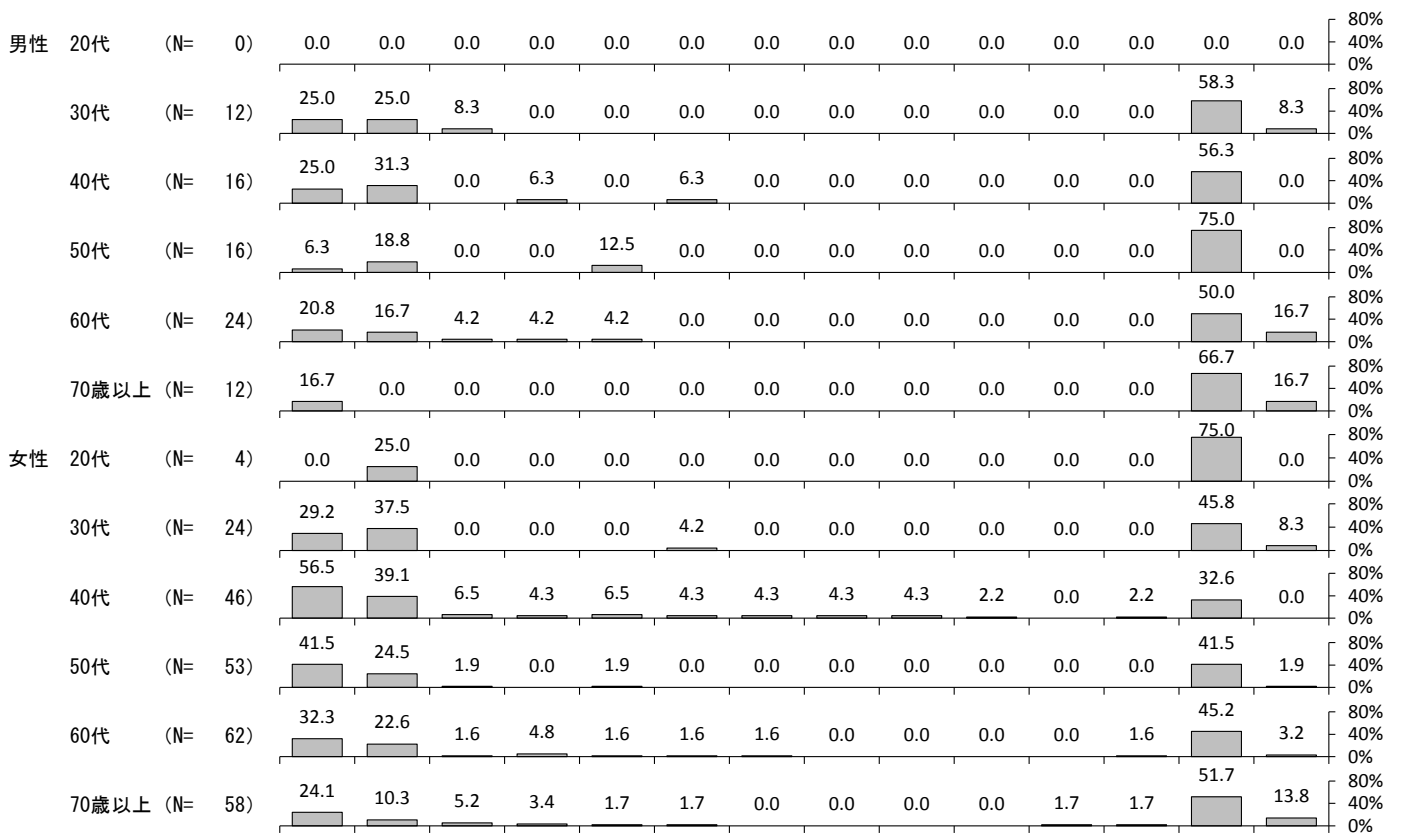
居住地域別で見ると、富士北麓・東部では「家族や親戚に相談した」、「友人・知人に相談した」が他の地域より多くなっています。

【性別・性年代別の状況】

【性別】



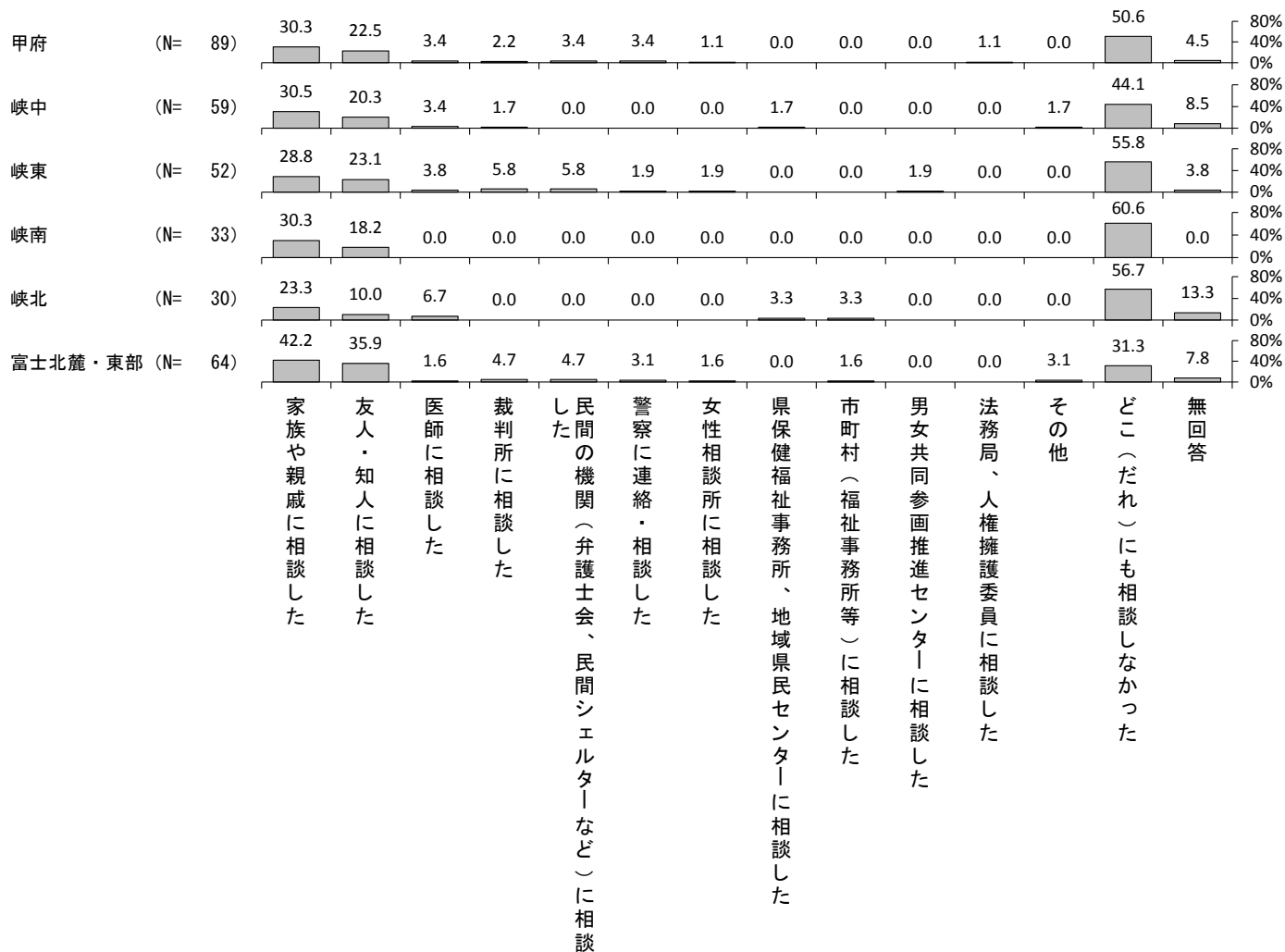
【性年代別】



家族や親戚に相談した
友人・知人に相談した
医師に相談した
裁判所に相談した
民間の機関（弁護士会、民間シェルターなど）に相談した
警察に連絡・相談した
女性相談所に相談した
県保健福祉事務所、地域県民センターに相談した
市町村（福祉事務所等）に相談した
男女共同参画推進センターに相談した
法務局、人権擁護委員に相談した
その他
どこ（だれ）にも相談しなかった
無回答

【居住地域別の状況】

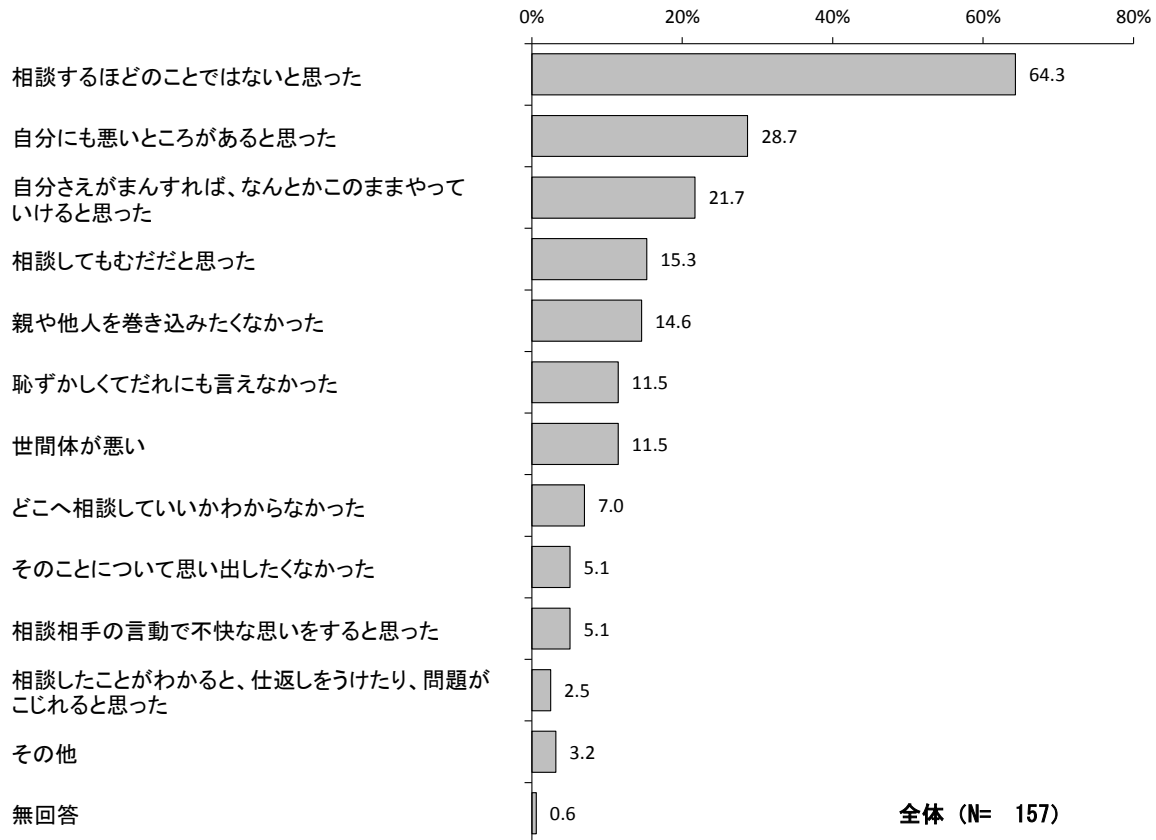
【居住地域別】



問24 どこ（だれ）にも相談しなかった理由は何ですか。（回答はいくつでも）

問23で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方のみ

【全体の状況】



どこ（だれ）にも相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思った」が64.3%と最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」が28.7%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」が21.7%などとなっています。

性別で見ると、男性では「世間体が悪い」が22.9%と女性より多くなっています。

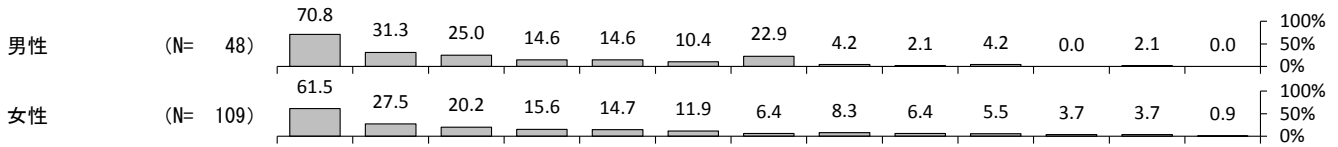
性年代別（男性）は、サンプル数が少ないため、コメントは割愛します。

性年代別（女性）で見ると、年代が高くなるほど「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」が多くなる傾向がみられます。

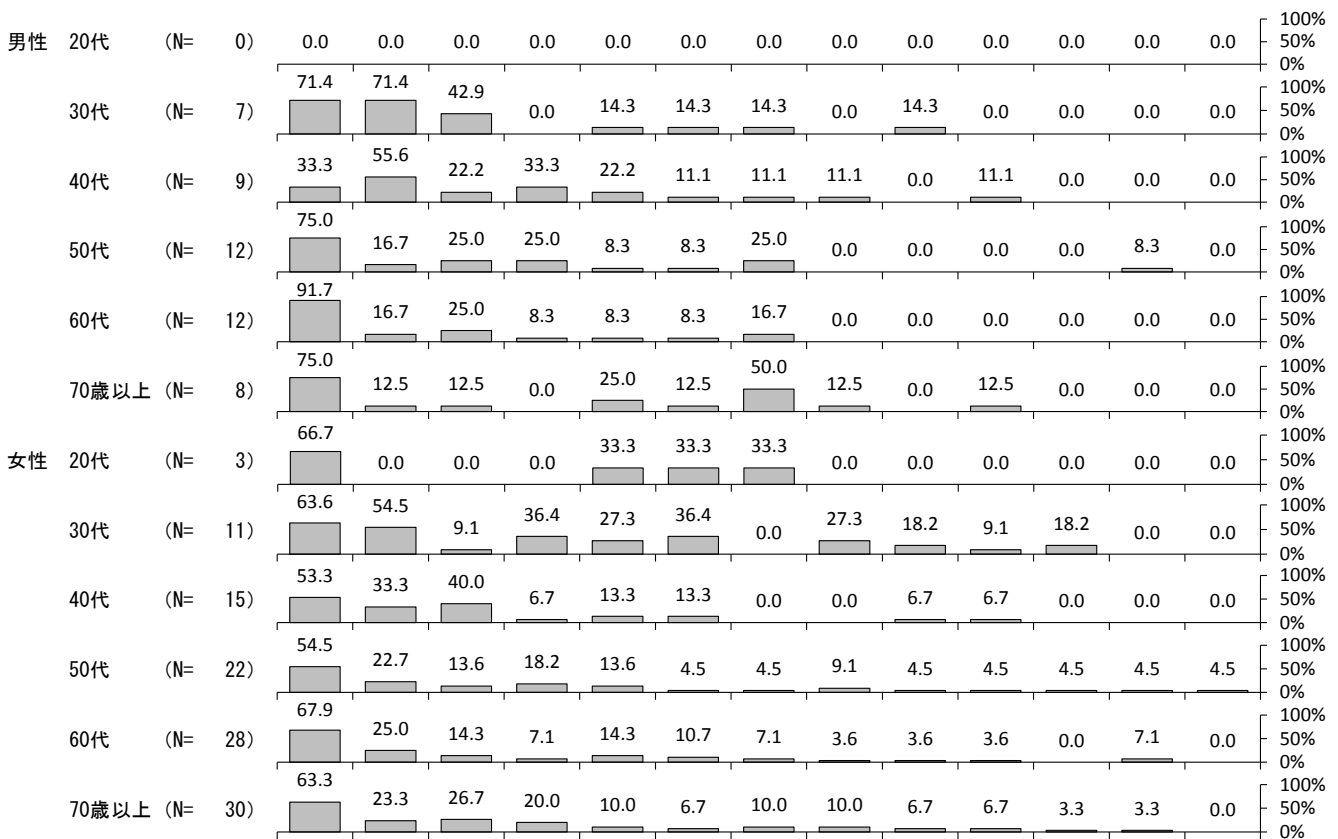
居住地域別で見ると、峡中では「親や他人を巻き込みたくなかった」、「恥ずかしくてだれにも言えなかった」が他の地域より多くなっています。

【性別・性年代別の状況】

【性別】



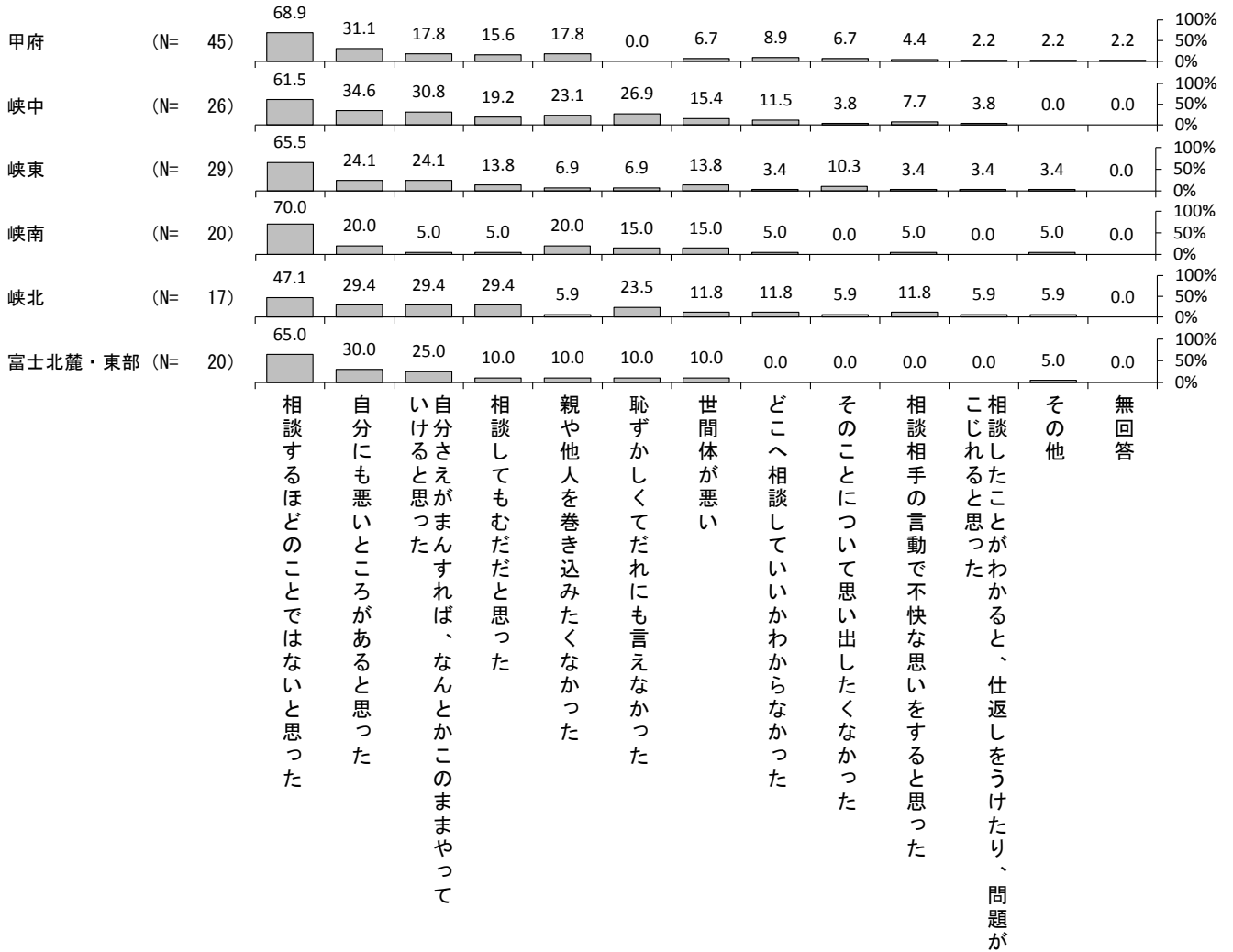
【性年代別】



相談するほどのことではないと思った
 自分にも悪いところがあると思った
 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った
 相談してもむだだと思った
 親や他人を巻き込みたくなかった
 恥ずかしくてだれにも言えなかった
 世間が悪い
 どこへ相談していいかわからなかった
 そのことについて思い出しなくなかった
 相談相手の言動で不快な思いをすと思った
 こじれると思った
 相談したことがわかると、仕返しをうけたり、問題が
 その他
 無回答

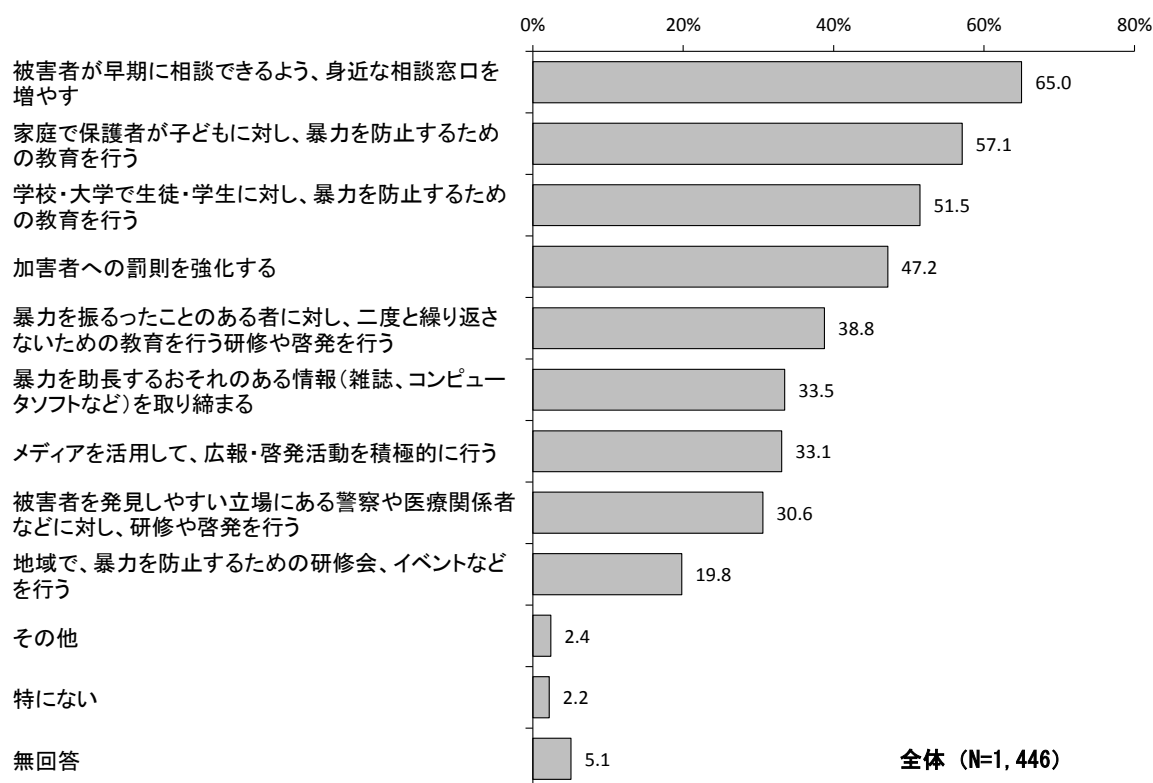
【居住地域別の状況】

【居住地域別】



問 25 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。
(回答はいくつでも)

【全体の状況】



男女間における暴力を防止するために必要なことは、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が65.0%と最も多く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が57.1%、「学校・大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」が51.5%などとなっています。

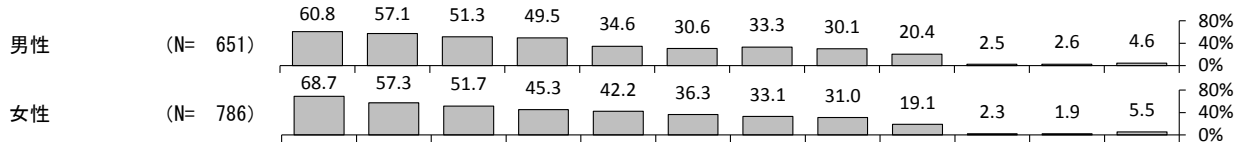
性別で見ると、女性では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」などが男性より多くなっています。

性年代別(男性)で見ると、年代が高くなるほど「加害者への罰則を強化する」が少なくなる傾向がみられます。また、20代～40代では「暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピュータソフトなど)を取り締まる」が3割を下回って他の年代より少なく、30代では「被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う」が44.4%と他の年代より多くなっています。

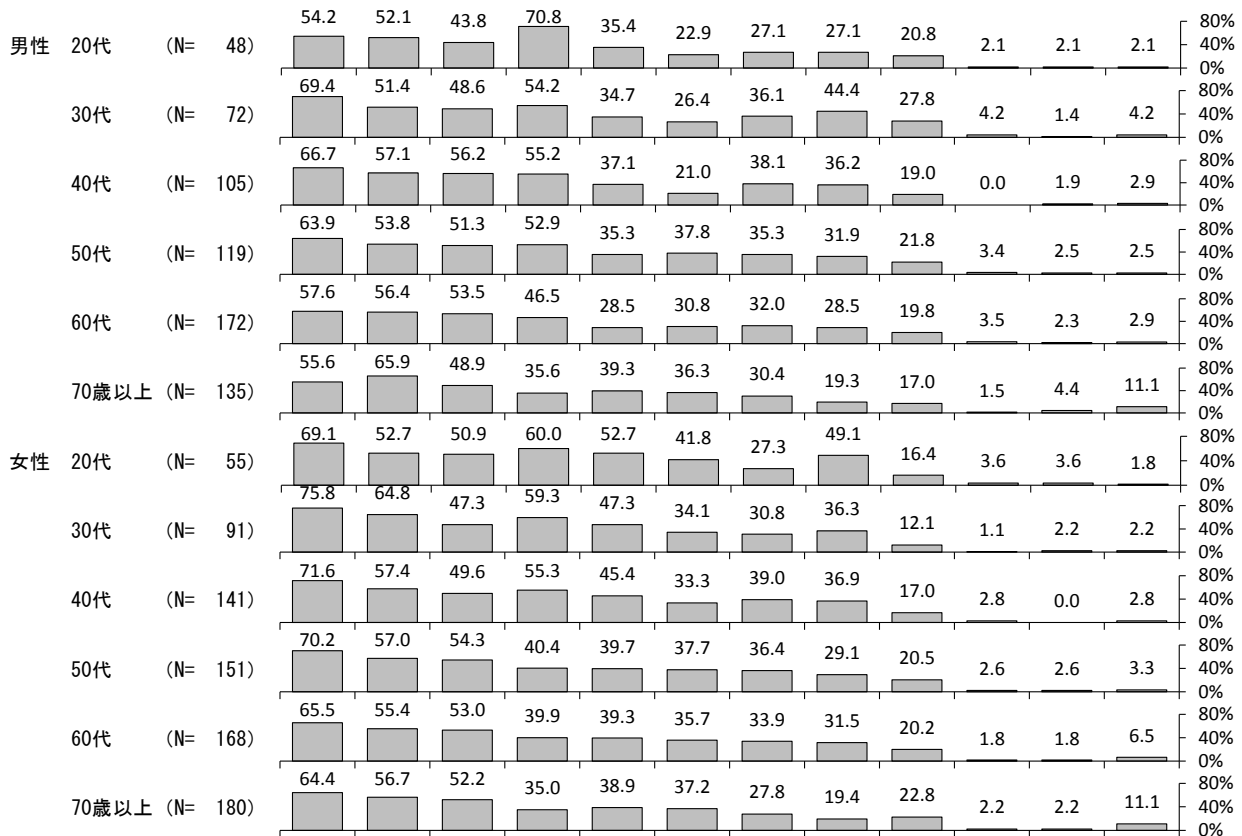
性年代別(女性)で見ると、年代が高くなるほど「加害者への罰則を強化する」、「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う研修や啓発を行う」が少なくなる傾向がみられます。また、20代では「被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う」が49.1%と他の年代より多くなっています。

【性別・性年代別の状況】

【性別】



【性年代別】



被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす

家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う

学校・大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う

加害者への罰則を強化する

暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う研修や啓発を行う

暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピュータソフトなど）を取り締まる

メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う

被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う

地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う

その他

特にない

無回答

問 26 男性も女性も、個性と能力を發揮して生き生きと暮らしていく社会の実現のために、あなたが日頃考えていらっしゃるがあれば、自由にお書きください。

※自由記入のため、記入内容により分類し、1人につき複数の分野に対するご意見をいただいた場合、各分野のご意見をそれぞれ1件としています。

	全 体	男 性	女 性	性 別 無回答
男女共同参画について	243 件	108 件	134 件	1 件
一般	59 件	31 件	27 件	1 件
尊重・思いやりについて	68 件	23 件	45 件	0 件
能力・個人での評価について	18 件	12 件	6 件	0 件
意識改革について	20 件	3 件	17 件	0 件
行いたいこと・行うこと（個人）について	28 件	11 件	17 件	0 件
行いたいこと・行うこと（行政など）について	31 件	20 件	11 件	0 件
その他	19 件	8 件	11 件	0 件
子育て・教育について	63 件	25 件	38 件	0 件
子育て・教育が大事について	20 件	8 件	12 件	0 件
教育内容について	11 件	6 件	5 件	0 件
保育サービス・子育て支援の充実について	13 件	6 件	7 件	0 件
その他	19 件	5 件	14 件	0 件
結婚・家庭について	42 件	13 件	29 件	0 件
家事・育児等での協力について	23 件	8 件	15 件	0 件
家庭でのコミュニケーションについて	10 件	3 件	7 件	0 件
その他	9 件	2 件	7 件	0 件
職業・社会参画について	115 件	38 件	75 件	2 件
公平な扱いについて	10 件	1 件	9 件	0 件
働く機会について	8 件	1 件	7 件	0 件
労働条件などについて	17 件	5 件	11 件	1 件
再雇用・復帰について	8 件	4 件	4 件	0 件
育休などについて	11 件	6 件	5 件	0 件
両立について	16 件	3 件	13 件	0 件
管理職への登用について	6 件	2 件	4 件	0 件
その他	39 件	16 件	22 件	1 件
DVについて	13 件	5 件	8 件	0 件
DVについて	9 件	3 件	6 件	0 件
雑誌やゲームなどの悪影響について	4 件	2 件	2 件	0 件
経済的なことについて	34 件	20 件	14 件	0 件
経済的支援について	7 件	5 件	2 件	0 件
賃金上昇・経済的安定について	19 件	12 件	7 件	0 件
その他	8 件	3 件	5 件	0 件
地域について	23 件	12 件	11 件	0 件
地域について	23 件	12 件	11 件	0 件
その他	55 件	23 件	29 件	3 件
特にない・わからない	10 件	4 件	5 件	1 件
アンケート関連	21 件	10 件	10 件	1 件
その他	24 件	9 件	14 件	1 件